

茨城県教育財団文化財調査報告第328集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

平成22年3月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第328集

しま な くま やま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

平成22年3月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団



11区全景



第2911号住居跡出土土器

序

茨城県では、つくば市を、日本における科学技術の研究開発の中核都市として、さらには、国際交流の拠点にふさわしい都市として整備を進めています。

今をさかのぼる平成6年には、茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達し、以来、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められてきましたが、既に新線である「つくばエクスプレス」は平成17年に開業し、現在は、沿線開発が継続して進められています。

しかしながら、この事業地内には、埋蔵文化財包蔵地である鳥名熊の山遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が茨城県から委託を受け、平成7年4月から平成20年1月までの14年間にわたって開発区域内における埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

その成果については、既に『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』『同第133集』『同第149集』『同第166集』『同第174集』『同第190集』『同第214集』『同第236集』『同第264集』『同第280集』『同第291集』『同第322集』として順次刊行したところです。

本書は、鳥名熊の山遺跡の平成18年度の調査の成果を収録したものです。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります茨城県から多大なご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいたご指導、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成22年3月




財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字島名に所在する島名熊の山遺跡の一部である11区の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調査 平成18年4月3日～平成19年1月31日
整理 平成21年4月1日～平成22年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 川村満博
首席調査員 白田正子
主任調査員 柴山正広
主任調査員 小林和彦
主任調査員 飯泉達司 平成18年4月～5月、7月～9月
主任調査員 齋藤真弥 平成18年4月～5月、7月～9月
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、首席調査員小澤重雄が担当した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標を原点とし、 $X = +7320\text{m}$ 、 $Y = +20200\text{m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。
大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。
大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C・・・、西から東へ1、2、3・・・とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c・・・j、西から東へ1、2、3・・・0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。
- 2 遺構・遺物・土層の実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。
遺構 SI-堅穴住居跡 SK-土坑 SD-溝跡 PG-ピット群 P-柱穴
遺物 P-土器 TP-拓本記録土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品・古銭
土層 K-攪乱
- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。
- 4 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。
- 5 遺構・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。
 - (1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は原則として60分の1で掲載した。
 - (2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺を表示した。
 - (3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

	焼土・赤彩		炉・火床面・繊維土器断面
	竈部材・粘土範囲・黒色処理		
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品・古銭
---	硬化面		
- 6 遺物観察表及び遺構一覧表の作成方法は、次のとおりである。
 - (1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
 - (2) 計測値の単位はcm及びgで示した。
 - (3) 遺物観察表及び遺構一覧表とも（ ）は現存値、[]は推定値であることを示している。
 - (4) 備考欄には、土器の現存率及び写真図版番号を記した。
- 7 堅穴住居跡の「主軸」は炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	15
1 古墳時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居跡	15
(2) 土坑	185
2 奈良時代の遺構と遺物	191
(1) 竪穴住居跡	191
(2) 溝跡	193
3 平安時代の遺構と遺物	194
(1) 竪穴住居跡	194
(2) 土坑	220
4 その他の遺構と遺物	224
(1) 土坑	225
(2) ビット群	232
(3) 遺構外出土遺物	236
第4節 まとめ	247
写真図版	
抄録	

鳥名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

鳥名熊の山遺跡は、つくば市の南部に位置し、東谷田川左岸の標高18～24mの台地上に立地している縄文時代、古墳時代から近世までの複合遺跡です。この地では、住宅地を建設するための工事（鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業）を行っています。そのため、遺跡の内容を記録して保存することを目的として、茨城県教育財団が平成7年度から調査を行っています。平成18年度は7,929㎡について調査を行いました。

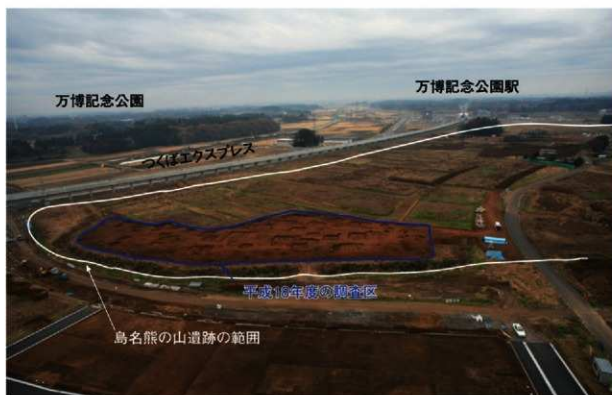


調査の内容

今回は、鳥名熊の山遺跡の中でも北側にあたる地域の調査を行い、その結果、古墳時代前期（約1,600年前）から古墳時代後期（約1,400年前）、奈良時代（約1,200年前）、平安時代中期（約1,100年前）から平安時代後期（約1,000年前）の集落跡がそれぞれ確認できました。

古墳時代前期の竪穴住居からは、小さな土器が見つかりました。これらの土器は、子供の手の平にのるほどの大きさで、まつりに使うために作られたものです。

古墳時代後期には、一辺の長さが8mをこえる規模の大きな竪穴住居が6軒建てられていました。中でも第2930号住居跡は一辺の長さが12mもあり、当遺跡で見つかった竪穴住居の中では最も大きなものです。



北側上空から当遺跡と万博記念公園駅を望む



古墳時代前期（約1,600年前）の第2908号住居跡では、床から小さな土器がまとまって出土していました。生活していた人たちが、次の家に移るときに残していったのでしょうか。



出土した土器は、壺や甕をかたどった小さなものが多く、神様にお供えをのせる器台と呼ばれる土器もありました。



第2930号住居跡の面積は141㎡あり、畳を約80枚ほど敷くことができる広さです。左の写真では32人が中に入っていますが、まだゆとりがあります。



人が入っているのは、柱を立てた穴の跡です。立派な穴なので、太い柱で大きな屋根を支えていたことがわかります。

第2930号住居跡のような大きな住居は、6世紀頃（約1,500年前）から7世紀頃（約1,400年前）にかけて建てられていました。このころは、各地の集落の中で力をもった人たちが現れた時期にあたり、第2930号住居跡に住んでいた人は、このような集落の有力者の一人であったと考えられます。

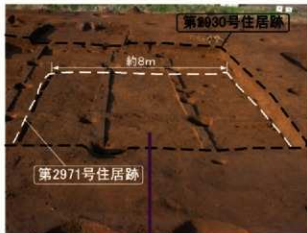
第2930号住居跡からは、今の茶碗にあたる坏や、食べ物を煮たりお湯をわかすために使った甕などの道具が出土しました。



管玉や臼玉も見つかりました。これらは、アクセサリーやまつりの道具として使われ、原料となる石は県北や栃木県から運ばれたものです。



第2930号住居跡の下から、少し前の時代の住居跡が見つかりました。この住居跡も一辺の長さが約8mほどある大きなものです。



2軒の住居が建てられた方向はほぼ変わらず、どちらも出入り口は南側（写真下側）にありました。古い住居が狭くなったので、広げたのかもしれませんが。





今年度報告した鳥名熊の山遺跡の全体図

調査の成果

当遺跡はこれまでの調査で、奈良時代以降に河内郡嶋名郷（郷は現在の町や村）の中心的な集落であったと考えられています。このころは集落の中央部に、倉庫として使われた掘立柱建物が数多く建てられていました。

今回調査した範囲は遺跡の北部にあたり、ここからは古墳時代前期（約1,600年前）の住居が数多くみつかっています。当遺跡では古墳時代よりも古い時代の住居は見つかっていないことから、鳥名の集落が最初に営まれたところと言えるでしょう。その後、古墳時代中期（約1,500年前）には人々があまり住まなくなる時期を迎えますが、古墳時代後期（約1,300年前）になると再び人々があつまり、大規模な集落に発展しました。このころはつくば市でも大きな集落の一つとなり、力を持った人々が現れて大きな住居を建てるようになります。近くの鳥名関ノ台古墳群や面野井古墳群など規模の大きな古墳群を作ったのは、当時集落で暮らしていた人々であったと考えられます。古墳時代の集落の中心は、今回の調査区域を含む北部にあったことが確かめられました。

奈良時代になると集落の中心は南側に移っていきます。奈良時代の中ごろ、今回の調査区域の南側に溝が掘られ、集落の内と外を区別する役割を持っていました。この溝ができてからは、人々が溝の北側で暮らすことは少なくなります。平安時代に入ると溝の役割は薄れ、人々が少しずつ移り住むようになりますが、多くの人々は南側での生活を続けていました。

その後、人々は遺跡の西側に移り住み、今の鳥名地区を形成することになります。今に続く鳥名の集落の始まりは、今回調査した範囲にあったと言えるでしょう。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、鳥名・福田坪一体型土地区画整理事業地内（つくば市鳥名）における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19～27日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に鳥名熊の山遺跡が所在する旨回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項（現第94条）の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日、茨城県知事あてに、工事前発掘調査を実施するよう通知した。

平成18年2月22日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、鳥名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成18年4月3日から平成19年1月31日まで、鳥名熊の山遺跡11区の発掘調査を実施することになった。

第2節 調査経過

鳥名熊の山遺跡11区の調査は、平成18年4月3日から平成19年1月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

期間 工程	平成18年											平成19年
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■	■	■	■							
遺構調査					■	■	■	■	■	■		
遺物洗浄 注記 写真整理					■	■	■	■	■	■	■	
補足調査 撤収											■	■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

今回報告する島名熊の山遺跡11区は、茨城県つくば市大字島名1458番地の1ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、北端には筑波山、東方には霞ヶ浦がある。当遺跡付近の地勢は、東を筑波山麓を南下する桜川の低地と、西側を小貝川によって限られた標高22～26mではほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地は花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れている。これらの河川によって、台地の縁が樹枝状に間斬されており、南北に細長い谷津や低地が形成されている。

当遺跡があるつくば市島名地区は、牛久沼に注ぐ東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に位置している。遺跡は、その台地上の東谷田川に面した標高15～24mの低地から台地上にかけて広がっており、深い谷津や埋没谷が遺跡を囲むように入り込んでいる¹⁾。

今回報告する調査区は、平成11年に報告した11区の北側にあたり、標高18～24mの台地上から斜面にかけて位置している。調査前の現況は、畑地である。

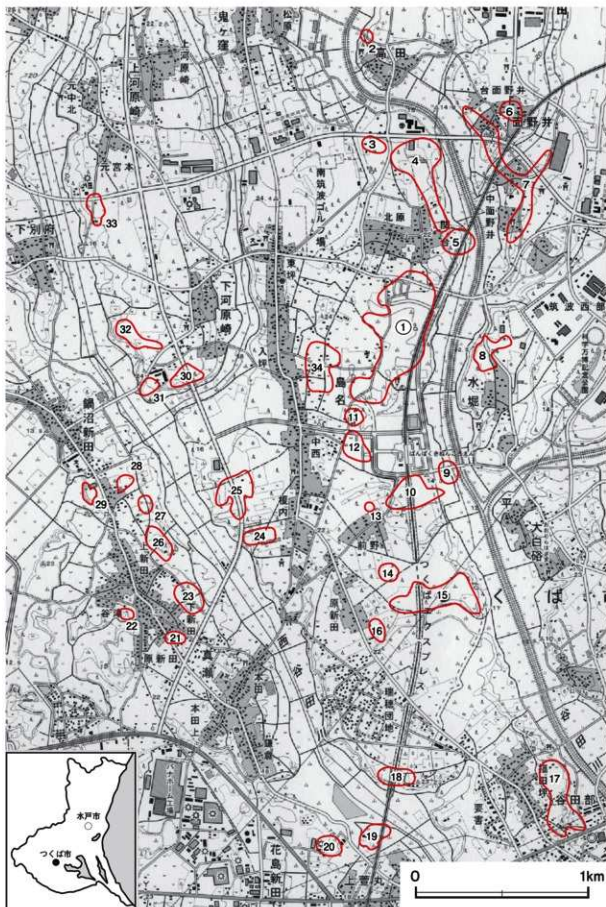
第2節 歴史的環境

島名熊の山遺跡は、古墳時代から平安時代にかけて営まれた集落遺跡である。ここでは東谷田川・西谷田川流域に分布し、当遺跡と時期を同じくする古墳時代から平安時代にかけての遺跡を中心として、調査の成果をもとに記述する。

弥生時代の遺跡は少なく、後期になって東谷田川支流の蓮沼川左岸に^{島名熊山遺跡} 菊間神田遺跡²⁾、^{島名熊山遺跡} 菊間六十目遺跡³⁾、西谷田川右岸の^{山崎の}境松遺跡⁴⁾で集落が形成されている。当地域では、この頃に数軒を単位とする規模の小さな集団が、小河川や谷津を利用して稲作を開始したと考えられる。境松遺跡、菊間六十目遺跡では東京湾に起源を持つ壺や台付甕が出土する一方、菊間六十目遺跡では十王台式土器も出土しており、人や物の動きが盛んであったことがわかる。

両河川の流域では、古墳時代になると遺跡数が増加している。前期では境松遺跡、菊間神田遺跡、菊間六十目遺跡では引き続き集落が存続し、新しく当遺跡をはじめとして^{島名熊山遺跡} 島名一丁田遺跡⁵⁾ (14)、^{島名熊山遺跡} 島名前野遺跡⁶⁾ (9)、^{島名熊山遺跡} 島名前野東遺跡⁷⁾ (10)、^{島名熊山遺跡} 島名ツバタ遺跡⁸⁾ (25)でも集落の形成が始まる。これらの集落は2～10軒程度のもので、弥生時代の集落の規模と大きな変化は見られない。多くは台地の縁道部に位置し、弥生時代と同じく水利に便利な場所での稲作に従事していたものと考えられる。

中期になると、東谷田川流域の^{島名熊山遺跡} 島名関ノ台南B遺跡⁹⁾ (5)、^{島名熊山遺跡} 島名八幡前遺跡¹⁰⁾ (12)のほか、西谷田川流域にも^{山崎の}下河原崎谷中台遺跡¹¹⁾ (32)、^{島名熊山遺跡} 元宮本前山遺跡¹²⁾ (33)、^{島名熊山遺跡} 真瀬三度山遺跡¹³⁾ (20)、^{島名熊山遺跡} 谷田部漆遺跡¹⁴⁾ (18)など集落が広がり、規模も拡大する。前期と比べ水田開発が進み、居住域が拡大した結果と考えられる。いくつかの遺跡からは滑石製白玉や石製模造品が出土している例もあり、集落内での祭祀行為が行われていた可能性が指摘される。中でも下河原崎谷中台遺跡では高坏・壺を土坑に投棄したと思われるものや、同じく土坑から琴柱形石製品が出土していることは注目される。



第1図 鳥名熊の山遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院 1:25,000「谷田部」)

表1 鳥名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代						番 号	遺 跡 名	時 代							
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平	中 世			近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平	中 世	近 世
①	鳥名熊の山遺跡		○			○	○	○	18	谷田部漆遺跡		○		○	○		
2	高田和田台遺跡					○			19	上堂丸古屋敷遺跡		○		○		○	○
3	鳥名関ノ台遺跡					○			20	真瀬三度山遺跡		○		○			○
4	鳥名関ノ台古墳群					○			21	真瀬中畑遺跡		○		○			
5	鳥名関ノ台南B遺跡					○	○		22	真瀬新田谷津遺跡		○					
6	面野井北ノ前遺跡					○		○	23	真瀬新田古墳群				○			
7	面野井古墳群					○			24	鳥名榎内遺跡				○			
8	水堀下道遺跡					○			25	鳥名ツバタ遺跡		○		○			
9	鳥名前野遺跡		○			○	○		26	真瀬堀附南遺跡				○			
10	鳥名前野東遺跡		○			○	○	○	27	真瀬堀附北遺跡				○			
11	鳥名薬師遺跡					○			28	鍋山新田長峰遺跡		○		○			
12	鳥名八幡前遺跡					○	○	○	29	真瀬山田北遺跡		○		○			
13	鳥名前野古墳					○			30	下河原崎高山古墳群				○			
14	鳥名一丁田遺跡		○			○			31	下河原崎高山遺跡				○	○		
15	鳥名境松遺跡		○			○			32	下河原崎谷中台遺跡		○	○	○			
16	鳥名タカドロ遺跡		○			○			33	元宮本前山遺跡		○	○	○			
17	谷田部福田前遺跡		○			○	○		34	鳥名本田遺跡				○	○	○	○

これらの集落で、後期まで継続するものは少ない。境松遺跡は前期で、元宮本前山遺跡、下河原崎谷中台遺跡、鳥名ツバタ遺跡は中期のみ存続しただけで集落の形成を終え、前期から続く鳥名前野遺跡も集落の規模は縮小している。古墳時代を通じて集落が形成されるのは鳥名前野東遺跡だけであり、中期に形成された集落のほとんどが断絶する。新たに集落が開始されるのは鳥名境松遺跡などであり、遺跡数のうへでは中期より減少する傾向にある。しかし、鳥名八幡前遺跡、鳥名ツバタ遺跡は、6世紀前半には集落が一時断絶しているものの、6世紀後半になって人々の居住が再開されている状況が確認されている。鳥名熊の山遺跡では過去の調査によって、前期から中期にかけて台地縁辺部に集落が出現したあと、6世紀後半になると急速に台地全体に広がり、一挙に規模が拡大している。中期から後期前半にかけて集落の再編が行われ、当遺跡はその過程のなかで6世紀後半には地域の拠点的な集落としての地位を確立したものと考えられる。

墓域に関しては、前期に鳥名ツバタ遺跡で3基の方形周溝墓が確認されており、境松遺跡や苜間六十目遺跡でもその可能性がある遺構が調査されている。中期の状況は明らかではないが、後期になると当地域には、¹⁰野井古墳群〈7〉、¹¹鳥名関ノ台古墳群〈4〉、¹²下河原崎高山古墳群〈30〉などの古墳群が形成される。

これらの古墳群は、径10～20mほどの小形の円墳を主体とし、埋葬施設の判明したものは箱式石棺が大半であり、筑波山・霞ヶ浦周辺にみられる典型的な群集墳の様相を示している。このうち首長墓とみなすことができるのは、鳥名関ノ台古墳群にあった全長約40mの前方後円墳で、鳥名熊の山遺跡をはじめとする東谷田川流域の集落を極力基盤とした人物の墓の可能性が¹⁶⁾。

奈良時代に入ると当地域は常陸河内郡嶋名郷に編入されることになる。河内郡の郡衙は、当遺跡から北東へ4.5kmに位置する国指定史跡の金田官衙遺跡¹⁷⁾である。近年の発掘調査によって、この時代の鳥名地区は急速に集落の再編が進むことが明らかとなった。周辺の遺跡で集落の断絶または一時的な中断が見られるのはそのためと考えられる。背景には、律令国家の成立と地方の国郡制度の整備が推し進められたことが理由としてあげられる。当遺跡や鳥名八幡前遺跡は、大形住居とそれに伴う掘立柱建物が集落の中心となり、当遺跡にはL字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。鳥名前野遺跡、鳥名前野東遺跡では半世紀の間空地となっていたが、律令制度の進展に伴い8世紀に入って集落が再び形成される。その一方で、これらの遺跡以外に鳥名地区における当該期の集落は見られなくなり、鳥名熊の山遺跡周辺にだけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

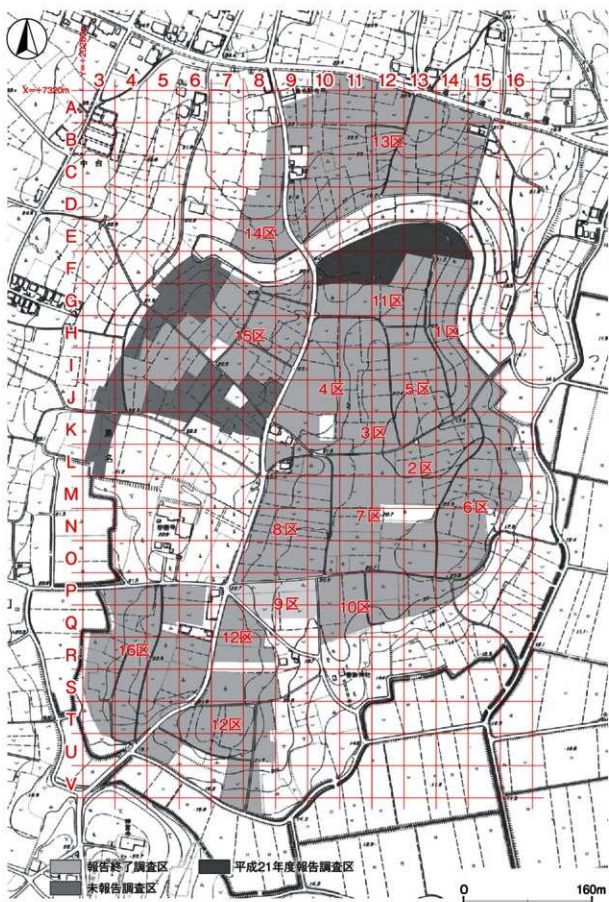
平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落跡として明確に捉えられるのは当遺跡と鳥名八幡前遺跡だけとなる。この2遺跡は、鍛冶生産などの手工業に積極的に関わっており、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。また、8世紀以来の集落が大規模な集落を残し壊滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることができる。この9世紀の集落再編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、鳥名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。当遺跡では11世紀まで継続的に集落が営まれるが、その後の集落の様相は不明瞭になっていく。そのような状況は、堅穴住居から平地住居への転換の時期と重なるためと思われる。なお、当遺跡の墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者層の存在をうかがうことができる。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。

なお、本章は『茨城県教育財団文化財調査報告』第291集を基にし、若干加筆したものである。

註

- 1) 清水哲「鳥名熊の山道跡の集落研究のための前提作業」『埋蔵文化財部年報26（平成18年度） 財団法人茨城県教育財団 2007年11月
- 2) a 成島一也〔(仮称) 葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田道跡〕『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集 1997年3月
 b 長岡正雄〔(仮称) 葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田道跡〕『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集 1998年3月
 c 飯島一生〔神田道跡3 葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ〕『茨城県教育財団文化財調査報告』第183集 2002年3月
- 3) 小澤重雄「葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 六十日道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第160集 2000年3月
- 4) 久野俊彦「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 境松道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集 1987年3月
- 5) 鹿島直樹「鳥名一丁道跡 鳥名・福田坪一体型土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第196集 2004年3月
- 6) 福田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 鳥名前野道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 7) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「鳥名前野東道跡 鳥名境松道跡 谷田部漆道跡 鳥名・福田坪一体型土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
 b 小松崎和治「鳥名前野道跡 鳥名・福田坪一体型土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 8) a 皆川 修「鳥名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
 b 高野裕輝「下河原崎谷中台道跡 鳥名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
- 9) 鹿島直樹「鳥名関ノ台南B道跡 面野井北ノ前道跡 常磐新線工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第231集 2004年3月
- 10) a 青木仁昌・吹野富美夫「鳥名八幡前道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月
 b 菊池直哉「鳥名八幡前道跡 都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第283集 2007年3月
- 11) a 齋藤真英「下河原崎谷中台道跡 下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
 b 註8 b 文献と同じ
- 12) 高野裕輝「元宮前山道跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
- 13) 白田正子〔(仮称) 萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山道跡 古屋敷道跡〕『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 14) 註7 a 文献と同じ
- 15) 註11 a 文献と同じ
- 16) 谷田部の歴史編さん委員会「谷田部の歴史」谷田部町教育委員会 1975年9月
- 17) 白田正子「金田西道跡 金田西坪B道跡 九重東岡庵寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月



第2図 鳥名熊の山遺跡グリッド設定図 (つくば市研究学園都市計画図2,500分の1)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

鳥名熊の山遺跡は、東谷田川と西谷田川に挟まれた、標高15～24mの低地から台地上にかけて立地している。遺跡の範囲は東西約600m、南北約900mと広大なもので、調査区は便宜上1～16区に分けられている。今回報告するのは11区で、平成11年度に報告した11区の北側にあたる。調査面積は7,929㎡で、調査前の現況は、畑地である。

調査では、古墳時代の堅穴住居跡62軒、土坑9基、奈良時代の堅穴住居跡1軒、溝跡1条、平安時代の堅穴住居跡14軒、土坑7基、時期不明の土坑50基、ピット群4か所を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に117箱出土している。主な遺物は土師器（坏・碗・高台付坏・皿・高台付皿・埴・器台・高坏・鉢・壺・甕・甗）、須恵器（坏・高台付坏・盤・高坏・鉢・甌・平瓶・長頸壺・小形短頸壺）、灰釉陶器（碗・長頸瓶）、土製品（勾玉・管玉・土玉・球状土錘・紡錘車・支脚）、石器（削器・鏃・打製石斧・凹石・砥石）、石製品（管玉・白玉・紡錘車・有孔円板・支脚）、金属製品（刀・刀子・鏃・古銭）などである。

第2節 基本層序

調査区の北西部（F10e7区）にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った（第3図）。土層は10層に分層でき、第2～7層が関東ローム層、第8～10層は常総粘土層である。以下、テストピットの観察結果から層序を説明する。

第1層は、暗褐色を呈する現耕作土である。ローム粒子・炭化粒子をわずかに含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は6～18cmである。

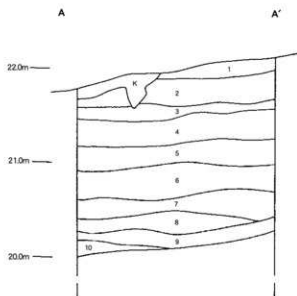
第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は27～30cmである。

第3層は、暗褐色を呈するソフトローム層で、第1黒色帯に相当すると考えられる。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は5～18cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は23～32cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は21～28cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードロー



第3図 基本土層図

ム層で、第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。粘性・締まりとも強く、層厚は29～38cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は9～28cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも強く、層厚は6～27cmである。

第9層は、灰褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも強く、層厚は17cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

第10層は、灰オリーブ色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも強く、層厚は13cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

なお遺構は第2層上面で確認されている。

第3節 遺構と遺物

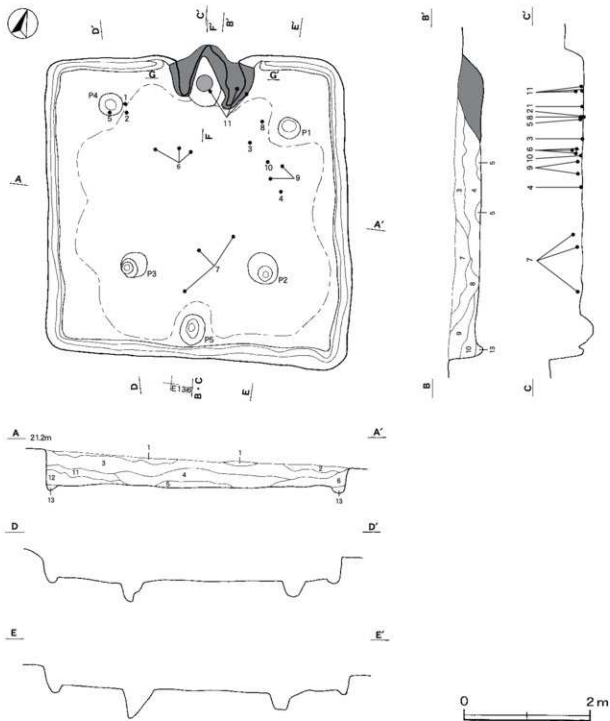
1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡62軒、土坑9基が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2876号住居跡（第4・5図）

位置 調査区東部のE13h6区、標高20mの台地縁辺部に位置している。



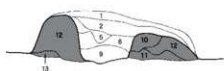
第4図 第2876号住居跡実測図

F 21.0m

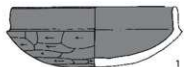
F'

G

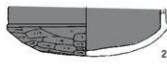
G'



0 1m



1



2



3



4



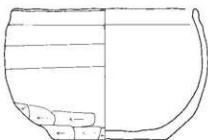
5



6



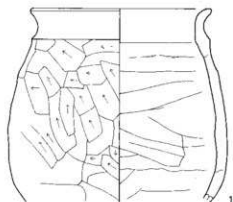
7



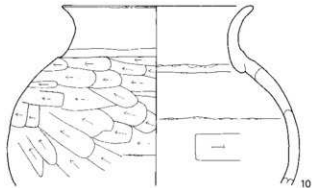
8



9



11



10

0 10cm

第5図 第2876号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.88m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は22~50cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央に付設されている。焚口部から煙道部まで102cm、燃焼部幅55cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土粒子を含む褐色土を積み上げて構築されている。第10~13層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き40cm、幅60cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗赤褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	10	にぶい青褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	暗灰青色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
6	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
			13	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ27~46cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ23cmで、竈と向き合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 13層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	8	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック微量	9	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	12	暗褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	13	暗褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片767点(坏225、椀1、高坏7、甕534)、須恵器片2点(坏、コップ形土器)のほか、混入した須恵器片6点(蓋)が出土している。1・2・5はP4付近、3・4・8はP1付近の床面から覆土下層にかけてそれぞれ正位の状態でも出土している。11は竈の右袖部内から出土しており、補強材として使用されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2876号住居跡出土遺物観察表(第5図)

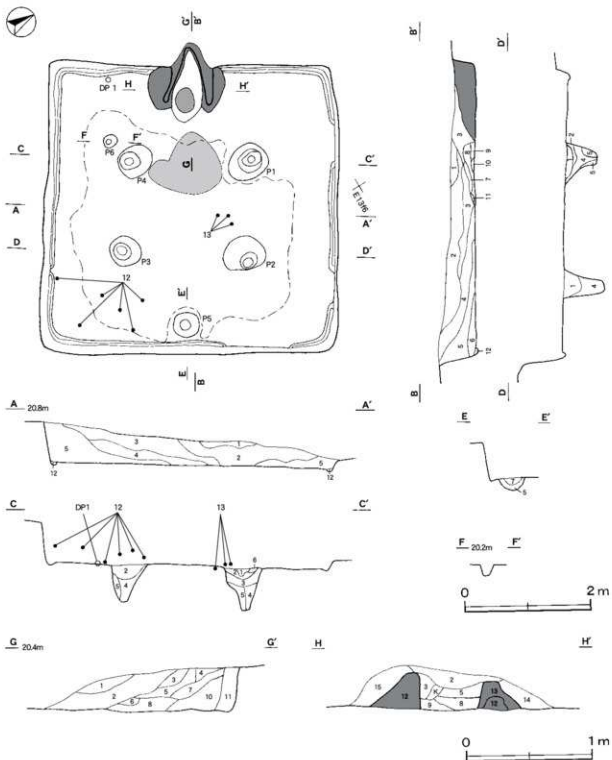
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	129	48	-	雲母	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面ナデ	床面	95% P1.25	
2	土師器	坏	-	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶい青橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面ナデ	覆土下層	90%	
3	土師器	坏	128	45	-	石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 底部一方の内へう閉り	床面	70%	
4	土師器	坏	142	46	-	石英・雲母	靑灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面ナデ	床面	80% P1.25	
5	土師器	坏	(126)	46	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面ナデ	覆土下層	65%	
6	土師器	坏	139	(40)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面ナデ	覆土中層	85% P1.25	
7	土師器	坏	143	43	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り後、ナデ内面ナデ	覆土中層	35%	
8	土師器	椀	145	103	89	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ・へう閉り 内面ナデ 底部へう閉り	床面	75% P1.25	
9	土師器	小形甕	99	128	60	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り後、ナデ 外面直線有 底部へう閉り	内面へう閉り	覆土下層	80%
10	土師器	甕	149	(143)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面へう閉り後、ナデ	覆土下層	60%	
11	土師器	甕	140	(154)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう閉り 内面へう閉り後、ナデ	竈袖部	60%	

第2877号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区東部のE135区、標高20mの台地縁部に位置している。

規模と形状 長軸4.70m、短軸4.64mの方形で、主軸方向はN-60°-Wである。壁高は8~64cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、柱穴付近から南東壁にかけて踏み固められている。壁溝が北東壁の一部を除いて廻っている。竈前面の床面から焼土塊が確認された。



第6図 第2877号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで120cm、燃焼部幅48cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土と黄橙色土を積み上げて構築されている。第12・13層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き70cm、幅132cm掘り込み、壁面に砂質粘土を貼って構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第5層は天井部の崩落土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 | 9 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| 2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 10 黒褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量 |
| 3 浅黄褐色 砂質粘土ブロック中量 | 11 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量 |
| 4 にぶい橙色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 12 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量、炭化物微量 |
| 5 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 | 13 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 6 にぶい橙色 焼土ブロック中量 | 14 暗褐色 砂質粘土ブロック少量 |
| 7 明黄褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 15 褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 8 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化物微量 | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ53～72cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ21cmで、竈と向き合う位置にあることから出入口施設に伴うピットである。P6は深さ19cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 にぶい褐色 ロームブロック中量 | 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 明褐色 焼土ブロック中量 |
| 3 褐色 粘土粒子少量 | 7 浅黄褐色 砂質粘土ブロック中量 |
| 4 灰黄色 粘土ブロック中量 | |

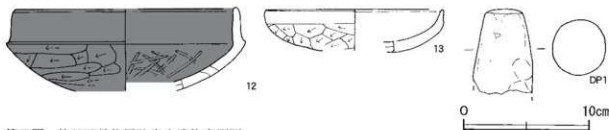
覆土 12層に分層できる。第1～6層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第7～11層は焼土ブロック・砂質粘土が含まれていることから竈から流出した土層である。

土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 無暗褐色 ローム粒子微量 | 7 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 8 無暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 明黄褐色 砂質粘土ブロック中量 |
| 4 褐色 ロームブロック少量 | 10 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック微量 | 11 褐色 ロームブロック中量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量 | 12 褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片200点(坏38、高坏8、甕153、瓶1)、須恵器片2点(壺)、土製品片4点(支脚)のほか、流れ込んだ縄文土器片16点(深鉢)が出土している。12は南コーナー部の覆土下から中層にかけて、13はP2付近の床面からそれぞれ破片の状態で出土したものである。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第7図 第2877号住居跡出土遺物実測図

第2877号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
12	土師器	坏	(174)	(65)	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面へう割り	覆土下・中層	40%
13	土師器	坏	139	(34)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	40%
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
DP1	支脚	(68)	29	48	(1142)	土(長石・雲母)	外面ナデ	指頭押圧		床面		

第2878号住居跡（第8・9図）

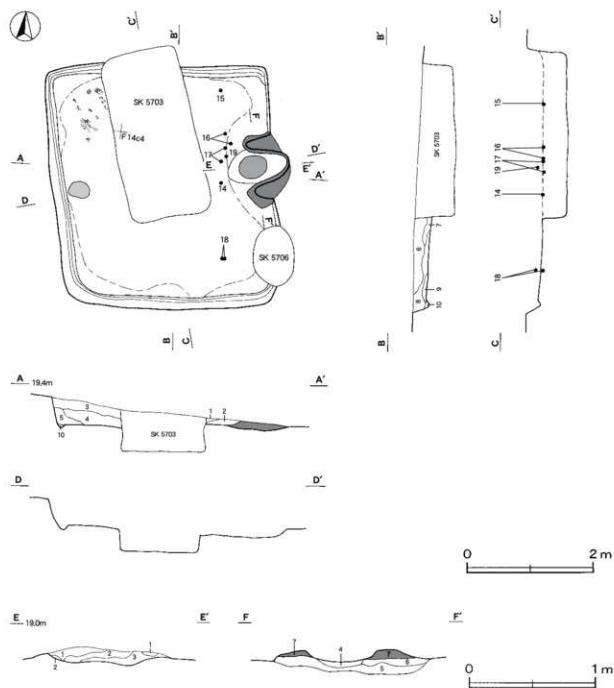
位置 調査区東部のF14c4区、標高19mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 中央部から北壁を第5703号土坑に、南東コーナー部付近を第5706号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.85m、短軸3.54mの長方形で、主軸方向はN-76°-Eである。壁高は20-38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部までの長さは101cmで、燃烧部幅は52cmである。竈は10cmほど地山を掘り込んで砂質粘土を充填し、その上に袖部を構築している。第7層は袖部の構築土である。



第8図 第2878号住居跡実測図

煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き30cm、幅102cm掘り込んで構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

覆土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 5 オリーブ褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗グレー褐色 炭化物・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤色 焼土粒子多量 | 7 黄褐色 砂質粘土粒子中量 |
| 4 黒褐色 砂質粘土粒子中量、炭化物・焼土粒子少量 | |

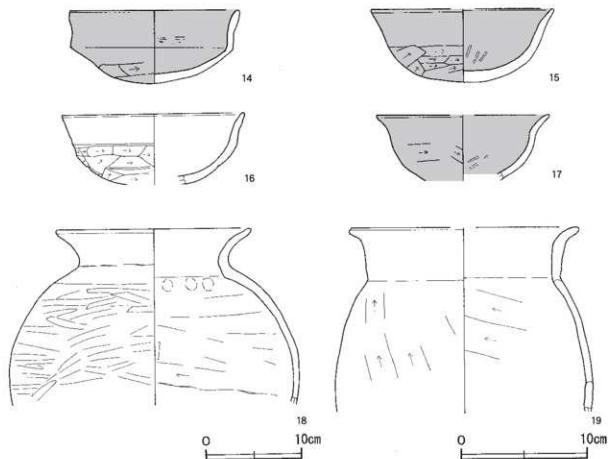
覆土 10層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量(3より明) |
| 2 におい赤褐色 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 10 黄褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片103点(坏36、高坏1、甕66)、須恵器片1点(甕)のほか、覆土に混入した縄文土器片3点(深鉢)が出土している。14は正位の状態、16・17は逆位の状態それぞれ竈前面の床面から出土している。19は竈前面の床面から横位で置かれたものが潰れた状態で出土している。15は北東コーナー部付近の床面から、18は南東コーナー部付近の床面から横位で置かれたものが潰れた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第9図 第2878号住居跡出土遺物実測図

第2878号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
14	土師器	坏	134	5.8	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 埋藏	体部外面へう割り 内面磨き	床面	20%
15	土師器	坏	[144]	5.8	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面磨き	床面	50%
16	土師器	坏	142	(5.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	50%
17	土師器	坏	[136]	(5.2)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	30%
18	土師器	甕	202	(18.4)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部内・外面ヘラナデ 内面	床面	25%
19	土師器	甕	[178]	(14.7)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 別り後ナデ	体部外面へう割り 内面ヘラ	床面	25%

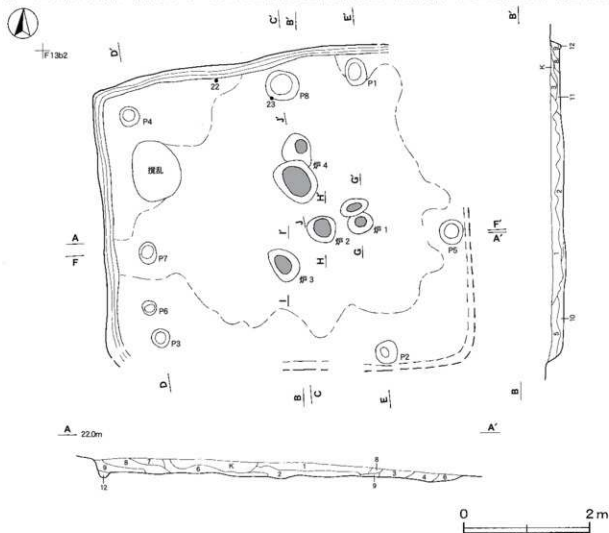
第2879号住居跡 (第10~12図)

位置 調査区東部のF13b2区、標高21mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸5.85m、短軸5.20mの長方形で、主軸方向はN-87°-Wである。壁高は10~42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、P1~P4の内側を中心に踏み固められている。壁溝が北壁下から西壁下にかけて巡っている。

炉 4か所。中央部に付設されている。炉1は長径60cm、短径43cmの不整形形、炉2は長径52cm、短径48cm



第10図 第2879号住居跡実測図(1)

の円形、炉3は長径59cm、短径40cmの楕円形、炉4は長径75cm、短径58cmの楕円形で、すべて床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。新旧関係は不明である。

伊土層解説

1 赤褐色 焼土粒子多量

2 濃い黄褐色 焼土ブロック少量

ピット 8か所。P1～P4は深さ8～30cmで、位置から主柱穴である。P5は深さ47cmで、東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P6～P8は深さは18～30cmで、補助柱穴と考えられる。

覆土 12層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量

7 明褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

8 明褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

9 明褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ローム粒子少量

10 暗褐色 ロームブロック中量

5 暗褐色 ロームブロック少量

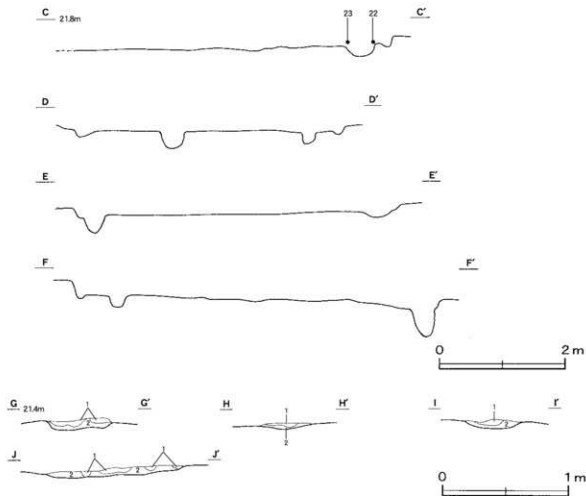
11 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

6 褐色 ロームブロック中量

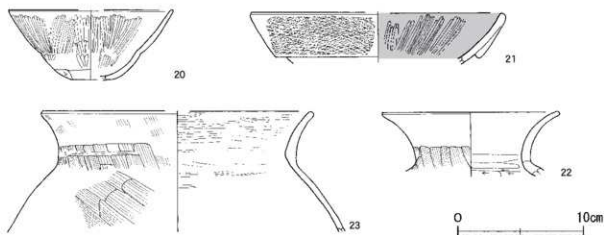
12 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片726点(坏44、埴6、器台1、高坏29、壺2、甕644)が出土している。これらは北壁際から中央部付近の床面から覆土上層にかけて出土している。22・23はP8から北壁際にかけて床面から、20はP8の覆土中からそれぞれ出土している。21は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前葉に比定できる。



第11図 第2879号住居跡実測図(2)



第12図 第2879号住居跡出土遺物実測図

第2879号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	土師器	埴	(130)	56	(30)	石英・苔母・赤色粒子	橙	普通	体部外面磨き 一部ヘタ削り 内面磨き	底部ヘタ削	P 8内 30%
21	土師器	密	(200)	(40)	-	石英	橙	普通	口縁部外面・口唇部縦目状磨き	内面磨き	覆土上層 30%
22	土師器	壺	140	(51)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 胴部外面ハケ目 内面ヘタ削り一部ナデ		床面 20%
23	土師器	壺	(212)	(96)	-	長石・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部内・外面ハケ目 胴部内面ナデ	体部外面ハケ目	床面 10%

第2880号住居跡 (第13~16図)

位置 調査区中央部のE12J6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2926号住居跡の北西コーナー部付近を掘り込んでいる。

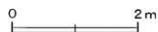
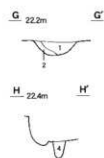
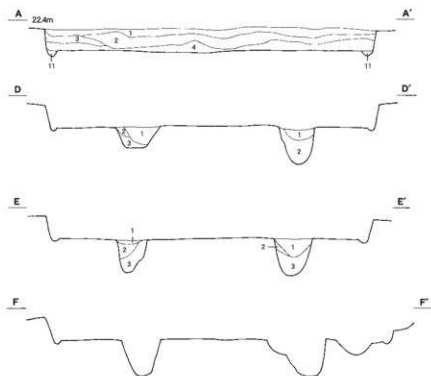
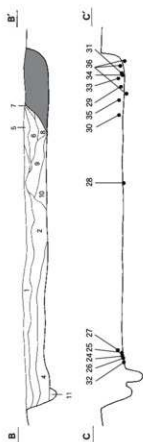
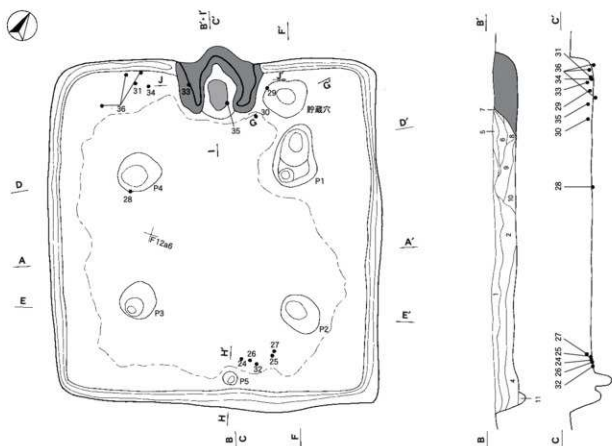
規模と形状 長軸5.50m、短軸5.23mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は34~40cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅52cmである。袖部は地山を若干高く掘り残し、その上に褐色土を積み上げて構築している。第29・30層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き28cm、幅95cm掘り込み、壁面に褐色土を貼って構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第25~28層は掘方への埋土である。

甕土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	暗赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	褐色	炭化粒子微量	17	灰黄色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量
3	褐色	炭化粒子微量(粘性弱)	18	暗灰黄色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
4	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	19	灰黄色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
5	褐色	炭化粒子微量(粘性・締まり弱)	20	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
6	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量(粘性弱)	21	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
7	暗褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	22	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
8	暗褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	23	にぶい赤褐色	焼土粒子多量
9	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	25	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
11	暗赤褐色	炭化物微量	26	褐色	ロームブロック少量
12	褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子微量	27	褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
13	暗褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量	28	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量(粘性弱)
14	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	29	暗褐色	砂質粘土粒子多量
15	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	30	暗褐色	砂質粘土粒子中量



第13图 第2880号住居跡实测图(1)



第14図 第2880号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ34～60cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量(2より明) |

貯蔵穴 竈東側に付設されている。長径69cm、短径63cmの円形で、深さは24cmである。底面は皿状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量 | 2 暗褐色 ローム粒子少量 |
|--------------|---------------|

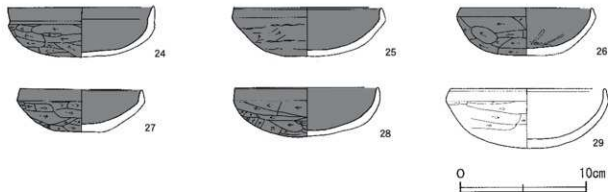
覆土 11層に分層できる。第1～4層はレンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積で、第5～10層は不自然な堆積状況で各層に焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

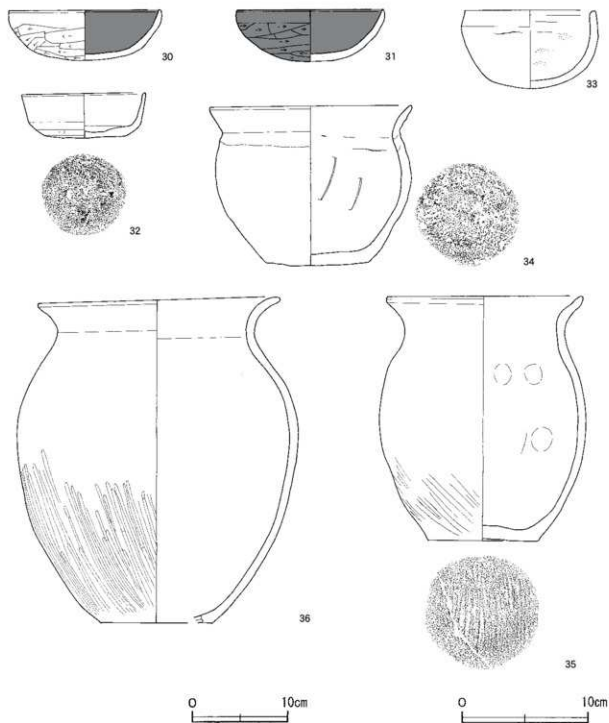
- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 9 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量 | 10 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームアブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片876点(坏146, 椀1, 高坏5, 甕722, 瓶2), 須恵器片10点(坏7, 甕3), 土製品1点(支脚)のほか、混入した縄文土器片22点(深鉢), 石器1点(鎌)が出土している。遺物は竈の左右及びP 5付近の床面から覆土下層にかけて、一括して出土している。24～27は、P 5付近から25と27は2つ重なって逆位の状態、その他は3つ並んで正位の状態出土している。29・30は竈の右袖部と貯蔵穴の間から正位の状態出土している。34・36は壁際に斜位の状態出土し、その間に31が置かれた状態で出土している。35は竈の火床面から横位の状態出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第15図 第2880号住居跡出土遺物実測図(1)



第16図 第2880号住居跡出土遺物実測図(2)

第2880号住居跡出土遺物観察表 (第15・16図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
24	土師器	坏	11.6	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	100% PL25
25	土師器	坏	11.6	3.9	-	石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り残 ナデ 内面磨き	床面	96% PL25
26	土師器	坏	10.4	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にじみ	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 一部磨き	床面	86% PL25
27	土師器	坏	[97]	3.4	-	雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	90%
28	土師器	坏	10.4	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 底面ナデ 内面ナデ	床面	95% PL25
29	土師器	坏	12.2	4.7	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 外面磨成	覆土下層	94%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	土師器	坏	11.9	4.0	-	石英・雲母・赤色粒子	黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面ナデ	覆土下層	90%
31	土師器	坏	11.6	4.1	-	石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面ナデ 一部磨き	覆土下層	90%
32	須恵器	坏	9.7	3.6	6.5	長石・石英	灰黄	良	口縁部成形 体部下層回転へう削り 底部へう削り 後ナデ	床面	90% P1.25
33	土師器	輪	10.3	6.2	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土下層	90% P1.25
34	土師器	小形甕	15.9	12.8	8.1	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 体部外面磨滅 内面へう削り 底部へう削り	覆土下層	70% P1.25
35	土師器	小形甕	15.4	19.5	8.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面磨滅一部磨き 内面ナデ 一部拍子打 底部ナデ	覆土下層	60%
36	土師器	甕	25.1	23.2	11.5	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面上半部ナデ、下半部磨滅 内面ナデ 底部ナデ	床面	80% P1.26

第2881号住居跡（第17図）

位置 調査区東部のF13a8区、標高20mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸4.13m、短軸4.10mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は13~39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が南壁中央および南東コーナー部を除いて巡っている。

炉 中央部の北壁寄りに付設されている。長径54cm、短径39cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくはめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P1は深さ30cmで、規模から主柱穴である。P2は深さ44cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P3~P5は深さ13~24cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径54cm、短径48cmの楕円形で、深さは34cmである。底面はほほ平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

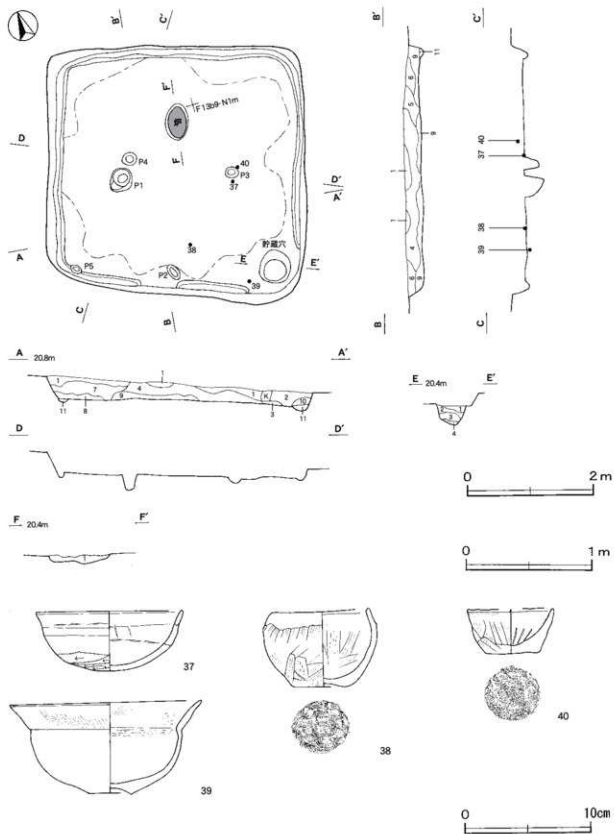
覆土 11層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量
- 10 褐色 ロームブロック中量、赤色粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片382点（坏4、輪4、高坏4、甕327、ミニチュア土器1）のほか、混入した縄文土器片10点（深鉢、須恵器片2点（坏））が出土している。これらは住居跡の南東側を中心として、覆土下層から中層にかけて出土している。37は横位の状態で、40は斜位の状態でP3付近の覆土下層から中層にかけて、38は正位の状態で南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。39は斜位の状態で貯蔵穴付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第17图 第2881号住居跡·出土遺物実測図

第2881号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師器	坏	11.4	4.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内部へう張り後、ナデ 内部へう張り	覆土下層	22%
38	土師器	椀	7.8	6.1	4.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内部へう張り後、一部横ナデ 内部ナデ 底部へう張り	覆土下層	100% PL25
39	土師器	椀	15.2	7.4	3.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内部へう張り後、ナデ 内部ナデ	覆土下層	55%
40	土師器	1/2ナブ土器	(68)	3.5	4.5	長石	橙	普通	内部へう張り後、ナデ 内部ナデ	覆土中層	80%

第2882号住居跡 (第18・19図)

位置 調査区東部のE13j2区、標高21mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2898号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.68m、短軸4.18mの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は31~51cmで、直立している。

床 ほは平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北東コーナー部付近及び南壁の一部を除いて巡っている。P5付近の床面は周囲よりも4cmほど高くなっており、付近から焼土が確認された。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで102cm、燃焼部幅40cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土を積み上げて構築している。第14・15層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き28cm、幅34cm掘り込んで構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、中央付近に支脚を設置し、火床面は火を受けて赤変硬化している。第1~3・5層は天井部の崩落土である。

電土層解説

1 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 (粘性強)	8 暗赤褐色	焼土ブロック少量
2 におい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	ロームブロック微量
4 褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 におい黄褐色	焼土粒子微量、炭化物・砂質粘土粒子微量
5 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
6 におい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 黄褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック中量	14 黄褐色	砂質粘土粒子中量
		15 赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量

ピット 15か所。P1~P4、P7~P10は深さ12~35cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ45cm、P6は深さ11cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P11~P14は深さ11~23cmで補助柱穴と考えられる。P15は深さ62cmであるが、性格は不明である。

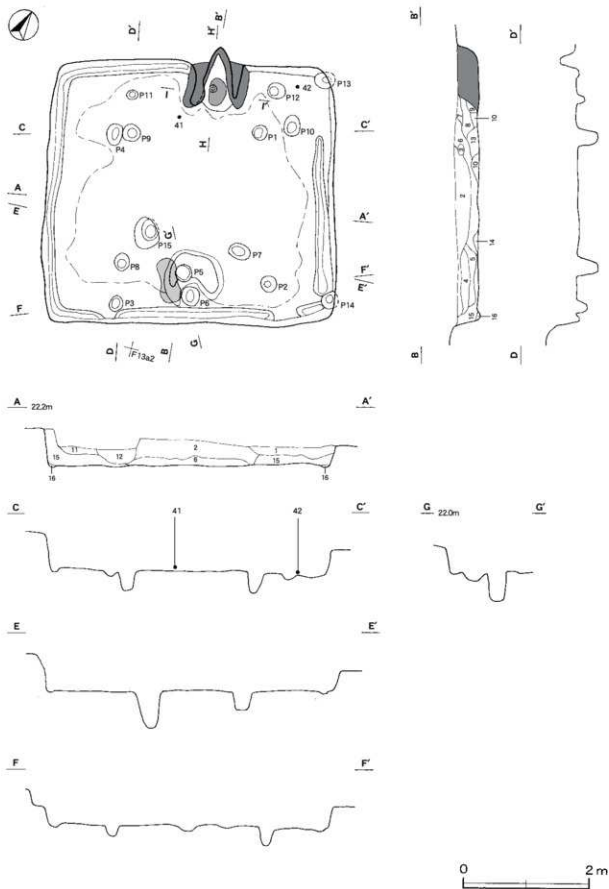
覆土 16層に分層できる。各層に焼土またはロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

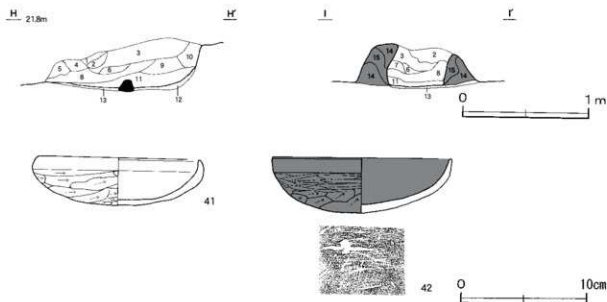
1 暗褐色	ローム粒子微量	9 におい赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック微量	10 暗褐色	赤色粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・赤色粒子微量	11 褐色	ロームブロック微量
4 褐色	赤色粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子微量
5 褐色	ローム粒子微量	13 黒褐色	焼土ブロック・赤色粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック微量	14 黒褐色	赤色粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子微量	15 褐色	ローム粒子少量
8 暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片258点(坏49、高坏6、甕203)のほか、混入した縄文土器片3点(深鉢)が出土している。41は正位の状態でも竈左袖部の覆土下層、42は逆位の状態でも北コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 主柱穴が8か所、出入り口施設に伴うピットが2か所確認されたことから、建て替えられたと考えられる。時期は、重複関係と出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第18图 第2882号住居跡実測図



第19図 第2882号住居跡・出土遺物実測図

第2882号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴のほか	出土位置	備考	
41	土師器	坏	129	37	-	長石・石英・赤褐色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へウ割り	内面ナデ	覆土下層	300% P1.26
42	土師器	坏	141	44	-	長石・石英・赤褐色粒子	灰黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へウ割り状、上半部割き 内面ナデ 底部ナデ・外面に横割	覆土下層	79%	

第2883号住居跡（第20・21図）

位置 調査区東部のF13a4区、標高21mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 南壁を第2887号住居に、東壁を第5702号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は4.08m、南北軸は4.60mしか確認できなかったが、主軸方向N-15°-Wの長方形と推測できる。壁高は16~22cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が西壁際を巡っている。

竈 北壁中央部のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで117cm、燃焼部幅38cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。第16・17層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き40cm、幅80cm掘り込み、壁面の一部に砂質粘土を貼って構築している。火床部は床面から17cm掘り込み、ロームを充填して構築されている。火床面は煙道部寄りに支脚を設置し、火を受けて赤変硬化している。第15層は掘方への埋土である。

竈土層解説

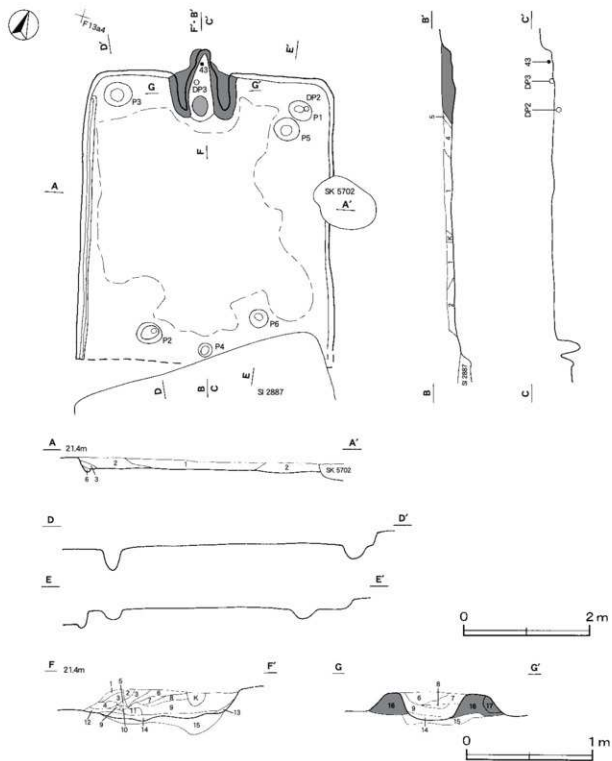
1 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	10 暗赤褐色	焼土粒子少量
2 暗褐色	焼土粒子微量	11 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12 にぶい赤褐色	焼土粒子中量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	13 褐色	焼土粒子少量
5 暗褐色	焼土ブロック中量	14 赤褐色	焼土粒子多量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	15 褐色	ロームブロック多量
7 赤褐色	焼土ブロック中量	16 浅黄色	砂質粘土粒子多量
8 暗赤褐色	焼土粒子中量	17 浅黄色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
9 にぶい赤褐色	焼土粒子少量		

ピット 6か所。P1~P3は深さ21~28cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ39cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットである。P5・P6は深さ17cm・15cmで、補助柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

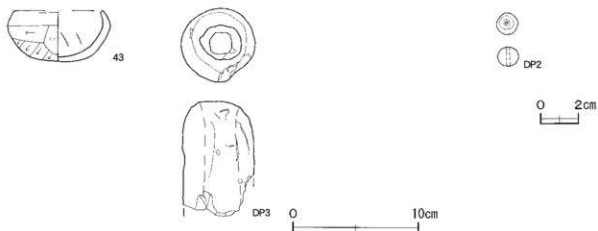
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 5 濃い褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、赤色粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |



第20図 第2883号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片54点（坏3、碗1、埴2、甕48）、土製品2点（土玉、支脚）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）が出土している。43は煙道部の底面付近、DP3は火床面の煙道部寄りからそれぞれ出土している。DP2はP1内から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第21図 第2883号住居跡・出土遺物実測図

第2883号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
43	土師器	坏	(70)	40	—	長石・雲母	にふい青緑	普通	白線部内・外面横ナデ 掘り底、ナデ	煙道部	70%	
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
DP2	土玉	1.12	0.89	0.15	1.06	土（雲母）	外面ナデ	一方向からの穿孔			P1内	PL43
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
DP3	支脚	(92)	3.2	5.8	(176.5)	土（長石・雲母）	外面ナデ	管状			煙道部	

第2884号住居跡（第22図）

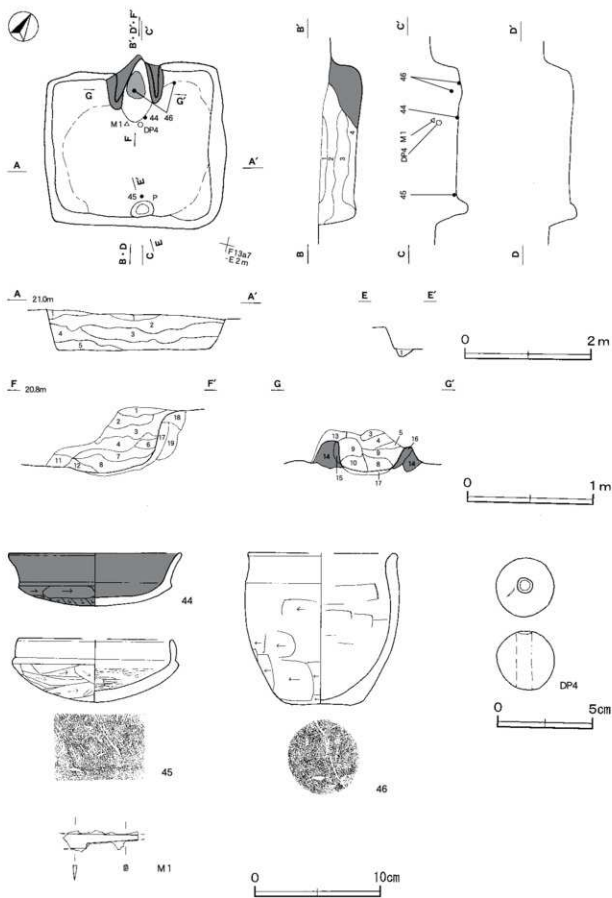
位置 調査区台地部のE13j7区、標高20mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2886号住居跡の北コーナー部付近を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.87m、短軸2.64mの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は42~64cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで107cm、燃焼部幅42cmである。袖部は地山を若干掘り込み、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。第14~16層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き25cm、幅70cm掘り込み、壁面に砂質粘土を貼って構築している。火床部は床面を14cm掘り込んで構築され、火床面は火を受けて赤変硬化している。第17~19層は掘方への埋土である。



第22图 第2884号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 におい褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 黒 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 暗 褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 12 黒 褐色 | 炭化物・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 13 におい黄褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 灰 色 | 砂質粘土粒子多量、ロームブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 15 赤 褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子中量 |
| 7 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 16 におい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量 | 17 におい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 9 におい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 18 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 19 暗 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと見られる。

ピット土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-----------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土器片327点(坏42, 高坏2, 甕245, 瓶38), 土製品1点(球状土錘), 鉄製品1点(刀子)のほか、混入した縄文土器片1点(深鉢)が出土している。これらは、散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。44は正位の状態で竈前面の床面から出土し、46は竈の火床面と右袖部から出土した破片が接合している。45は正位の状態でP付近の床面付近から出土している。DP 4・M 1は、竈前面の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2884号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	土器	坏	135	4.2	-	長石・石英	におい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	80%
45	土器	坏	[121]	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	におい黄	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り後、一部破き 内面磨き 底部に磁粒痕有り	床面	60%
46	土器	小形甕	[116]	126	58	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 体部内面へうナデ 底部ナデ	火床部	60%

番号	器種	長さ(径)	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	球状土錘	3.05	3.1	0.8	26.8	土(雲母)	外面ナデ 一方からの穿孔	覆土上層	PL43

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(59)	1.2	0.3	(49)	鉄	刃部・茎部先端欠	覆土上層	

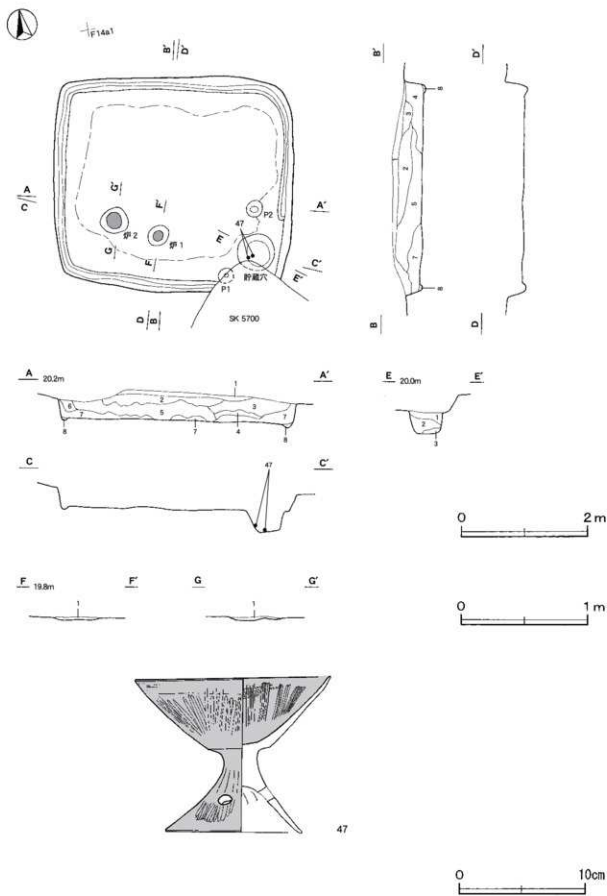
第2885号住居跡 (第23図)

位置 調査区東部のF14a1区、標高19mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 南東コーナー部付近を第5700号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m、短軸3.46mの長方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は27-30cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が南東コーナー部付近を除いて巡っている。



第23图 第2885号住居跡・出土遺物実測図

炉 2か所。南東部に付設されている。炉1は長径36cm、短径31cmの楕円形、炉2は長径45cm、短径44cmの円形で、いずれも床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。新旧関係は不明である。

炉1土層解説

1 赤 黒 色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量

炉2土層解説

1 暗 赤 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ40cm、P2は深さ16cmで、それぞれ南壁及び東壁の南東コーナー部付近の壁際に位置している。2か所とも出入り口施設に伴うピットとみられるが、新旧関係は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径60cm、短径56cmの円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック少量

3 棟 暗 褐色 ロームブロック少量

2 黒 褐色 ロームブロック少量

覆土 8層に分層できる。不自然な堆積状況で、ロームブロックを含んでいる層が見られることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

5 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

6 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

7 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

8 褐色 ローム粒子中量、赤色粒子微量

遺物出土状況 土師器片141点(坏31、高坏10、鉢4、甕96)のほか、混入した縄文土器片9(深鉢)、須恵器片1点(甕)が出土している。47は横位の状態での貯蔵穴から出土している。

所見 炉及び出入り口施設に伴うと見られるピットがそれぞれ2か所確認されていることから、出入り口の方角を変えて建て替えられた可能性がある。時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。

第2885号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	土師器	高坏	15.4	125	107	長石	橙	普通	坏部内・外面磨き へら磨り継、ナデ 三方の溝を削ぐ	貯蔵穴	90% PL26

第2886号住居跡 (第24図)

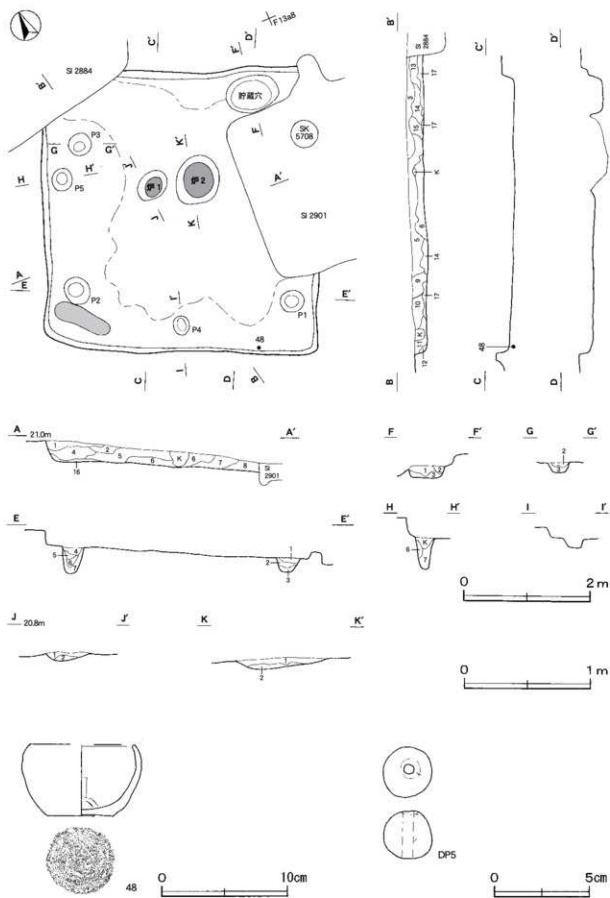
位置 調査区東部のF13a7区、標高20mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 北コーナー部を第2884号住居に、南東壁付近を第2901号住居・第5708号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m、短軸4.34mの方形で、主軸方向はN-28°-Eである。壁高は20~32cmで、直立している。

床 若干起伏があり、中央部付近を中心に踏み固められている。西コーナー部付近の床面に焼土が堆積している。

炉 2か所。中央部やや北東壁寄りに付設されている。炉1は長径53cm、短径42cm、炉2は長径81cm、短径68cmの楕円形で、いずれも床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。新旧関係は不明である。



第24图 第2886号住居跡・出土遺物実測図

伊1土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 2 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量

伊2土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P3は深さ10～42cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ16cmで、南西壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P5は深さ50cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
3 褐色 ローム粒子中量 7 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量

貯蔵穴 東コーナー部付近に付設されている。長径84cm、短径59cmの楕円形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

覆土 17層に分層できる。堆積状況が不自然であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 9 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 10 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・赤色粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 11 褐色 ローム粒子中量
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 12 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 13 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量
6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 14 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子・赤色粒子微量
7 暗褐色 ロームブロック微量 15 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 16 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量
17 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片140点(坏15, 碗1, 埴1, 高坏7, 甕116), 須恵器片1点(甕), 土製品1点(球状土錘)のほか、混入した縄文土器片2点(深鉢)が出土している。48は横位の状態で南コーナー部付近の床面から出土している。

所見 床面から焼土が確認されたことから、焼失住居である。時期は、重複関係と出土土器から5世紀中葉に比定できる。

第2886号住居跡出土遺物観察表(第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
48	土師器	碗	(82)	5.7	5.3	長石	明赤褐	普通	口縁部・体部外面ナデ 体部内面ヘラ削り成。ナデ直削ナデ	床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
IP5	球状土錘	2.96	2.41	0.47	16.9	土(長石)	外面ナデ 一方からの穿孔	覆土中	PL43

第2887号住居跡(第25・26図)

位置 調査区東部のF1365区で、標高21mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2894号住居跡を掘り込み、第2883号住居に北コーナー部付近を掘り込まれている。

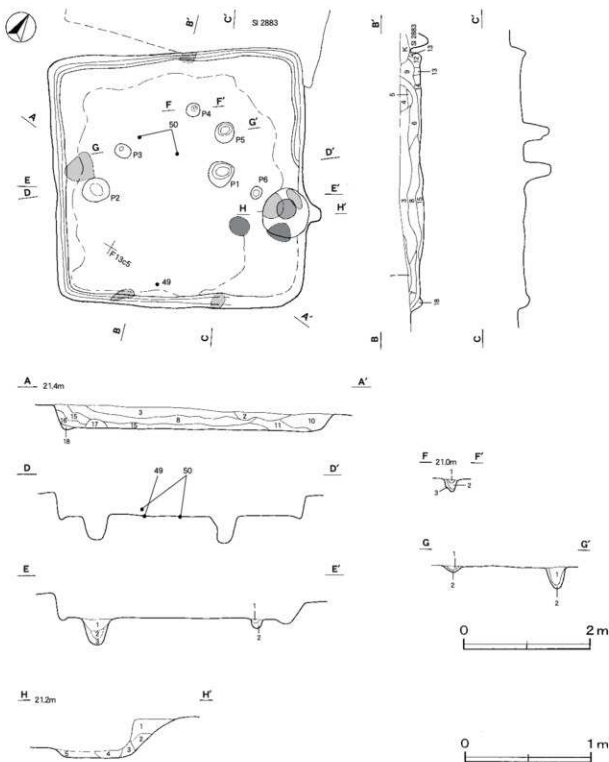
規模と形状 長軸4.10m、短軸4.05mの方形で、主軸方向はN-65°-Eである。壁高は33～39cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。P2付近の床面に焼土が確認されている。

竈 北東壁の東コーナー部寄りに付設されている。袖部は失われており、火床部が確認された。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、燃焼部幅は不明である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き20cm、幅37cm掘り込んで構築している。火床部は床面を10cmほど掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 5 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 ロームブロック中量 | |



第25図 第2887号住居跡実測図

ピット 6か所。P1・P2は深さ42cm・43cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P3～P6は深さ16～43cmで、補助柱穴と見られる。

ピット土層解説

- | | | | |
|------|-----------|-------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | | |

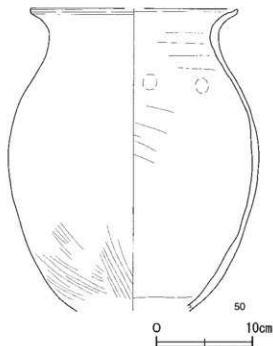
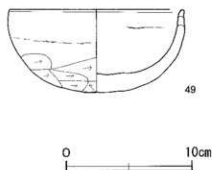
覆土 18層に分層できる。不自然な堆積状況で、ロームブロックを含んでいる層が見られることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-----------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子微量 (7より明) |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 (粘性・綿まり弱) | 12 にぶい赤褐色 | 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック微量 | 17 赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片378点(坏77, 碗6, 甕290, 甌5)のほか、混入した縄文土器片3点(深鉢)が出土している。これらは、中央部付近の床面から覆土下層にかけて出土している。49は正位の状態でも南壁際の床面から出土し、50はP3付近の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 焼土が床面から確認されたことから、焼失住居である。時期は、重複関係と出土土器から7世紀中葉に比定できる。



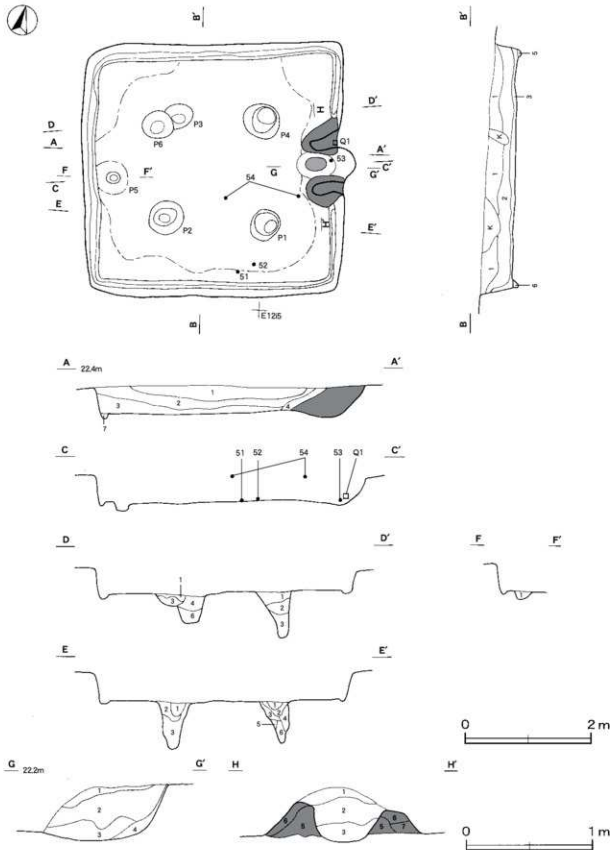
第26図 第2887号住居跡出土遺物実測図

第2887号住居跡出土遺物観察表 (第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師器	坏	136	66	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面ナデ 体部外面上半部ナデ 下半部へツクリ	床面	96%
50	土師器	甕	[216]	[315]	-	長石・石英・赤色	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ナデナデ 体部外面ナデ, 下半部削ぎ 内面ナデ一部削ぎ押	床面	49%

第2888号住居跡 (第27・28図)

位置 調査区中央部のE12h4区で、標高22mの台地縁辺部に位置している。



第27図 第2888号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.16m、短軸4.00mの方形で、主軸方向はN-83°-Eである。壁高は26~51cmで、直立している。

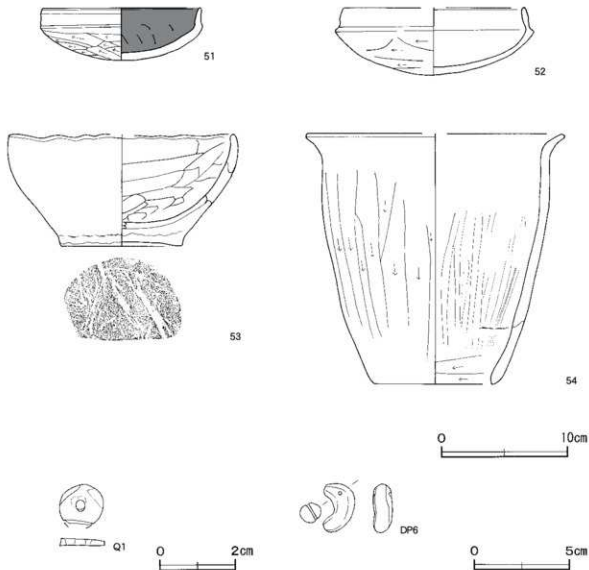
床 若干起伏があり、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで95cm、燃烧部幅35cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。第5~7層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き25cm、幅65cm掘り込んで構築している。火床部は床面を8cmほど掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 濃い赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 | 5 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 6 オリーブ褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| | | 7 濃い黄褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |

ピット 6か所。P1~P4は深さ45~75cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ15cmで、西壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ19cmで、P3を掘り直した可能性がある。



第28図 第2888号住居跡出土遺物実測図

P1～P4・P6土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|----------------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 5 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

P5土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片851点（坏166、鉢2、甕597、甌86）、須恵器片1点（甕）、土製品1点（勾玉）、石製品1点（白玉）のほか、混入した縄文土器片5点（深鉢）、土師器片13点（埴2、高坏11）が出土している。これらは、住居跡の東寄りを中心として覆土下層から上層にかけて出土している。51・52は正位の状態、P1の南側の覆土下層からそれぞれ出土している。53は横位の状態で竈の火床面付近、Q1は竈左袖部内からそれぞれ出土している。54は竈前面から中央部付近にかけての覆土上層から出土した破片が接合している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2888号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
51	土師器	坏	123	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ削り後、ナデ	覆土下層	90%
52	土師器	坏	[142]	5.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	43%
53	土師器	鉢	[176]	8.9	9.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面調整不明 内面ナデ 底部木葉痕	竈内	23%
54	土師器	甌	[202]	20.0	9.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 体部内面ナデ後、竈底内部へラ削り	覆土上層	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
IP6	勾玉	26	1.7	1.1	3.84	土（長石）	外面ナデ	覆土中	PL43

番号	器種	径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	白玉	12	0.2	0.3	0.036	滑石	一部欠陥有り	竈左袖部	PL46

第2889号住居跡（第29～31図）

位置 調査区西部のF11e8区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 中央部から北東部付近を第2925号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.40m、短軸6.18mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は35～45cmで、直立している。

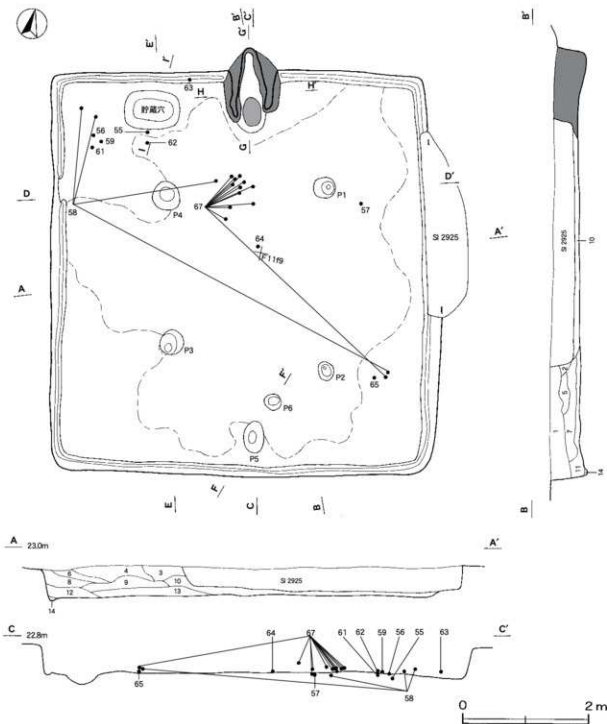
床 はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで134cm、燃焼部幅33cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。第10～13層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き40cm、幅78cm掘り込んで構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|----------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 8 にぶい黄色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 9 黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子中量 | 10 にぶい黄色 | 砂質粘土粒子中量 (締まり強) |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 11 にぶい黄色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 12 赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 6 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 13 褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ25～44cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ64cmで、性格は不明である。



第29図 第2889号住居跡実測図(1)

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | |

貯蔵穴 竈の左側に付設されている。長軸90cm、短軸65cmの隅丸長方形で、深さは40cmである。底面は皿状で、壁は直立している。

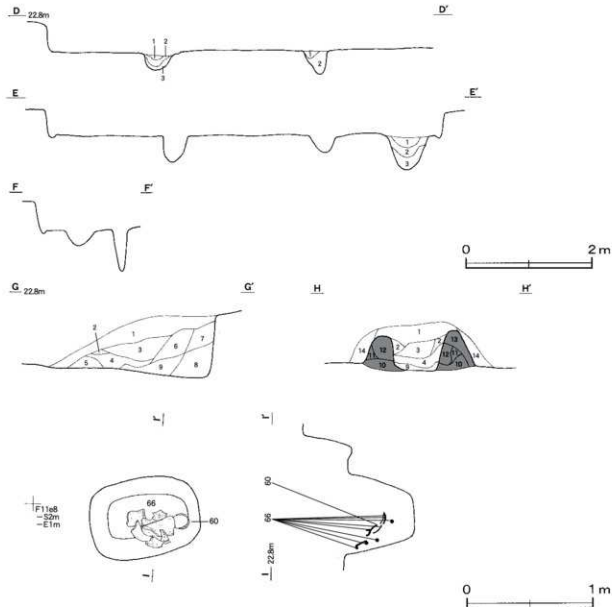
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

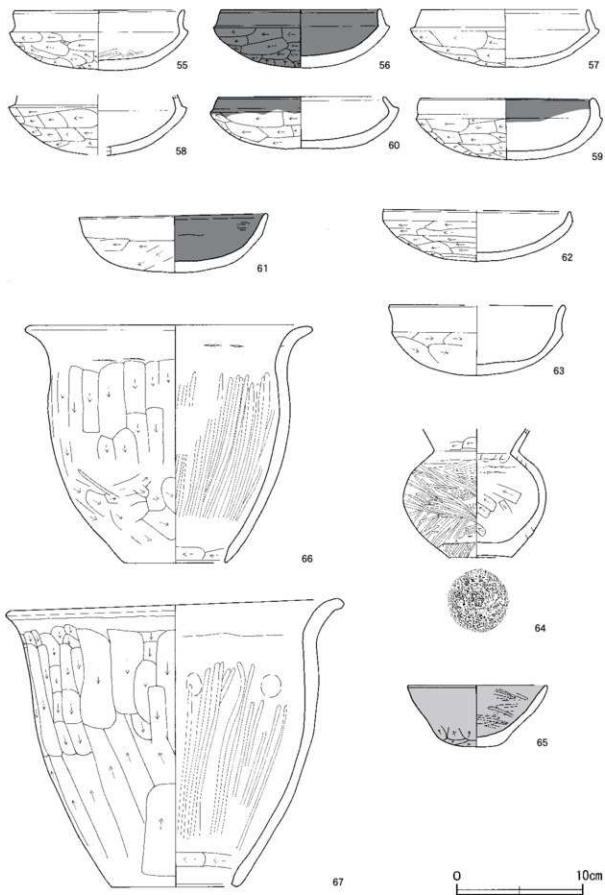
覆土 14層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 8 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 11 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 ロームブロック少量 | 12 褐色 ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | 13 極暗褐色 ロームブロック多量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック中量 | 14 褐色 ローム粒子中量 |



第30図 第2889号住居跡実測図(2)



第31图 第2889号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片613点（坏118, 碗9, 高坏11, 甕428, 甔47）, 須恵器片35点（坏28, 甕7）, 土製品1点（支脚）のほか、混入した縄文土器片5点（深鉢）, 土師器片4点（増2, 器台1, 鉢1）, 須恵器片4点（高台付坏2, 蓋2）が出土している。これらは、竈から北西コーナー部を中心として床面から覆土中層にかけて出土している。56は正位の状態、59・61は逆位の状態、北西コーナー部付近の床面から3点並んで出土し、63は斜位の状態、左側の壁溝上面から出土している。55・62は正位の状態、貯蔵穴の南側の床面、60は斜位の状態、貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。66は同じく貯蔵穴の覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。57はほぼ正位の状態、P1付近、64は斜位の状態、中央部付近、65は正位の状態、P2周辺のそれぞれ床面から出土している。58は北西コーナー部及びP2付近、67は竈前面の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2889号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
55	土師器	坏	135	4.8	-	長石・石英・赤石	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	95% PL26
56	土師器	坏	126	4.6	-	石英・赤石・赤土	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	95%
57	土師器	坏	132	4.6	-	長石・石英・赤石	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	80%
58	土師器	坏	-	(48)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	80%
59	土師器	坏	136	4.9	-	長石・石英・赤石	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面磨き	床面	100% PL26
60	土師器	坏	131	4.1	-	長石・石英・赤石	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面ナデ	貯蔵穴内	95% PL26
61	土師器	坏	149	4.7	-	長石・石英・赤石	明赤褐	明赤褐	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り後、ナデ	床面	90%
62	土師器	坏	[147]	4.0	-	長石・石英・赤石	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	70%
63	土師器	坏	[137]	5.5	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	60%
64	土師器	甔	-	(102)	4.9	長石・石英・赤石	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	70%
65	土師器	鉢	109	4.9	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面磨き	床面	70%
66	土師器	甔	223	188	8.1	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面磨き	貯蔵穴内	60% PL27
67	土師器	甔	[260]	230	9.9	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き	体部外面へう割り 内面磨き	床面	50%

第2890号住居跡（第32図）

位置 調査区中央部のE126区、標高21mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第40号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 上面を削平され、床面と竈しか遺存していない。東西軸は2.40m、南北軸は1.92mしか確認できず、主軸方向N-80°-Eと推測できる。竈高は4cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の前面から北西にかけて踏み固められている。

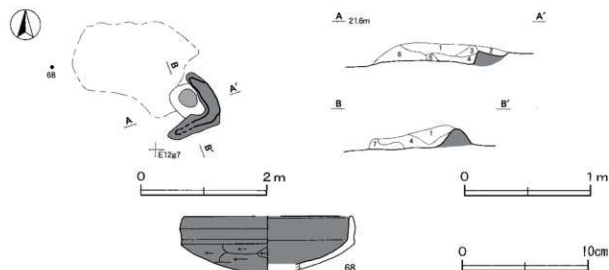
竈 竈は東壁に付設されている。焚口部から煙道部まで68cm、燃焼部幅52cmである。袖部は地山を掘り残して、煙道部は壁外へ逆U字状に掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	5 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	6 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、炭化物微量	7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量
4 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片267点(坏56、高坏3、壺3、甕205)のほか、混入した縄文土器片2点(深鉢)が出土している。68は西側の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第32図 第2890号住居跡・出土遺物実測図

第2890号住居跡出土遺物観察表(第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
68	土師器	坏	13.4	4.3	—	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナア 体部外面へう割り 内面ナア	覆土下層	3%

第2891号住居跡(第33・34図)

位置 調査区東部のE1311区、標高21mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2898号住居跡の南東部付近を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.85mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は36~42cmで、直立している。

床 若干起伏があり、竈の前面から南壁にかけて踏み固められている。南壁を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで127cm、燃焼部幅49cmである。袖部は地山を若干掘り込み、その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第17・18層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き48cm、幅76cm掘り込み、壁面に暗赤褐色土を貼って構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込み、暗赤褐色土を充填して構築し、火床面は火を受けて赤変硬化している。第2層は天井部の崩落土。第13~16層は掘方への埋土である。

覆土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	8 にぶい黄色	砂質粘土ブロック中量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	9 赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	11 黒褐色	焼土ブロック少量
5 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量	12 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
7 にぶい黄褐色	ロームブロック中量		

- 14 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 15 暗 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 16 暗 赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

- 17 におい赤褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
 18 青 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量

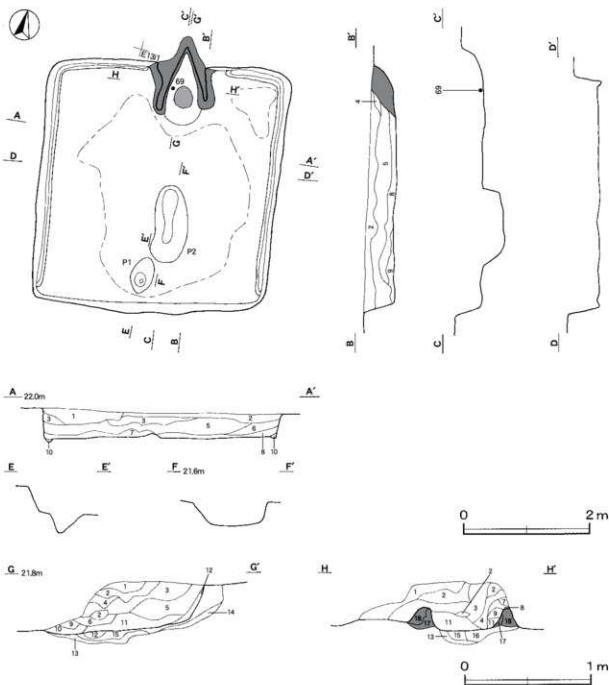
ピット 2か所。P1は深さ32cmで、竈と向き合う南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P2は長さ120cm、幅30cm、深さ38cmで、性格は不明である。

覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ローム粒子微量
 3 暗 褐色 ローム粒子少量
 4 暗 褐色 ローム粒子微量
 5 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 6 暗 褐色 炭化粒子微量
 7 褐色 ロームブロック少量
 8 黒暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
 9 褐色 ロームブロック少量
 10 褐色 ローム粒子中量



第33図 第2891号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片235点(坏92, 高坏10, 壺1, 甕130, 甌2)が出土している。69は甕の火床部から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第34図 第2891号住居跡出土遺物実測図

第2891号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
69	土師器	坏	11.5	4.4	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	甕内	8%

第2892号住居跡 (第35～38図)

位置 調査区東部のE12h9区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2898号住居跡の北東コーナー部付近を掘り込み、南コーナー部付近を第5705号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.56m、短軸5.39mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は18～45cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで126cm、燃焼部幅54cmである。袖部は地山を若干掘り込み、砂質粘土とロームを積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き53cm、幅67cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込み、煙道部寄りに支脚を設置している。火床面は火を受けて赤変硬化している。第1層は天井部の崩落土である。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|----------|--------------------|
| 1 灰黄色 | 砂質粘土粒子多量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗灰黄色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 8 灰白色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 3 暗灰黄色 | 砂質粘土粒子多量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 10 明褐色 | 焼土粒子多量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 11 にぶい黄色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 6 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ63～80cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ24cm・32cmで、南東壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

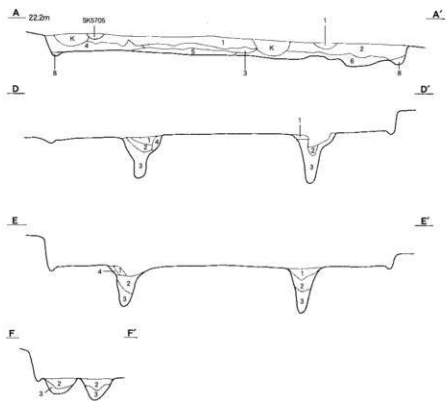
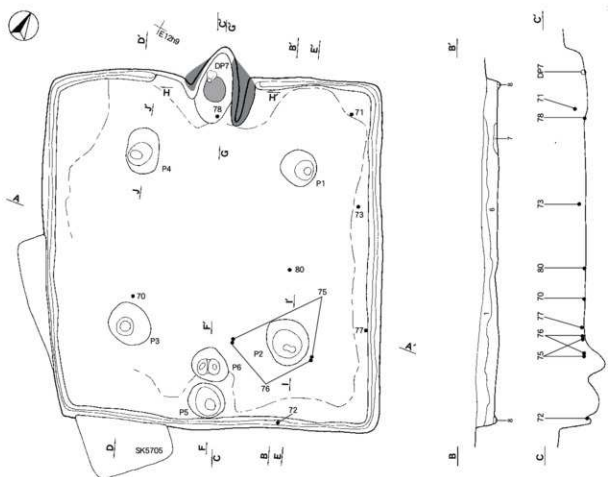
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

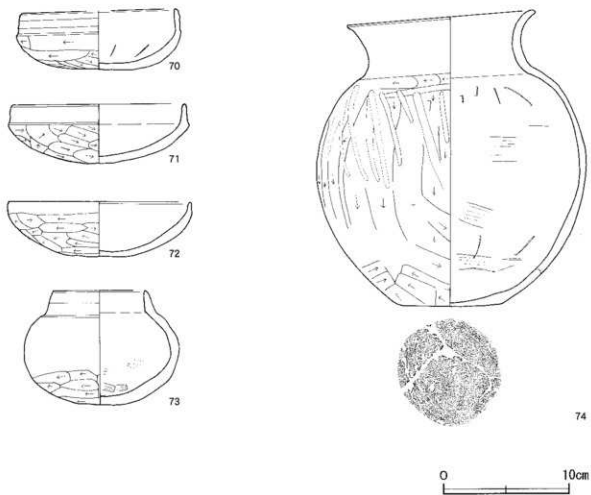
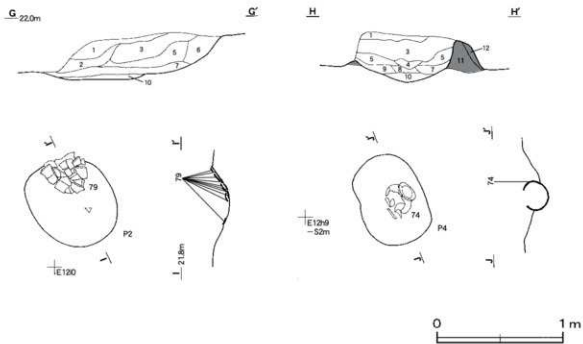
覆土 8層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

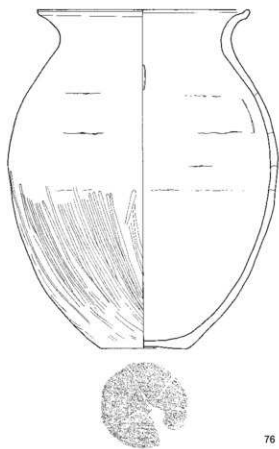
- | | | | |
|-------|--------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | 赤色粒子少量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 白色粒子少量 | 7 褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |



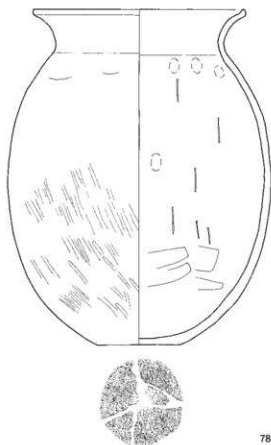
第35图 第2892号住居跡実測图



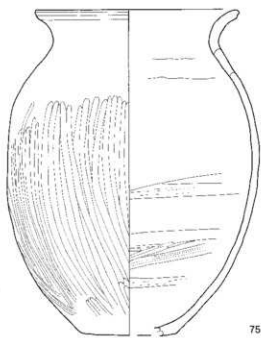
第36图 第2892号住居跡・出土遺物実測図



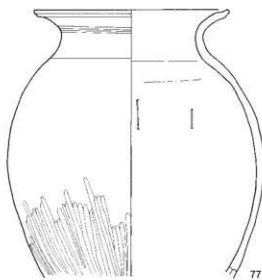
76



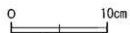
78



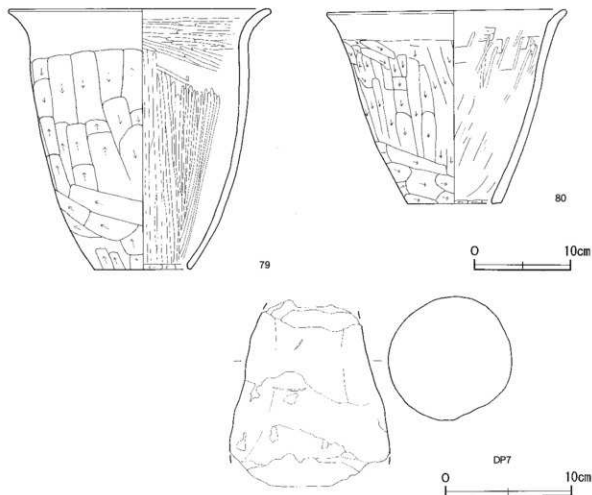
75



77



第37图 第2892号住居跡出土遺物実測図(1)



第38図 第2892号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片1061点(坏187, 高坏27, 壺1, 甕831, 甌15), 須恵器片2点(甕), 土製品1点(支脚)のほか, 流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢)が出土している。これらは住居跡の東側を中心として床面から覆土中層にかけて出土している。70は正位の状態でP3付近, 72は逆位の状態以南壁際の壁溝, 73は同じく逆位の状態以东壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。75~77・80は東壁際からP2付近にかけての床面から, 78は甕の焚口部からそれぞれ横位の状態で出土しており, いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また74は正位の状態でP4の上面, 79は横位の状態でP2の上面からそれぞれ出土しており, 柱を抜き取った後に遺棄されたと考えられる。

所見 時期は, 重複関係と出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2892号住居跡出土遺物観察表(第36~38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴ほか			出土位置	備考
									口縁部内・外面横ナデ 削り残, ナデ	体部外面へラ削り ナデ	内面へラ ナデ		
70	土師器	坏	[122]	48	-	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 削り残, ナデ	体部外面へラ削り ナデ	内面へラ ナデ	床面	80% PL26
71	土師器	坏	136	47	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へラ削り ナデ	内面ナデ	覆土下層	40%
72	土師器	坏	143	44	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へラ削り ナデ	内面ナデ	壁溝	90%
73	土師器	短頸壺	7.2	9.1	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面削面によるナデ	体部外面ナデ	下端へラ削り ナデ	覆土下層	100% PL26

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
74	土師器	甕	149	235	7.7	灰石・石英・赤色粒子	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き 内面へう張り残 ナデ 底部へう張り	体部外面へう張り残、一部磨き	P 4	75% P1.28
75	土師器	甕	208	342	(100)	長石・石英・赤色	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面磨成	体部外面へう磨き 内面ナデ	床面	90% P1.28
76	土師器	甕	219	355	8.9	長石・石英・赤色	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面へう張り残 ナデ	体部外面ナデ 下半部磨き 内面へう張り 左側有り	床面	70% P1.28
77	土師器	甕	204	(280)	-	灰石・石英・赤色	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面へう張り残 ナデ	体部外面ナデ 下半部磨き	床面	43%
78	土師器	甕	219	352	8.7	長石・石英・赤色	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面へう張り残 ナデ 一部磨成	体部外面ナデ 下半部磨き 一部磨成 底部ナデ	甕焼口部	64%
79	土師器	甕	275	272	9.9	長石	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面へう張り	体部外面へう張り 内面磨き	P 2	85% P1.27
80	土師器	甕	247	203	9.8	長石・石英・赤色粒子	に濃い黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き 底部へう張り	体部外面へう張り 内面ナデ	床面	75% P1.27

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D97	支脚	(148)	(75)	(128)	(1670)	土(長石・赤色)	外面ナデ		壺内

第2893号住居跡(第39・40図)

位置 調査区東部のF14c1区、標高19mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 東西軸5.96m、確認できた南北軸5.16mで、主軸方向がN-14°-Wの長方形と推測できる。壁高は34~83cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁際に壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで130cm、燃焼部幅45cmである。軸部は砂質粘土を用いて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き20cm、幅35cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

電土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 に濃い赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 3か所。P1~P3は深さ41~68cmで、規模と位置から主柱穴である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

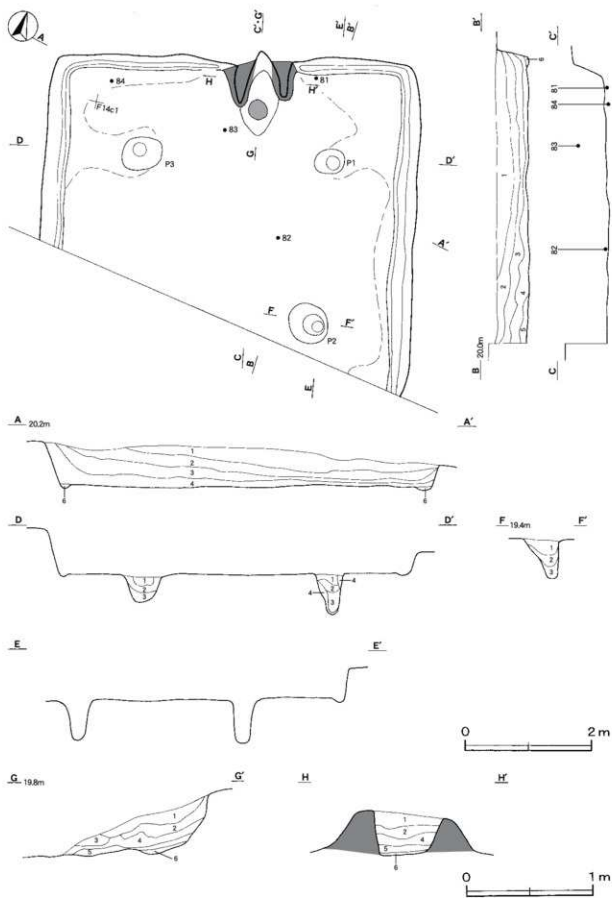
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

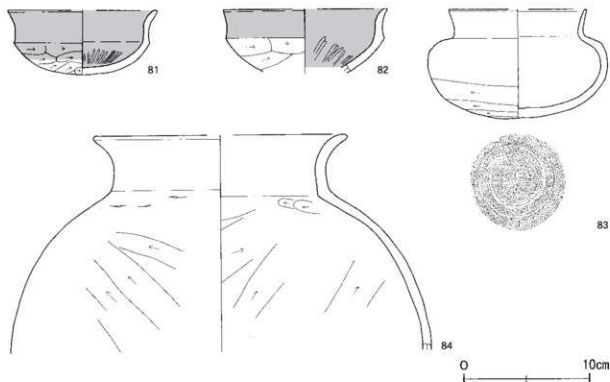
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・赤色粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片470点(坏93, 碗9, 高坏31, 甕294, 瓶43), 須恵器片27点(坏12, 蓋2, 壺1, 甕12)のほか、流れ込んだ縄文土器片6点(深鉢), 弥生土器片2点(広口壺), 土師器片7点(壺5, 器台2)が出土している。これらは、住居跡北側の床面から覆土上層にかけて出土している。81は竈右袖部付近の床面、82は中央部から出土した破片がそれぞれ接合したものである。84は横位の状態で北壁際の床面、83は壺内の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第39图 第2893号住居跡実測图



第40図 第2893号住居跡出土遺物実測図

第2893号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
81	土師器	坏	(118)	5.2	-	長石	に、灰・赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 磨き有り	床面	30%
82	土師器	坏	(130)	(5.1)	-	長石・石英・黄母	に、灰・黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 磨き有り	床面	30%
83	灰土器	短頸壺	(108)	8.7	-	長石・石英	細灰	普通	口縁部内・外面口コナデ 体部内・外面口コナデ 外面下半部凹へラ削り	覆土上層	70%
84	土師器	甕	(200)	(17.2)	-	長石・雲母・赤色粘土	に、灰・黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 一部へラ削り	床面	30%

第2894号住居跡 (第41・42図)

位置 調査区東部のF13c5区で、標高21mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 北西コーナー部付近を第2887号住居に掘り込まれている。

規模と形状 大部分は調査区域外に延び、全容は確認できない。南北軸は6.90m、確認できた東西軸は3.90mである。主軸方向がN-17°-Eの方形と推測できる。壁高は21~48cmで、直立している。

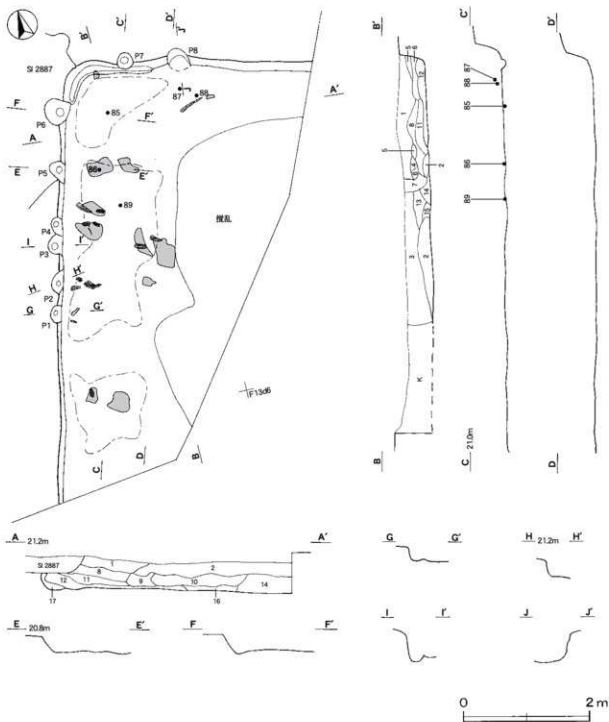
床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北西コーナー部付近を巡っている。また、床面から焼土と炭化材が確認された。

ピット 8か所。P1~P8は床面からの深さ4~10cmで、壁沿いに位置していることから壁柱穴と考えられる。

覆土 17層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含んだ層が見られ、不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

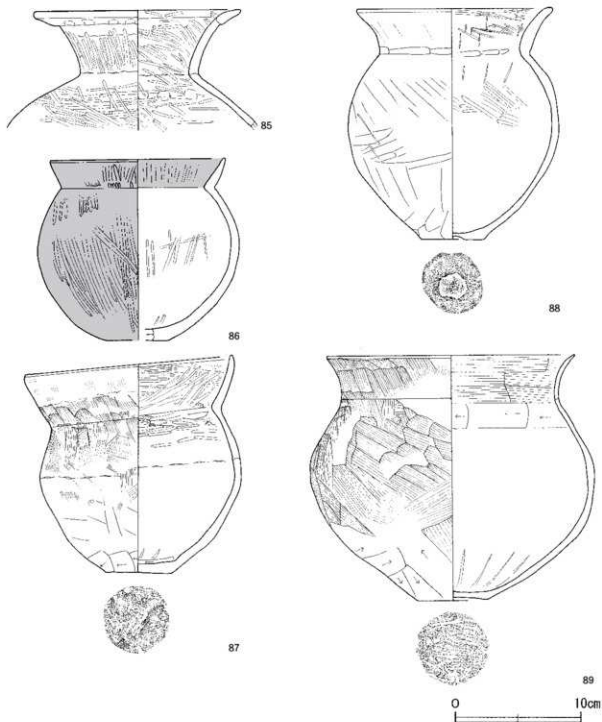
- | | | | | | |
|---|-----|----------------|----|-------|----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量 | 10 | 暗褐色 | ロームブロック中量、赤色粒子微量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土ブロック少量 | 11 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 12 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | 13 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 | 褐色 | ロームブロック少量 | 14 | にがい褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子少量 | 15 | 暗褐色 | ロームブロック少量、赤色粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量 | 16 | 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 17 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 | 明褐色 | ローム粒子少量 | | | |



第41図 第2894号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片247点（坏29、高坏6、壺4、甕208）、土製品2点（球状土錘、支脚）、石製品1点（白玉）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）、須恵器片6点（坏2、甕4）、陶器片3点（碗）が出土している。85～88は正位の状態、89は横位の状態で北西コーナー部寄りのそれぞれ床面から出土している。

所見 床面から焼土及び炭化材が確認されていることから、焼失住居と考えられる。時期は、重複関係と出土土器から4世紀前葉に比定できる。



第42図 第2894号住居跡出土遺物実測図

第2894号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	土師器	壺	162	(96)	—	長石・石英・赤褐色	橙	普通	口縁部外面指頭押圧後、ナデ。胴部内・外面へウ磨き。体部外面へウ磨き。内面指頭押圧後、磨き。	床面	40%
86	土師器	小形壺	138	144	(45)	長石・石英・赤褐色	にぶい中濁	普通	口縁部内・外面、体部外面磨き。内面ナデ一部磨き。底部ナデ。	床面	90% P1,26
87	土師器	壺	164	173	52	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ハケ目後、磨きナデ。内面ハケ目後、磨き。体部外面ハケ目、下半部へウナデ。体部内面ハケ目後、ナデ一部磨き。底部へウ磨き。	覆土下層	96% P1,28
88	土師器	壺	155	184	50	長石	橙	普通	口縁部外面ナデ後、内面ナデ後、磨き。体部外面ハケ目ナデ。内面ナデ後、一部磨き。底部ナデ。	覆土下層	96% P1,28
89	土師器	壺	[196]	194	55	長石・石英・赤褐色	にぶい中濁	普通	口縁部内・外面、体部外面ハケ目。体部下層へウ磨き。体部内面ナデ一部へウ磨き。底部ナデ。	床面	99%

第2897号住居跡（第43～45図）

位置 調査区東部のE12g0区、標高21mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2898号住居跡の北東壁を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.60m、短軸4.46mの方形で、主軸方向はN-2-Wである。壁高は40～60cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで75cm、燃焼部幅25cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き35cm、幅71cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。第4層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ42～51cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|------|-----------|------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | | |

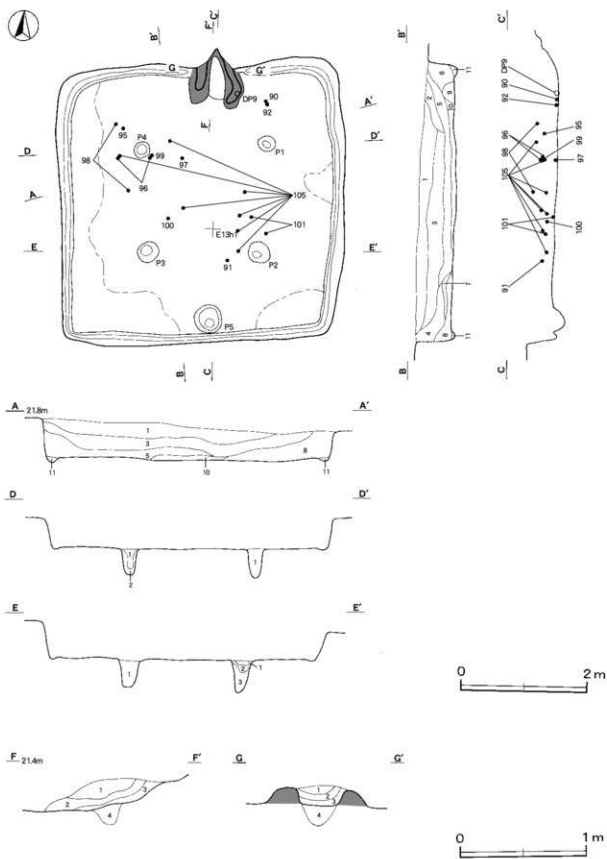
覆土 11層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

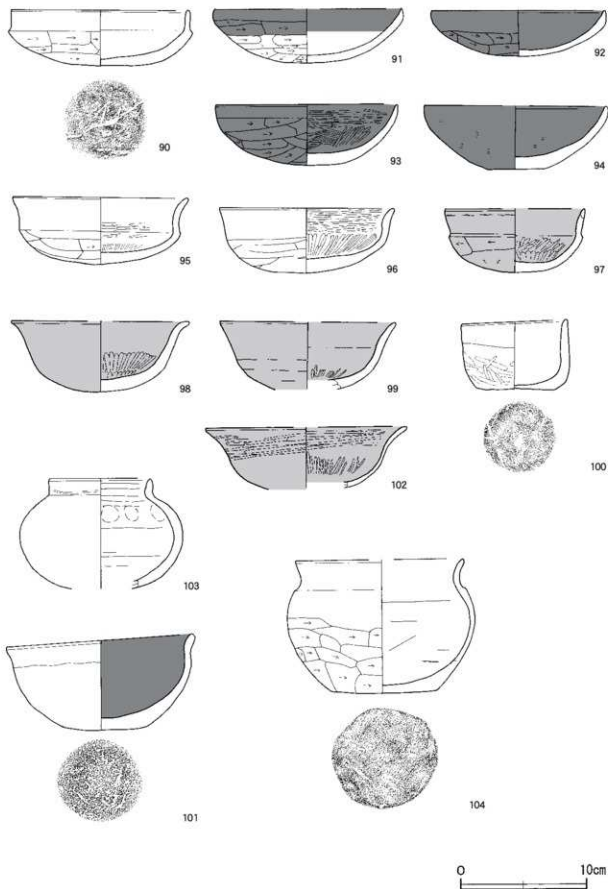
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子極微量 | 10 褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | 赤色粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片981点（坏366、碗7、高坏35、短頸壺1、甕572）、須恵器片2点（甕）、土製品2点（球状土錘、支脚）、石製品1点（白玉）のほか、覆土に流れ込んだ縄文土器片8点（深鉢）が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。90・92は竈右側の床面から重なった状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。97はP4付近の床面から、101はP2付近の床面から覆土下層にかけて破片の状態で出土している。DP9は竈の右袖部から出土し、補強材として使用されたものである。その他の遺物は覆土中層から上層にかけて出土し、本跡が埋没する過程で流入したものと考えられる。

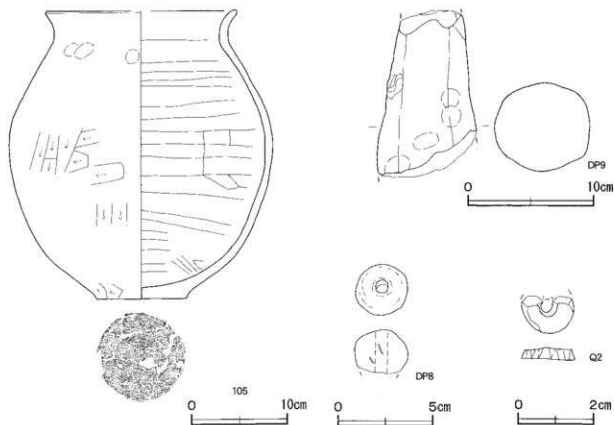
所見 時期は、重複関係と出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第43图 第2897号住居跡実測図



第44图 第2897号住居跡出土遺物実測図(1)



第45図 第2897号住居跡出土遺物実測図(2)

第2897号住居跡出土遺物観察表 (第44・45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	土師器	坏	140	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 底部へラ削り後、ナデ へラ削り	床面	90% PL26
91	土師器	坏	[149]	4.3	-	長石・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	43%
92	土師器	坏	138	3.8	-	石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL28
93	土師器	坏	144	4.9	-	石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土上層	80%
94	土師器	坏	[144]	5.1	-	雲母・赤色粒子	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 外面一部磨き	覆土中	40%
95	土師器	坏	138	5.3	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後、ナデ 内面磨き	覆土中層	80%
96	土師器	坏	136	5.2	-	石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後、ナデ 内面磨き	覆土中層	70%
97	土師器	坏	[110]	5.1	-	石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後、ナデ 内面磨き	床面	43%
98	土師器	坏	[140]	5.6	-	長石・石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後、ナデ 内面磨き	覆土上層	43%
99	土師器	坏	(140)	(5.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、外面へラ削り後、ナデ 内面ナデ後、磨き	覆土中層	40%
100	土師器	椀	8.3	5.6	6.2	長石・石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部横ナデ 体部外面ナデ後、一部磨き 内面ナデ 底磨ナデ	覆土下層	100%
101	土師器	椀	14.8	7.7	6.6	長石・石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底磨ナデ	床面	100% PL28
102	土師器	高坏	[158]	(4.0)	-	長石	赤褐	普通	口縁部内・外面ナデ 体部外面ナデ 内面磨き	覆土中層	30%
103	土師器	短胴壺	8.0	(8.8)	-	長石・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面ナデ 体部外面ナデ、下部へラ削り 内面ナデ 底磨ナデ	覆土上層	35%
104	土師器	小形壺	[133]	10.7	8.5	長石・石英・雲母	1.5~1.9	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下部へラ削り 内面ナデ 底磨ナデ	覆土下層	80%
105	土師器	甕	[197]	32.0	9.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り一部顔面押平 内面へラナデ 底磨ナデ削り	覆土中層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1P8	球状土師	27	(23)	0.7	(14.5)	土(長石)	外面ナデ	覆土上層	PL43

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	支脚	1.33	(4.8)	7.5	(5.29)	土(長石・石英)	外面ナデ 指頭押圧	覆石地部	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	白玉	1.33	0.26	0.44	(0.4)	滑石	欠損有り	覆土上層	

第2898号住居跡 (第46・47図)

位置 調査区東部のE1210区、標高21mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 南東部を第2882・2891号住居に、北壁から西壁を第2892・2897号住居、第5705号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.06m、短軸7.78mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は25~30cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、あまり踏み固められていない。壁溝は東壁・南壁際を巡っている。また、南壁の南西コーナー寄りから焼土と炭化材が確認された。

ピット 8か所。P1~P3は深さ30~72cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P4・P5は深さ22cm・35cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P6~P8は深さ16~40cmで性格は不明である。

貯蔵穴 北壁際やや西寄りに付設されている。長径93cm、短径71cmの楕円形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック微量
3	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量			

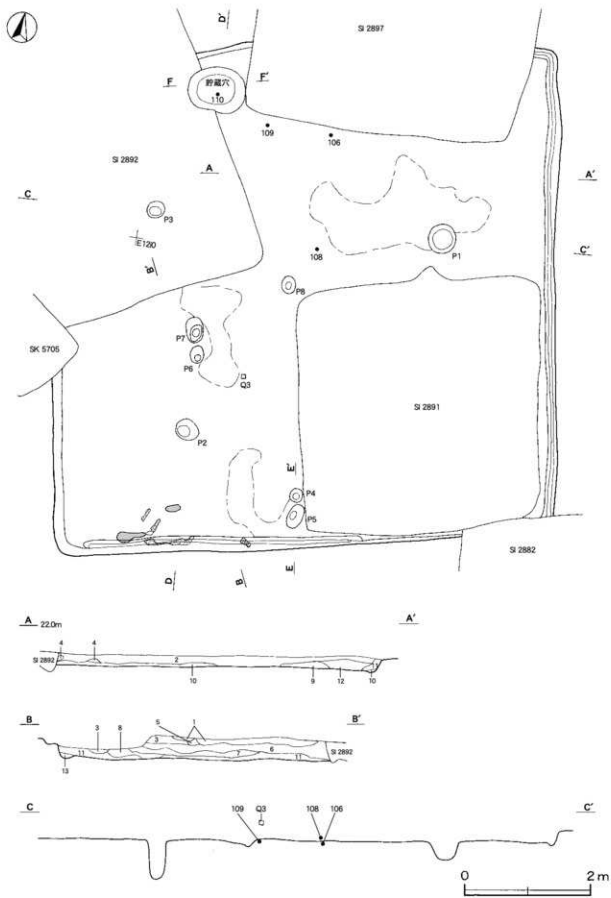
覆土 13層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる

土層解説

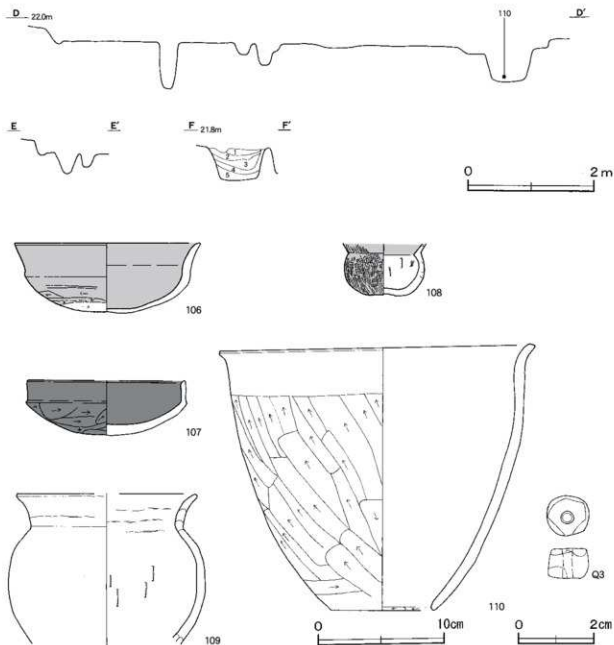
1	黒褐色	赤色粒子無微量	8	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量、赤色粒子無微量
2	暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	9	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子微量	11	褐色	焼土粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量
7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片789点(坏136, 埴1, 高坏37, 甕614, 甌1), 石製品1点(白玉)のほか、覆土に流れ込んだ縄文土器片4点(深鉢)が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。106は正位の状態、109は横位の状態それぞれ北壁寄り床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。110は貯蔵穴内から横位の状態で出土している。108はP8付近の覆土下層から、Q3はP6付近の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第46图 第2898号住居跡実測图



第47図 第2898号住居跡・出土遺物実測図

第2898号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
106	土師器	坏	146	5.5	-	灰石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り成。一部ナ	床面 96% PL.29
107	土師器	坏 [124]	4.4	-	-	灰石・石英・ 赤色砂子	に灰・黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部ヘラ削り成。ナデ	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中 30%
108	土師器	埴	-	(4.1)	18	石英・雲母	橙	普通	体部外面磨き 内面ヘラ削り成。ナデ 底部ナデ		覆土下層 43%
109	土師器	小形甕 [140]	(120)	-	-	灰石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ削り成。ナデ	体部外面磨耗のための調整不明	床面 43%
110	土師器	甕	246	21.3	80	灰石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ ナデ	体部外面ヘラ削り 体部内面	貯蔵穴 100% PL.29

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q.3	白玉	12	0.8	0.3	(1.38)	滑石	欠損有り	覆土上層	PL.46

第2899号住居跡 (第48・49図)

位置 調査区中央部のE12h5区、標高21mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸4.30m、短軸3.44mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は24~44cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。竈周辺を除いて壁溝が全周している。

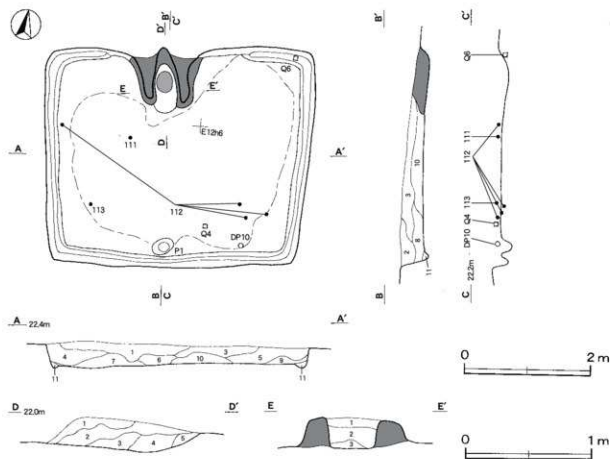
竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで107cm、燃烧部幅33cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き17cm、幅40cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土
粒子少量 | 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 オリーブ褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子
微量 | 4 濃い赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子
少量 |
| | 5 濃い赤褐色 焼土ブロック多量 |

ピット 深さ20cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

覆土 11層に分層できる。大半の層にロームブロック・焼土を含んでいることから埋め戻されている。



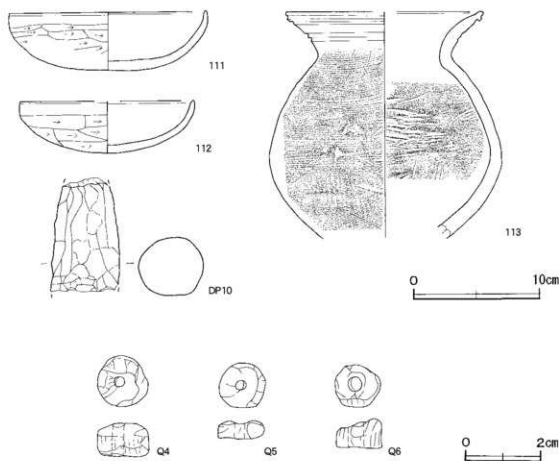
第48図 第2899号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片607点（坏175, 碗16, 甕416）、須恵器片1点（壺）、土製品1点（支脚）、石製品3点（白玉）のほか、覆土に混入した縄文土器片2点（深鉢）、土師器片46点（高坏24, 壺22）が出土している。これらは南側を中心として床面から覆土上層にかけて出土している。111は竈前面から正位の状態、113は南西コーナー寄りから横位の状態でそれぞれ床面から出土している。DP10・Q4は南壁寄りの床面から、Q6は北東コーナー部の壁溝内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第49図 第2899号住居跡出土遺物実測図

第2899号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか			出土位置	備考
									口縁部内・外面横ナデ	体部外面へラ削り	内面ナデ		
111	土師器	坏	154	4.7	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へラ削り	内面ナデ	床面	96%
112	土師器	坏	[137]	4.2	-	長石・赤色粒子	にじみ黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へラ削り	内面ナデ	床面	60%
113	須恵器	壺	[156]	[180]	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外面口ワナナデ	内面横ナデ	体部外面削き後	床面	50%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DE90	支脚	1000	32	54	(201)	土(長石・石英)	外面ナデ	床面	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	白玉	1.35	0.89	0.25	2.84	滑石	側面に排痕	床面	PL46
Q5	白玉	1.2	0.5	0.2	1.46	滑石	排痕	室内	PL46
Q6	白玉	1.2	0.8	0.3	(1.98)	滑石	側面に排痕 欠損有り	床面	PL46

第2900号住居跡 (第50・51図)

位置 調査区東部のF12a0区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2904号住居跡を掘り込んでいる。

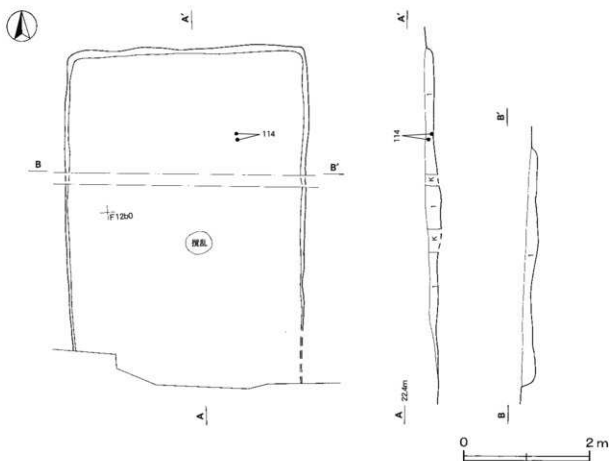
規模と形状 南壁は削平され、全容は不明である。確認できた南北軸は4.96m、東西軸は3.78mの長方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は10~20cmで、直立している。

床 若干起伏があり、軟弱である。

覆土 含有物を均等に含んでいることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 層 褐色 ローム粒子微量



第50図 第2900号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片213点(坏32, 高坏4, 壺2, 甕175), 須恵器片4点(坏1, 壺1, 甕2)のほか, 流れ込んだ縄文土器片5点(深鉢)が出土している。114は北東コーナー部寄りの床面から出土している。

所見 時期は, 重複関係と出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第51図 第2900号住居跡出土遺物実測図

第2900号住居跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	土師器	坏	135	41	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい相	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ底	床面	80%

第2902号住居跡 (第52・53図)

位置 調査区中央部のF12g4区, 標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2927号住居跡を掘り込み, 北西部を第2913号住居・2920号住居・第5710号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m, 短軸5.88mの方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は36~55cmで, 直立している。

床 若干起伏があり, 竈前面が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。焚口部から煙道部まで101cm, 燃焼部幅31cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を用いて構築されている。煙道部は, 壁外へ逆U字状に奥行き30cm, 幅51cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面はあまり火熱を受けていない。

電土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|---------|--------------------|
| 1 灰 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 灰 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 赤 褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | | |

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいるが, 均等に含有していることから自然堆積である。

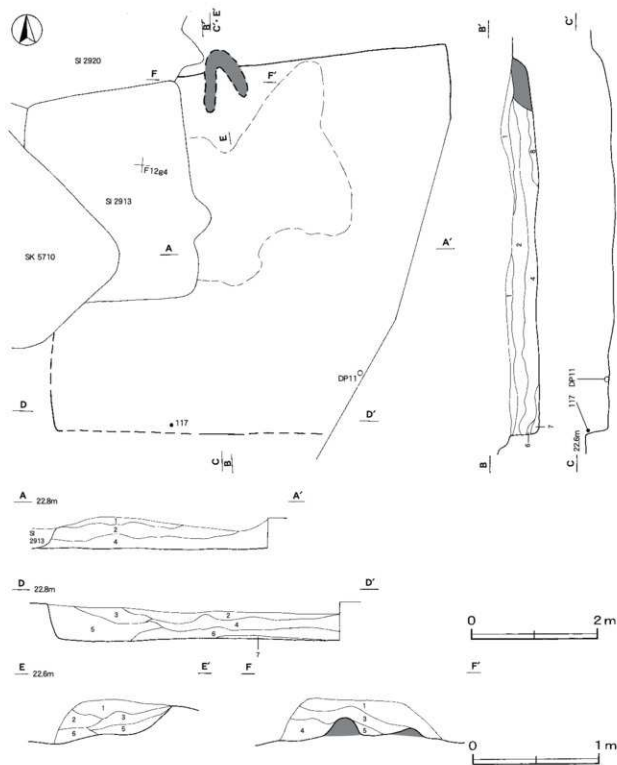
土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 黒 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |

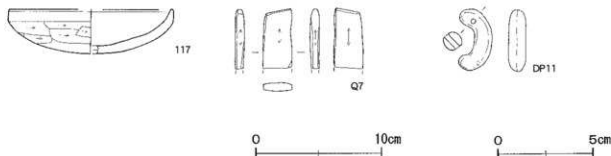
遺物出土状況 土師器片560点(坏192, 高坏17, 甕320, 甗31), 須恵器片6点(坏2, 壺1, 甕3), 土製品1点

(勾玉), 石器1点(砥石)のほか, 流れ込んだ縄文土器片10点(深鉢), 土師器片4点(高台付碗1, 埴3)が出土している。117は南壁際の覆土上層から出土している。DP11は南東コーナー部寄りの床面, Q7は北西コーナー部寄りの覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第52図 第2902号住居跡実測図



第53図 第2902号住居跡出土遺物実測図

第2902号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
117	土陶器	坏	(128)	(36)	-	石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁部内・外面横ナデ 内部ナデ 底面ナデ	覆土上層	3%	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
DP11	勾玉	32	17	0.95	4.06	土(兵石)	外面ナデ	一方向からの穿孔			床面	PL43
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q7	磁石	(44)	23	97	(157)	粘板岩	縦面4面				覆土中	

第2903号住居跡 (第54図)

位置 調査区中央部のF11j0区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2919号住居跡を掘り込み、南壁を第35号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた南北軸は4.60m、東西軸は4.08mで、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は11~27cmで、直立している。

床 若干起伏があり、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで101cm、燃焼部幅51cmである。袖部は地山を若干掘り込んで褐色土を充填し、その上に砂質粘土混じりの褐色土を積み上げて構築されている。第5~7層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き58cm、幅120cm掘り込み、壁面に暗褐色土を貼って構築されている。火床部は床面を18cmほど掘り込み、褐色土を充填して構築し、火床面は火を受けて赤変硬化している。第8~11層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 暗 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量	6 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子少量
2 暗 赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量	7 灰 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物微量	8 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 赤 褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック微量
5 灰 褐色	砂質粘土粒子少量	10 褐色	ローム粒子少量
		11 暗 褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量

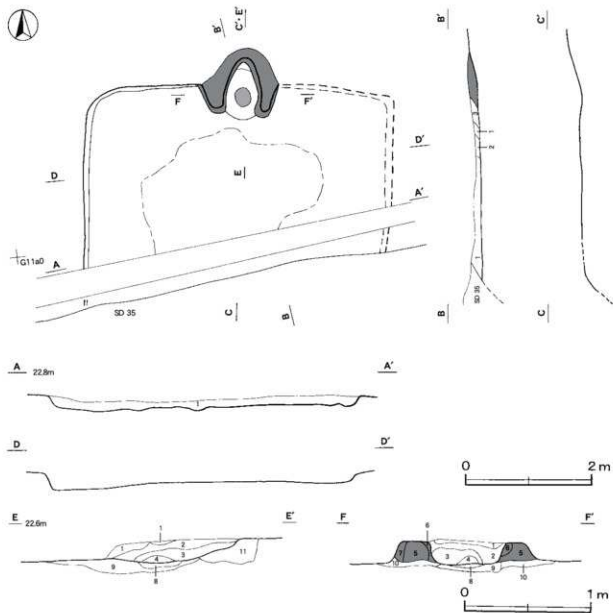
覆土 3層に分層できる。不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ローム粒子微量	3 暗 褐色	ローム粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師器片58点(坏23, 壺1, 甕34), 須恵器片10点(坏2, 坏蓋2, 甕6)が出土している。土器はいずれも細片であるが, 土師器坏は古墳時代後期のものが主体である。

所見 時期は, 重複関係や覆土中から出土した土師器坏の様相から古墳時代後期と考えられる。



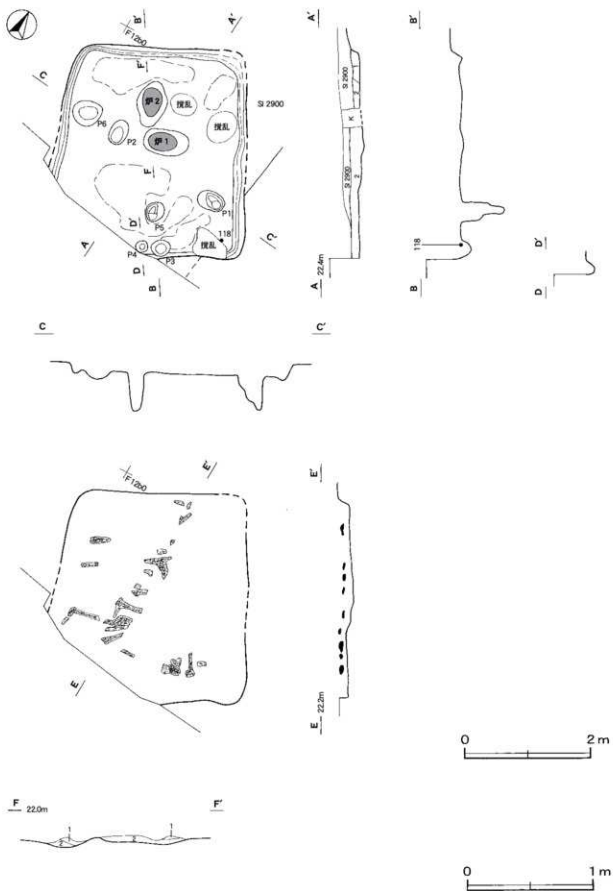
第54図 第2903号住居跡実測図

第2904号住居跡 (第55・56図)

位置 調査区東部のF 12b0区, 標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2900号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外に延びている。長軸3.26m, 短軸2.88mの長方形で, 主軸方向はN-30°-Wである。壁高は8~20cmで, 直立している。



第55图 第2904号住居跡実測图

床 若干起伏があり、やや軟弱である。壁溝が南壁を除いて巡っている。床面上から炭化材が確認された。

炉 2か所。中央部や北寄りに付設されている。炉1は長径78cm、短径40cm、炉2は長径72cm、短径49cmの楕円形で、いずれも床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変している。新旧関係は不明である。

伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量

2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1・P2は深さ54cm・61cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P3・P4は深さ12cm・18cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P5・P6は深さ12cm・70cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック等を含んでいることから埋め戻されている。

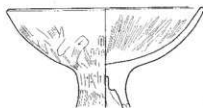
土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量

2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片16点（高坏1、甕15）のほか、覆土に混入した縄文土器片1点（深鉢）、土師器片2点（坏）が出土している。118は南東コーナー部の床面から正位の状態出土している。

所見 覆土中に焼土ブロックが含まれ、床面から炭化材が確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から4世紀中葉に比定できる。



118



第56図 第2904号住居跡出土遺物実測図

第2904号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
118	土師器	高坏	15.3	(8.0)	—	長石・石英	橙	普通		床面	59%

第2905号住居跡（第57・58図）

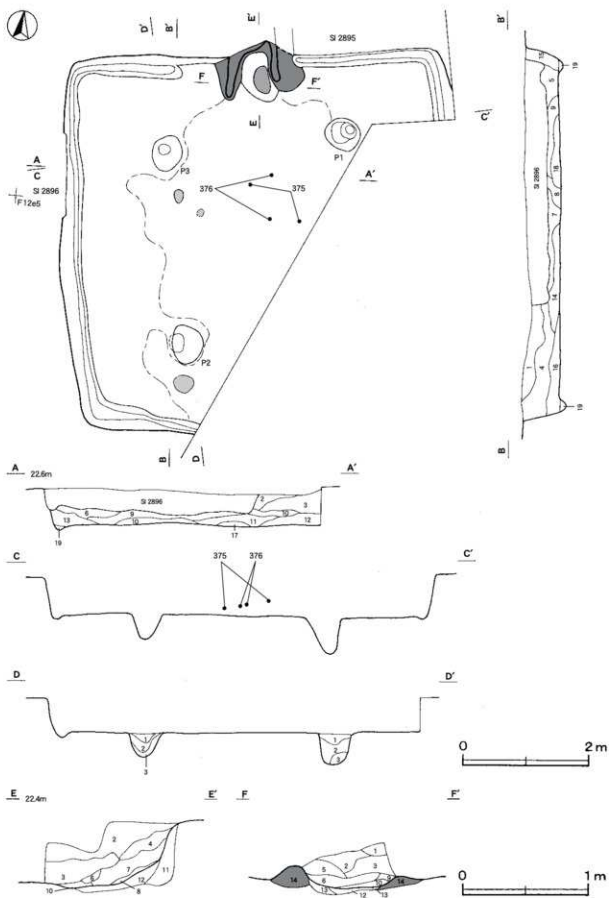
位置 調査区中央部のF12e5区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁を第2895号住居、北西部を2896号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外に延び、全容は不明である。長軸6.11m、短軸6.01mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は55~60cmで、直立している。

床 はほぼ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が竈付近を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで103cm、燃焼部幅48cmである。袖部は地山を若干掘り込み、その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第14層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ通



第57图 第2905号住居跡実測图

U字状に奥行き30cm、幅102cm掘り込み、壁面に砂質粘土を貼って構築されている。火床部は5cmほど掘り込み、ロームを充填して構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。第5層は天井部の崩落土、第11～13層は掘方への埋土である。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 8 暗 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 9 黒 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | 10 黒 褐色 | 炭化粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 4 暗 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 褐 色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 5 オリーブ褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 12 赤 褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 6 赤 褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 7 黒 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | 14 濃い青褐色 | 砂質粘土中量、ロームブロック微量 |

ピット 3か所。P1～P3は深さ40～60cmで、規模と位置から主柱穴である。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|-----------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

覆土 19層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 11 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 14 黒 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 黒 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 黒 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 16 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 7 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 17 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 18 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 9 黒 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 19 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 10 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片237点(坏29、高坏4、甕204)、須恵器片1点(甕)、土製品1点(支脚)のほか、混入した縄文土器片2点(深鉢)、土師器片1点(高台付坏)が出土している。375・376は中央部付近の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第58図 第2905号住居跡出土遺物実測図

第2905号住居跡出土遺物観察表 (第58図)

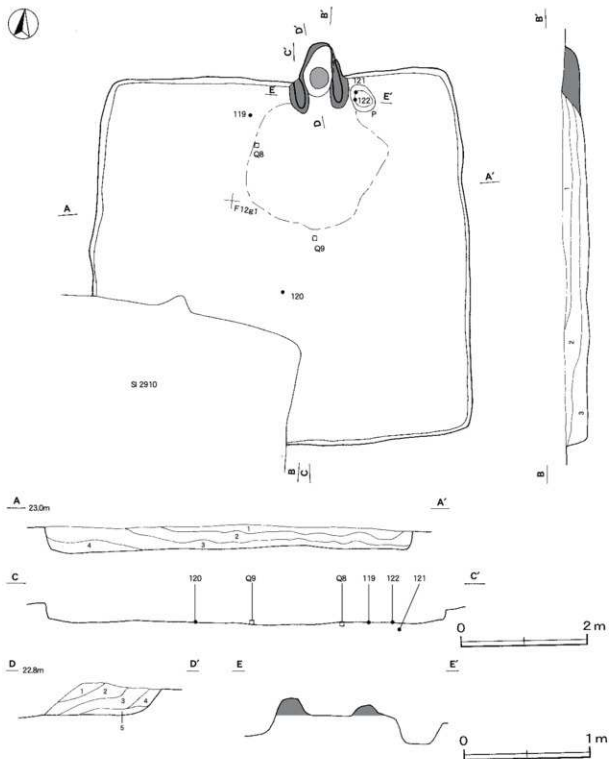
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
375	土師器	坏	[140]	(40)	—	長石・石英・赤鉄	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	60%
376	土師器	坏	[132]	36	—	長石・石英・赤鉄	に.5v.黄	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	50%

第2906号住居跡（第59・60図）

位置 調査区中央部のF12f区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2931号住居跡を掘り込み、南西コーナー部付近を第2910号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.84m、短軸5.70mの方形で、主軸方向は $N-5^{\circ}-W$ である。壁高は21~42cmで、直立している。



第59図 第2906号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、竈前面が踏み固められている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで111cm、燃烧部幅36cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き59cm、幅71cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------|-------|------------------|
| 1 に灰青褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 に灰青褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 | 5 褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

ピット 深さ32cmで、竈に隣接している。覆土中層から上層にかけて土器が出土していることから竈に付属する施設と考えられる。

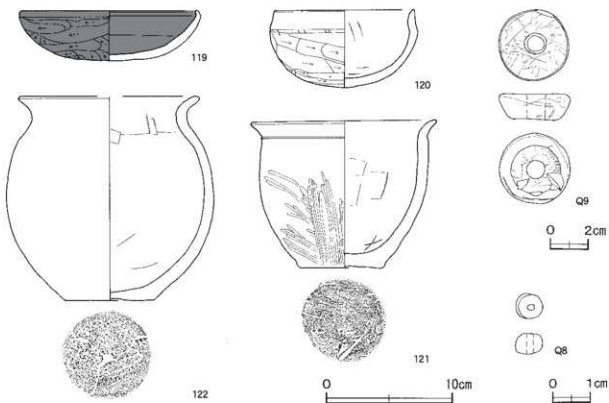
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | (3より明) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片580点(杯174、椀1、高杯17、甕375、甌13)、須恵器片9点(杯1、甌1、壺3、甕4)、石製品2点(白玉、紡錘車)のほか、流れ込んだ縄文土器片5点(深鉢1、土師器片3点(埴2、鉢1))が出土している。119は竈左側の床面から、121・122はP1の覆土中層から上層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。120は中央部付近の床面から正位の状態で出土している。Q8・Q9は竈前面および中央部付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第60図 第2906号住居跡出土遺物実測図

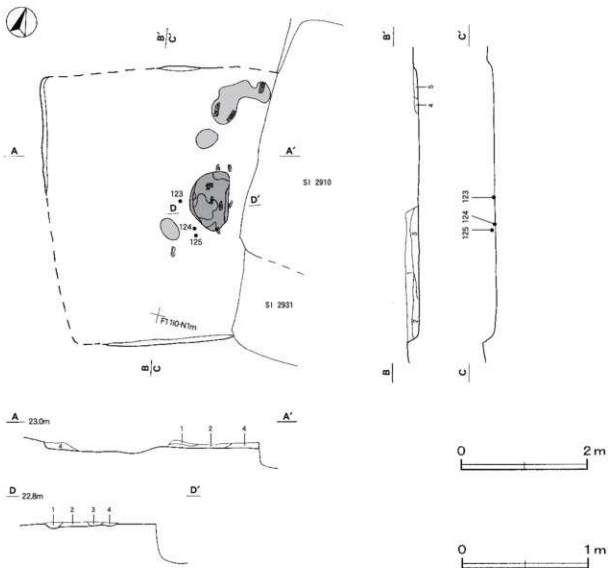
第2906号住居跡出土物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師器	坏	139	4.0	-	長石・石英	にひい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面ナデ	床面	70%
120	土師器	椀	11.0	6.2	-	長石・石英	灰黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面ナデ	床面	70%
121	土師器	壺	14.7	11.9	6.6	長石・雲母	灰黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ後 削き 内面へう削り後 ナデ 底部へう削り一部削き	P 1	95% PL29
122	土師器	壺	1138	16.2	7.0	長石・石英	にひい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横成 内面ナデ後 ナデ 底部ナデ	P 1	70%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	白土	0.64	0.49	0.15	0.25	滑石	側面に押痕	床面	PL46
Q 9	結核草	3.7	1.30	1.05	28.1	滑石	上・下面に押痕	床面	PL46

第2907号住居跡 (第61・62図)

位置 調査区中央部のF11h9区、標高22mの台地平坦部に位置している。



第61図 第2907号住居跡実測図

重複関係 東側を第2910・2931号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は4.40m、確認できた東西軸は3.80mで、主軸方向がN-19°-Wの長方形と推測できる。壁高は5~20cmで、直立している。

床 若干起伏があり、やや軟弱である。床面から焼土と炭化材が確認された。

炉 中央部付近に付設されている。長径98cm、短径62cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 灰褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量 | 4 灰褐色 炭化物中量、焼土ブロック少量 |

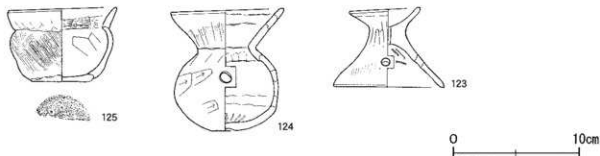
覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片117点（坏11、埴1、器台2、高坏5、壺1、甕97）のほか、混入した須恵器片6点（甕）が出土している。123・125は正位の状態、124は横位の状態で、炉付近の床面から出土している。

所見 床面から焼土・炭化材が確認されたことから、焼失住居である。時期は、重複関係や出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第62図 第2907号住居跡出土遺物実測図

第2907号住居跡出土遺物観察表（第62図）

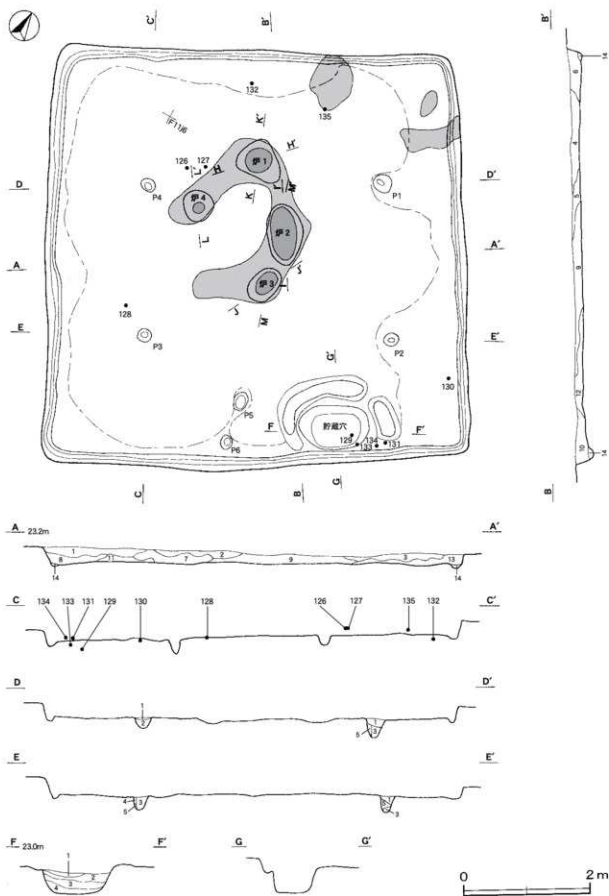
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	土師器	器台	5.5	6.8	8.8	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面ナデ 脚部外面磨き ナデ 4方向の滑かし	内面へうすり様	床面 95% P1.29
124	土師器	埴	8.7	9.7	1.6	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面ナデ 内面へうすり様、ナデ 底唇ナデ 脚部に穿孔	一部へうすり	床面 90% P1.29
125	土師器	小形壺	8.6	5.8	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面ナデ 内部ナデ	体部外面ハケ目 内面ナデ	底 床面 80%

第2908号住居跡（第63~65図）

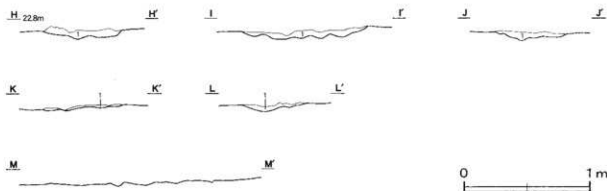
位置 調査区西部のF11j6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.68m、短軸6.62mの方形で、主軸方向はN-29°-Wである。壁高は15~35cmで、直立している。

床 若干起伏があり、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。北コーナー部付近の床面から焼土が確認された。



第63图 第2908号住居跡実測图(1)



第64図 第2908号住居跡実測図(2)

炉 4か所。中央部やや北寄りに付設されている。炉1は長径74cm、短径59cm、炉2は長径98cm、短径57cm、炉3は長径60cm、短径41cmの楕円形、炉4は長径50cm、短径48cmの円形で、いずれも床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変している。新旧関係は不明である。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量

ピット 6か所。P1～P4は深さ15～31cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ19cm・31cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | |

貯蔵穴 南東壁際やや東寄りに付設されている。長径110cm、短径70cmの楕円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。周囲に幅28～40cm、高さ5cmほどの高まりが確認されている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |

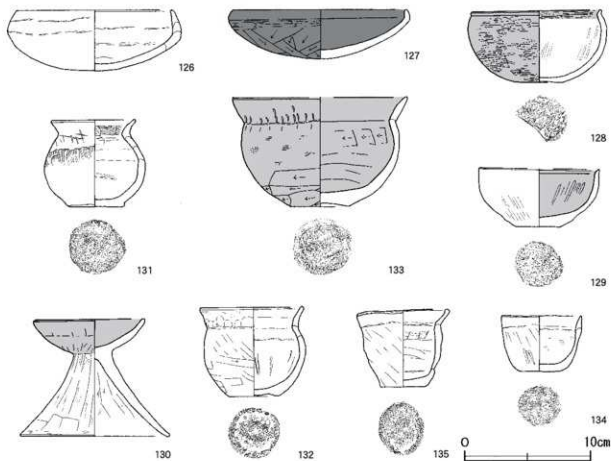
覆土 14層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 10 極暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | 12 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量(3より明) |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 13 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・赤色粒子微量 | 14 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量 | |
| 8 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片251点(碗7、高环27、器台5、壺5、甍205、ミニチュア土器2)のほか、混入した縄文土器片5点(深鉢)、土師器片14点(坏)が出土している。128はP3付近から逆位の状態、130は東コーナ一部分付近から正位の状態それぞれ床面から出土している。129は貯蔵穴の覆土中層から、133は同じく覆土中層からそれぞれ正位の状態で出土している。131・134は貯蔵穴周辺の床面から逆位の状態で出土している。これらは廃絶時に遺棄されたものと考えられる。132は北壁寄りの床面から横位の状態、135は同じく北壁寄りの焼土上から破片の状態それぞれ出土している。126・127は炉の周辺の覆土中層から出土しており、埋土に混入したものである。

所見 焼土が床面から確認され、覆土中にも含まれていることから、焼失住居である。炉が4か所確認され、広い範囲にわたり硬化面が確認されていることから、本跡は長期間にわたって使用されたと考えられる。時期は、重複関係や出土土器から、4世紀後葉に比定できる。



第65図 第2908号住居跡出土遺物実測図

第2908号住居跡出土遺物観察表 (第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
126	土師器	坏	125	48	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へラ削り後、ナテ	覆土中層	95% PL29
127	土師器	坏	139	39	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面、体部内面横ナテ	体部外面へラ削り二磨き	覆土中層	90% PL29
128	土師器	碗	102	59	37	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面磨き 内面ナテ一部磨き 底部ナテ	床面	75%
129	土師器	碗	[95]	47	36	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部内・外面磨き 底部ナテ	貯蔵穴	75% PL30
133	土師器	碗	[138]	92	48	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面ナテ 内面へラ削り後、ナテ 体部下端へラ削り	貯蔵穴	85%
130	土師器	器台	85	94	119	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	坏部、脚部内・外面ナテ	床面	95% PL29
131	土師器	小形壺	66	70	45	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	頸部内面・体部外面ハケ目 体部外面下主・底部ナテ	床面	100% PL30
132	土師器	小形壺	80	71	40	長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へラ削り 内面・底部へラ削り後、ナテ	床面	95% PL30
134	土師器	コップ土器	63	44	34	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面・底部ナテ	体部外面ナテ一部磨き	床面	95% PL30
135	土師器	コップ土器	72	62	37	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面、底部ナテ		覆土下層	85% PL30

第2909号住居跡（第66図）

位置 調査区中央部のF12h2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2931号住居跡を掘り込んでいる。

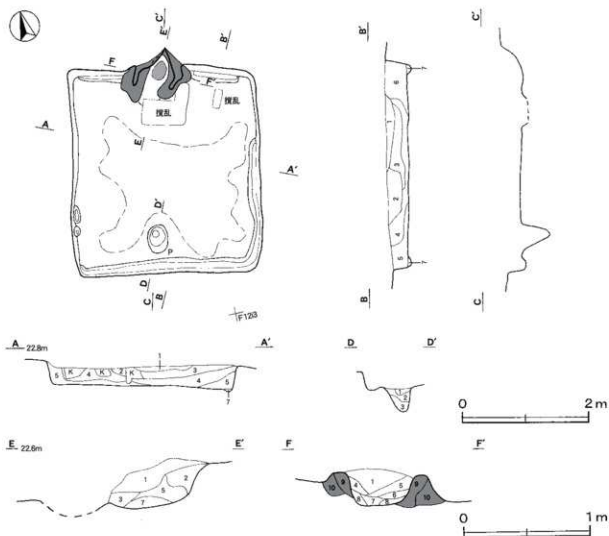
規模と形状 長軸3.30m、短軸3.05mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は22~26cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。西壁及び北東コーナー部を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで90cm、燃烧部幅30cmである。袖部は地山を若干掘り込み、砂質粘土を積み上げて構築されている。第9・10層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き24cm、幅90cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を7cm掘り込んで構築され、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|------------|----------------------|
| 1 におい・黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック
少量 | 6 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量 |
| 4 におい・赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 9 におい・赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 5 におい・赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | 10 におい・黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量 |



第66図 第2909号住居跡実測図

ピット 深さ40cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|
| 1 灰 褐色 | ロームブロック中量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰 褐色 | ロームブロック少量 | | |

覆土 7層に分層できる。第1～4層はレンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積、第5～7層は不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・赤色粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片136点(坏47、高坏2、甕87)、須恵器片11点(坏5、壺1、甕5)のほか、混入した縄文土器片2点(深鉢)、土師器片1点(高台付坏)が出土している。遺物は細片で図化できないものの、土師器坏は内面に黒色処理が施されており、土師器甕は体部に磨きが施されているものが主体的である。

所見 時期は、重複関係や出土土器の様相から古墳時代後期と考えられる。

第2911号住居跡(第67～72図)

位置 調査区中央部のF123区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁を第2927号住居に、西壁を第5707号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大部分は調査区域外に延び、全容は不明である。確認できた規模は、東西軸が6.05m、南北軸が5.82mで、主軸方向がN-14°-Wの長方形と推測できる。壁高は35～44cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁際に壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。焚口部から煙道部まで105cm、燃焼部幅47cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第12～16層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き130cm、幅80cm掘り込み、壁面にロームを充填して構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第17～20層は掘方への埋土である。

竈土層解説

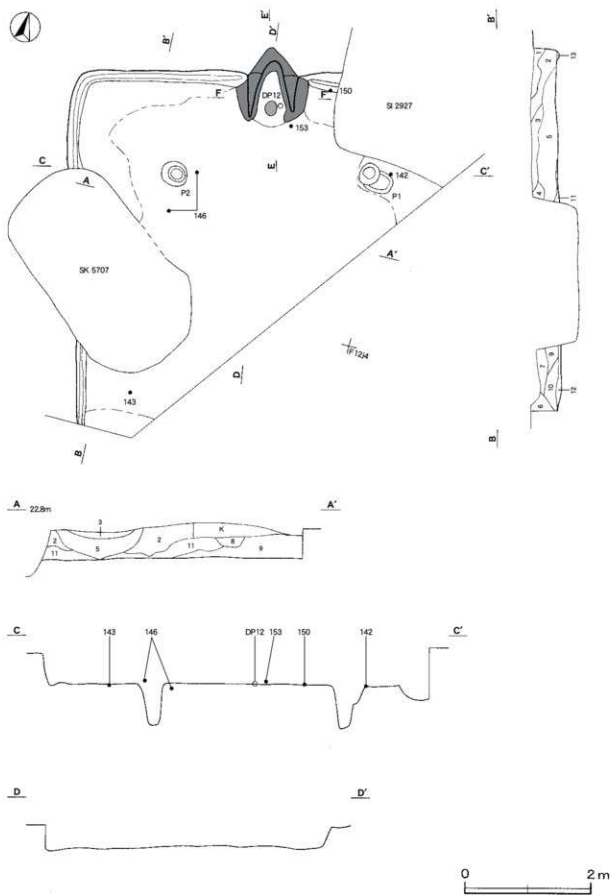
- | | | | |
|-----------|----------------------------|-----------|--------------------|
| 1 におい青褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 におい青褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 におい暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 4 におい青褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 におい青褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 16 におい青褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 7 赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック多量、赤色粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 19 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 10 におい赤褐色 | 灰中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 20 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ66cm・68cmで、規模と位置から主柱穴である。

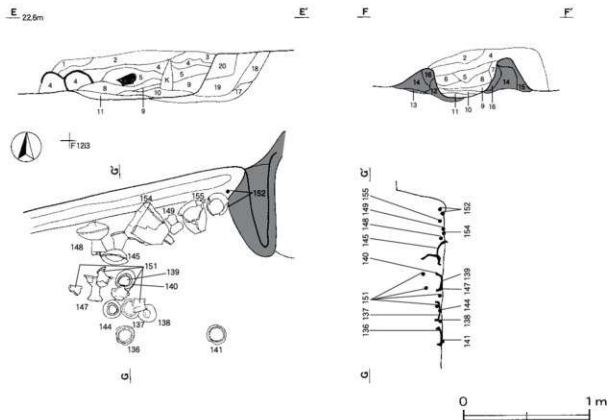
覆土 13層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 赤色粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | 炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 赤色粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |



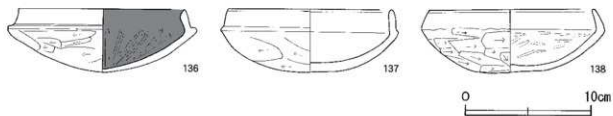
第67图 第2911号住居跡実測图(1)



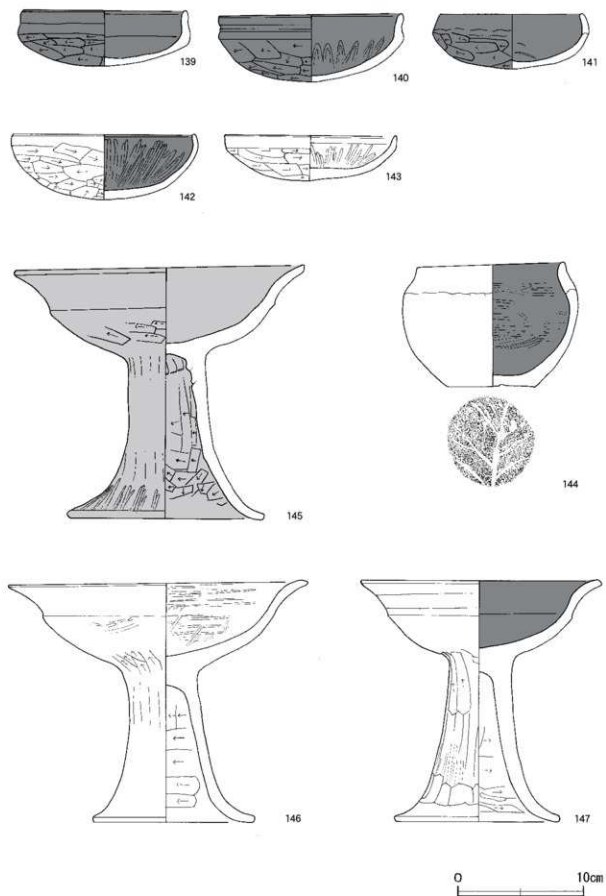
第68図 第2911号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片616点(坏216, 椀12, 高坏48, 壺2, 甕294, 飯3, ミニチュア土器1), 須恵器片18点(坏1, 高台付坏2, 壺1, 甕14), 土製品1点(支脚)のほか, 混入した縄文土器片8点(深鉢), 土師器片4点(埴2, 器台2), 陶器片3点(碗), 磁器片1点(碗)が出土している。これらは竈の左側からP2付近を中心とした床面から出土している。136・137・141・144・152は正位の状態, 139・140は両者が重なった状態, 138は逆位の状態それぞれ出土し, 151は床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。145・147~149・154・155は壁際に沿って横位の状態で出土している。150は竈右側の壁溝内, 153は右袖部の床面, DP12は竈火床部からそれぞれ横位の状態で出土し, 146はP2付近の床面から逆位の状態で出土している。

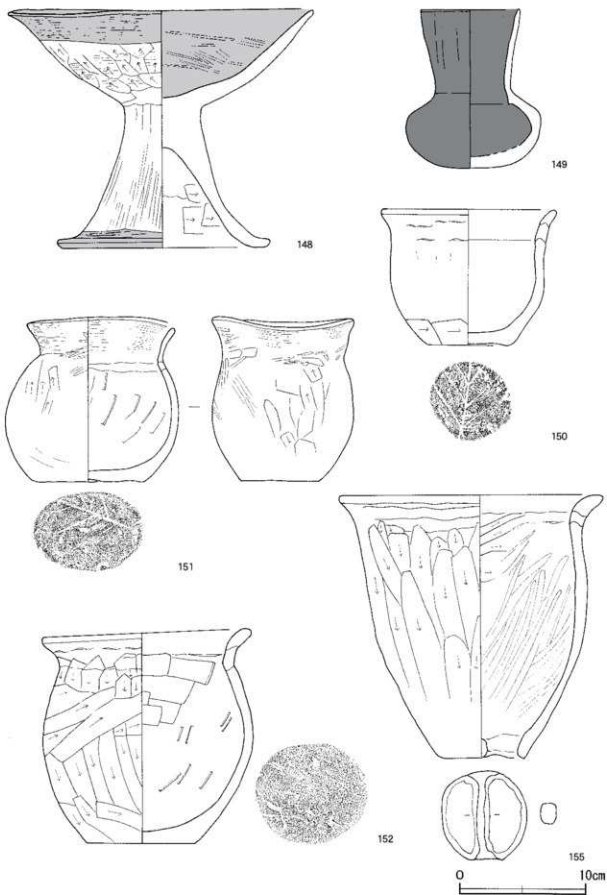
所見 土器は, 出土状況から住居の廃絶に伴って一括して遺棄されたものと考えられる。時期は, 重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。



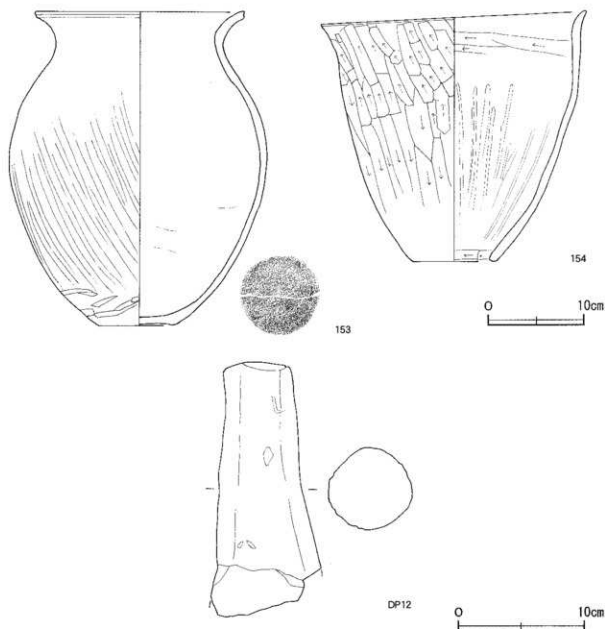
第69図 第2911号住居跡出土遺物実測図(1)



第70图 第2911号住居跡出土遺物実測図(2)



第71図 第2911号住居跡出土遺物実測図(3)



第72図 第2911号住居跡出土遺物実測図(4)

第2911号住居跡出土遺物観察表 (第69～72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
136	土師器	坏	131	5.0	-	雲母	にひい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	100% PL30
137	土師器	坏	128	5.0	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り後、磨き ナテ	床面	96%
138	土師器	坏	130	5.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	96%
139	土師器	坏	127	4.3	-	長石・石英・雲母	にひい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	100% PL30
140	土師器	坏	144	5.3	-	長石・雲母	にひい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	95% PL31
141	土師器	坏	114	4.3	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラ削り後、ナテ	床面	95% PL30
142	土師器	坏	143	5.2	-	長石・石英・雲母	にひい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面磨き	床面	96%
143	土師器	坏	136	3.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	80%
144	土師器	輪	115	9.9	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面磨き	床面	95% PL31
145	土師器	高坏	228	20.1	15.3	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き 外面一部へラ削り 脚部外面へラ削り	床面	95% PL32

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
146	土師器	高坏	235	193	126	長石・石美	にぶい黄橙	普通	外部外面ナデ一部磨き、内面ナデ後、磨き 脚部外面へうナデ、内面へう磨り	床面	95% PL31
147	土師器	高坏	187	193	127	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面ナデ一部へう磨り、脚部外面へう磨り一部ナデ、磨き、内面へう磨り	床面	95% PL31
148	土師器	高坏	240	189	162	長石・石美	にぶい赤褐	普通	外部外面へう磨り、内面磨き、脚部外面ナデ後、磨き、内面へう磨り	床面	20% PL32
149	土師器	長頸壺	76	127	-	長石・石美・青母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面、肩部内面横ナデ、肩部外面ナデ、体部内・外面ナデ	床面	95% PL31
150	土師器	小形甕	135	108	65	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面、体部外面下縁へう磨り、内面ナデ、底部木炭焼	煙道	100%
151	土師器	小形甕	115	131	85	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、体部外面へう磨り後、一部磨き、内面へう磨り、底部木炭焼	甕土下層	90% PL30
152	土師器	小形甕	163	171	87	長石・石美・青母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、体部外面へう磨り、内面へう磨り後、ナデ、底部へう磨り	床面	85% PL30
153	土師器	甕	214	330	80	長石・石美	明黄褐	普通	口縁部内面横ナデ、体部外面ナデ、下下部磨き、内面ナデ、底部へう磨り	床面	80% PL33
154	土師器	甕	280	261	88	長石・石美・青母	にぶい黄橙	普通	口縁部内面横ナデ、体部外面へう磨り、内面ナデ後、磨き一部へう磨り、底部へう磨り	床面	100% PL32
155	土師器	甕	[202]	209	67	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、体部外面へう磨り、下縁部ナデ、内面磨き、底部へう磨り後、ナデ	床面	75% PL32
1942	支脚	(202)	50	87	(900)	土(長石・石美)			外面ナデ	火床部	

第2912号住居跡 (第73・74図)

位置 調査区西部のF11c6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2922号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺4.38mの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は30~65cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、中央部付近を中心に踏み固められている。北東コーナー部を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。狭口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅47cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第6~9層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き23cm、幅27cm掘り込んで構築されている。火床部はほほ床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第2~4層は天井部の崩落土、第10~14層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量
3 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9 灰褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
5 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
6 灰褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量
		13 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
		14 暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ43~65cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ12cm・14cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

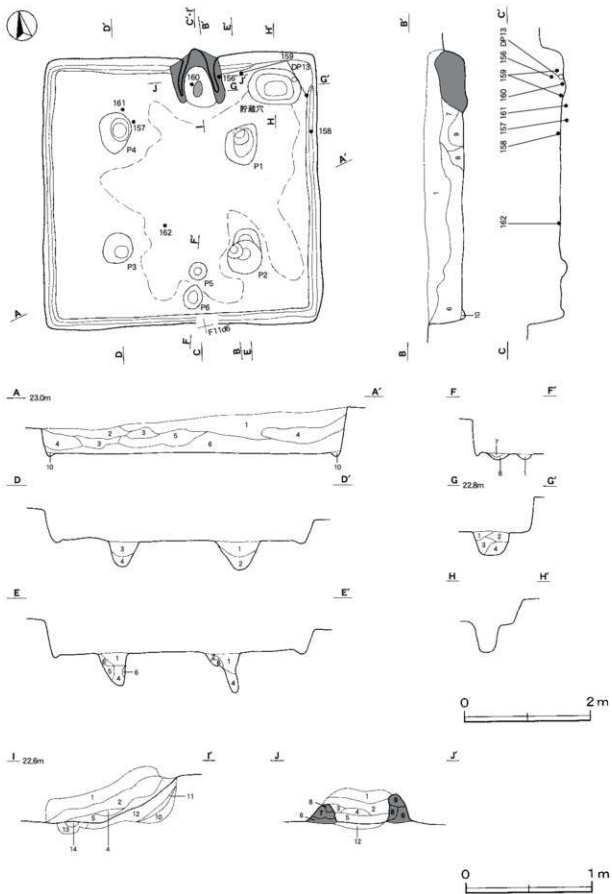
ピット土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量、赤色粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック微量	8 褐色	ロームブロック少量(5より明)

貯蔵穴 北東コーナー部付近に付設されている。長径60cm、短径41cmの楕円形で、深さは47cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	3 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	4 暗褐色	ロームブロック少量、赤色粒子微量



第73图 第2912号住居跡実測图

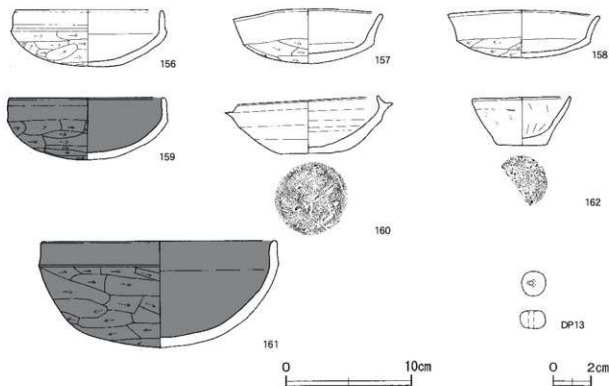
覆土 10層に分層できる。不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 10 黒褐色 ロームブロック少量（5より明） |

遺物出土状況 土師器片508点（坏89、碗1、高坏3、鉢2、甕374、甗39）、須恵器片39点（坏1、甕38）、土製品1点（球状土錘）のほか、混入した縄文土器片8点（深鉢）、土師器片13点（壺）が出土している。これらは、竈前面を中心として床面から覆土上層にかけて出土している。156は竈右袖部の上から、160は竈火床部から逆位の状態で出土している。157・161はP4付近から逆位の状態、162は中央部付近から正位の状態でそれぞれ床面から出土している。158は東壁の壁溝から出土し、159は床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。DP13は北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第74図 第2912号住居跡出土遺物実測図

第2912号住居跡出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
156	土師器	坏	11.6	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	覆土中層	95% PL31
157	土師器	坏	11.8	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	95% PL31
158	土師器	坏	12.1	3.7	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内部ナテ	壁溝	90% PL31
159	土師器	坏	12.3	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にがみ黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	90%
160	須恵器	坏	11.0	4.5	6.4	長石・石英	灰	普通	口縁部・体部内・外面口コナテ 底部内面押テ 底部外面ナテ	火床部	95% PL31

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
161	土師器	碗	184	85	-	長石・石美	灰褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	96%
162	土師器	鉢	78	40	40	長石・石美	橙	普通	口縁部・体部内・外面ナデ 底部ナデ	床面	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	土土	124	0.98	0.19	1.70	土(長石・雲母)	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	凡33

第2914号住居跡 (第75・76図)

位置 調査区中央部のE1232区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2930号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.98m、短軸4.60mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は20~29cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。P5付近を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで143cm、燃焼部幅45cmである。袖部は石材を補強材とし、地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第8~12層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き23cm、幅27cm掘り込んで構築されている。火床部はほほ床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
2	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量	8	にぶい黄色	砂質粘土粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	9	黄褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
4	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	11	にぶい黄色	砂質粘土粒子多量
6	暗赤褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	12	赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
			13	にぶい赤褐色	焼土粒子中量
			14	にぶい黄色	砂質粘土粒子中量

ピット 6か所。P1~P4は深さ14~28cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ10cm・34cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットである。

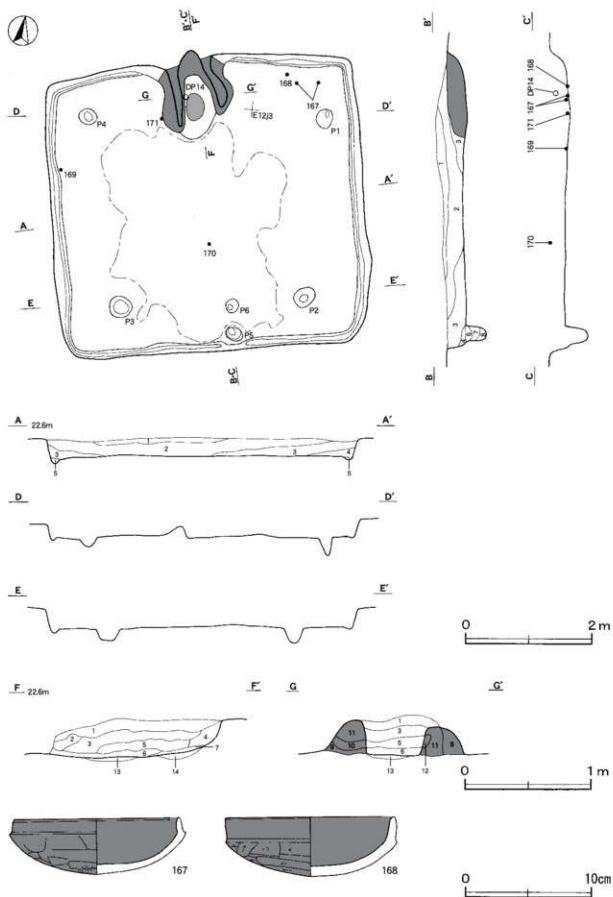
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積とみられる。第6~8層はP5の土層である。

土層解説

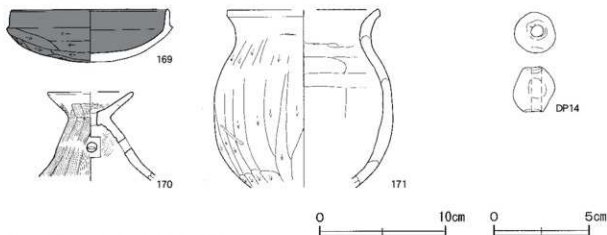
1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片665点(坏74、碗3、高坏3、甕558、甌27)、土製品1点(球状土錘)のほか、流れ込んだ縄文土器片33点(深鉢)、土師器片2点(器台、壺)が出土している。これらは、散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。167・168は北東コーナー部付近の床面から正位の状態、169は西壁際の床面から逆位の状態でそれぞれ出土している。171は竈左袖部の床面から横位の状態、DP14は竈内の覆土上層からそれぞれ出土している。170は埋没の過程で流れ込んだものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第75図 第2914号住居跡・出土遺物実測図



第76図 第2914号住居跡出土遺物実測図

第2914号住居跡出土遺物観察表 (第75・76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
167	土陶器	坏	131	44	-	長石・青緑・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り一部磨き内面ナテ	床面	60% PL33
168	土陶器	坏	132	47	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	95% PL31
169	土陶器	坏	124	42	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	90% PL32
170	土陶器	器台	(66)	(70)	-	石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナテ、器部外面ハテ目 内面ハテ目 後へラ削り、4方向の穿孔	覆土上層	60%
171	土陶器	甕	(120)	(141)	-	長石・石英・赤緑	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラナテ	床面	30%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	球状土鏝	2.11	2.25	0.59	9.35	土(長石)	外面ナテ 一方からの穿孔	甕内	PL43

第2915号住居跡 (第77・78図)

位置 調査区中央部のE12J1区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 中央部から西壁付近を第5711号土坑に掘り込まれている。

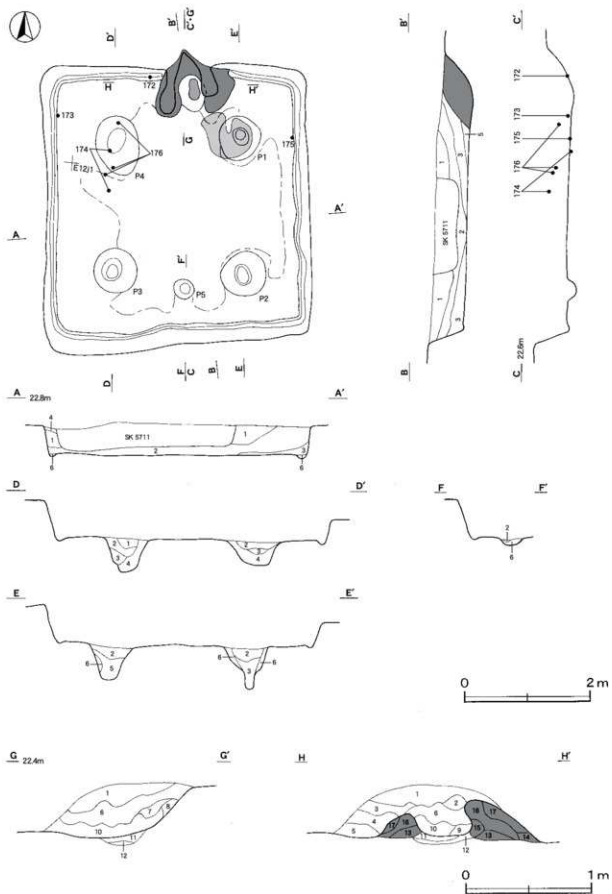
規模と形状 長軸4.56m、短軸4.28mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は40~56cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。P1付近の床面からP1の覆土上面にかけて焼土が確認された。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで104cm、燃焼部幅27cmである。袖部は地山の上にローム混じりの砂質粘土を積み上げて構築されている。第13~17層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き39cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部は10cmほど掘り込んで構築され、火床面は火を受けて赤変硬化している。第10層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2	黒褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	7	黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
3	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5	褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
			11	明褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
			12	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量



第77图 第2915号住居跡実測图

- 13 にぶい黄色 砂質粘土粒子多量、ロームブロック少量
 14 褐色 ロームブロック多量
 15 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量

- 16 にぶい黄色 砂質粘土粒子多量
 17 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ38～68cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ16cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

ピット土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化
 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック中量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 5 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

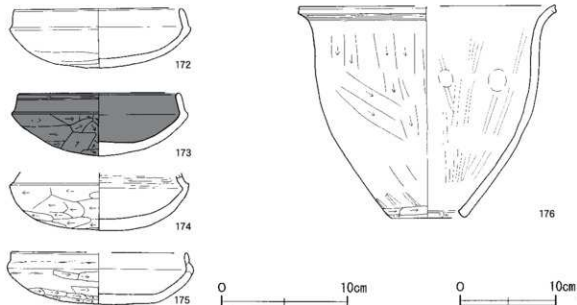
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
 2 暗褐色 ロームブロック微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量
 4 極暗褐色 ローム粒子微量
 5 にぶい黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
 6 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片497点(坏69, 碗1, 高坏7, 甕389, 甗31), 須恵器片1点(甕)のほか、流れ込んだ縄文土器片31点(深鉢)が出土している。これらは、竈前面を中心に床面から覆土上層にかけて出土している。172は竈左側の壁溝内から正位の状態出土し、173は北西コーナー部付近の壁際から正位の状態、175は東壁際から横位の状態それぞれ床面から出土している。174・176はP4付近の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したもので、埋没の過程で遺棄されたものと考えられる。

所見 焼土がP1の覆土上層から確認されていることから廃絶後焼却されたと考えられる。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第78図 第2915号住居跡出土遺物実測図

第2915号住居跡出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
172	土師器	坏	132	47	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	壁溝	300% PL33
173	土師器	坏	126	50	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	96% PL33

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
174	土師器	坏	—	(45)	—	灰石・石灰・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外面横ナデ 内面磨き 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	80%
175	土師器	坏	(138)	4.1	—	灰石・石灰・赤色粒子	褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ後、ヘラ削り 内面ナデ	床面	50%
176	土師器	瓶	(268)	22.1	(72)	灰石・石灰・赤色粒子	褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ後、磨き一部北面押圧 底部ヘラ削り	覆土下層	50%

第2916号住居跡（第79・80図）

位置 調査区西部のF11a6区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 一辺3.96mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は20~67cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が東壁と南壁の中央部付近を除いて巡っている。

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで117cm、燃焼部幅50cmである。袖部は地山の上にローム混じりの砂質粘土を積み上げて構築されている。第13~15層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き39cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部は10cmほど掘り込んで構築され、煙道部寄りに支脚を設置している。火床面は火を受けて赤変硬化している。10~12層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	9	赤褐色	焼土粒子多量
3	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック中量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量	12	黒褐色	炭化物中量、ローム粒子少量
6	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	13	灰黄色	砂質粘土粒子多量
7	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
			15	オリーブ褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量

ピット 5か所。P1~P4は深さ60~74cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量	4	暗褐色	ローム粒子少量
			5	褐色	ロームブロック中量

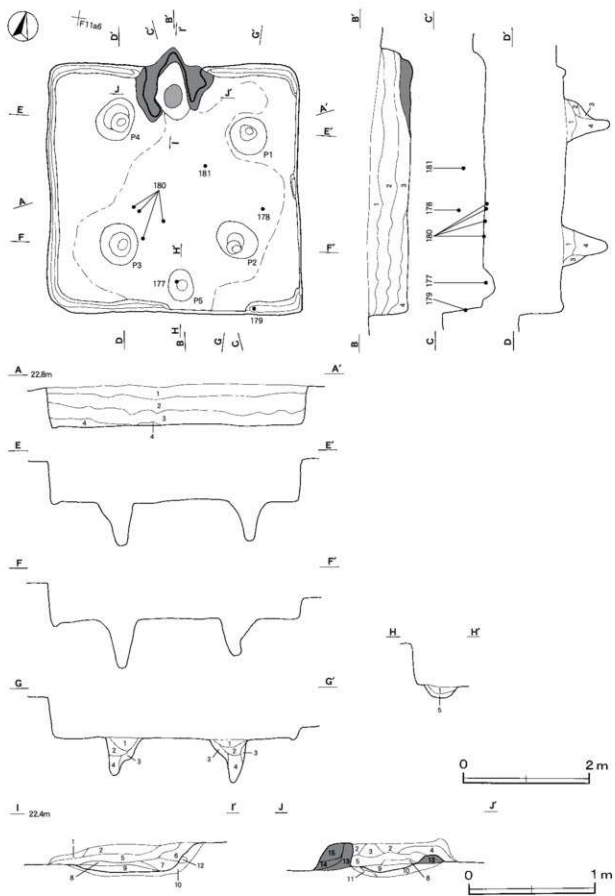
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

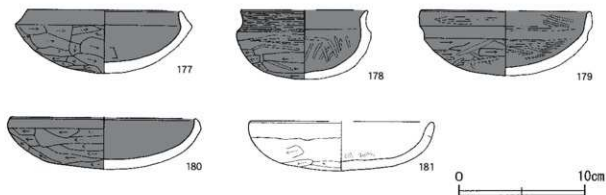
1	褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	4	暗褐色	ロームブロック少量（3より明）

遺物出土状況 土師器片314点（坏115、輪34、高坏9、甕154、瓶2）、須恵器片4点（蓋2、瓶1、甕1）、土製品1点（支脚）のほか、流れ込んだ縄文土器片19点（深鉢）、土師器片4点（高台付坏2、増2）が出土している。177はP5の上面から斜位の状態で出土し、180はP3付近の床面から出土した破片が接合したものである。178は逆位の状態でP2付近、179は斜位の状態で南壁際、181は正位の状態で中央部付近のそれぞれ覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第79图 第2916号住居跡実測图



第80図 第2916号住居跡出土遺物実測図

第2916号住居跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
177	土師器	坏	123	5.0	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 削り後、ナテ	体部外面へう削り 内面へう	P5	80%
178	土師器	坏	100	5.5	-	石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内面横ナテ 外面磨き 削き 内面ナテ一部磨き	体部外面へう削り一部	覆土上層	25%
179	土師器	坏	134	5.1	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部内・外面磨き 削り後、底部ナテ	体部外面へう削り後、磨き 内	覆土上層	35%
180	土師器	坏	146	4.1	-	石英・雲母・ 褐色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナテ 削り後、ナテ	体部外面へう削り 内面ナテ	床面	60%
181	土師器	坏	146	3.9	-	長石・雲母・ 褐色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 削り後、内面ナテ後、磨き	体部外面へう削り後、ナテ	覆土上層	40%

第2917号住居跡 (第81・82図)

位置 調査区西部のF11c7区で、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 東側を第2918号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は6.84m、確認できた東西軸は4.80mで、主軸方向がN-13°-Wの長方形と推測できる。壁高は20~36cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部付近が踏み固められている。床面から焼土と炭化材が確認された。

ピット 5か所。P1~P4は深さ18~90cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P5は深さ26cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示しているが、大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されたとみられる。

土層解説

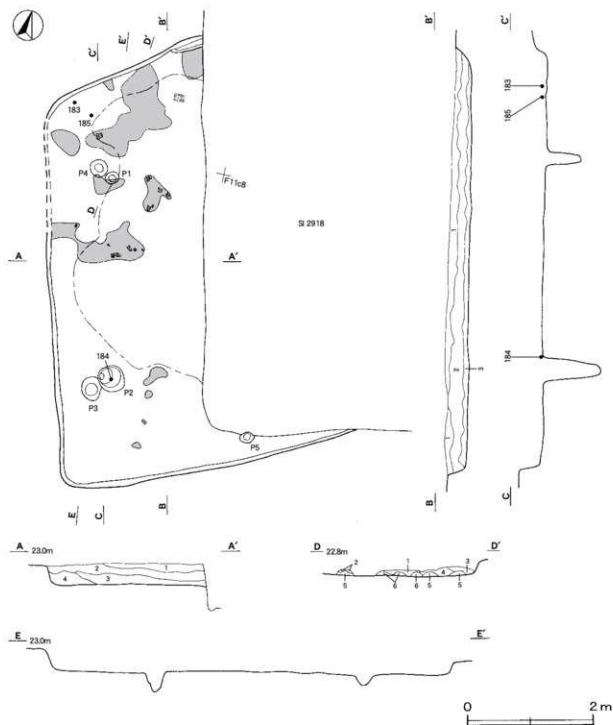
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

焼土土層解説

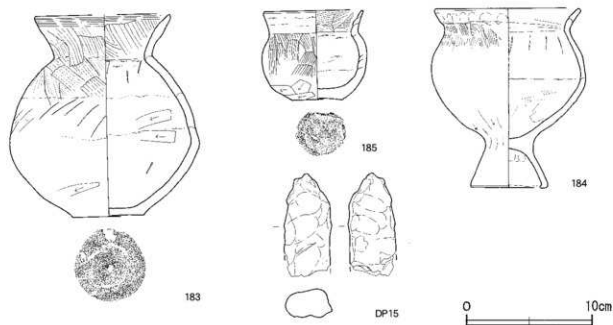
- | | | | |
|----------|------------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |
| 4 褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片438点(坏71, 椀18, 高坏16, 壺3, 甕297, 瓶33), 土製品1点(不明)が出土している。183は横位の状態, 185は正位の状態で北西コーナー部付近の床面から出土している。184はP2の上面から横位の状態で出土している。DP15は覆土中から出土している。

所見 深さのほぼ等しい柱穴が2組確認されたことから、建て替えられた可能性がある。また床面から焼土が確認されていることから焼失住居とみられ、焼土の第6層の堆積状況から廃絶直後に焼失したと見られる。時期は、重複関係や出土土器から4世紀前葉に比定できる。



第81図 第2917号住居跡実測図



第82図 第2917号住居跡出土遺物実測図

第2917号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
183	土陶器	壺 [107]	161	57	57	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、胴部内・外面ハケ目、体部外面ナデ、内面へう張り後、ナデ	床面	80%
184	土陶器	付付壺	11.4	14.3	6.1	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内・外面ナデ、胴部外面ハケ目、体部・胴部外面ナデ、体部内面へう張り後、ナデ	P.2	90% PL.33
185	土陶器	小形壺	7.8	7.1	3.8	長石・石英・雲母	に、い黄橙	普通	口縁部外面ナデ、内面ハケ目、体部外面ハケ目、下縁部へう張り、内面ナデ	床面	96% PL.33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
185	不明土製品	(8.2)	3.7	2.5	(7.1g)	土(長石・石英)	御旗押E		覆土中 PL.43

第2918号住居跡 (第83～85図)

位置 調査区西部のF11b8区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

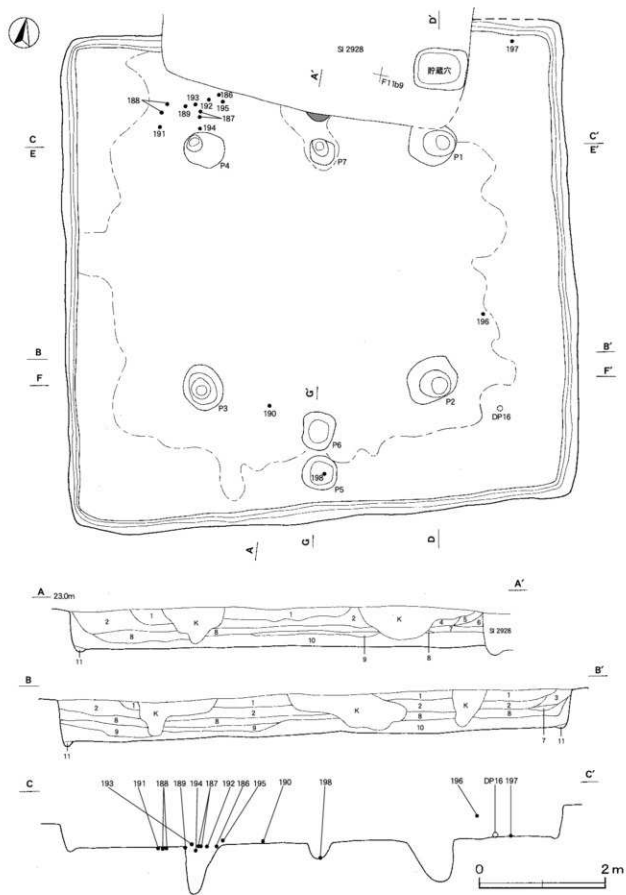
重複関係 第2917号住居跡を掘り込み、北壁中央部を第2928号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.08m、短軸7.95mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は36～66cmで、直立している。

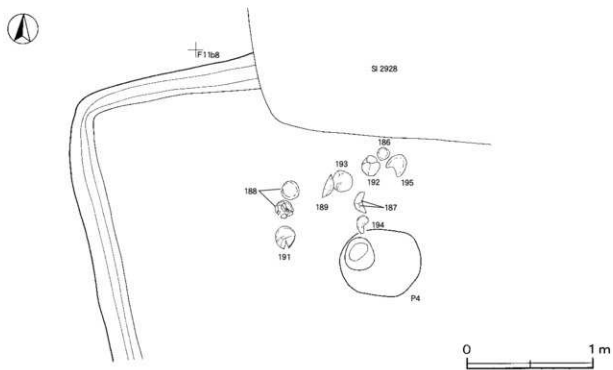
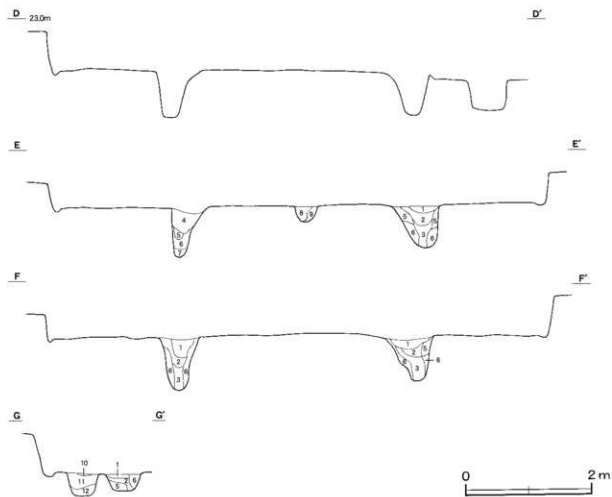
床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が掘り込まれた部分を除いて巡っている。

竈 P7周辺の床面から砂質粘土が確認されたことや、焚き口部とみられる赤変硬化部分があることから、北壁に構築されていたとみられる。

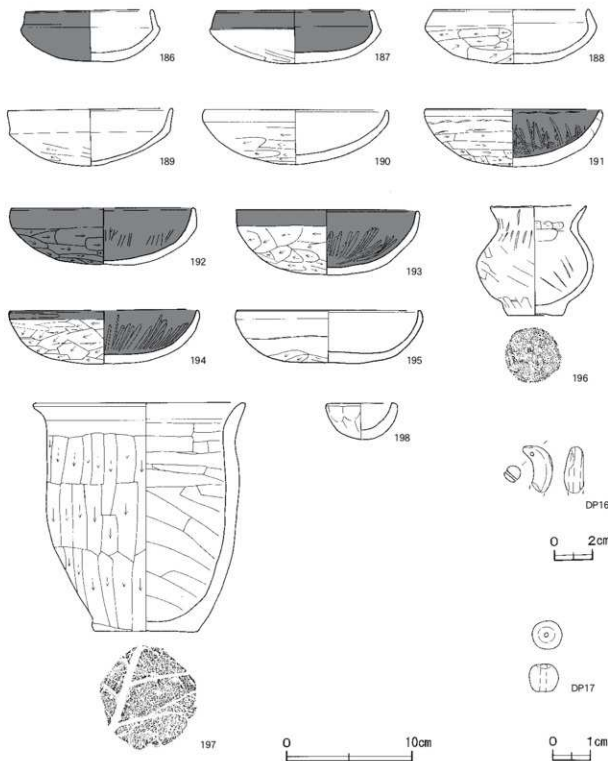
ピット 7か所。P1～P4は深さ69～90cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ27cm・35cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P7は深さ37cmで、P1・P4の中間に位置していることから補助的な柱穴と考えられる。



第83图 第2918号住居跡实测图(1)



第84图 第2918号住居跡実測图(2)



第85図 第2918号住居跡出土遺物実測図

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化粒子中量 | 10 褐色 | ロームブロック少量、非色粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 11 褐色 | ロームブロック中量、非色粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量 | 12 褐色 | ロームブロック少量（3より明） |

貯蔵穴 北東コーナー部付近に付設されている。長軸83cm、短軸67cmの隅丸長方形で、深さは49cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量	7	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量	8	褐色	ロームブロック中量（1より暗）
3	褐色	ロームブロック少量	9	褐色	ロームブロック中量、赤色粒子微量
4	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	10	褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	11	褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量			

遺物出土状況 土師器片940点（坏149、碗18、高坏50、甕687、瓶34、ミニチュア土器2）、須恵器片36点（坏17、高台付坏1、甕15、瓶3）、土製品2点（勾玉、小玉）のほか、混入した縄文土器片43点（深鉢）、土師器片6点（高台付坏1、器台5）が出土している。186～189・195は正位の状態、191～194は逆位の状態でP4付近の床面から出土している。190はP6付近の床面から正位の状態、198はP5の底面からそれぞれ出土している。197は北東コーナー部から横位の状態、DP16は南東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2918号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
186	土師器	坏	100	4.0	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部内・外面窄減	床面	100% PL34
187	土師器	坏	124	4.2	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り肌、ナテ内面ナテ	床面	85% PL34
188	土師器	坏	120	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	95%
189	土師器	坏	130	4.4	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り肌、一部ナテ	床面	75%
190	土師器	坏	144	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	95%
191	土師器	坏	139	5.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ	床面	95%
192	土師器	坏	[145]	4.5	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、一部磨き	床面	95%
193	土師器	坏	143	5.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	90%
194	土師器	坏	[148]	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ後、磨き	床面	95%
195	土師器	坏	145	4.2	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部内・外面ナテ 底部へラ削り	床面	95%
196	土師器	小彩甕	7.5	8.7	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ ナテ	甕土中層	100% PL33
197	土師器	小彩甕	166	18.3	7.8	長石・石英・雲母	明黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面ナテ 底部木製痕	床面	90% PL33
198	土師器	ミニチュア土器	5.3	2.9	-	長石・雲母	明黄橙	普通	内・外面ナテ	P5	100% PL34

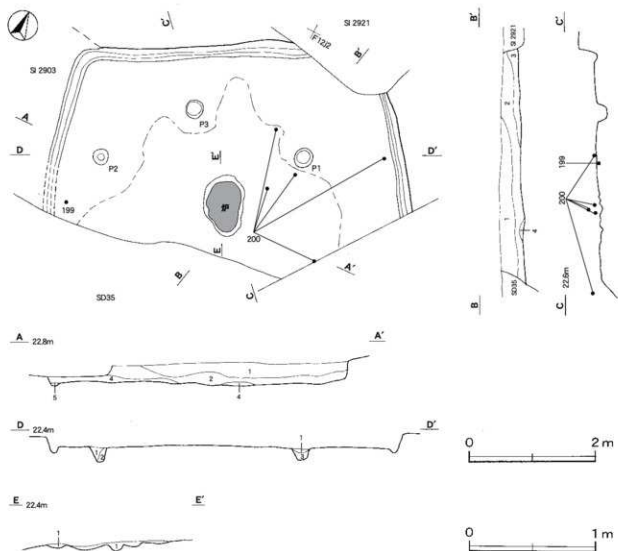
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP96	勾玉	(24)	1.5	1.0	(2.66)	土（長石・石英）	外面ナテ 一方向からの穿孔、一部欠	床面	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	小玉	0.76	0.20	0.11	0.30	土（長石・石英）	外面ナテ	覆土中	PL43

第2919号住居跡（第86・87図）

位置 調査区中部のF12j2区で、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 西コーナー部付近を第2903号住居、北コーナー部付近を第2921号住居、南側を第35号溝に掘り込まれている。



第86図 第2919号住居跡実測図

規模と形状 確認できた南北軸は3.97m、東西軸は5.67mで、主軸方向がN-27°-Wの方形または長方形と推測できる。壁高は12~29cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部付近が踏み固められている。壁溝が壁際を巡っている。

炉 中央部付近に付設されている。長径99cm、短径65cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量

ピット 3か所。P1・P2は深さ20cm・25cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P3は深さ16cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック中量

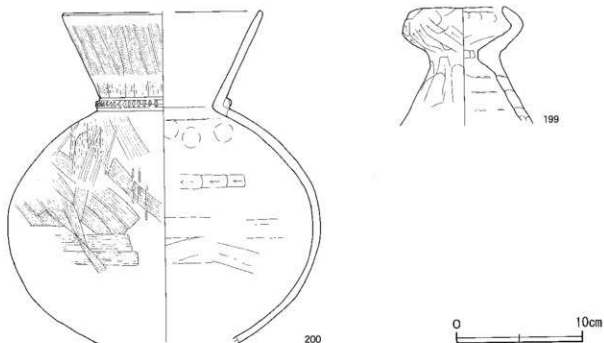
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示しているが、各層にロームブロック・焼土を含んでいることから埋め戻されていると考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片406点(坏7, 椀4, 粗製器台1, 壺27, 甕365, ミニチュア土器2), 土製品1点(不明)のほか、混入した須恵器片9点(坏3, 蓋1, 甕5), 土師器片1点(高台付椀)が出土している。199は西壁際の床面からほぼ正位の状態出土している。200は口縁部がP1西側の床面から逆位の状態、その他の破片は住居の東側の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から4世紀前葉に比定できる。



第87図 第2919号住居跡出土遺物実測図

第2919号住居跡出土遺物観察表 (第87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
199	土師器	粗製器台	6.4	(9)3	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面ナデ 体部外面ナデ 一部へら削り 内面へら削り後、ナデ 脚部外面へらナデ 内面ナデ	床面	50%
200	土師器	壺	[155]	(26)5	-	長石・石英・鉄屑	橙	普通	口縁部内面横ナデ 外面ハケ目 体部外面ハケ目 内面へらナデ	床面	50%

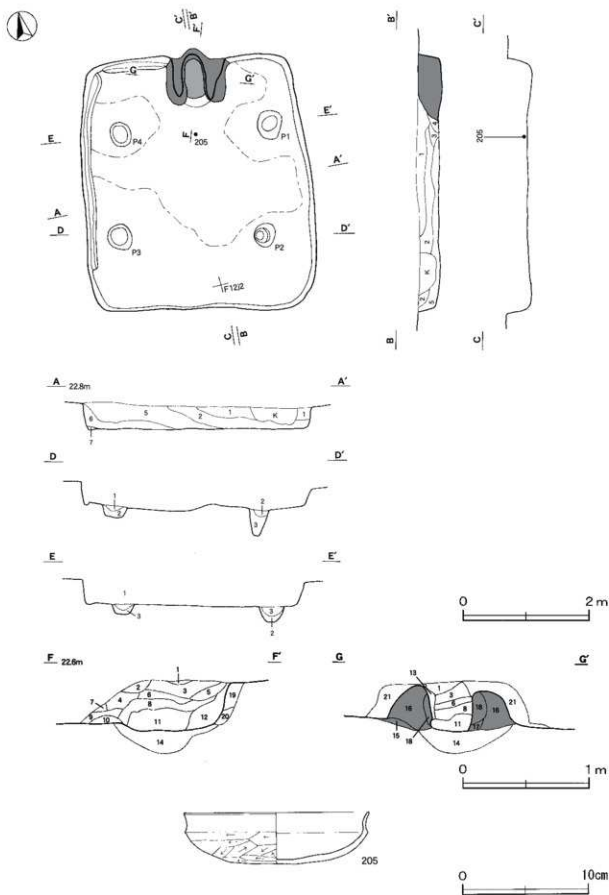
第2921号住居跡 (第88図)

位置 調査区中央部のF12i2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2919号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.65mの長方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は22~37cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。竈左袖部から西壁にかけて壁溝が巡っている。



第88图 第2921号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで93cm、燃焼部幅30cmである。袖部は地山を23cmほど掘り込み、ロームを充填した上に砂質粘土混じりのロームを積み上げて構築されている。第15～18層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き20cm、幅50cm掘り込み、壁面にロームを貼って構築されている。火床部は床面から8cmほど低く、火床面は火を受けて赤変硬化している。第14・19・20層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗 赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
2 褐 色	ローム粒子微量	13 褐 色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
3 明 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	14 褐 色	ロームブロック中量
4 明 褐色	砂質粘土粒子微量	15 に近い青褐色	ロームブロック・砂質粘土中量
5 赤 褐色	焼土粒子中量	16 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
6 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 に近い赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量
7 暗 褐色	赤色粒子微量	18 暗 褐色	ロームブロック中量
8 暗 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	19 褐 色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
9 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量		(13より粘性強)
10 暗 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	20 黒 褐色	赤色粒子微量
11 暗 赤褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	21 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 4か所。P1～P4は深さ18～44cmで、規模と位置から主柱穴である。

ピット土層解説

1 褐 色	ローム粒子少量	3 褐 色	ローム粒子少量、赤色粒子微量
2 褐 色	ロームブロック少量		

覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 褐 色	ロームブロック微量	5 褐 色	ローム粒子・赤色粒子微量
2 褐 色	ローム粒子微量	6 褐 色	ロームブロック・赤色粒子微量
3 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	7 褐 色	ローム粒子少量
4 暗 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片94点(坏12、甕82)、須恵器片10点(坏6、甕2、甕2)が出土しているほか、流れ込んだ土師器片1点(器台)、灰陶陶器片2点(瓶)が出土している。205は竈前面の床面から正位の状態出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6紀中葉に比定できる。

第2921号住居跡出土遺物観察表(第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
205	土師器	坏	146	41	—	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラズリ 内面ナデ	床面	80%

第2922号住居跡(第89・90図)

位置 調査区西部のF11c6区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 西壁を第2912号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.43m、短軸2.95mの長方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は40～58cmで、直立している。

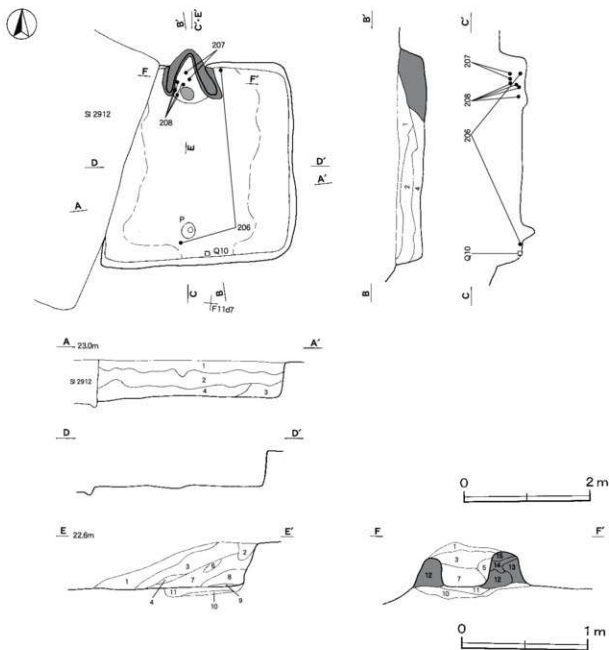
床 はほぼ平坦で、竈前面から南壁中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。焚口部から煙道部まで86cm、燃焼部幅45cmである。袖部は地山を15cmほど掘り込み、ロームを充填した上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第12～15層は袖部の構築土である。煙道部

は壁外へ逆U字状に奥行き27cm、幅51cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。第1・3層は天井部の崩落土、第10・11層は掘方への埋土である。

壁土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------------|----|--------|---------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 9 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 10 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | にぶい黄色 | 砂質粘土ブロック多量 | 11 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 4 | 赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量 | 12 | 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 5 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック中量 | 13 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 6 | 灰黄色 | 砂質粘土ブロック中量 | 14 | 黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 7 | 黄褐色 | ロームブロック・炭化物中量、砂質粘土ブロック少量 | 15 | にぶい黄色 | 砂質粘土ブロック多量、赤色粒子微量 |
| 8 | 褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | | | |



第89図 第2922号住居跡実測図

ピット 深さ21cmで、竈と向かい合う南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットである。

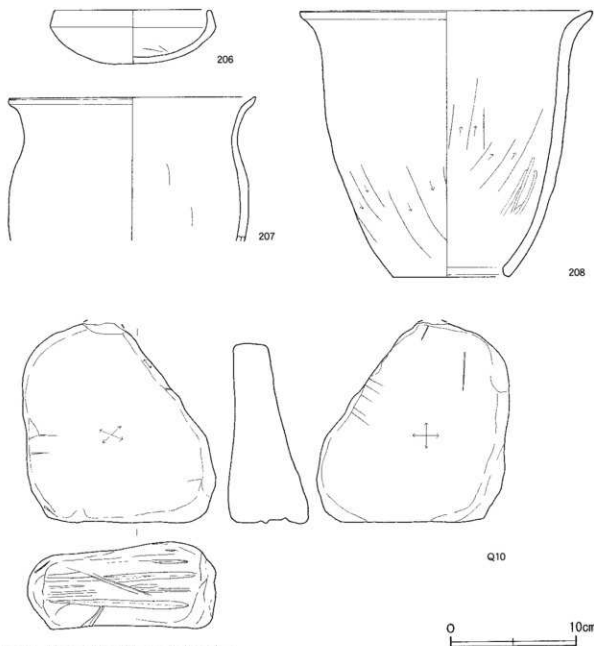
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片225点（坏28、碗13、高坏7、壺1、甕149、甗27）、須恵器片9点（坏3、蓋1、甕5）、石製品1点（砥石）のほか、流れ込んだ縄文土器片5点（深鉢）、土師器片2点（高台付坏、器台）、陶器片1点（壺）が出土している。206はP1付近の床面から正位の状態で出土し、北壁際の床面から出土した破片と接合している。207は竈の覆土第3層中から横位の状態、208は竈の火床部から逆位の状態でそれぞれ出土している。Q10は南壁際中央付近の床面から出土している。

所見 Q10は側面に筋状の研磨痕が確認されたことから、本跡から玉類の完成品や未製品は出土していないが、玉類の研磨に使用されたと考えられる。時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第90図 第2922号住居跡出土遺物実測図

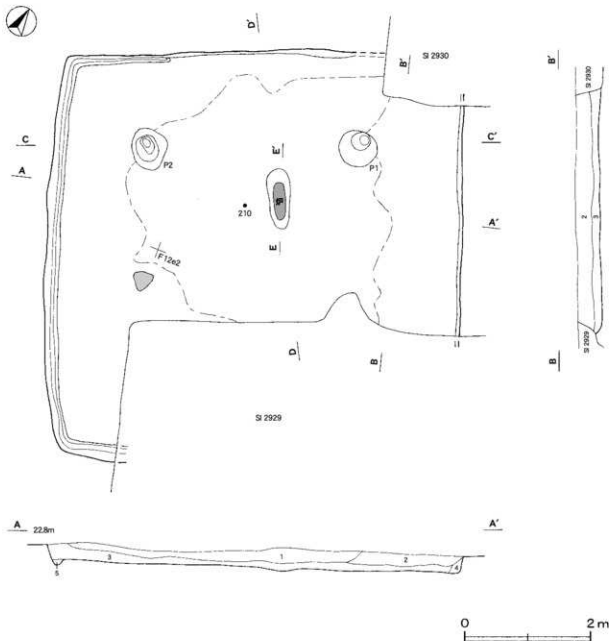
第2922号住居跡出土物観察表 (第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
296	土師器	坏	123	42	-	長石・石英・高岭土	明黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底部窄減	床面	80%
297	土師器	甕	195	(115)	-	長石・石英・高岭土	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	甕内	43%
298	土師器	瓶	230	213	(93)	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 一部磨き 体部外面へラ削り 内面ナデ	竈火床部	75% PL34

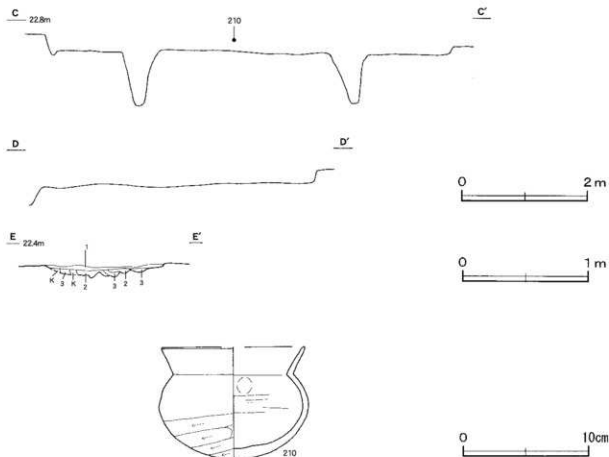
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	紙石	(159)	154	69	(1870)	砂岩	紙面2面 側面に約5条の筋状の硬質痕	床面	PL45

第2924号住居跡 (第91・92図)

位置 調査区中央部のF12d2区、標高22mの台地平坦部に位置している。



第91図 第2924号住居跡実測図



第92図 第2924号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 北コーナー部を第2930号住居に、東コーナー部付近から南東壁にかけて第2929号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.60m、短軸6.46mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は14~22cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部付近が踏み固められている。壁溝が西コーナー部付近から南コーナー部付近を巡っている。床面から焼土が確認された。

炉 中央部北寄りに付設されている。長径98cm、短径36cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量 | 3 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ82cm・90cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量(2より明) |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 黒色ブロック多量 | |

遺物出土状況 土師器片397点(坏20、椀2、埴8、高坏41、甕323、瓶1、ミニチュア土器2)のほか、混入した縄文土器片17点(深鉢)が出土している。210は炉付近の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 床面から焼土が確認されていることから、焼失住居である。時期は、重複関係や出土土器から5世紀後葉に比定できる。

第2924号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
210	土陶器	甕	[113]	89	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ナデ 内面ナデ・底面粗粒	体部外面ナデ, 下手部ヘラ削り	覆土中層	29%

第2926号住居跡 (第93～95図)

位置 調査区中央部のF12a7区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西コーナー部付近を第2880号住居、南西コーナー部付近を第2895号住居、北東コーナー部付近を第5712号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.25m、短軸5.96mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は14～40cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、北壁から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が壁際を巡っている。南壁を除く壁際の床面から焼土が確認された。

炉 P1・P4の中間に付設されている。長径87cm、短径71cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくはめて炉床とした地床炉で、炉床面は火を受けて赤変している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 4 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子微量 |

ピット 17か所。P1～P4は深さ73～78cmで、規模と位置から主柱穴である。P1～P4は、深さ50～56cmと一段浅い柱痕が柱穴内から確認されている。P5・P6は深さ21cm・47cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6の周囲に幅37～50cm、高さ4cmの高まりが確認された。P7～P12は深さ19～75cmで、補助的な柱穴と考えられる。P13～P17は深さ10～22cmで、壁溝内に位置していることから壁柱穴である。

貯蔵穴 2か所。南西コーナー部付近に付設されている。1は長軸75cm、短軸66cmの隅丸長方形で、深さは50cm、2は長径72cm、短径53cmの楕円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は直立している。新旧関係は1が2を掘り込んでいる。

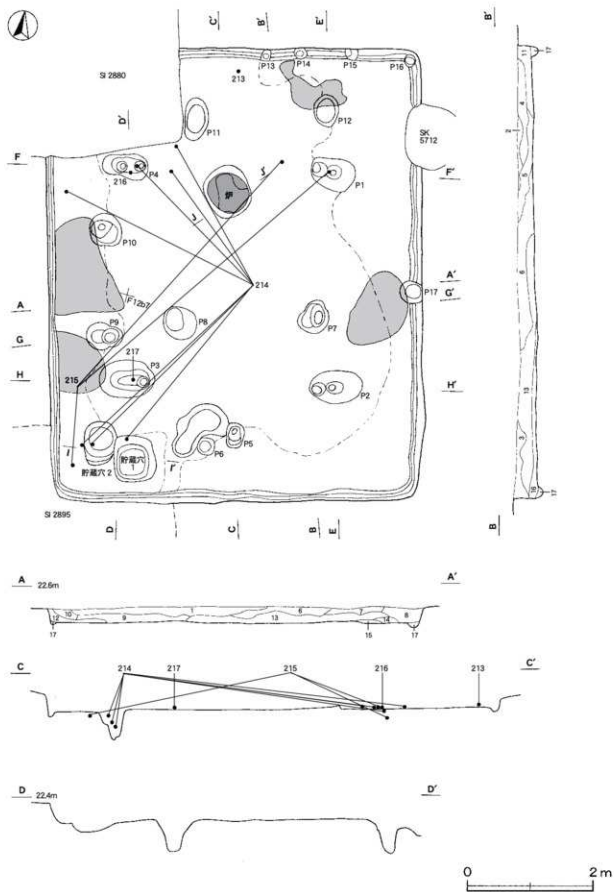
貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子多量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 5 褐色 ロームブロック中量 | |

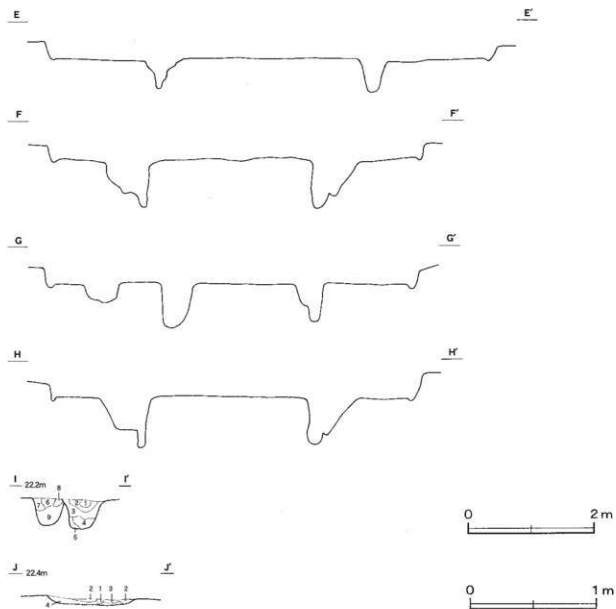
覆土 17層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | 10 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック中量 | 15 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| | 17 褐色 ロームブロック少量 |



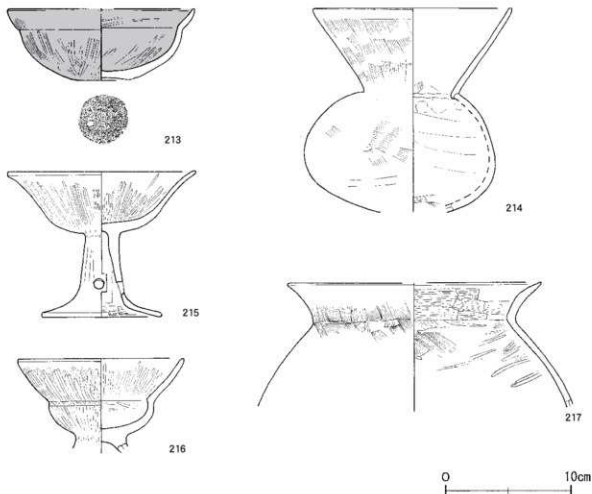
第93图 第2926号住居跡実測图(1)



第94図 第2926号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片707点(坏52, 碗1, 埴15, 器台1, 高坏28, 壺59, 甕551)のほか, 混入した縄文土器片14点(深鉢), 土師器片53点(坏52, 高台付碗1), 須恵器片2点(坏, 甕)が出土している。これらは西壁寄りの床面付近から出土している。213は北壁寄り中央部の床面から出土した破片が接合したものである。214は口縁部片が西壁際, 体部片が貯蔵穴からP 4 付近にかけてそれぞれ床面から出土している。215は坏部がP 1 の覆土上層から正位の状態, その他の破片は処から貯蔵穴付近の床面からそれぞれ出土している。216は正位の状態でP 4 の覆土上層, 217は逆位の状態でP 3 の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 床面から焼土が確認されていることから焼失住居である。主柱穴に柱を2回立てた痕跡があり, 出入り口施設に伴うピットと貯蔵穴がそれぞれ2か所確認されていることから, 立て替えられている。時期は, 重複関係や出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第95図 第2926号住居跡出土遺物実測図

第2926号住居跡出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
213	土師器	椀	146	5.7	4.0	長石・石英	橙	普通	口縁部内面ナデ 口縁部内面、体部内、外面磨き	底	50%
214	土師器	壺	158	14.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内、外面横ナデ 頸部、体部外面ハケ目、下半部ナデ 肩厚、体部内面ナデ	床面	60%
215	土師器	高坏	149	11.6	9.5	長石・石英・ 赤母	橙	普通	体部内、外面磨き 脚部外面ヘラナデ 内面ヘリ割り、 強部ハケ目 三方向透かし	P1 覆土上層	60%
216	土師器	高坏	130	7.4	-	長石	赤褐	普通	体部内、外面ハケ目後磨き 脚部外面磨き 内面ナデ 内、外面灰化物付着	P4 覆土上層	50%
217	土師器	甕	200	10.1	-	長石・石英・ 赤母	に灰+橙	普通	口縁部内、外面横ナデ 頸部内、外面ハケ目 体部外 面ハケ目後 ナデ 内面一部磨き	P3 覆土上層	5%

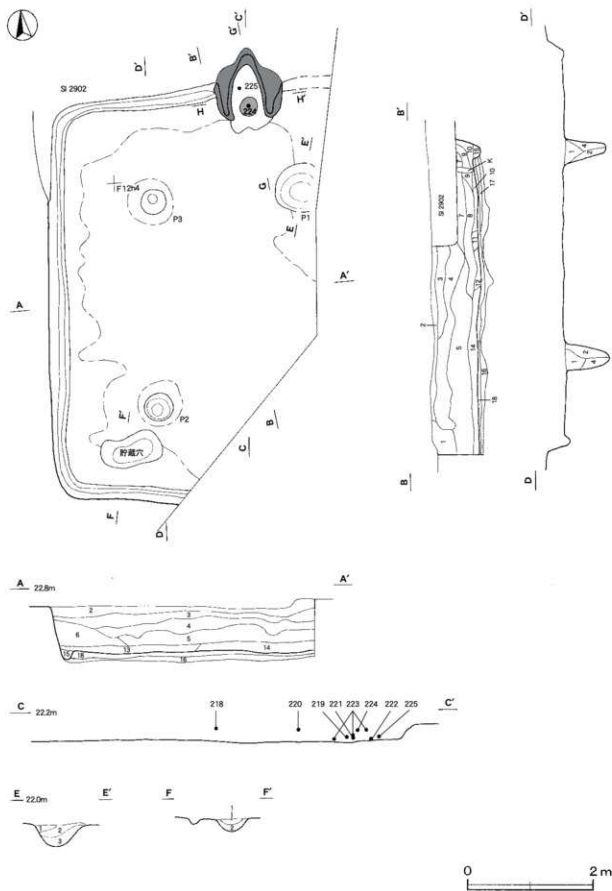
第2927号住居跡 (第96~98図)

位置 調査区中央部のF12h4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

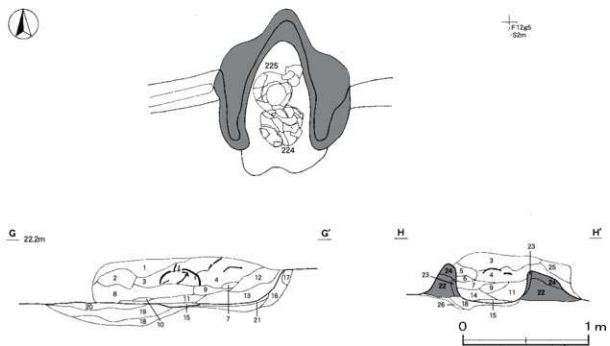
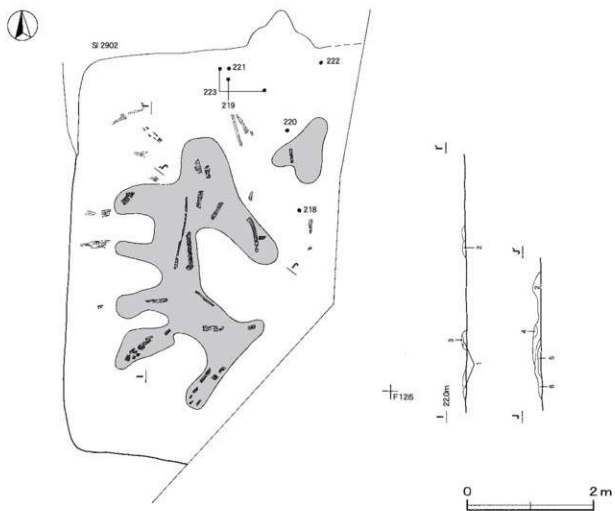
重複関係 第2911号住居跡を掘り込み、北側を第2902号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東側が調査区域外へ延びている。南北軸は6.55m、東西軸は4.75mしか確認できなかったが、主軸方向N-3°-Eの長方形と推測できる。壁高は25~70cmで、直立している。

床 はほぼ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が竈右側を除いて巡っている。床面から焼土と炭化材が確認された。



第96图 第2927号住居跡実測图(1)



第97图 第2927号住居跡実測图(2)

竈 北壁に付設されている。焚き口から煙道部まで110cm、燃焼部幅49cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第22～24層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ進U字状に奥行き57cm、幅105cm掘り込み、壁面に砂質粘土混じりのロームを貼って構築されている。火床部は18cmほど掘り込み、ロームと砂質粘土を充填して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。第4・7層は天井部の崩落土、第16～21・26層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 16 灰 褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗 褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 17 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子少量 |
| 3 暗 褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 4 にぶい黄色 砂質粘土粒子中量 | 19 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗 赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 20 黄 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 21 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量 |
| 7 暗 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 22 黄 褐色 砂質粘土粒子多量 |
| 8 暗 褐色 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 23 赤 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 9 赤 褐色 焼土ブロック多量、砂質粘土粒子微量 | 24 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 25 にぶい赤褐色 焼土粒子中量 |
| 11 暗 赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 26 褐 色 ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量 |
| 12 赤 褐色 焼土ブロック多量 | |
| 13 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | |
| 14 暗 赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | |
| 15 暗 赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量 | |

ピット 3か所。P1～P3は深さ35～70cmで、規模と位置から主柱穴である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック中量 | 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量 | 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |

貯蔵穴 南西コーナー部付近に付設されている。長径100cm、短径50cmの楕円形で、深さは22cmである。底面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 暗 褐色 ロームブロック少量 | 2 褐 色 ロームブロック中量 |
|------------------|-----------------|

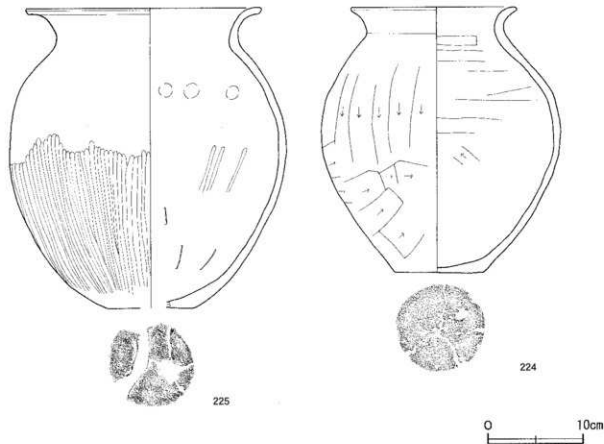
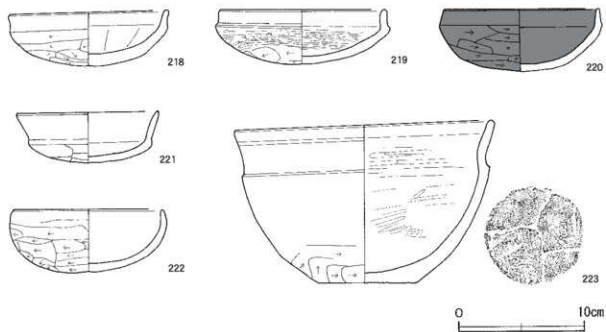
覆土 15層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第18層は貼床の構築土、第16・17層は掘方への埋土である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック少量 | 10 暗 褐色 炭化物中量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック少量 | 11 明 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 褐 色 ロームブロック中量 | 12 にぶい黄褐色 炭化材・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 4 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 13 灰 色 炭化材中量、焼土ブロック少量 |
| 5 にぶい褐色 ロームブロック中量 | 14 灰 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 6 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 15 暗 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 にぶい褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 16 褐 色 ロームブロック多量 |
| 8 にぶい黄褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 17 暗 褐色 ロームブロック中量 |
| 9 灰 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 18 暗 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土少量 |
| 焼土土層解説 | |
| 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒 褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片724点(埴246, 高坏19, 鉢1, 甕458), 須恵器片11点(蓋2, 甕9)のほか、混入した縄文土器片6点(深鉢), 土師器片1点(高台付碗), 須恵器片2点(高台付杯), 磁器片1点(碗)が出土している。これらは、竈内及びその周辺の床面から覆土下層にかけて出土している。219・221は正位の状態、223は破片の状態で竈左側の床面から覆土下層にかけて、222は斜位の状態で竈右側の床面からそれぞれ出土している。また224は横位の状態、225は正位の状態で竈火床部からそれぞれ出土している。これらは廃絶時にそのまま遺棄されたものである。218は正位の状態で中央部付近の覆土中層、220は破片の状態で竈前面の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 覆土中に焼土を含み、床面から炭化材と焼土が確認されていることから焼失住居である。時期は、重複関係や出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第98図 第2927号住居跡出土遺物実測図

第2927号住居跡出土遺物観察表 (第98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
218	土師器	坏	125	4.4	-	長石・石美	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へう割り 内面ナテ	覆土中層	100% PL34
219	土師器	坏	130	4.4	-	長石・石美・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部内・外面磨き 底部へう割り	覆土下層	100% PL34
220	土師器	坏	124	5.0	-	長石・石美・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へう割り 内面ナテ	覆土中層	70%
221	土師器	坏	111	4.0	-	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面、体部内面ナテ 体部外面半減	床面	95%
222	土師器	坏	116	5.0	-	長石・石美	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へう割り 内面ナテ	床面	95% PL34
223	土師器	碗	203	129	77	長石・石美	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面ナテ、下端へう割り 内面ナテ後、一部磨き 底部ナテ	覆土下層	85% PL34
224	土師器	甕	173	278	92	長石・石美・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へう割り 内面ナテ、一部へう割り 底部磨き	竈火床面	85% PL35
225	土師器	甕	245	31.4	90	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面ナテ、下半部磨き 内面ナテ一部北側押圧、磨き 底部ナテ	竈火床面	90%

第2928号住居跡 (第99・100図)

位置 調査区西部のF11a8区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2918号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸481m、短軸440mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は44~64cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで120cm、燃焼部幅56cmである。袖部は地山を23cm掘り込み、ロームを充填した上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第13~16層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き50cm、幅80cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は煙道部寄りに支脚を設置し、火を受けて赤変硬化している。第2・3層は天井部の崩落土、第9~12層は掘方への埋土である。

電土層解説

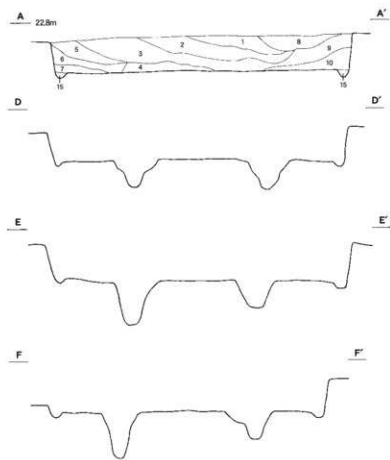
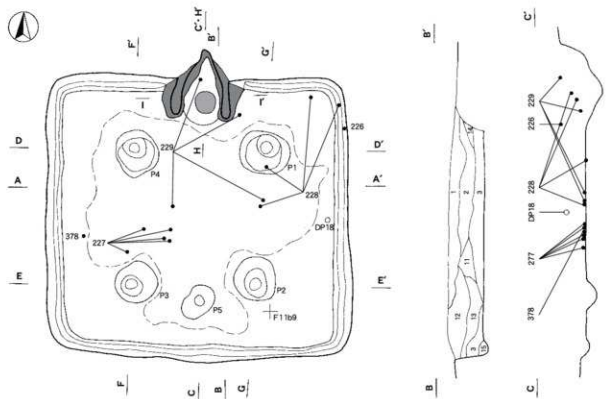
1 灰 褐色	焼土ブロック・粘土粒子ブロック微量	9 褐色	ロームブロック中量
2 暗 灰 黄色	粘土ブロック中量、炭化物微量	10 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
3 灰 黄色	粘土ブロック多量、炭化物微量	11 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
4 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 赤 褐色	焼土粒子多量
5 灰 黄褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	13 にぶい黄色	砂質粘土ブロック多量
6 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	14 にぶい灰色	砂質粘土ブロック多量
7 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	15 暗 褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
8 暗 灰色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量	16 にぶい黄色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子中量

ピット 5か所。P1~P4は深さ41~72cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ17cmで、竈と向かい合う南壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

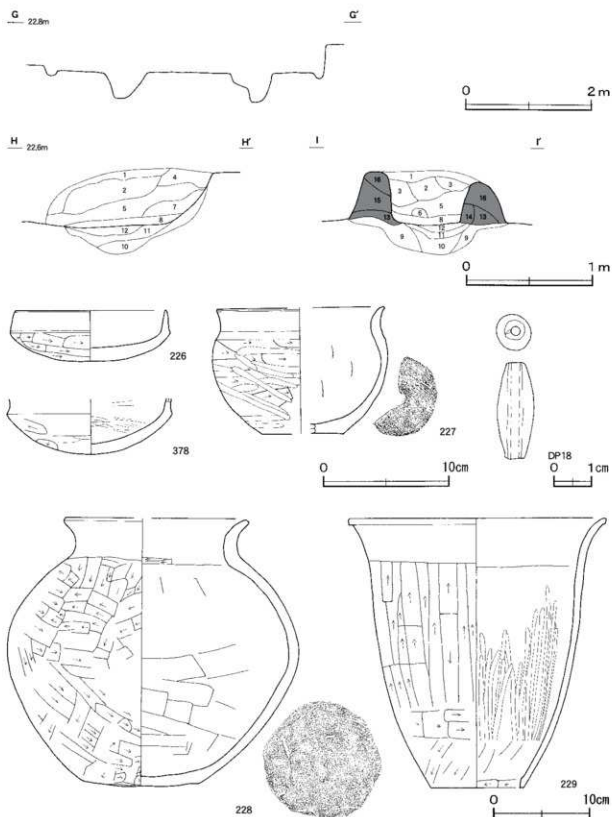
覆土 15層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
2 黒 褐色	ロームブロック中量	9 極 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
3 暗 褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 極 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
5 黒 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 (1より暗)	12 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6 暗 褐色	ロームブロック少量	13 褐色	ロームブロック中量
7 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
		15 褐色	ローム粒子少量



第99图 第2928号住居跡实测图



第100図 第2928号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片629点(坏159, 碗1, 高坏13, 甕441, 瓶13), 須恵器片5点(坏2, 甕3), 土製品4点(支脚3, 管玉1)のほか, 流れ込んだ縄文土器片19点(深鉢), 須恵器片1点(高台付坏)が出土している。これらは竈から中央部付近を中心として, 床面から覆土上層にかけて多く出土している。378は正位の状態。

227は破片の状態です。P3付近の床面からそれぞれ出土している。228はP1付近と北東コーナ部の床面から覆土中層にかけて、229は竈内の覆土上層から中央部付近の床面にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。226は横位の状態です。北東コーナ部付近、DP18は東壁際の中央部付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2928号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
226	土師器	坏	119	41	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土上層	85%
227	土師器	坏	-	(44)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り一部磨き 内面磨き	床面	95%
227	土師器	甗	(133)	100	(65)	長石・石英・赤色粘土	にぶい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り後、磨き 内面へう割り後、ナデ 底部へう割り	床面	70% PL34
228	土師器	甗	(188)	280	125	長石・石英	にぶい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土中層	65% PL35
229	土師器	甗	267	281	89	長石・石英	にぶい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面磨き 底部へう割り	竈上層	70%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	管玉	0.90	2.53	0.24	2.20	土(石英)	外面磨き		PL43

第2929号住居跡（第101・102図）

位置 調査区中央部のF12e2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2924・2943号住居跡を掘り込み、東壁から南東部を第2920号住居、南西コーナ部付近を第2931号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.24m、短軸7.16mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は15~57cmで、直立している。

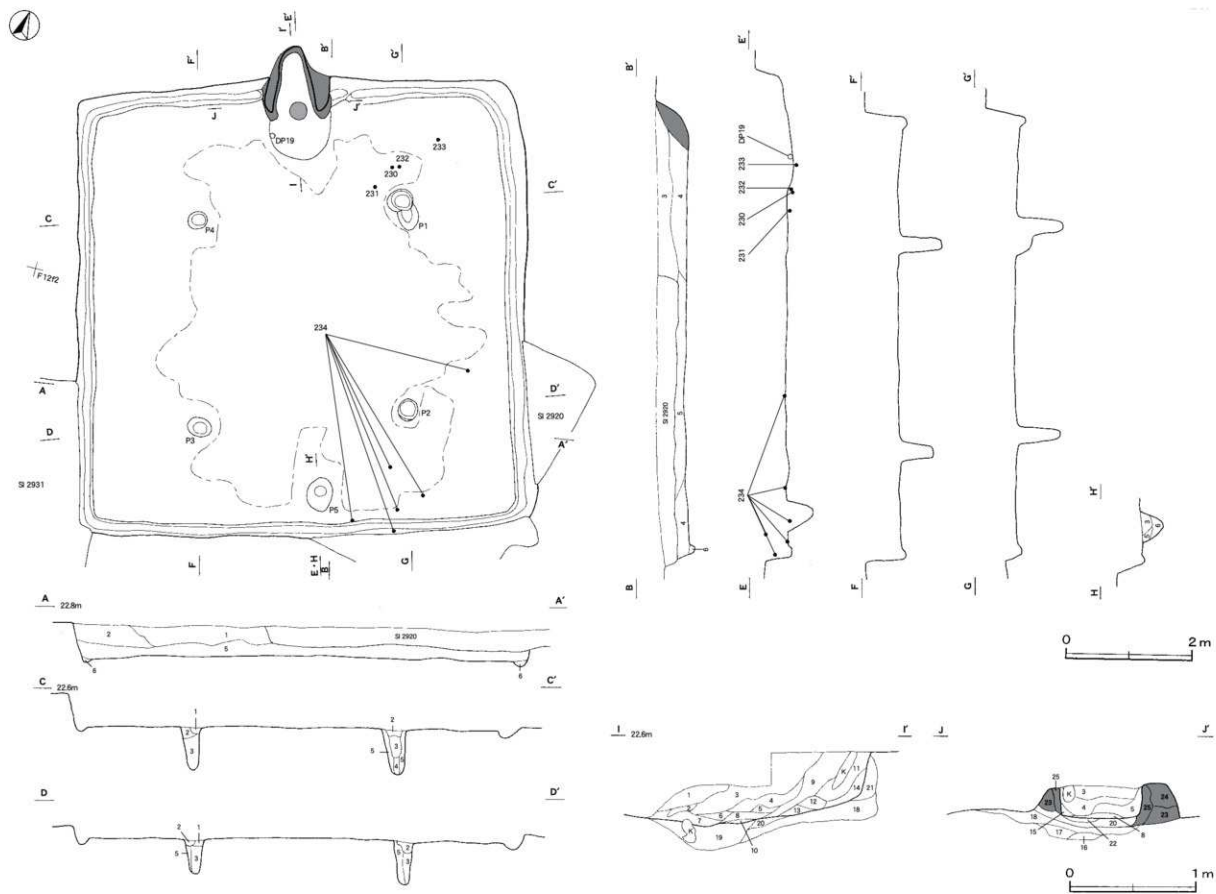
床 ほほ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで180cm、燃焼部幅59cmである。左袖部は掘方への埋土の上に、右袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第23~25層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き55cm、幅93cm掘り込み、壁面に砂質粘土を貼って構築されている。火床部は22cmほど掘り込み、ローム混じりの砂質粘土を充填して構築されている。火床面は床面とほほ同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。第3・4層は天井部の崩落土、第16~22層は掘方への埋土である。

甗土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	15	褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量	16	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
3	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量	17	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
4	明赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量	18	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
5	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量	19	灰オリーブ色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
6	暗褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	20	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
7	黄褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	21	灰黄色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量(9より暗)
8	にぶい褐色	焼土ブロック中量	22	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
9	灰黄色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量	23	灰黄色	砂質粘土粒子多量
10	赤褐色	焼土粒子多量	24	黄褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量
11	灰黄色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子少量	25	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量(19より暗)
12	灰黄色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子少量			
13	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量			
14	暗灰黄色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量			

ピット 5か所。P1~P4は深さ52~74cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ42cmで、南壁寄り



第101图 第2929号住居跡实测图

の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

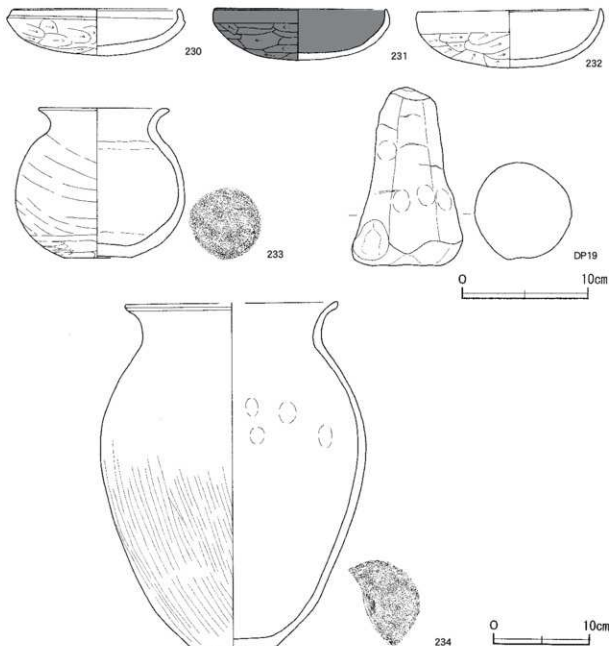
- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・赤色粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、赤色粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量（2より暗） |

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、赤色粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、赤色粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・赤色粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1323点（坏293、碗6、高坏24、壺1、甕978、瓶21）、土製品2点（支脚）のほか、混入した縄文土器片19点（深鉢）、土師器片3点（高台付碗、小皿、埴）が出土している。これらは、竈から



第102図 第2929号住居跡出土遺物実測図

P1付近の床面から覆土中層にかけて多く出土している。230・232は二つ重なって、231とともに正位の状態
でP1付近の床面から出土している。233は正位の状態
で北東コーナー部寄りの床面から出土している。234は
体部片が横位の状態で南壁際の床面から、その他の破片はP2付近の覆土下層にかけて出土している。DP19
は竈口部付近の床面から横位の状態
で出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2929号住居跡出土物観察表 (第102図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
230	土師器	坏	133	37	-	灰石・石英・ 長石質母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	80%
231	土師器	坏	136	41	-	灰石・石英・ 長石質母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	90%
232	土師器	坏	146	48	-	灰石・石英・ 長石質母	明褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	80%
233	土師器	壺	101	119	56	灰石・石英・ 長石質母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割りナデ、下部部 部巻き 内面・底部ナデ	床面	95% PL35
234	土師器	壺	(220)	360	95	灰石・石英・ 長石質母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下部部巻き 内面ナデ一部指環押圧 底部ナデ	床面	70%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	支脚	142	41	89	735	土(灰石・石英)	外面ナデ一部指環押圧	床面	PL43

第2930号住居跡 (第103～107図)

位置 調査区中央部のF12a3区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2924・2971号住居跡を掘り込み、北壁を第2914号住居、P6付近を第5731号土坑に掘り込まれて
いる。

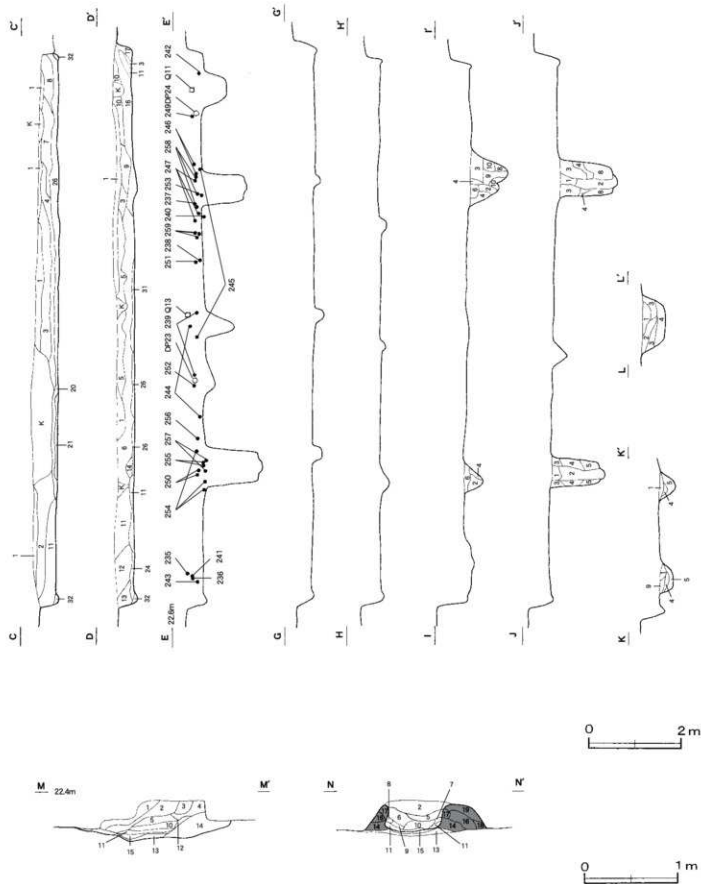
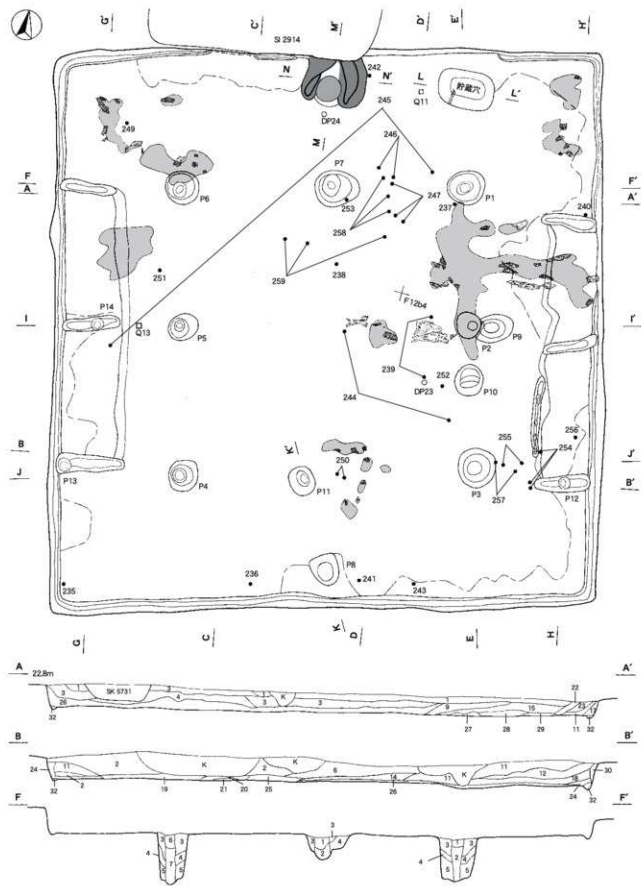
規模と形状 長軸1200m、短軸11.78mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は30～70cmで、直立し
ている。

床 東及び西壁下の中央部、長さ5.1～5.6m、幅1.2～1.4mが床面より3～4cm高くなっており、その両端と
中央部に3条の溝を有している。溝は長さ110～150cm、幅19～49cm、深さ12～22cmで、断面はU字状である。
一部の壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北壁と東壁の一部を除いて壁際を巡っている。床面から焼土
と炭化材が確認されている。

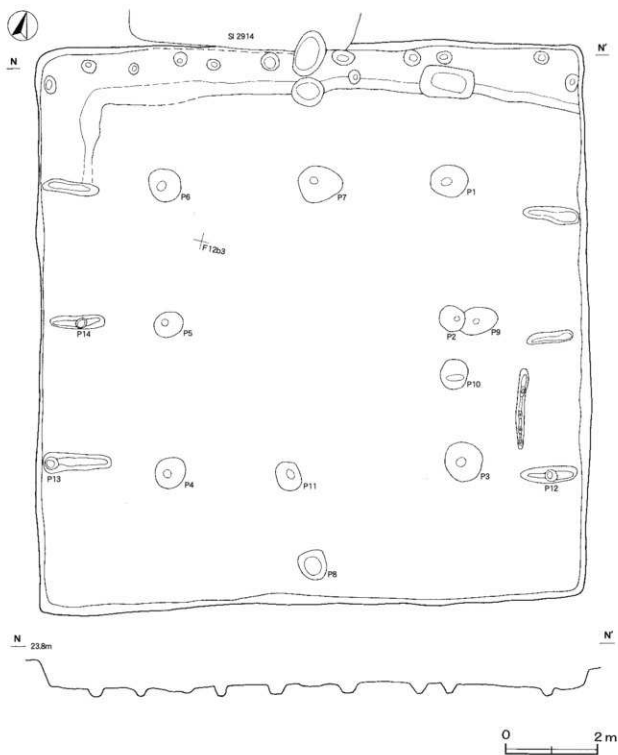
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで107cm、燃焼部幅53cmである。袖部は掘方への埋土
の上に、ルームと砂質粘土を積み上げて構築されている。第14・16～19層は袖部の構築土である。煙道部は壁
外へ逆U字状に奥行き10cm、幅80cmほど掘り込み、壁面にルームを貼って構築されている。火床部は22cmほど
掘り込み、ルームを充填して構築されている。火床面は床面より10cm低く、火を受けて赤変硬化している。第
5層は天井部の崩落土、第13層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 褐 色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 11 褐 色 | ルームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 褐 色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 12 にぶい黄褐色 | ルームブロック多量 |
| 3 褐 色 | ルーム粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 明黄褐色 | ルームブロック多量、焼土ブロック・砂質粘土
粒子少量 |
| 4 褐 色 | ルーム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量 | 15 浅黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 6 明褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 16 明褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 7 褐 色 | ルームブロック・焼土粒子少量 | 17 黄褐色 | ルームブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 18 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ルームブロック少量 |
| 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ルームブ
ロック微量 | 19 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ルーム粒子・焼土粒子少量 |
| 10 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | | |

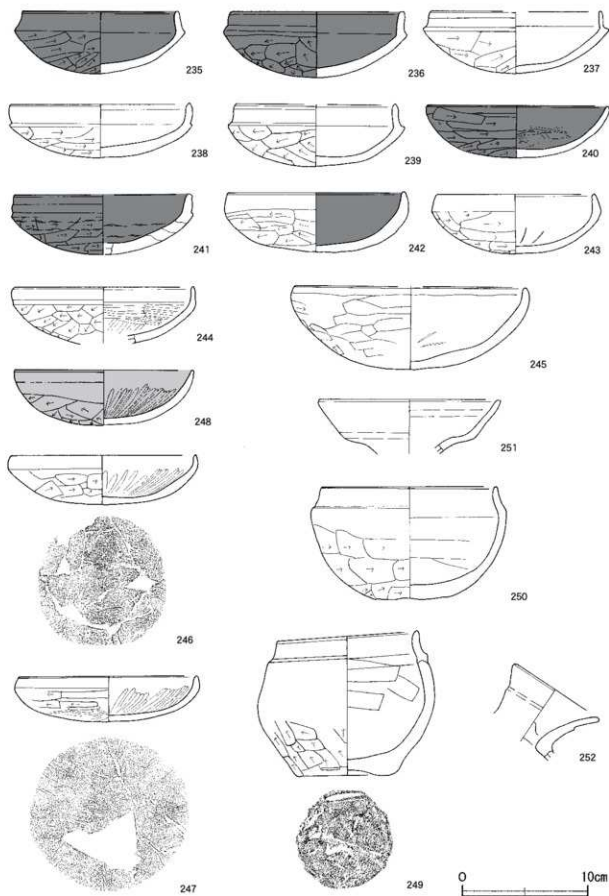


第103图 第2930号住居跡实测图(1)

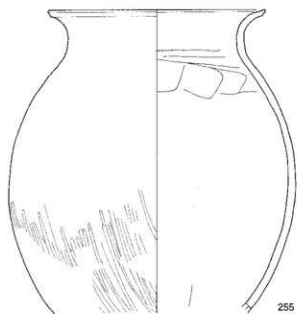


第104図 第2930号住居跡実測図(2)

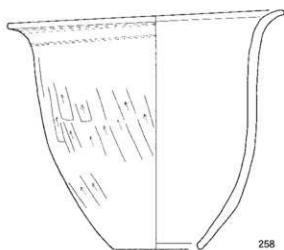
ピット 14か所。P 1～P 7は深さ55～119cmで、規模と位置から主柱穴である。P 8は深さ30cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P 9～P 11は深さ27～43cmで、主柱穴の中間または延長線上に位置していることから、補助的な柱穴と考えられる。P 12～P 14は深さ22～30cmで、性格は不明である。



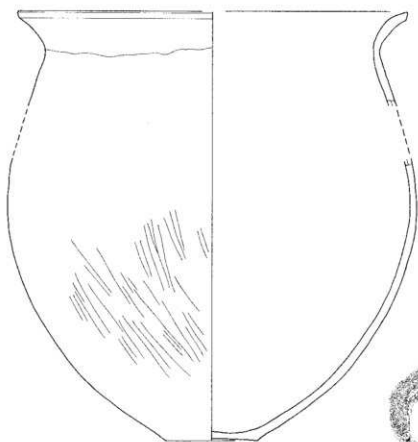
第105图 第2930号住居跡出土遺物実測図(1)



255



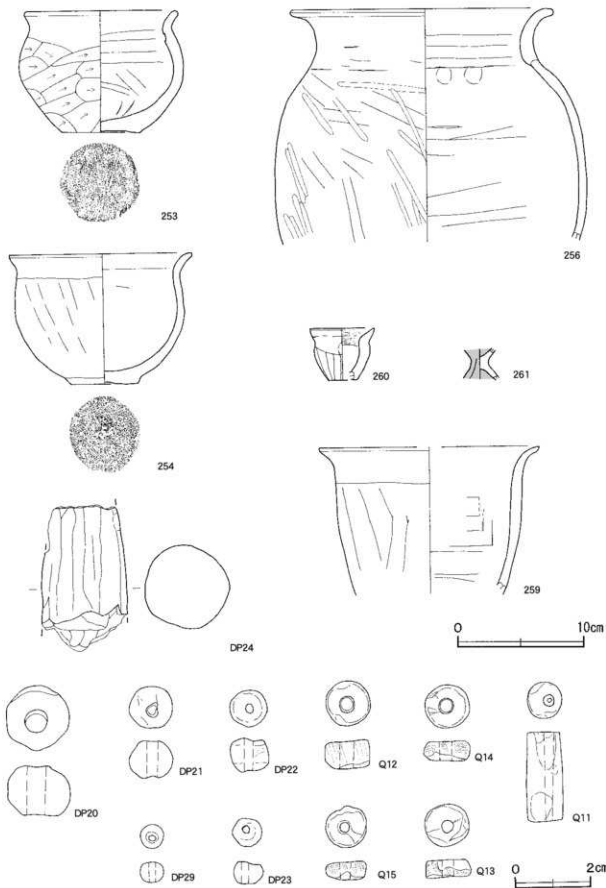
258



257



第106图 第2930号住居跡出土遺物実測図(2)



第107图 第2930号住居跡出土遺物実測図(3)

ピット土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗 褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量
2	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7	褐 色	ロームブロック中量（4より明）
3	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	8	にぶい青褐色	粘土ブロック中量
4	褐色	ロームブロック中量	9	褐色	ロームブロック少量
5	褐色	ロームブロック中量（4より粘性弱）	10	にぶい青褐色	ロームブロック中量

貯蔵穴 竈右側の北壁寄りに付設されている。長径117cm、短径80cmの楕円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	4	褐 色	ローム粒子多量、焼土ブロック少量
2	暗 褐色	炭化物中量			
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化材中量、ロームブロック少量			

覆土 32層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	17	褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	褐色	ロームブロック中量	18	極暗褐色	ロームブロック少量
3	暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	19	暗 褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
4	暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量	21	褐色	ロームブロック・炭化物少量
6	にぶい褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	22	明 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	23	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量
8	暗 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	24	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
9	にぶい青褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	25	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
10	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量	26	褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
11	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	27	明 褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量
12	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	28	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
13	暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	29	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
14	暗 褐色	ロームブロック少量	30	褐色	ロームブロック多量
15	暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	31	暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
16	にぶい青褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量	32	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片8336点（坏1455、碗15、高坏76、甕6729、甌56、ミニチュア土器3）、須恵器片16点（坏8、平瓶1、甕7）、土製品6点（土玉3、小玉2、支脚1）、石製品5点（管玉1、白玉4）鉄滓2点のほか、混入した縄文土器片87点（深鉢）、土師器片7点（高台付椀1、器台6）、須恵器片4点（盤1、甌3）が出土している。これらは住居の東側を中心に、床面から覆土中層にかけて出土している。237は正位状態でP1付近の覆土下層、238は逆位状態でP7南側の床面からそれぞれ出土している。246・247・258・259はP7付近の床面から覆土中層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。240は正位状態で東壁際の床面、242は同じく竈右側の覆土下層からそれぞれ出土している。244は正位状態で東側高床部付近の床面から出土し、中央部付近の破片と接合している。245は正位状態で西側高床部の床面から出土し、P1付近の破片と接合している。254は斜位状態でP12付近、255-257は横位状態でP3付近の床面から出土している。250は横位状態でP11付近、251は正位状態でP5付近の覆土下層から出土している。250・254・255・257は周辺から出土した破片と接合しており、242・244の出土状況と合わせて廃絶時に棚などに置かれていた遺物が床面に転落して破損したものと考えられる。DP23の小玉はP10付近の覆土下層から、その他は覆土中層から上層にかけて出土している。DP24は竈前面の覆土下層から出土している。Q11は貯蔵穴付近の覆土中層、Q13はP5付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 床面から焼土と炭化材が確認されていることから、焼失住居である。使用された柱材は、柱穴及びその土層断面から直径20～30cmと推測できる。東西の壁付近で確認された6条の溝は、断面がU字状であることから丸太材（根太）を設置し、その上に床板を貼ったものと考えられる。本跡は鳥名熊の山遺跡で最大の床面積であり、規模や出土した遺物の内容から中核的な住居と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2930号住居跡出土遺物観察表（第105～107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
235	土師器	坏	120	49	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土上層	95% PL25
236	土師器	坏	134	53	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	95% PL33
237	土師器	坏	[13.4]	50	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	50%
238	土師器	坏	140	43	-	赤色粒子	明黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	70%
239	土師器	坏	[12.5]	49	-	石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	60%
240	土師器	坏	143	42	-	長石・雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	60%
241	土師器	坏	[13.6]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	50%
242	土師器	坏	140	47	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	100%
243	土師器	坏	125	48	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り後、ナデ	床面	100% PL33
244	土師器	坏	142	(4.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面磨き	床面	83%
245	土師器	坏	[18.5]	66	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	床面	60%
246	土師器	坏	146	38	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面磨き 底辺へう割り	覆土中層	80% PL25
247	土師器	坏	141	36	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り後、一部磨き 内面磨き 底辺へう割り	床面	80%
248	土師器	坏	140	44	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面磨き	覆土中層	85% PL33
249	土師器	椀	110	116	77	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下半へう割り 内面ナデ一部へう割り 底辺へう割り	覆土中層	100% PL36
250	土師器	椀	139	90	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	70%
251	須恵器	壺	[14.3]	(4.3)	-	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ	覆土下層	13%
252	須恵器	平瓶	76	(5.1)	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	20%
253	土師器	小形甕	118	97	63	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ 底辺へう割り	覆土上層	95% PL33
254	土師器	小形甕	141	103	54	石英・雲母	明黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底辺ナデ	床面	80%
255	土師器	甕	227	(31.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 肩部内へう割り ナデ 体部外面ナデ、下半磨き 内面ナデ	床面	65% PL36
256	土師器	甕	206	(18.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ後、一部磨き 内面へう割り ナデ指押埋圧	覆土下層	40%
257	土師器	甕	(40.8)	(45.0)	9.8	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半磨き 内面磨きのため不明 底辺ナデ	床面	40%
259	土師器	甕	[17.4]	(11.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へう割り ナデ	床面	40%
258	土師器	甕	28.7	25.0	9.1	長石・石英・雲母	浅黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ 底辺へう割り	覆土下層	80% PL36
260	土師器	ヒコナデ土師器	50	41	(22)	長石・石英・赤色粒子	赭灰	普通	口縁部外面ナデ 内面へう割 体部外面へうナデ 内	覆土中層	25%
261	土師器	ヒコナデ土師器	-	(2.4)	-	長石・石英	赤褐	普通	内・外面ナデ	覆土中層	70%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	土玉	170	130	050	392	土（長石・石英）	外面ナデ へう割り 片割穿孔	覆土中層	PL43
DP21	土玉	120	100	030	132	土（長石・石英）	外面ナデ 片割穿孔	覆土中層	PL43
DP22	土玉	100	090	025	102	土（長石・石英）	外面ナデ 片割穿孔	覆土中層	PL43
DP23	小玉	080	060	020	039	土（長石・石英）	外面ナデ 片割穿孔	覆土下層	PL43
DP29	小玉	060	055	015	019	土（長石）	外面ナデ 片割穿孔	覆土中層	PL43

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	支脚	(11.6)	(5.1)	6.8	(380)	土（長石）	外面へうナデ 一部指押埋圧	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ (底径)	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q11	碧玉	090	230	025	(302)	不明	一方均からの穿孔 欠損有り	覆土中層	PL65
Q12	白玉	120	080	040	193	滑石	側面に擦痕	覆土中	PL66
Q13	白玉	120	045	035	129	滑石	側面に擦痕	覆土上層	PL66
Q14	白玉	120	050	040	115	滑石	側面に擦痕	覆土中	PL66
Q15	白玉	110	045	030	095	滑石	側面に擦痕	覆土中	PL66

第2931号住居跡 (第108・109図)

位置 調査区中央部のF12g1区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2907号住居跡を掘り込み、北側を第2906号住居、北東コーナー部を第2929号住居、南東コーナー部を第2909号住居、南西部を第2910号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸9.28m、短軸9.12mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は30～50cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、北壁から南壁中央部にかけて踏み固められている。壁溝が壁際を巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで107cm、燃焼部幅43cmである。袖部は地山の上に砂質粘土とロームを積み上げて構築されている。第2～6層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き37cm、幅46cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 明 褐色	焼土ブロック少量	4 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量
2 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	5 赤 褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量
3 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子少量	6 濃い青褐色	砂質粘土粒子多量

炉 中央部西寄りに付設されている。長径60cm、短径46cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめて炉床とした地床炉である。炉床面は火を受けて赤変している。

炉土層解説

1 濃い赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4 暗 赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
2 暗 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量		

ピット 8か所。P1～P4は深さ80～103cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ20cm・32cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P7・P8は深さ22cm・25cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北壁の北東コーナー部寄りに付設されている。長径89cm、短径67cmの楕円形で、深さは27cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

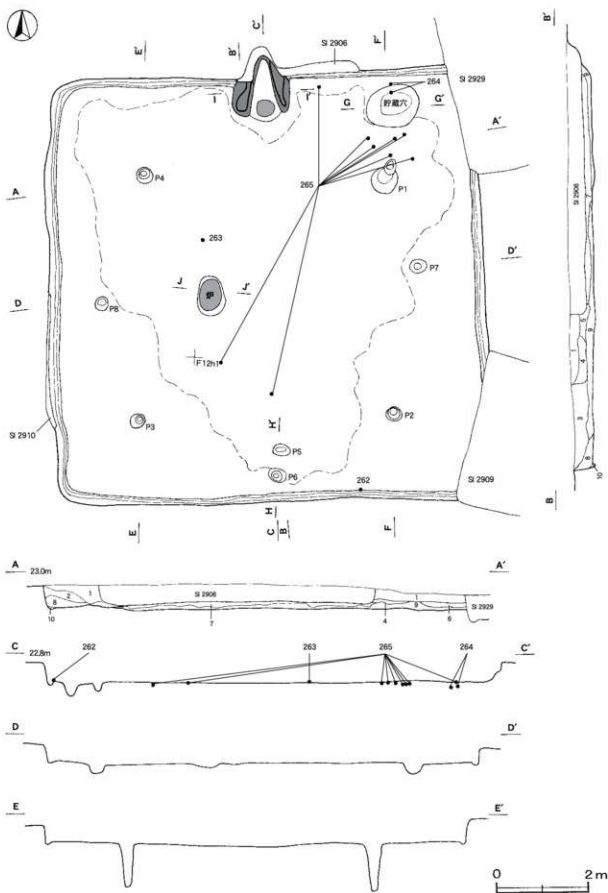
貯蔵穴土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	3 褐 色	ローム粒子中量
2 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

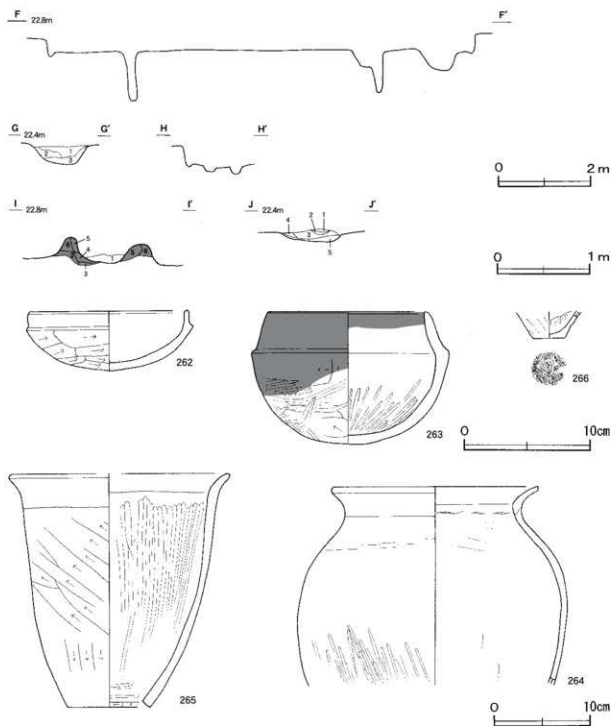
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子微量	6 暗 褐色	ローム粒子中量
2 褐 色	ローム粒子少量	7 暗 褐色	ロームブロック・炭化物少量
3 褐 色	ロームブロック中量	8 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
4 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	9 褐 色	ロームブロック中量 (3より明)
5 褐 色	ロームブロック少量	10 褐 色	ローム粒子中量



第108图 第2931号住居跡実測図



第109図 第2931号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片559点（坏127, 椀6, 高坏28, 壺8, 寛371, 瓶19）のほか、混入した縄文土器片11点（深鉢）が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。262は斜位の状態で見ると南壁際の覆土下層、263は炉の北側の床面からそれぞれ出土している。264は横位の状態で見ると床面と貯蔵穴の覆土上層から出土し、265は同じく横位の状態で見るとP1付近と中央部南寄りの床面から出土した破片が接合した。266は覆土中から出土している。

所見 第2930号住居跡に次ぐ大形の住居跡である。竈とともに炉が付設されているが、性格は不明である。時期は、重複関係や出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2931号住居跡出土遺物観察表 (第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
262	土師器	坏	124	48	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	覆土下層	73%
263	土師器	椀	125	106	-	長石	浅黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り後、一部磨き 内面ナデ後、磨き	床面	80%
264	土師器	壺	21.5	(20)80	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ下平磨き 内面ナデ	床面 貯蔵穴上層	43%
265	土師器	瓶	(23)30	244	85	長石・赤母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面磨き	床面	73%
266	土師器	コシヤブ土器	-	(22)	25	長石・石英	橙	普通	体部内・外面へうナデ 底部ナデ	覆土中	75%

第2932号住居跡 (第110・111図)

位置 調査区西部のF11d4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.94m、短軸5.92mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は42~66cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。床面から焼土・炭化物が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで147cm、燃焼部幅55cmである。袖部は地山の上に砂質粘土とロームを積み上げて構築されている。第15・16層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き32cm、幅83cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第4・7・9層は天井部の崩落土である。

電土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 赤褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 11 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 (2より明) |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 13 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 6 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 14 黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 浅黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 15 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 8 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 16 浅黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 (7より明) |

ピット 5か所。P1~P4は深さ36~59cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ26cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

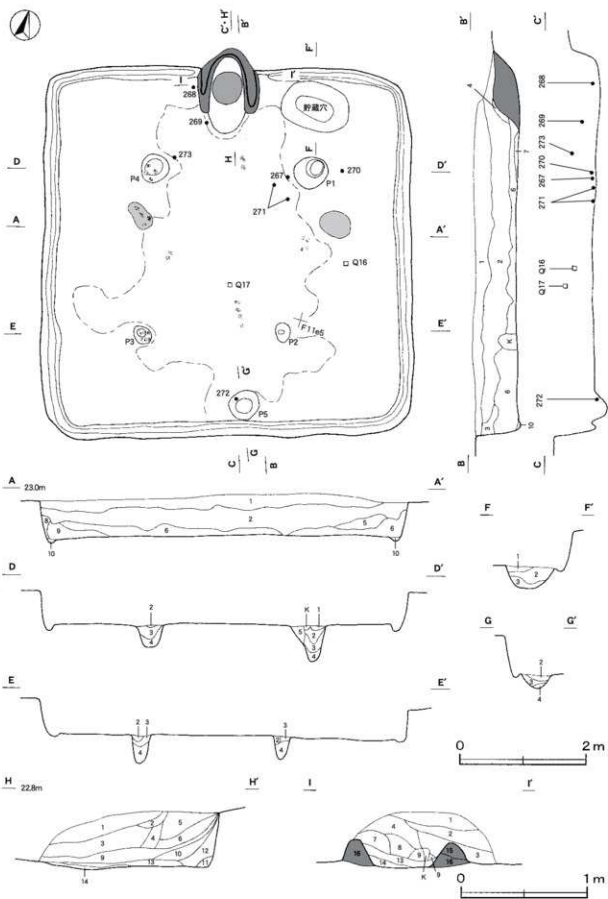
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

貯蔵穴 竈右側の北壁際に付設されている。長径107cm、短径75cmの楕円形で、深さは31cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 | | |



第110图 第2932号住居跡実測图

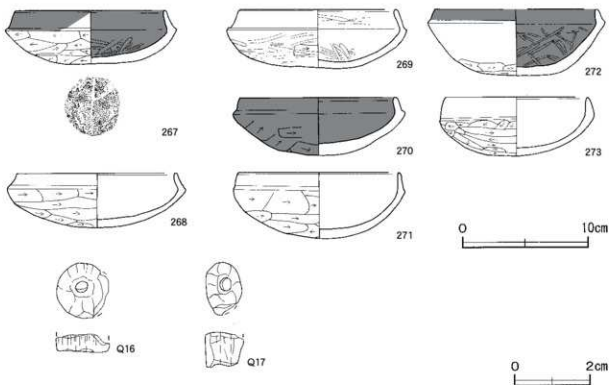
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1106点（坏109、輪10、高坏53、壺31、甕728、瓶105）、須恵器片48点（坏42、甕6）、土製品1点（支脚）、石製品2点（白玉）、鉄滓1点のほか、混入した縄文土器片45点（深鉢）、土師器片3点（器台）、須恵器片1点（高盤）、陶器片1点（碗）が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。267・270・271は正位の状態でP1付近の床面から出土しており、これらは廃絶時に遺棄されたものである。272は斜位の状態でP5の覆土上層、268は正位の状態で竈左袖部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。269は斜位の状態、273は正位の状態で竈前面からP4付近の覆土中層から上層にかけてそれぞれ出土している。Q16は東壁寄り中央部の覆土中層、Q17は中央部南寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 床面から焼土と炭化物が確認されたことから、焼失住居である。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第111図 第2932号住居跡出土遺物実測図

第2932号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
267	土師器	坏	120	42	-	長石・石英・赤鉄	に灰+粗	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 縁 磨き 底部へラ削り	床面	96% PL36
268	土師器	坏	127	43	-	長石・石英・赤鉄	に灰+粗	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 底部磨き	覆土下層	96% PL36

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
269	土陶器	坏	124	47	-	長石・石英・ 炭母	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へう張り底、磨き 内面 磨き	覆土中層	95% PL36
270	土陶器	坏	124	46	-	長石・石英・ 炭母	明褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ 底磨き	床面	90%
271	土陶器	坏	128	52	-	石英・炭母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう張り底、一部ナ デ 内面ナデ	床面	20%
272	土陶器	坏	130	53	-	長石・石英・ 炭母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ下縁へう張り 内面ナデ後、磨き	P5 覆土上層	99%
273	土陶器	坏	113	46	-	長石・石英	灰白	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ	覆土中層	75%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	白玉	1.40	0.50	0.30	1.28	滑石	側面に溝痕	覆土中層	PL46
Q17	白玉	1.00	0.90	0.30	1.70	滑石	楕円形	覆土上層	PL46

第2934号住居跡 (第112～117図)

位置 調査区西部のF11g7区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2942号住居跡を掘り込み、北西コーナー部付近を第2933号住居、南壁の南東コーナー部寄りを第5734号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.00m、短軸7.96mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は28～33cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、東西壁際を除いて踏み固められている。南壁の東寄りを除いて壁溝が巡っている。床面から焼土・炭化物が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで131cm、燃焼部幅37cmである。袖部は地山を15cmほど掘り込み、ルームを充填した上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第12～15層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き43cm、幅76cm掘り込み、壁面に砂質粘土を貼って構築されている。火床部は床面を15cm掘り込んでルームを充填して構築されている。火床面は床面とほほ同じ高さで、火を受けて赤変している。第3・5層は天井部の崩落土、第8～11層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1	にぶい暗褐色	砂質粘土粒子中量、ルームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	8	褐色	ルームブロック中量
2	にぶい暗褐色	ルームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	9	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
3	灰褐色	砂質粘土ブロック中量	10	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
4	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	11	褐色	ルームブロック・焼土ブロック中量
5	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	12	灰黄色	砂質粘土粒子多量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量	13	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ルームブロック・焼土ブロック少量
7	にぶい暗褐色	砂質粘土粒子少量	14	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ルームブロック少量
			15	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量

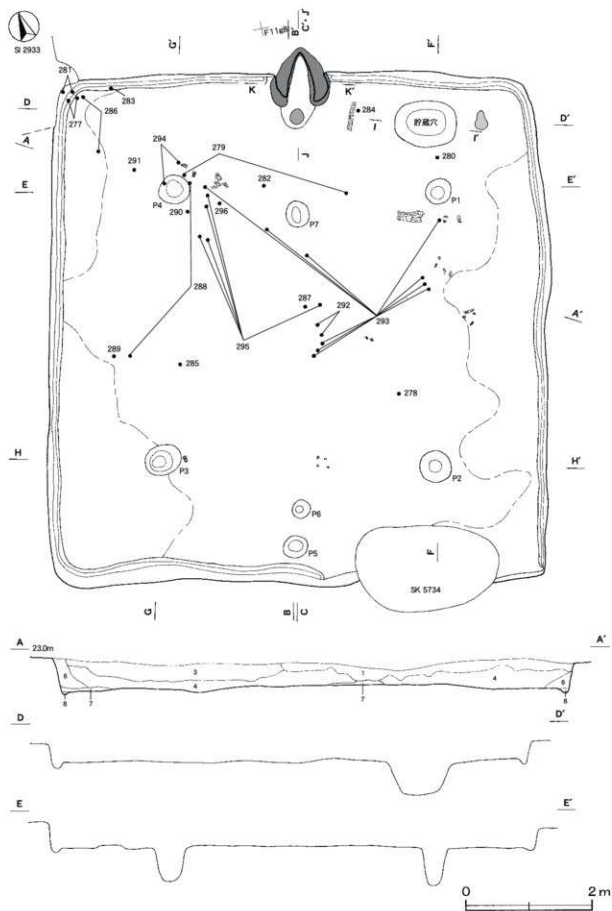
ピット 7か所。P1～P4は深さ52～79cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ26cm・34cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P7は深さ18cmで、竈とP5・P6を結ぶ線上に位置しているが、性格は不明である。

貯蔵穴 竈右側の北壁際付設されている。長径98cm、短径73cmの楕円形で、深さは57cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

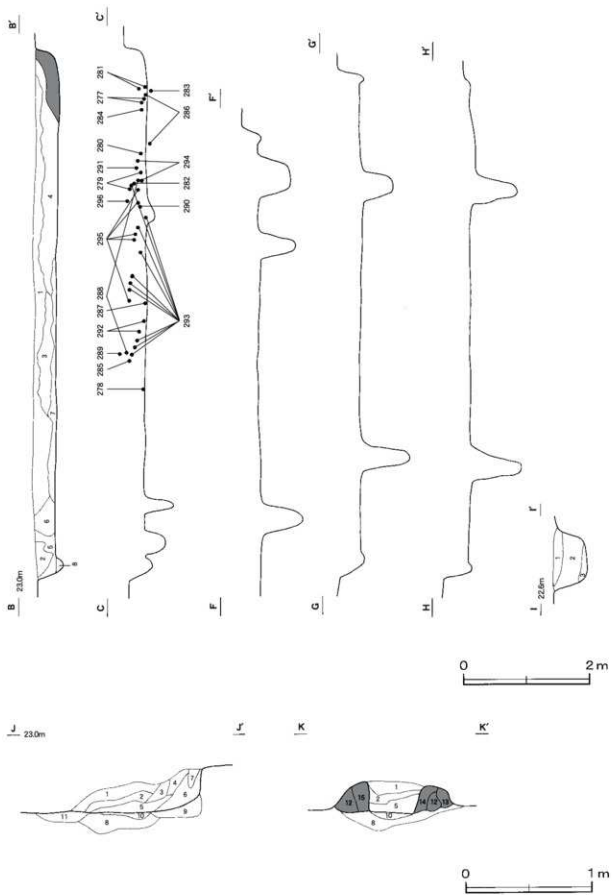
貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ルームブロック少量、焼土ブロック微量	3	褐色	ルームブロック中量
2	暗褐色	ルームブロック中量、焼土ブロック少量			

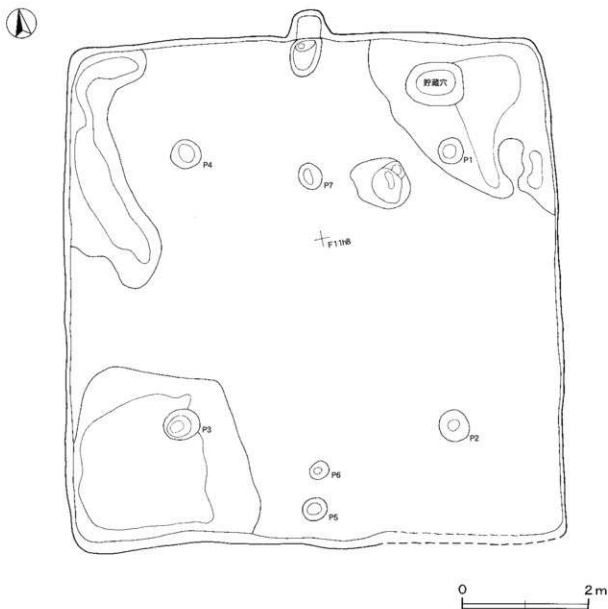
覆土 8層に分層できる。各層にルームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第112图 第2934号住居跡実測图(1)



第113图 第2934号住居跡実測図(2)



第114図 第2934号住居跡実測図(3)

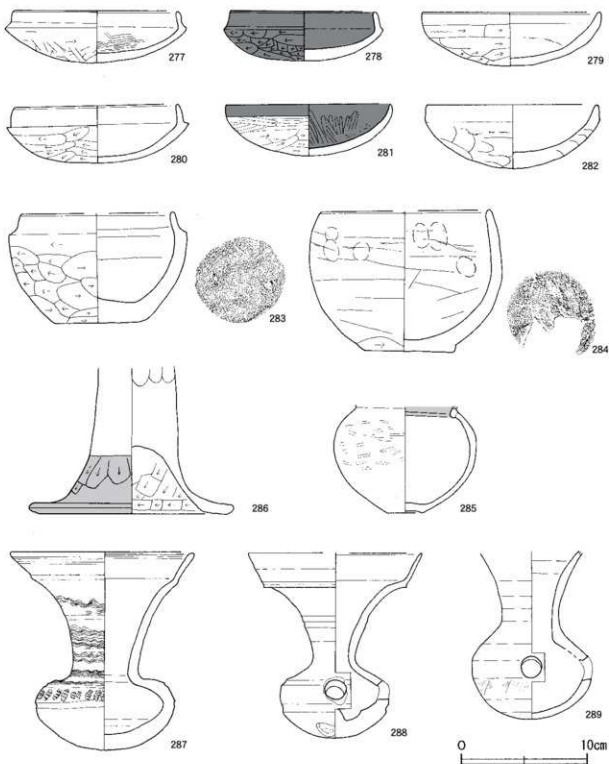
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・赤色粒子微量 |

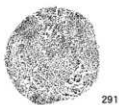
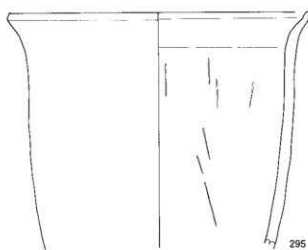
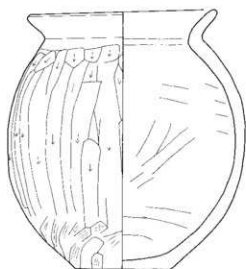
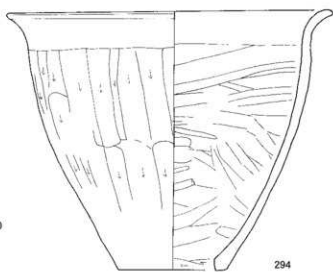
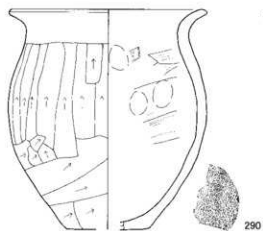
遺物出土状況 土師器片1879点(坏263, 碗18, 高坏75, 甕1434, 瓶89), 須恵器片83点(甃3, 甕80), 混入した縄文土器片20点(深鉢), 土師器片1点(埴), 須恵器片3点(高盤)が出土している。これらは北西コーナ一部及びP4周囲の床面から覆土中層にかけて出土している。277・281・283は正位の状態, 286は横位の状態、北西コーナ一部から覆土下層にかけて一括して出土している。278は逆位の状態でP2付近の床面, 279は正位の状態でP7付近の覆土下層から出土している。280は斜位の状態で貯蔵穴付近, 284は横位の状態で甕右側の覆土下層から, 287は292とともに横位の状態で中央部付近の床面からそれぞれ出土している。これらは廃絶時に遺棄されたものと考えられる。282は横位の状態でP7付近, 288・289は横位の状態で西壁中央部付近の覆土上層からそれぞれ出土し, 288はP4付近から出土した破片と接合している。290・295は横位の状態。

294は破片の状態です。P 4 付近の覆土中層から出土している。293は同じく横位の状態で床面から出土し、中央部付近とP 1 南側の覆土中層から上層にかけて出土した破片と接合している。

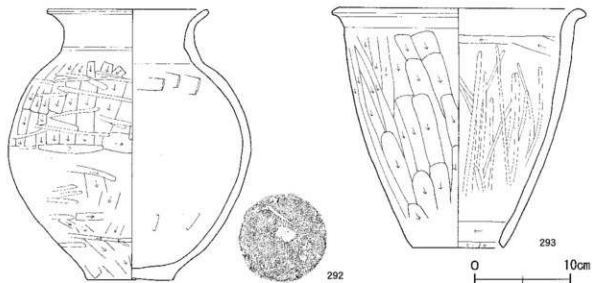
所見 床面から焼土と炭化物が確認されたことから焼失住居である。時期は、重複関係や出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第115図 第2934号住居跡出土遺物実測図(1)



第116图 第2934号住居跡出土物実測図(2)



第117図 第2934号住居跡出土遺物実測図(3)

第2934号住居跡出土遺物観察表 (第115~117図)

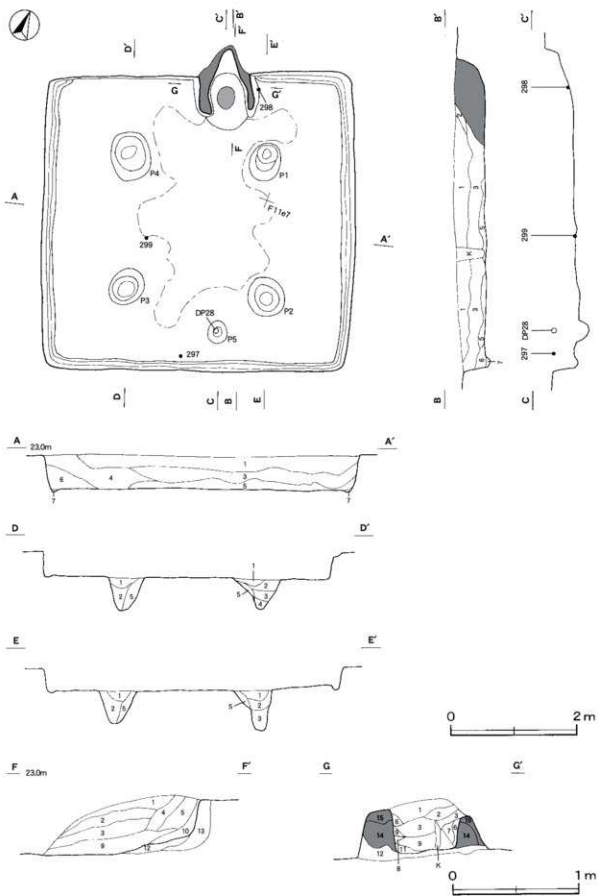
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
277	土師器	坏	129	4.2	-	長石・雲母	にぶい赤黒	普通	口縁部内・外面横ナテ 内面磨き	体部外面へう割り 底ナテ	覆土下層 300% PL36	
278	土師器	坏	115	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面ナテ	床面 95% PL36	
279	土師器	坏	142	4.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面ナテ	覆土下層 95%	
280	土師器	坏	129	4.6	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面ナテ	覆土下層 90% PL36	
281	土師器	坏	131	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 一部磨き	床面 80%	
282	土師器	坏	135	5.1	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部内・外面ナテ	覆土上層 53%	
283	土師器	甗	[118]	8.7	6.7	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面ナテ	床面 80% PL36	
284	土師器	甗	[133]	11.3	7.0	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部内・外面ナテ	一部指頭押入 体部外面へう割り	覆土下層 75%	
285	土師器	埴	-	8.5	2.5	長石・石英	橙	普通	体部外面磨き	内面・底部ナテ	覆土上層	
286	土師器	高坏	-	[118]	15.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面ナテ	下半部内・外面へう割り	端部横ナテ	床面 6%
287	須恵器	甗	142	15.6	-	長石・石英	黒黒	普通	口縁部内・外面口クロナテ	肩部・胴部外面洗刷で施文後・磨瑠璃状文・刺突文を施文	床面 85% PL37	
288	須恵器	甗	[138]	14.7	-	長石・石英	黒黒	普通	体部内・外面口クロナテ	外面自然釉	覆土上層 85% PL37	
289	須恵器	甗	-	[134]	-	長石	灰白	普通	体部内・外面口クロナテ		覆土上層 75% PL37	
290	土師器	小形甗	152	17.5	[65]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面ナテ	覆土中層 53%	
291	土師器	小形甗	147	20.7	7.4	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	一部指頭押入 底部へう割り	覆土中層 85% PL37	
292	土師器	甗	168	28.3	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 後・磨き	床面 80% PL37	
293	土師器	甗	249	25.0	9.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面ナテ	床面 73% PL38	
294	土師器	甗	256	20.9	8.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面へう割り 内面へう割り	覆土中層 70%	
295	土師器	甗	237	18.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナテ	体部外面ナテ	内面へう割り	覆土中層 70%
296	土師器	甗	-	[66]	5.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り	内面ナテ	底部12孔	覆土上層 43%

第2935号住居跡 (第118・119図)

位置 調査区西部のF11e6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2936住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.77mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は30~50cmで、直立している。



第118图 第2935号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、竈前面から主柱穴内にかけて踏み固められている。北壁西側を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで136cm、燃烧部幅53cmである。袖部は地山の上に砂質粘土とロームを積み上げて構築されている。第14・15層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き47cm、幅81cm掘り込み、壁面にロームを貼って構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、煙道部寄りに支脚を設置している。火床面は火を受けて赤変硬化している。第1～3層は天井部の崩落土。第12・13層は掘方の埋土である。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黄 褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 暗 灰 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 2 暗 灰 黄色 砂質粘土ブロック多量 | 10 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗 灰 黄色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 11 濃い赤褐色 焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量 |
| 4 暗 褐色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 13 暗 赤 褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 灰 黄色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 14 灰 黄色 砂質粘土ブロック多量 |
| 7 黄 褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量 | 15 褐色 ロームブロック多量、砂質粘土ブロック少量 |
| 8 暗 褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ49～63cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ21cmで、竈と向かい合う南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

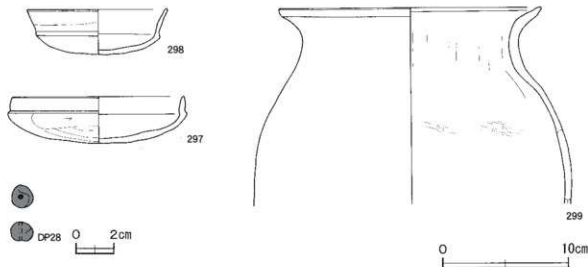
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック少量（2より明） |
| 3 暗 褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 黒 褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片541点（坏105、高坏34、壺19、甕364、瓶19）、須恵器片6点（壺1、甕5）、土製品2点（土玉、支脚）のほか、混入した縄文土器片11点（深鉢）が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。298はほぼ正位の状態で竈右袖部、299は横位の状態でP3付近の床面から



第119図 第2935号住居跡出土遺物実測図

それぞれ出土している。297は正位の状態で南壁中央部、DP28はP5付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2935号住居跡出土遺物観察表（第119図）

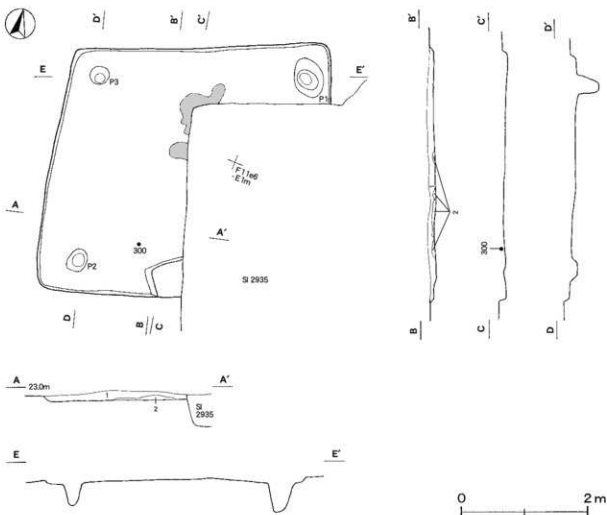
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
297	土師器	坏	136	37	-	雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ一部へう割り 内面ナデ	覆土上層	90% PL27
298	土師器	坏	110	36	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部内・外面横減	床面	80%
299	土師器	壺	208	(157)	-	長石・石英・雲母	にぶい暗	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へう割り ナデ	床面	45%

番号	器種	長さ(径)	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	土玉	1.15	1.00	0.20	1.38	土(長石)	外面ナデ		覆土上層 PL43

第2936号住居跡（第120・121図）

位置 調査区西部のF11e5区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東部を第2935号住居に掘り込まれている。



第120図 第2936号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.20m、短軸3.92mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は3～8cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、あまり踏み固められていない。南壁際に長軸65cm、短軸43cmで高さ3～4cmほどの高まりが認められた。P1・P3の中間やや南寄りの床面から焼土が確認された。

ピット 3か所。P1～P3は深さ10～57cmで、規模と位置から主柱穴である。

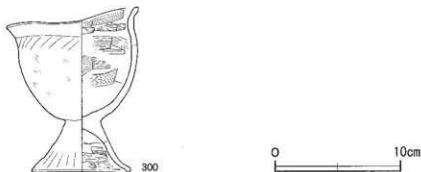
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片67点（坏24、高坏7、甕36）、混入した縄文土器片7点（深鉢）、須恵器片1点（甕）が出土している。300は横位の状態で南壁寄りの床面から出土している。

所見 確認された焼土は、位置的に炉に伴うものである。南壁際の床の高まりは、出入り口施設に伴うものと考えられる。時期は、重複関係や出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第121図 第2936号住居跡出土遺物実測図

第2936号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
300	土師器	台付甕	104	132	78	長石・雲母	明赤褐色	普通	臼縁部外面横ナデ 部・唇部外面ハケ目	体部・脚部外面ナデ 口縁部・体 床面	80%

第2937号住居跡（第122～124図）

位置 調査区西部のF11f2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2944号住居跡を掘り込み、南西コーナー部を第5733号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.52m、短軸5.08mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は37～65cmで、直立または外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

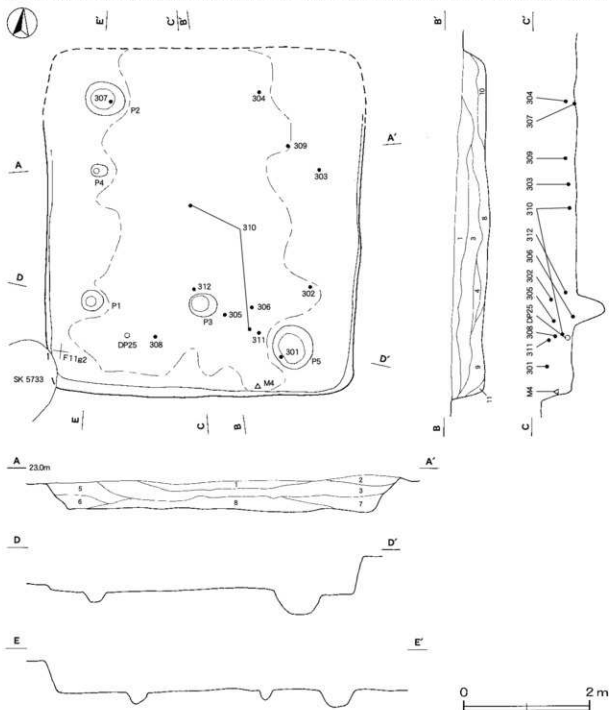
ピット 5か所。P1・P2は深さ21cm・24cmで、規模と位置から主柱穴である。P3・P4は深さ24cm・48cmで、補助柱穴である。P5は深さ36cmで、性格は不明である。

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

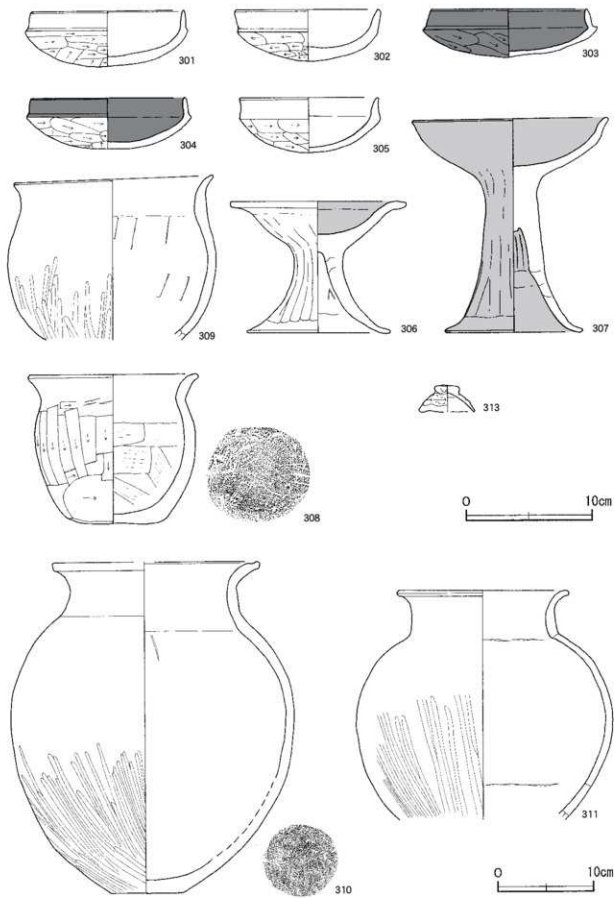
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | | |

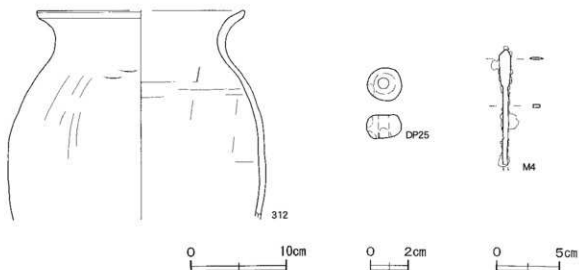
遺物出土状況 土師器片1722点（坏220、碗15、高坏67、壺3、甕1405、瓶11、ミニチュア土器1）、須惠器片15点（坏4、甕11）、土製品1点（土玉）、鉄製品1点（鐵）のほか、混入した縄文土器片3点（深鉢）、弥生土器片3点（広口壺）、土師器片15点（高台付碗2、埴3、器台10）、須惠器片2点（盤）、陶器片1点（蓋）、古銭3点が出土している。これらは住居跡の南寄りを中心として床面から覆土上層にかけて出土している。303・309は正



第122図 第2937号住居跡実測図



第123图 第2937号住居迹出土遗物实测图(1)



第124図 第2937号住居跡出土遺物実測図(2)

位の状態。304は逆位の状態で北東部の覆土下層から中層にかけて出土している。306はP 5付近の床面、307はP 2の上面からそれぞれ横位の状態で出土している。310は中央部付近とP 5付近、312はP 3付近からそれぞれ破片の状態で覆土下層から出土している。DP25はP 1付近の覆土下層から出土している。これらは廃絶時に運棄されたと考えられる。308は横位の状態で南壁寄り、M 4は南壁際の覆土中層、305は逆位の状態でP 3付近の覆土上層からそれぞれ出土している。301は逆位の状態、302は斜位の状態、311は破片の状態でP 5付近の覆土上層からそれぞれ出土している。これらの遺物は埋め戻しの過程で廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2937号住居跡出土遺物観察表(第123・124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
301	土師器	坏	121	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土上層	95% PL37	
302	土師器	坏	105	4.1	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土上層	95% PL37	
303	土師器	坏	123	3.8	-	雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面・底部ナデ	覆土下層	100% PL37	
304	土師器	坏	112	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	70%	
305	土師器	坏	110	4.3	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土上層	95%	
306	土師器	高坏	138	105	113	長石・石英・雲母	橙	普通	杯部内面ナデ 杯部・脚部外面へラナデ 脚部内面へラ削り 下半部横ナデ	床面	95% PL38	
307	土師器	高坏	153	171	107	長石	にぶい黄	普通	杯部内・外面ナデ 脚部外面へラナデ 内面上半部へラ削り 下半部横ナデ	P 2 覆土上層	80% PL38	
308	土師器	小形甕	131	118	80	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	95% PL39	
309	土師器	小形甕	157	(130)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半部横ナデ 内面へラ削り後、ナデ	覆土中層	85%	
310	土師器	甕	[21.2]	347	7.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 底部へラ削り	体部外面ナデ 下半部横ナデ	覆土下層	95% PL38
311	土師器	甕	175	(240)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半部横ナデ 内面横成	覆土上層	80%	
312	土師器	甕	[21.8]	(21.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ 内面へラ削り後、ナデ	覆土下層	45%	
313	土師器	コナマシ土器	[4.3]	2.1	(1.9)	長石・石英	にぶい黄	普通	内・外面押型押圧	P 2 覆土中	80%	

番号	器種	長さ(倍)	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP25	土玉	1.28	1.22	0.89	(3.72)	土(長石・雲母)	外面ナデ 片側穿孔 欠損有り	覆土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	皿	(96)	10	0.3	(5.6)	鉄	胴身形 両丸造 底部欠	覆土中層	

第2939号住居跡 (第125・126図)

位置 調査区西部のF11i3区、標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東壁を第2923号住居、南コーナー部を第2946号住居、南西壁を第5732号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東コーナー部付近を削平され、全容は不明である。長軸5.80m、短軸5.66mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は25cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、あまり踏み固められていない。

炉 2か所。中央部北寄りに付設されている。炉1は長径70cm、短径25cm、炉2は長径43cm、短径18cmの楕円形で、掘り込みが浅い地床炉である。炉床面は火を受けて赤変している。

ピット 7か所。P1・P2は深さ27cm・47cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は深さ26cmで、炉と向かい合う南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P4は深さ50cmで、北東壁際に位置していることから壁柱穴と考えられる。P5～P7は深さ15～71cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸163cm、短軸107cmの隅丸長方形で、深さは29cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

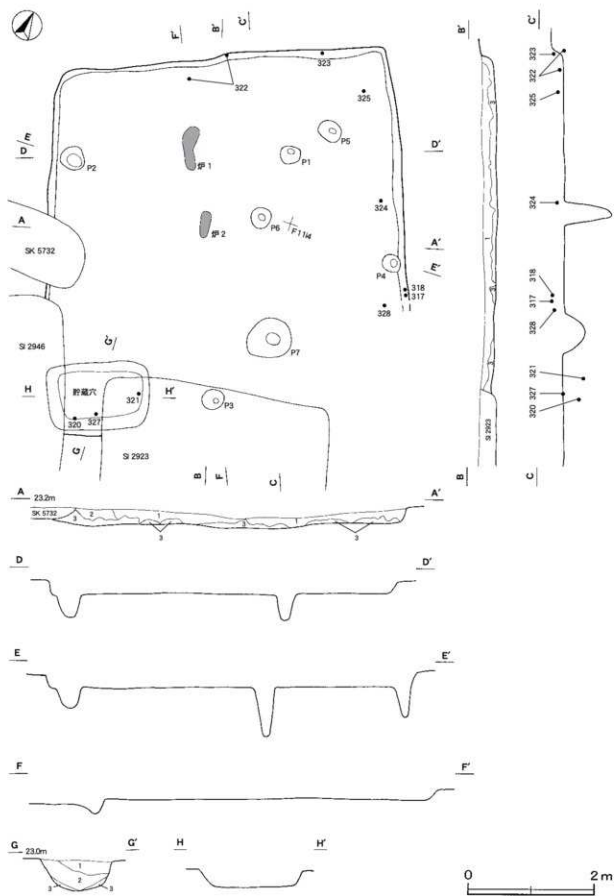
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

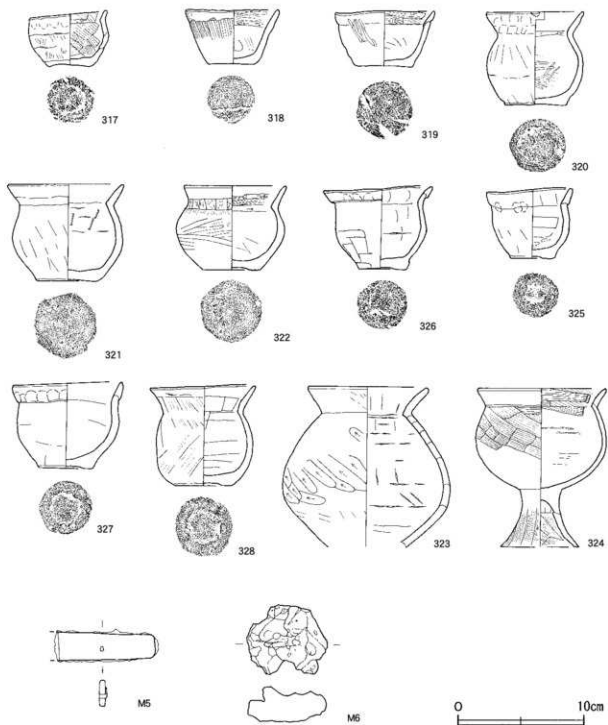
- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片704点(坏82、椀1、器台1、高坏24、鉢2、壺25、甕569)のほか、混入した縄文土器片19点(深鉢、土師器片7点(高台付椀)、須恵器片47点(坏19、高台付坏2、甕2、甕24)、鉄製品1点(刀)、鉄滓1点、瓦片4点が出土している。これらは貯蔵穴内および北西壁中央部付近を中心として北東壁中央部付近の床面から覆土上層にかけて出土している。317は正位の状態、318は横位の状態、328は逆位の状態、北東壁中央部付近の覆土上層から一括して出土している。320・321は横位の状態、貯蔵穴内の底面から覆土下層にかけて出土し、327は同じく横位の状態、覆土下層から出土している。322は正位の状態、323は横位の状態、それぞれ北西壁際の床面から出土している。324は横位の状態、北東壁際の覆土中層、325は横位の状態、北コーナー部付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本遺跡のなかで、最も標高の高い場所に位置する住居跡である。小形の土器が多数出土しており、これらは住居の廃絶時に投棄されたものである。また硬化面は確認されないことから、日常的または長期にわたって使われた可能性は低い。時期は、重複関係や出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第125图 第2939号住居跡実測图



第126図 第2939号住居跡出土遺物実測図

第2939号住居跡出土遺物観察表 (第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
317	土師器	碗	6.0	4.4	3.4	長石・雲母	橙	普通	口縁部・体部内面ハケ目 口縁部外面指頭押圧 体部外面・底部ナデ	覆土上層	80%
318	土師器	鉢	7.3	4.4	3.7	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内面ハケ目 外面ナデ 体部外面ハケ目 内面・底部ナデ	覆土上層	90%
319	土師器	鉢	7.9	4.5	4.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部・体部外面ナデ一部磨き 口縁部内面ハケ目 体部内面・底部ナデ	覆土中	95%
320	土師器	壺	7.8	7.5	4.9	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面指頭押圧 内面ナデ 体部外面ナデ 内面ナデ一部磨き 底部ナデ	貯蔵穴	95% PL38

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
321	土師器	壺	9.1	7.7	4.9	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 底部ナデ	貯蔵穴	300% PL38
322	土師器	壺	8.0	6.7	4.5	長石・石英	明褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 底部ナデ	床面	70%
323	土師器	壺	9.3	1120	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ後、ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	90% PL39
324	土師器	台付壺	100	125	(63)	長石・石英	明褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	85%
325	土師器	小形壺	6.7	5.6	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ナデ一部ナデ	覆土中層	300%
326	土師器	小形壺	8.6	6.6	3.7	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土中層	95% PL38
327	土師器	小形壺	8.5	6.9	4.1	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面指頭押圧横ナデ 内面横ナデ 体部内外面横ナデ	覆土下層	100% PL38
328	土師器	小形壺	8.3	8.0	4.6	長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 底部ナデ	覆土上層	95% PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	刀	(R2)	2.3	0.5	(450)	鉄	刀身部欠 目釘孔1 基尻は直尻	覆土上層	PL46
M6	鉄斧	5.5	6.4	2.7	97.1	-	扁状	覆土上層	PL46

第2940号住居跡 (第127～129図)

位置 調査区西部のF11c2区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2972号住居跡を掘り込み、南西壁南側を第2941号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.72m、短軸6.42mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は48～56cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北西壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅51cmである。袖部は地山の上に砂質粘土混じりのロームを積み上げて構築されている。第8～11層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き17cm、幅79cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、煙道部寄りに支脚を設置している。火床面は火を受けて赤変硬化している。第1層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------------|----|-----|----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量 | 11 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土粒子微量 | | | |
| 6 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土粒子微量 | | | |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | | | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ50～72cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ23cm・30cmで、南東壁際の中央部付近に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

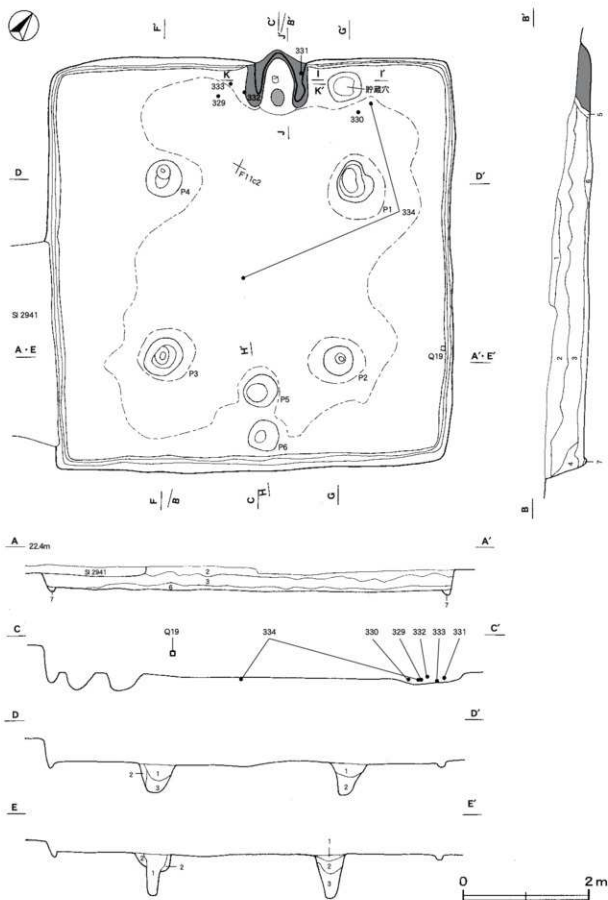
- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | | |

貯蔵穴 竈の右側に付設されている。長径55cm、短径45cmの楕円形で、深さは25cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

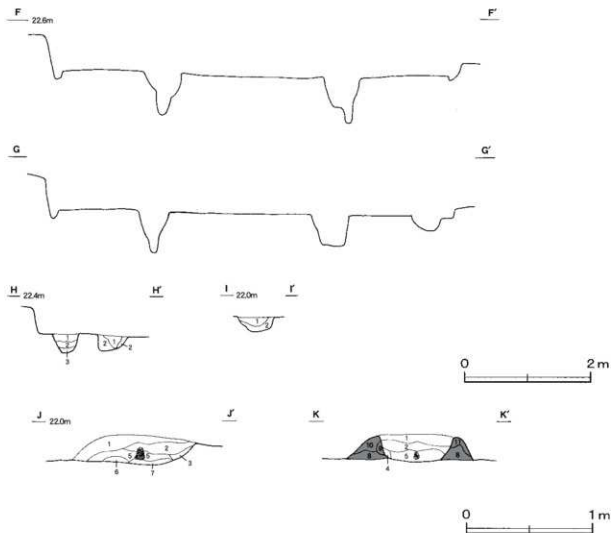
貯蔵穴土層解説

- | | | | | | |
|---|------|---------------------|---|----|------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 2 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|---|------|---------------------|---|----|------------------|

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第127图 第2940号住居跡実測图(1)



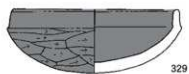
第128図 第2940号住居跡実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1534点(坏198, 碗21, 高坏30, 甕1282, 瓶3), 須恵器片7点(坏2, 蓋4, 瓶1), 土製品1点(支脚), 石製品1点(紡錘車)のほか, 混入した縄文土器片45点(深鉢), 土師器片8点(高台付碗6, 器台2)が出土している。これらは竈周辺および中央部付近を中心として床面から覆土下層にかけて出土している。329・332は正位の状態, 333は横位の状態で竈左側の床面から覆土下層にかけて, 331は正位の状態で竈右側からそれぞれ出土している。330は正位の状態, 334は横位の状態で貯蔵穴付近の床面から出土し, 中央部付近の床面から出土した破片と接合している。これらは廃絶時に遺棄されたものである。Q19は北東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から7世紀前葉に比定できる。



329



330



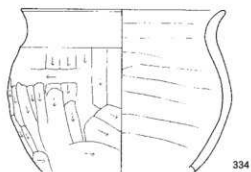
331



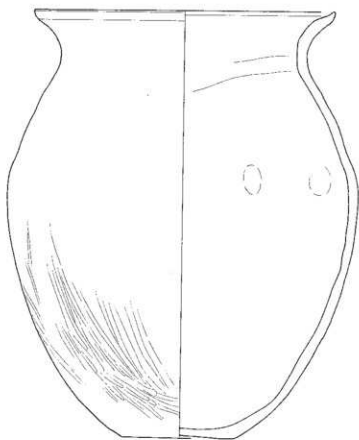
332



Q19



334



333



第129图 第2940号住居跡出土遺物実測図

第2940号住居跡出土遺物観察表 (第129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地肌	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
329	土師器	坏	1132	5.1	-	長石・石英・雲母	に灰・黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部厚減	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	90%
330	土師器	坏	121	4.6	-	長石・石英	に灰・黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部厚減	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	95% PL29
331	土師器	坏	1134	4.9	-	長石・石英・雲母	に灰・黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部厚減	体部外面へう割り 内面ナデ	敷物部	80%
332	土師器	坏	-	3.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部厚減	体部外面へう割り 内面ナデ 底部へう割り	覆土下層	95% PL29
333	土師器	甕	241	34.5	9.2	長石・石英	に灰・黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ 内部ナデ一部内部厚減	体部外面ナデ 下半部磨き	覆土下層	60%
334	土師器	甕	161	13.1	-	長石・石英	に灰・黄緑	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面へう割り 内面ナデ	床面	42%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	結核車	4.3	1.20	0.80	36.7	滑石	全面研磨 一方からの穿孔	覆土上層	PL45

第2942号住居跡 (第130図)

位置 調査区西部のF11g6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

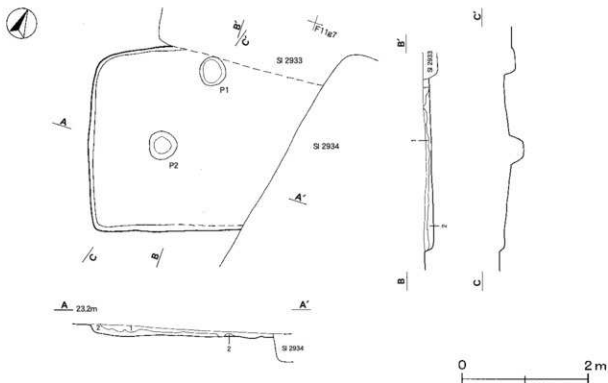
重複関係 東壁を2934号住居、北壁を第2933号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は3.70m、南北軸は2.90mしか確認できなかったが、主軸方向N-60°-Eの長方形と推測できる。壁高は6~16cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

ピット 2か所。P1・P2は深さ18cm・29cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第130図 第2942号住居跡実測図

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片11点(甕)のほか、混入した土師器片1点(高台付坏)、須恵器片4点(坏1, 甕3)が出土している。遺物は細片のため、図化できない。

所見 時期は、重複関係から2933号住居より古い古墳時代と考えられる。

第2943号住居跡 (第131・132図)

位置 調査区中央部のF12e4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5753号土坑を掘り込み、西側を第2920・2929号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸5.56m、確認できた東西軸は3.98mで方形または長方形と推測でき、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は18~32cmで、直立している。

床 若干起伏があり、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。焚口部から煙道部まで109cm、燃焼部幅43cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込み、砂質粘土混じりのロームを充填した上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第6・7・11・12層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き54cm、幅89cm掘り込み、砂質粘土混じりのロームを貼って構築されている。火床部は7cm掘り込んで砂質粘土混じりのロームを充填して構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、火を受けて赤変している。第5・8~10層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量

7 褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量

2 暗褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量

8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量

3 暗黄褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

9 褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量

4 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量

10 におい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量

5 褐色 ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量

11 におい黄褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量

6 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量

12 におい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 3か所。P1・P2は深さ22cm・25cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は深さ21cmで、竈と向かい合う南壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

3 極暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

5 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

6 におい褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量

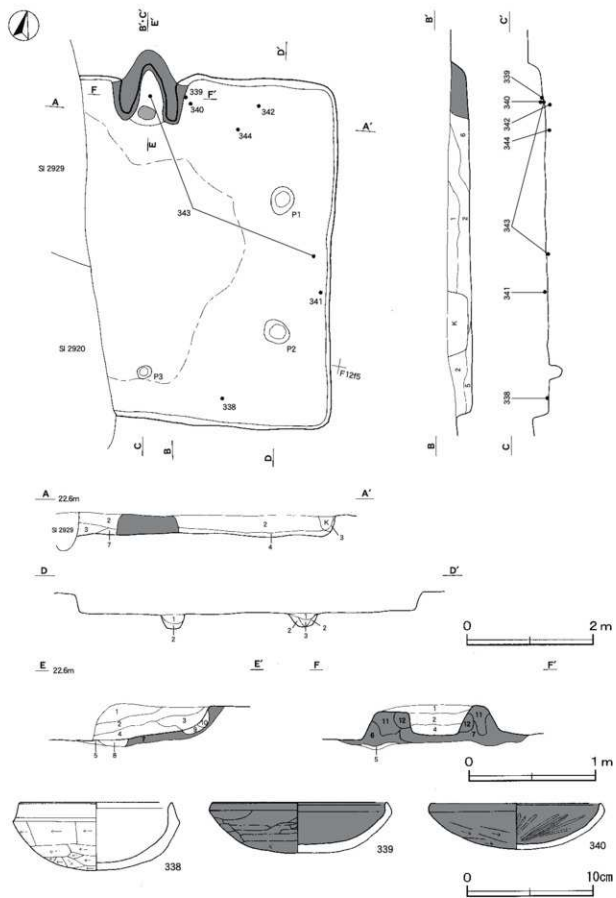
3 暗褐色 ロームブロック中量

7 暗灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量

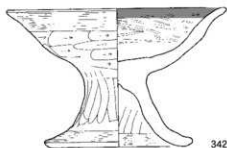
4 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量(2より暗)

遺物出土状況 土師器片350点(坏143, 碗3, 高坏20, 甕184)、須恵器片3点(甕)のほか、混入した縄文土器片6点(深鉢)、土師器片7点(高台付碗1, 埴5, 器台1)が出土している。これらは北寄りの床面から覆土下層にかけて出土している。338は逆位の状態で南壁寄りの覆土下層、339・340は正位の状態で竈右側の床面からそれぞれ出土している。342は横位の状態で北壁際の床面、343は坏部片が竈火床面、脚部片が東壁際の床面からそれぞれ出土している。344は正位の状態で北壁寄りの床面から出土している。

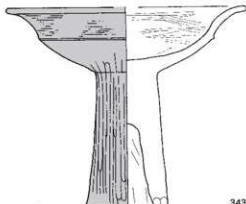
所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀中葉に比定できる。



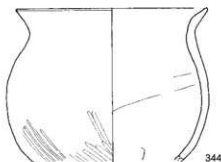
第131图 第2943号住居跡・出土物実測図



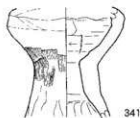
342



343



344



341



第132図 第2943号住居跡出土遺物実測図

第2943号住居跡出土遺物観察表 (第131・132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
308	土師器	坏	120	54	-	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面ナデ	覆土下層	100% PL39
309	土師器	坏	139	40	-	長石・石美・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底部へう削り	床面	100% PL39
340	土師器	坏	135	37	-	長石・石美・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面ナデ	床面	90%
341	土師器	瓶繫器片	-	(86)	-	長石・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ ナデ 内面ナデ	覆土下層	50%
342	土師器	高坏	171	109	110	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 耳部外面へう削り、内面磨き 體部外面へうナデ、内面ナデ	床面	70%
343	土師器	高坏 (188)	(158)	(158)	-	長石・石美	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 耳部外面ナデ、内面磨き 體部外面へうナデ、内面へう削り	礎火床面	60%
344	土師器	小形壺	151	(122)	-	長石・石美・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下部磨き 内面へう削り後、ナデ	床面	30%

第2944号住居跡 (第133・134図)

位置 調査区西部のF11f2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 中央部から南壁を第2937号住居、南西コーナー部を第2938号住居、第5733号土坑、北壁中央部を第5736号土坑に掘り込まれている。

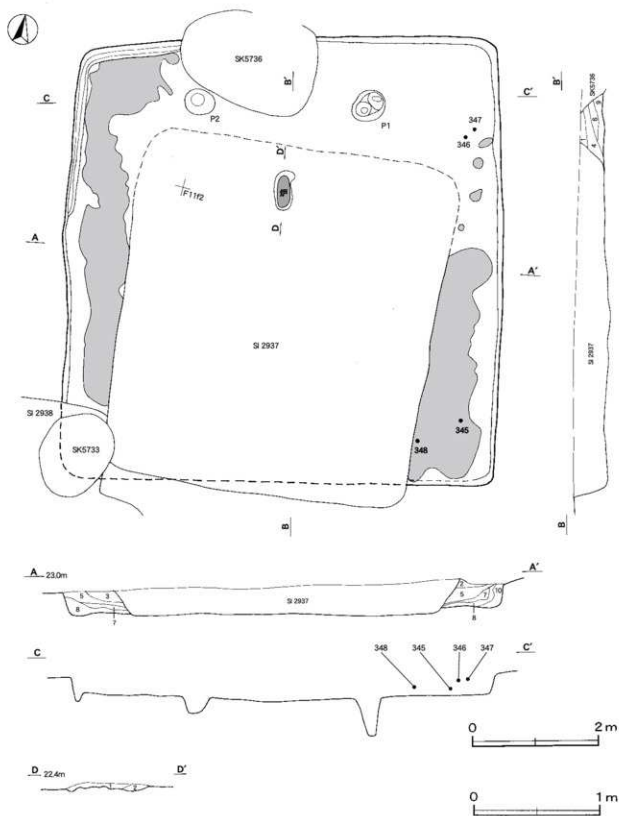
規模と形状 長軸7.15m、短軸6.95mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は23~30cmで、直立している。

床 ほほ平坦である。壁溝が北西コーナー部付近を巡っている。壁寄りの床面から焼土が確認された。

炉 中央部付近北寄りに付設されている。長径62cm、短径27cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくはめて炉床とした地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子微量



第133図 第2944号住居跡実測図

ピット 2か所。P1・P2は深さ32cm・61cmで、規模と位置から主柱穴である。

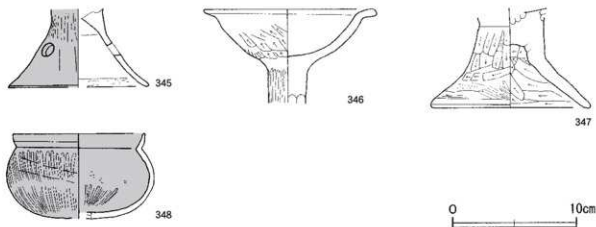
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックまたは焼土を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 7 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 焼土ブロック多量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片81点（器台1、高坏10、壺1、甕68、瓶1）のほか、混入した縄文土器片6点（深鉢）が出土している。345は斜位の状態、348は逆位の状態で開催コーナー部付近の覆土下層から出土している。346は逆位の状態、347はほぼ正位の状態で開催北寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 床面に焼土が堆積していることから焼失住居である。時期は、重複関係や出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第134図 第2944号住居跡出土遺物実測図

第2944号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
345	土師器	器台	-	(63)	(112)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	脚部外面磨き 脚部外面下縁・内面ナデ 三方向の透	覆土下層	30%
346	土師器	高坏	137	(76)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面ナデ 外部外面ヘラ削り 内面ナデ 脚部外面磨き	覆土中層	50%
347	土師器	高坏	-	(81)	126	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外部内面ナデ 脚部内・外面ヘラ削り	覆土中層	50%
348	土師器	短頸壺	106	69	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面ナデ 外部外面磨き 内面ナデ後、磨き	覆土下層	70%

第2948号住居跡（第135図）

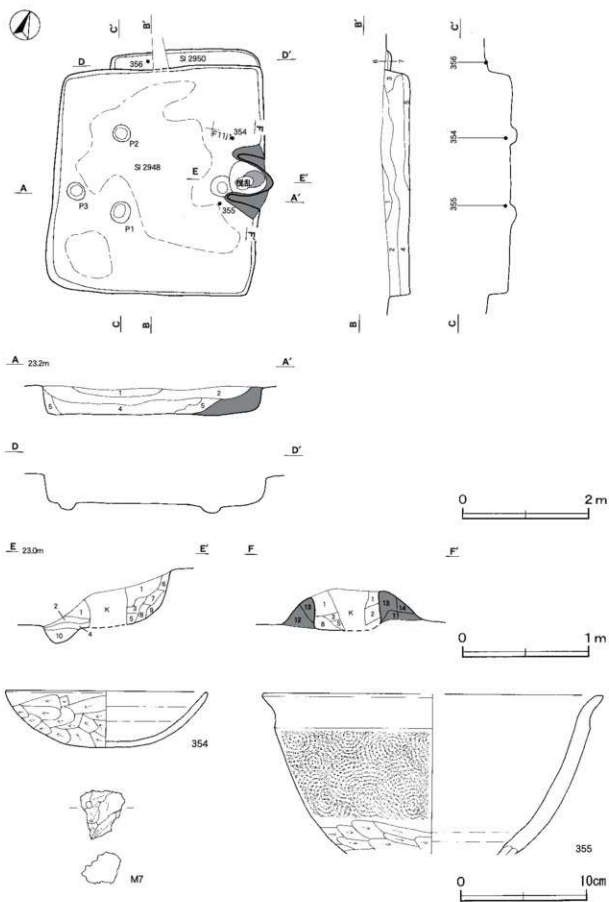
位置 調査区西部のF10[0]区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2950号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.60m、短軸3.30mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁高は42~44cmで、直立している。

床 はほぼ平坦で、中央部付近が踏み固められている。

竈 北東壁中央部やや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅51cmである。袖部は地山の上に砂質粘土混じりのロームを積み上げて構築されている。第11~14層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ奥行き71cm、幅29cm掘り込んで構築されている。火床部は一部後世の攪乱を受けているが、床面とは



第135图 第2948·2950号住居跡, 第2948号住居跡出土遺物実測図

ほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

1 灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	9 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	10 褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 暗 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量	11 褐色	ロームブロック中量
5 暗 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐色	ローム粒子中量	13 暗 赤褐色	砂質粘土粒子中量
7 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 3か所。P1・P2は深さ10cm・13cmで、位置から主柱穴である。P3は深さ11cmで、竈と向き合う西壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 暗 褐色	ロームブロック微量
2 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片285点（坏39、高坏1、甕218、甌27）、須恵器片13点（坏6、蓋1、高坏1、甕5）、鉄滓1点のほか、混入した縄文土器片12点（深鉢）、須恵器片1点（盤）が出土している。これらは北側の覆土下層から上層にかけて出土している。354は正位の状態で竈左袖部付近、355は同じく右袖部の覆土下層からそれぞれ出土している。M7は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から7世紀後葉に比定できる。

第2948号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
354	土師器	坏	158	45	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へう削り 内面ナテ	竈左袖部	90%
355	須恵器	鉢	[268]	[127]	-	長石・石英・灰母	灰	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面同心厚削り 内面ナテ	下層へ覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	鉄滓	39	3.5	2.5	38	-	輪状	覆土中	

第2950号住居跡（第135・136図）

位置 調査区西部のF10j0区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 大半を第2948号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は2.34mで、南北軸は0.28mしか確認できなかったが、主軸方向はN-76°-Eの方形と推測できる。壁高は6~12cmで、直立している。

床 ほぼ平坦である。

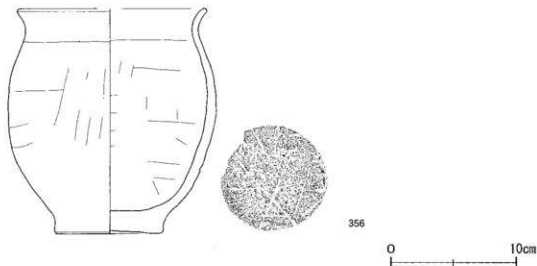
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

6 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
------	------------------	------	-----------------------

遺物出土状況 土師器片20点（甕）、須恵器片1点（甕）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）が出土している。356は横位の状態では壁際の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第136図 第2950号住居跡出土遺物実測図

第2950号住居跡出土遺物観察表 (第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
356	土師器	甕	(147)	179	82	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 底・ナデ 底部土着	体部外面ナデ 内面ヘラ削り	床面	69%

第2971号住居跡 (第137・138図)

位置 調査区中央部のF12b4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2930号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.20m、短軸8.12mの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は4~40cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、踏み固められている。壁溝が竈周辺を除いて巡っている。P2付近及びP2・P3の中間付近の床面から粘土が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。火床部しか遺存してなく、袖部の状況は不明である。焚口部から煙道部まで148cm、燃焼部幅58cmである。煙道部は壁外へ奥行き35cm、幅50cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面はあまり赤変していない。

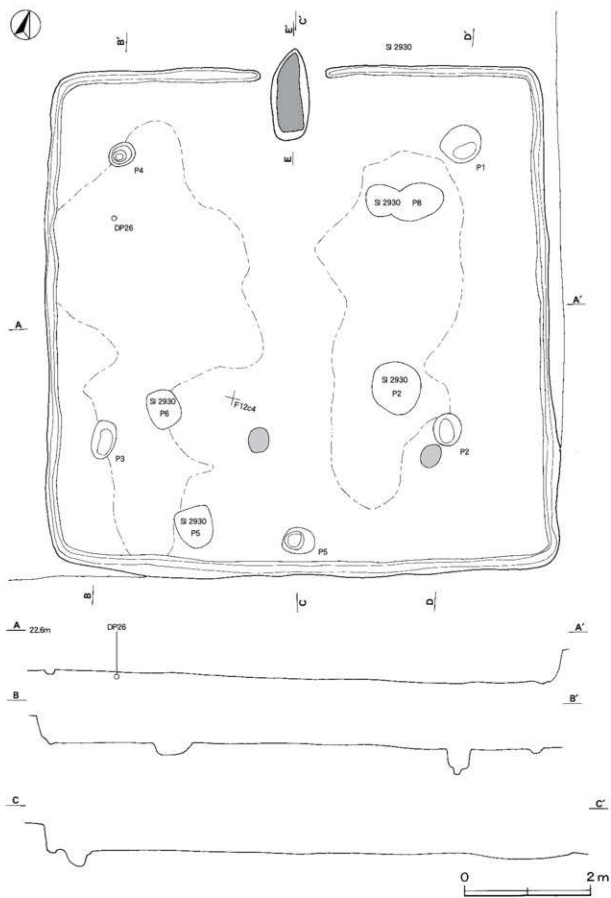
甕土層解説

- 1 陶色 ロームブロック中量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

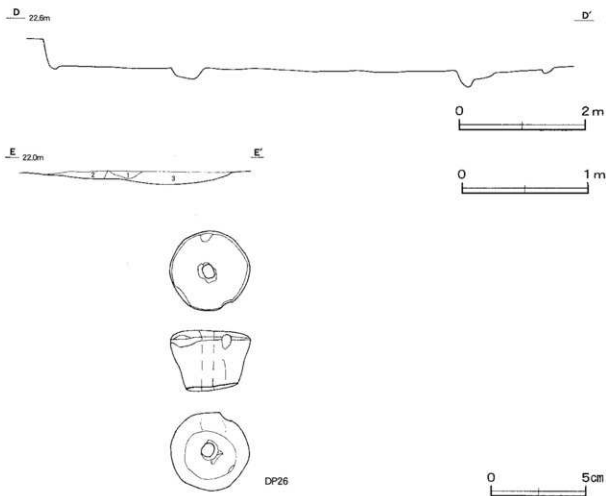
ピット 5か所。P1~P4は深さ19~31cmで、位置と規模から主柱穴である。P5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

遺物出土状況 土師器片52点(坏19、高坏1、甕20、甌12)、土製品1点(紡錘車)が出土している。DP26はP4付近の床面から出土している。

所見 本跡の東壁から南壁は第2930号住居跡の壁とほぼ一致し、主軸方向もほぼ同一である。時期は、重複関係や出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第137图 第2971号住居跡実測図



第138図 第2971号住居跡・出土遺物実測図

第2971号住居跡出土遺物観察表 (第138図)

番号	部 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP26	焼罎	4.1	3.1	0.70	51.1	土 (炭石・石英)	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL43

第2972号住居跡 (第139・140図)

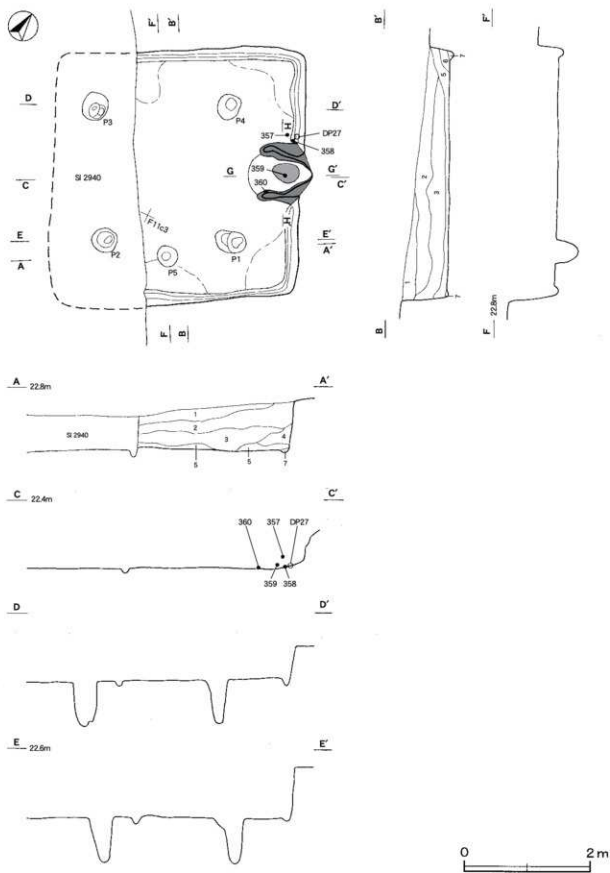
位置 調査区西部のF11b3区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 南西壁を第2940号住居に掘り込まれている。

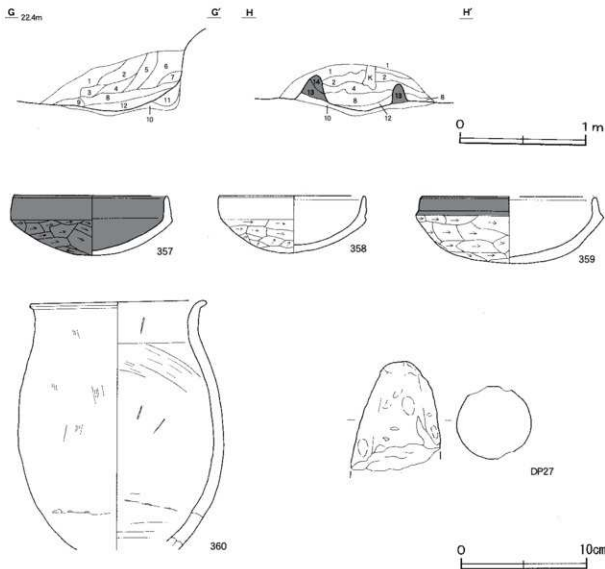
規模と形状 南北軸は4.02mで、東西軸は2.70mしか確認できなかったが、主軸方向はN-66°-Eの方形と推測できる。壁高は52~80cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が確認した壁際を巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで102cm、燃烧部幅55cmである。袖部は5~7cm地山を掘り込んでロームを充填した上に、右袖部は土師器甕を補強材としてローム混じりの砂質粘土を積み上げて構築されている。第13・14層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き18cm、幅67cm掘り込んで構築されている。火床部は3~6cm掘り込んでロームを充填して構築され、火床面は床面とほぼ同じ高さで、火を受けて赤変している。第3層は天井部の崩落土、第10・11層は掘方への埋土である。



第139图 第2972号住居跡実測図



第140図 第2972号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 11 黒暗褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 | 13 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 14 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 7 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ68～70cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ28cmで、P1・P2間のやや南壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
4	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片121点（坏33、高坏2、甕86）、須恵器片2点（坏）、土製品1点（支脚）のほか、混入した縄文土器片5点（深鉢）が出土している。357は斜位、358は正位の状態で見られる。359は正位の状態で見られる。360は甕袖部の補強材として用いられている。DP27は甕左側の壁溝の覆土層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2972号住居跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか			出土位置	備考
357	土師器	坏	121	4.8	-	長石・石英	にふい青碧	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り	内面ナデ	甕土中層	90% PL39
358	土師器	坏	114	4.6	-	石英・雲母	にふい青碧	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り	内面ナデ	床面	90% PL39
359	土師器	坏	113(6)	5.3	-	長石・石英・赤色粒子	にふい青	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り	内面ナデ	甕火床面	80%
360	土師器	甕	138	(199)	-	長石・雲母・赤色粒子	にふい青碧	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部外面ナデ	内面ヘラ削り	甕右袖部	85% PL39

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴			出土位置	備考
1422	支脚	(88)	30	(71)	(257)	土(雲母)	外面ナデ一部割面押圧			床溝	

表2 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形状	長機(m) (長軸×短軸)	床面積 (㎡)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期		
									土柱 (柱1)	土柱 (柱2)	礎石 (礎)					
2876	E1306	N-3°-W	方形	4.88 × 4.85	237	22-30	平型	全周	4	1	-	-	覆1	人為	土師器片、須恵器片	6世紀中葉
2877	E1305	N-60°-W	方形	4.70 × 4.64	21.8	8-64	平型	全周	4	1	1	-	覆1	自然	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀後葉
2878	F14c4	N-76°-E	長方形	3.85 × 3.54	14.3	20-38	平型	全周	-	-	-	-	覆1	人為	土師器片、須恵器片	6世紀前葉
2879	F13b2	N-87°-W	[長方形]	5.85 × 5.20	30.4	10-42	平型	一部	4	1	3	-	伊4	人為	土師器片、土製品	4世紀前葉
2880	E126	N-20°-W	方形	5.50 × 5.30	29.2	34-40	平型	全周	4	1	-	1	覆1	人為	土師器片、須恵器片、土製品	7世紀中葉
2881	F13a8	N-16°-E	方形	4.13 × 4.10	16.9	13-39	平型	全周	1	1	3	1	伊1	人為	土師器片	4世紀後葉
2882	E1302	N-8°-W	長方形	4.68 × 4.18	19.6	31-51	平型	全周	8	2	5	-	覆1	人為	土師器片	7世紀前葉
2883	F13a1	N-15°-W	長方形	4.60 × 4.08	18.8	16-22	平型	一部	3	1	2	-	覆1	人為	土師器片、土製品	6世紀中葉
2884	E1307	N-14°-W	方形	2.87 × 2.64	7.6	42-64	平型	-	-	1	-	-	覆1	人為	土師器片、鉄器	6世紀中葉
2885	F14b1	N-16°-E	方形	3.82 × 3.40	13.0	27-30	平型	全周	-	2	-	1	伊2	人為	土師器片	4世紀中葉
2886	F13a7	N-28°-E	方形	4.50 × 4.34	19.5	20-32	平型	-	3	1	1	1	伊2	人為	土師器片、須恵器片	5世紀中葉
2887	F13a5	N-65°-E	方形	4.10 × 4.05	16.6	33-39	平型	全周	2	-	4	-	覆1	人為	土師器片	7世紀中葉
2888	E12b4	N-83°-E	方形	4.16 × 4.00	16.6	26-51	平型	全周	4	1	1	1	覆1	人為	土師器片、須恵器片、土製品、石製品	6世紀中葉
2889	F1108	N-12°-W	方形	6.46 × 6.18	39.9	35-45	平型	全周	4	1	1	1	覆1	人為	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀中葉
2890	E126	N-80°-E	-	2.40 × 1.92	(46)	4	平型	-	-	-	-	-	覆1	-	土師器片	6世紀後葉
2891	E131	N-10°-W	方形	4.00 × 3.85	15.4	36-42	平型	全周	-	1	1	-	覆1	自然	土師器片	6世紀後葉
2892	E12b9	N-28°-W	方形	5.56 × 5.39	30.0	18-45	平型	全周	4	2	-	-	覆1	自然	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀後葉
2893	F14c1	N-14°-W	[長方形]	5.96 × 5.16	(30.8)	34-83	平型	全周	3	-	-	-	覆1	自然	土師器片、須恵器片	6世紀前葉
2894	F13a5	N-17°-E	[長方形]	6.90 × 3.90	(26.9)	21-48	平型	一部	-	-	8	-	-	人為	土師器片、土製品、石製品	4世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	床面積 (㎡)	壁高 (cm)	床面	階高	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期		
									柱礎	土口	土口	土口					
2897	F12a0	N-2°-W	方形	460 × 446	305	40-60	平坦	全周	4	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品 石製品	7世紀前期		
2898	E1200	N-9°-W	方形	806 × 778	627	25-30	平坦	一部	3	2	3	1	-	葦1	土師器片、石製品	6世紀前期	
2899	E12a5	N-5°-W	長方形	430 × 344	148	24-44	平坦	全周	-	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品 石製品	7世紀前期		
2900	F12a0	N-4°-E	[長方形]	496 × 378	(187)	10-20	凹凸	-	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	6世紀中葉		
2902	F12a1	N-4°-W	[方形]	600 × (588)	353	36-55	凹凸	-	-	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	7世紀中葉	
2903	F110	N-11°-E	長方形	460 × 408	188	11-27	凹凸	-	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	古墳時代後期		
2904	F12a0	N-30°-W	長方形	326 × 288	99	8-20	凹凸	全周	2	2	2	-	伊2	土師器片	4世紀中葉		
2905	F12a5	N-5°-W	方形	611 × 601	367	25-60	平坦	(全周)	3	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀後葉		
2906	F12a1	N-5°-W	方形	584 × 570	333	21-42	平坦	-	-	-	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、石製品	7世紀前期	
2907	F11a9	N-19°-W	[長方形]	440 × 380	167	5-20	凹凸	-	-	-	-	-	伊1	土師器片	4世紀中葉		
2908	F11a6	N-29°-W	方形	668 × 662	442	15-35	凹凸	全周	4	2	-	1	伊4	土師器片	4世紀後葉		
2909	F12a2	N-12°-E	方形	330 × 305	101	22-39	平坦	一部	-	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	古墳時代前期		
2911	F12a3	N-14°-W	方形	605 × (582)	(352)	35-44	平坦	全周	2	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀前期	
2912	F11a6	N-15°-E	方形	438 × 438	192	30-65	平坦	全周	4	2	-	1	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	7世紀前期	
2914	E12a2	N-9°-W	方形	498 × 460	229	20-29	平坦	全周	4	2	-	-	-	葦1	土師器片、土製品	7世紀前期	
2915	E12a1	N-6°-W	方形	456 × 428	195	40-56	平坦	全周	4	1	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀中葉	
2916	F11a6	N-8°-W	方形	396 × 396	157	20-67	平坦	全周	4	1	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	7世紀前期	
2917	F11a7	N-13°-W	[長方形]	684 × (480)	(328)	20-36	平坦	-	2	1	2	-	-	-	葦1	土師器片、土製品	4世紀前期
2918	F11a8	N-12°-W	方形	808 × 795	642	26-66	平坦	(全周)	4	1	2	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀中葉
2919	F12a2	N-27°-W	[長方形]	567 × (397)	(225)	12-29	平坦	(全周)	2	-	1	-	伊1	土師器片、土製品	4世紀前期		
2921	F12a1	N-11°-E	長方形	405 × 365	148	22-37	平坦	一部	4	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	6世紀中葉		
2922	F11a6	N-9°-W	[方形]	343 × 295	101	40-58	平坦	-	-	-	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、石製品	6世紀前期	
2924	F12a2	N-27°-W	[方形]	660 × 646	426	14-23	平坦	一部	2	-	-	-	伊1	土師器片	5世紀後葉		
2926	F12a7	N-15°-W	長方形	725 × 596	432	14-40	平坦	(全周)	4	1	12	2	伊1	土師器片	4世紀中葉		
2927	F12a4	N-3°-E	[長方形]	655 × (475)	(311)	25-70	平坦	(全周)	-	-	3	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	6世紀中葉
2928	F11a8	N-0°	方形	481 × 440	212	44-66	平坦	全周	4	1	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀後葉	
2929	F12a2	N-17°-W	方形	724 × 716	518	15-57	平坦	全周	4	1	-	-	-	-	葦1	土師器片、土製品	6世紀後葉
2930	F12a3	N-15°-W	方形	7200 × 1178	1414	20-70	平坦	全周	8	1	5	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品 石製品、鉄滓	6世紀後葉
2931	F12a1	N-0°	方形	928 × 912	846	20-50	平坦	(全周)	4	2	2	1	-	-	葦1	土師器片	6世紀中葉
2932	F11a4	N-19°-W	方形	594 × 592	352	42-66	平坦	全周	4	1	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品 石製品、鉄滓	6世紀中葉
2934	F11a7	N-9°-E	方形	820 × 800	637	28-33	平坦	全周	4	1	2	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	7世紀前期
2935	F11a6	N-19°-W	方形	490 × 477	234	30-50	平坦	全周	4	1	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀後葉
2936	F11a5	N-20°-W	[方形]	420 × 392	165	3-8	平坦	-	3	-	-	-	-	-	葦1	土師器片	4世紀中葉
2937	F11a2	N-12°-W	[方形]	552 × 508	(280)	37-65	平坦	-	3	-	2	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品 鉄製品	6世紀中葉
2939	F11a3	N-19°-W	[方形]	580 × 566	(328)	25	平坦	-	1	1	5	1	伊2	土師器片、鉄製品、鉄滓	4世紀中葉		
2940	F11a2	N-27°-W	方形	672 × 642	431	48-56	平坦	全周	4	2	-	1	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品 石製品	7世紀前期
2942	F11a6	N-60°-E	[長方形]	(370) × (290)	(107)	6-16	平坦	-	-	-	2	-	-	-	葦1	土師器片	古墳時代
2943	F12a4	N-10°-W	[方形-長方形]	556 × (398)	(221)	18-32	平坦	-	2	1	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	6世紀中葉
2944	F11a2	N-11°-W	[方形]	715 × 695	497	23-30	平坦	-	2	-	-	-	伊1	土師器片	4世紀後葉		
2948	F100	N-75°-E	方形	360 × 330	119	42-44	平坦	-	2	1	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、鉄滓	7世紀後葉
2950	F100	N-76°-E	[方形]	(234) × (228)	(97)	6-12	平坦	-	-	-	-	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片	古墳時代後期
2971	F12a4	N-14°-W	方形	820 × 812	666	4-40	平坦	全周	4	1	-	-	-	-	葦1	土師器片、土製品	古墳時代後期
2972	F11a3	N-66°-E	[長方形]	402 × (270)	(109)	52-80	平坦	(全周)	4	-	1	-	-	-	葦1	土師器片、須恵器片、土製品	6世紀後葉

(2) 土坑

第5699号土坑 (第141図)

位置 調査区東部のE14i3区、標高18mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径5.28m、短径2.84mの不定形で、長径方向はN-30°-Wである。深さは30~44cmで、底面には起伏があり、壁は緩やかに立ち上がっている。

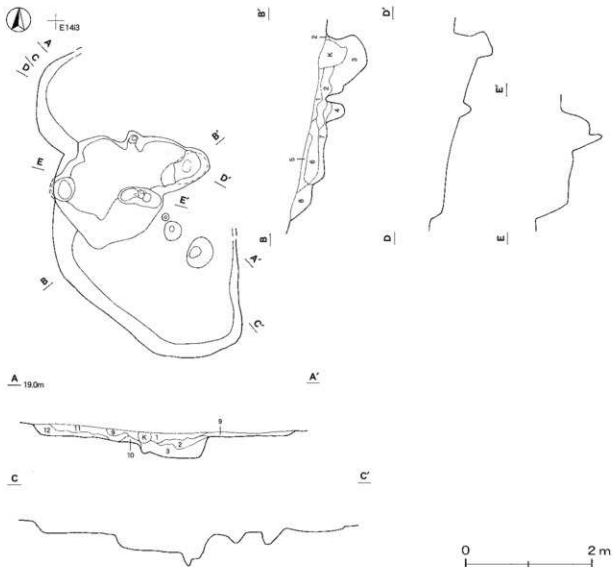
覆土 12層に分層できる。ロームブロックまたは砂質粘土を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	7 暗 灰 黄色	砂質粘土ブロック多量
2 黒 褐色	砂質粘土粒子少量	8 暗 褐色	砂質粘土ブロック少量
3 暗 灰 黄色	砂質粘土ブロック中量	9 濃い黄褐色	砂質粘土ブロック多量
4 暗ネリブ色	砂質粘土ブロック中量	10 暗 褐色	ロームブロック少量
5 黄 灰色	砂質粘土粒子中量	11 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
6 黄 灰色	砂質粘土ブロック中量	12 黄 褐色	砂質粘土粒子多量

遺物出土状況 土師器片32点(坏1, 壺1, 高坏1, 甕29)が出土している。遺物は細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代と推測できる。



第141図 第5699号土坑実測図

第5701号土坑 (第142図)

位置 調査区東部のF14b5区、標高18mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 南北径は5.60mで、東西径は2.26mしか確認できない。長径方向はN-18°-Wと推定できる。深さは68cm、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

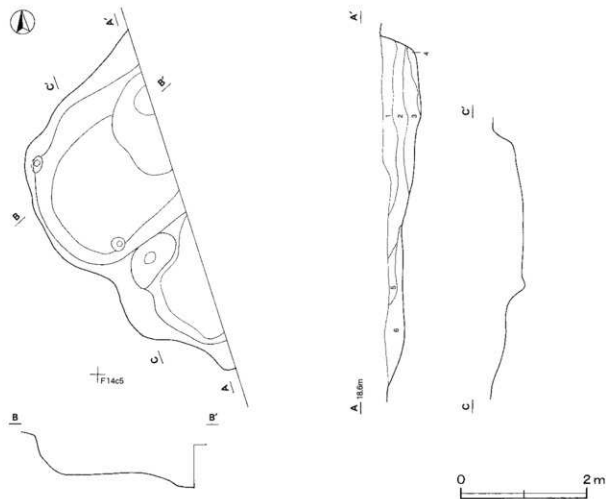
覆土 6層に分層できる。ロームブロックまたは粘土を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック少量 | 4 黄褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 3 浅黄褐色 | 白色粘土粒子多量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片25点(坏5、甕20)が出土している。遺物は細片のため図化できない。甕片にはハケ目調整が施されている。

所見 時期は、出土土器片の特徴から古墳時代と推測できる。



第142図 第5701号土坑実測図

第5705号土坑 (第143図)

位置 調査区東部のE12b9区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2892・2898号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.00m、短軸1.38mの長方形で、長軸方向はN-48°-Wである。深さは54cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

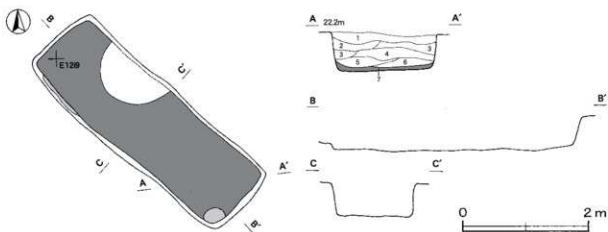
覆土 7層に分層できる。大半の層に炭化粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 濃い赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子・赤色粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化物多量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子多量 | | |

遺物出土状況 土師器片44点（坏9、高坏1、甕30、甌4）、須恵器片1点（坏）のほか、混入した縄文土器片3点（深鉢）が出土している。遺物は細片のため図化できない。甕の口縁部片は常総甕の特徴が認められる。

所見 底面に焼土と炭化材が堆積している。時期は、出土土器片の特徴から古墳時代と推測できる。



第143図 第5705号土坑実測図

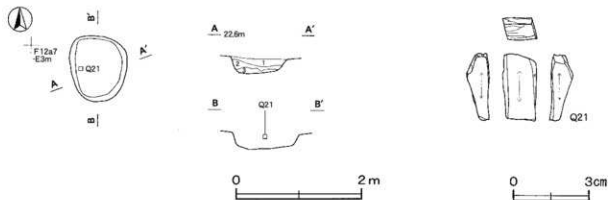
第5712号土坑（第144図）

位置 調査区中央部のF12a7区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2926号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.03m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは25cm、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第144図 第5712号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片7点（坏1， 碗1， 甕5），石器1点（砥石）が出土している。Q21は覆土上層から出土している。甕片にはハケ目調整が見られる。

所見 時期は、重複関係と土器片の特徴から古墳時代と推測できる。

第5712号土坑出土遺物観察表（第144図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	砥石	53	27	19	289	粘板岩	砥面3面	覆土上層	

第5715号土坑（第145図）

位置 調査区中央部のF12d4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.88m、短径1.58mの楕円形で、長径方向はN-47°-Eである。深さは30cm、底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。

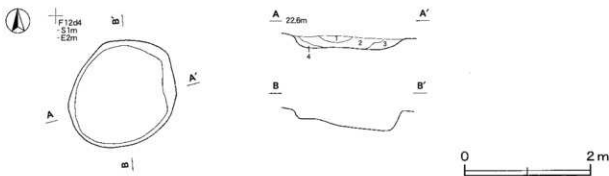
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
 2 極暗褐色 ロームブロック少量 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片14点（坏7， 甕7）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）が出土している。遺物は細片のため図化できない。坏片には体部と口縁部の境に稜があり、内面に黒色処理が施されているものが見られる。

所見 時期は、出土土器の特徴から古墳時代後期と推測できる。



第145図 第5715号土坑実測図

第5731号土坑（第146図）

位置 調査区中央部のF12a2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2930号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.78m、短軸0.98mの長方形で、長軸方向はN-26°-Eである。深さは28cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

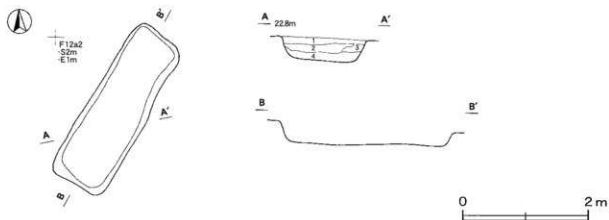
覆土 4層に分層できる。炭化粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量 | 4 黒褐色 炭化粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片18点（坏4、高坏1、甕13）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）が出土している。遺物は細片のため固化できない。

所見 時期は、重複関係と土器片の様相から古墳時代と推測できる。



第146図 第5731号土坑実測図

第5736号土坑（第147図）

位置 調査区西部のF11e2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2944号住居跡、第5743号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.21m、短径1.78mの楕円形で、長径方向はN-88°-Eである。深さは30cm、底面は平坦で、壁は直立している。

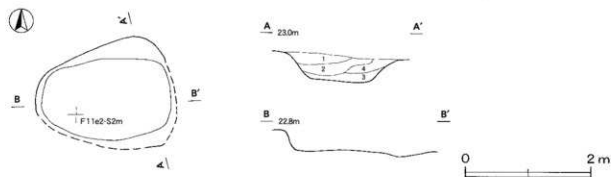
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片25点（坏3、埴6、甕16）のほか、混入した縄文土器片2点（深鉢）が出土している。遺物は細片のため固化できないが、坏片には口縁部と体部の境に稜があるものが認められる。

所見 時期は、重複関係と出土土器片の特徴から古墳時代後期と推測できる。



第147図 第5736号土坑実測図

第5759号土坑（第148図）

位置 調査区西部のF11i1区、標高22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.74m、短径0.71mの円形である。深さは68cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

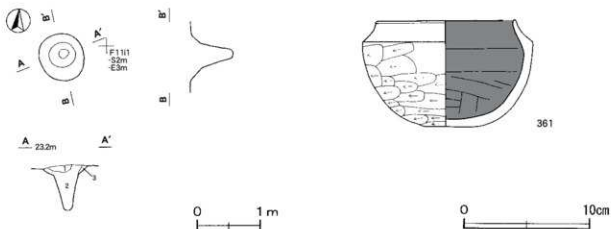
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点（坏、甕）が出土している。361は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第148図 第5759号土坑・出土遺物実測図

第5759号土坑出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴はか	出土位置	備考
361	土師器	椀	11.0	8.5	-	長石・石英	におい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ張り 内面へラナデ	覆土中	70%

第5770号土坑（第149図）

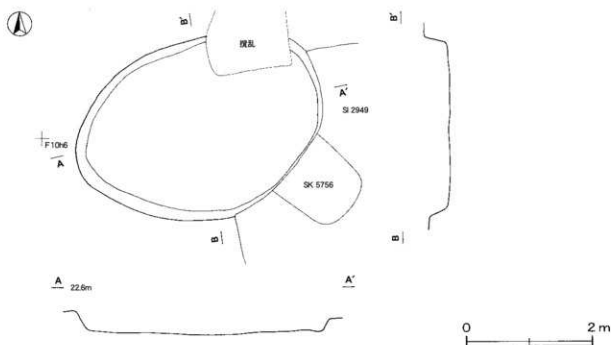
位置 調査区西部のF10g6区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2949号住居、第5756号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.10m、短径2.91mの楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。深さは37cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片48点（坏17、甕28、甗3）、須恵器片6点（坏2、高坏1、甕3）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）が出土している。遺物は細片のため図化できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器の様相から古墳時代と推測できる。



第149図 第5770号土坑実測図

表3 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m, 深さはcm)		構面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
5699	E143	不定形	N-30°-W	5.28 × (2.84)	30~44	縦斜	平坦	人為	土師器片	
5701	F1465	不定形	N-18°-W	(5.60) × (2.26)	68	縦斜	平坦	人為	土師器片	
5706	E129	長方形	N+8°-W	4.00 × 1.38	54	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2988・2992→本
5712	F1257	楕円形	N-0°	1.03 × 0.90	25	直立	平坦	人為	土師器片, 石器	SI2926→本
5715	F1264	楕円形	N+47°-E	1.88 × 1.58	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
5731	F1252	長方形	N+26°-E	2.78 × 0.98	28	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2900→本
5736	F1162	[楕円形]	N+88°-E	(2.21) × (1.98)	30	直立	平坦	人為	土師器片	SI2944, SK5743→本
5739	F1111	円形	N-0°	0.74 × 0.71	68	外傾	皿状	人為	土師器片	
5770	F10e6	楕円形	N-68°-E	4.10 × 2.91	37	外傾	平坦	-	土師器片, 須恵器片	本→SI2949, SK5756

2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡1条が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

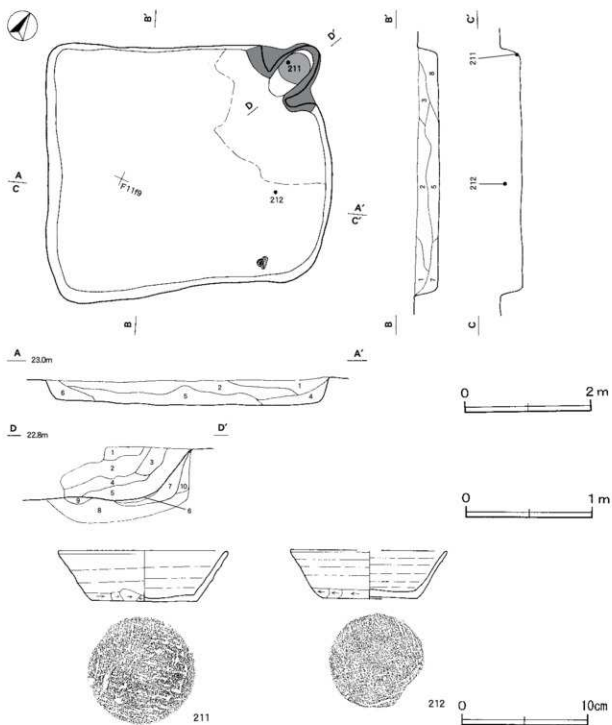
(1) 竪穴住居跡

第2925号住居跡 (第150図)

位置 調査区西部のF11e9区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2889号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.52m、短軸3.93mの長方形で、主軸方向はN-68°-Eである。壁高は33~37cmで、直立している。



第150図 第2925号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、竈前面が踏み固められている。東コーナー部の床面から炭化材が確認されている。

竈 北コーナー部に付設されている。焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅44cmである。袖部は地山を20cmほど掘り込み、ロームを充填した上に砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き30cm、幅68cm掘り込み、壁面にロームを貼って構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第3層は天井部の崩落土、第6～10層は掘方への埋土である。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 に近い青褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 に近い青褐色 | ロームアブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 3 に近い青褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土アブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームアブロック中量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | 赤色粒子微量 |
| | | 9 黒褐色 | ロームアブロック中量 |
| | | 10 に近い青褐色 | ロームアブロック中量 |

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームアブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームアブロック・炭化物・焼土アブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームアブロック中量、焼土アブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームアブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 | 8 極暗褐色 | ロームアブロック・炭化物少量、焼土アブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームアブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | | |
| 5 極暗褐色 | ロームアブロック少量、焼土アブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片130点（坏13、椀2、甕115）、須恵器片20点（坏11、高台付坏2、蓋5、瓶1、甕1）、灰釉陶器片1点（瓶）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）、土師器片1点（ミニチュア土器）が出土している。211は甕の火床面、212は北東壁寄りの覆土中層からそれぞれ逆位の状態で出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第2925号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
211	須恵器	坏	134	40	84	長石・石英	灰	普通	体部下縁手持ちへう閉り 底部二方向の手持ちへう閉り	甕火床面	95% PL40
212	須恵器	坏	[124]	38	75	長石・石英	灰	普通	体部下縁手持ちへう閉り 底部二方向の手持ちへう閉り	覆土中層	30%

(2) 溝跡**第35号溝跡（第151図、付図）**

位置 調査区中央部のG11a8～G12a1区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2903・2919号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 G11a8区から東方向(N-85°-E)へ直線的に延び、長さ11.6mが調査されている。規模は上幅2.34～2.58m、下幅0.50～1.06m、深さ72～92cmである。断面は逆台形を呈しており、壁は外傾して立ち上がっている。

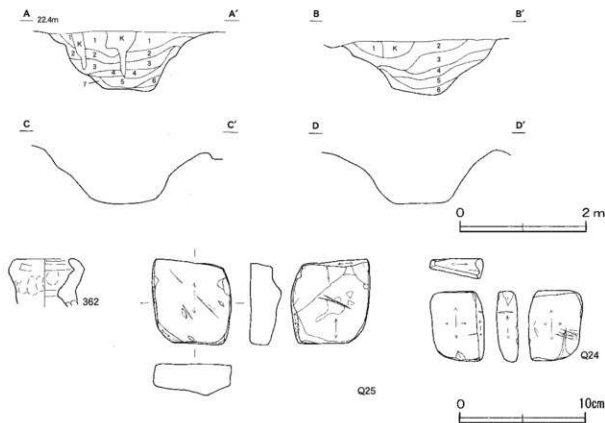
覆土 7層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子微量（4より締まり強） |
| 2 褐色 | ロームアブロック少量 | 6 明褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片207点（坏7、椀3、甕195、瓶2）、須恵器片40点（坏4、高台付坏1、蓋11、瓶2、甕22）、陶器片2点（碗）、磁器片1点（碗）、瓦片1点、石器2点（砥石）、鉄滓1点のほか、流れ込んだ土師器片5点（器台1、高坏4）が出土している。これらは、覆土中から散在した状況で出土している。362は覆土中から出土している。

所見 本跡は奈良時代の集落を囲んでいる溝の一部である。時期は、重複関係や出土土器の様相から8世紀中葉に比定できる。



第151図 第35号溝跡・出土遺物実測図

第35号溝跡出土遺物観察表 (第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
362	土陶器	粗製器台	42	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶ・黄澄	普通	口縁部内・外面横ナデ 内・外面指頭押圧	覆土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	砥石	55	4.2	1.7	500	砂岩	砥面4面	覆土中	
Q25	砥石	67	5.3	2.6	1322	砂岩	砥面2面	覆土中	

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡14軒、土坑7基が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

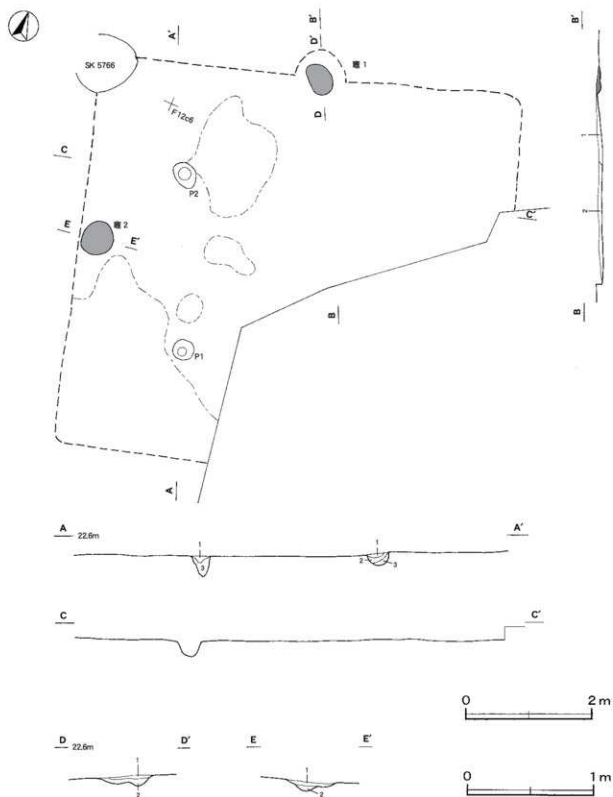
第2895号住居跡 (第152図)

位置 調査区中央部のF12c6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2905・2926号住居跡を掘り込み、北西コーナー部を第5766号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上面を削平され、床面と竈の底面しか遺存していない。南東側が調査区域外に延び、全容は確認できない。規模は確認された範囲で長辺6.78m、短辺6.45mで、主軸方向はN-17°-Wと想定される。壁高は4cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、P1から南西側及び竈1とP2間が踏み固められている。



第152図 第2895号住居跡実測図

竈 2 所。竈 1 は北壁に付設されている。火床部が遺存し、その規模は長径54cm、短径38cmである。袖部は確認されなかった。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き50cm、幅81cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈2は西壁に付設されている。火床部しか遺存してなく、規模は長径55cm、短径50cmである。袖部及び煙道部の壁外への掘り込みは確認されなかった。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈1土層解説

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 1 明赤褐色 焼土粒子多量 | 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
|---------------|------------------------------|

竈2土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
|-----------------------|------------------------|

ピット 2か所。P1・P2は深さ24cm・39cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 2層に分層できる。ロームを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 2 黒褐色 ローム粒子微量 |
|-----------------|---------------|

遺物出土状況 土師器片20点(坏4、高台付坏1、甕15)、須恵器片1点(甕)のほか、混入した縄文土器片1点(深鉢)が出土している。遺物は細片のため、図化できない。

所見 時期は、重複関係や高台付坏の破片が出土していることから平安時代と考えられる。

第2896号住居跡(第153図)

位置 調査区中央部のF12d5区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2905号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.35m、短軸3.27mの方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は25~30cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が竈の周辺を除いて巡っている。

竈 東壁の北東コーナー部寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで149cm、燃焼部幅376cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第6~8層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き20cm、幅95cm掘り込み、壁面に砂質粘土を貼って構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

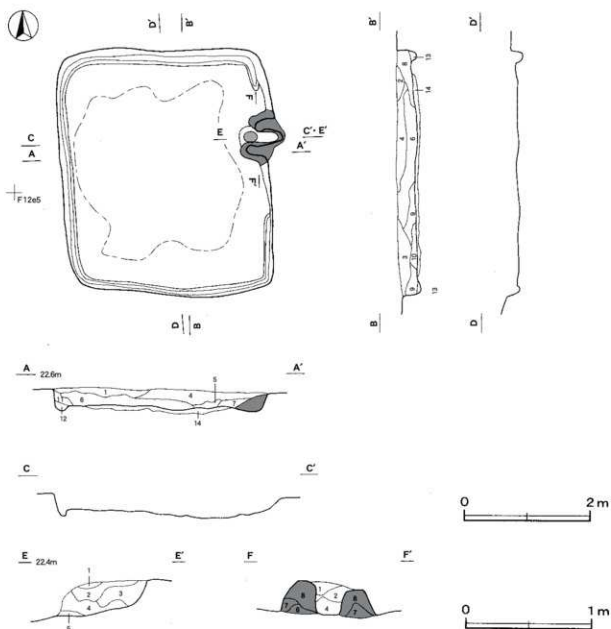
竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 暗オリーブ色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 3 赤い黄褐色 砂質粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量 | 7 オリーブ褐色 砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量 |
| 4 暗オリーブ色 砂質粘土中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 オリーブ褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 |

覆土 14層に分層できる。大半の層にロームを含んでいることから、埋め戻されている。第14層は貼床の構築土層である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック |
| 3 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物・ | 微量 |
| 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 11 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 12 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 13 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 14 褐色 ロームブロック中量 |



第153図 第2896号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片91点（坏18、甕73）、須恵器片1点（坏）のほか、混入した縄文土器片2点（深鉢）が出土している。細片が多く、図化できなかった。

所見 時期は、重複関係や出土した土器の特徴から平安時代と考えられる。

第2901号住居跡（第154図）

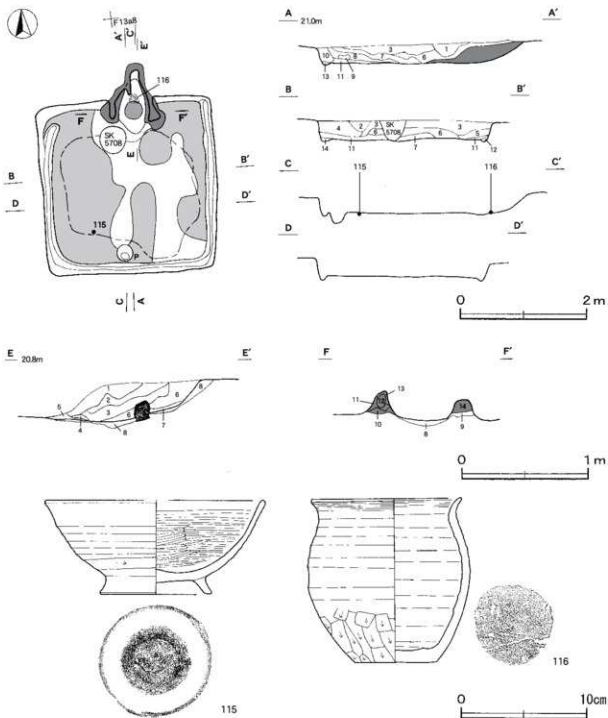
位置 調査区西部のF13a7区、標高20mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2886号住居跡を掘り込み、竈前面部を第5708号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.87m、短軸2.68mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は37~46cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて巡っている。床面から広範囲に焼土が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで121cm、燃焼部幅41cmである。袖部は地山の上に砂質粘土混じりのロームを積み上げて構築されている。第10～14層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き52cm、幅71cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は煙道部寄りに土師器甕を支脚とし、火を受けて赤変している。第2層は天井部の崩落土である。



第154図 第2901号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 におい赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | 11 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 明赤褐色 | 焼土粒子多量 | 12 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 におい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 14 赤褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | | |
| 8 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | | |

ピット 深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 14層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 赤褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 13 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| | | 14 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片394点（坏122、椀6、高台付椀6、甕231、甕29）、須恵器片10点（坏5、瓶2、甕3）のほか、流れ込んだ縄文土器片1点（深鉢）、土師器片11点（壺10、高坏1）、磁器片1点（碗）が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。115は正位の状態、南西コーナー部寄りの床面から出土している。116は支脚として使用されているもので、竈火床部から出土している。

所見 床面から広範囲に焼土が確認されていることから、焼失住居である。時期は、重複関係と出土した土器から10世紀前半に比定できる。

第2901号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
115	土師器	高台付椀	(172)	75	88	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外部噴ナデ 丸へう割り 内面磨き	体部外面ロクロナデ 高台部・底部ナデ	下層同 床面	70%
116	土師器	小形甕	118	131	64	長石・石英・ 珪石	橙	普通	口縁部内・外面噴ナデ 部下葉・底部へう割り	体部内・外面ロクロナデ 体	竈火床部	100% PL40

第2910号住居跡（第155図）

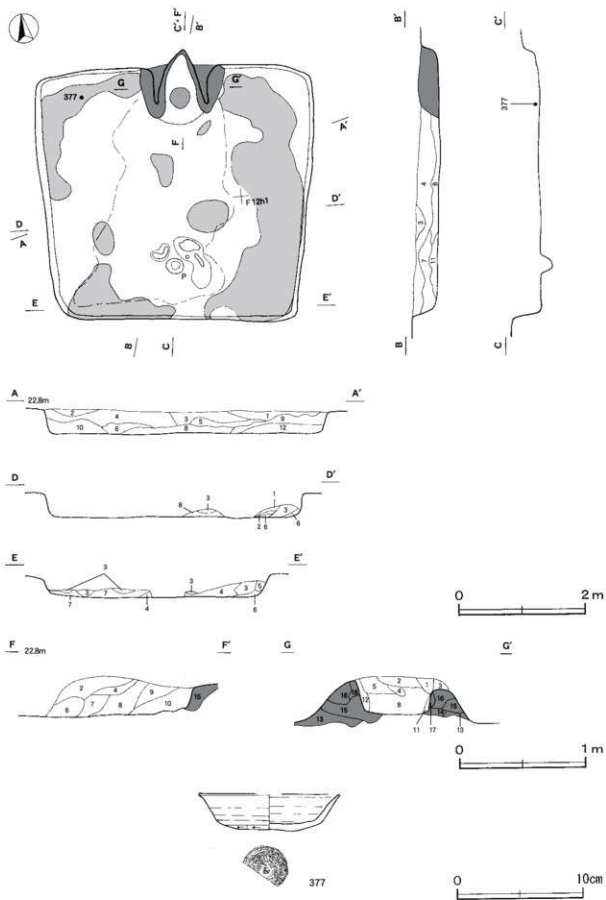
位置 調査区中央部のF11g0区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2906・2907・2931号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.41m、短軸4.00mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は37~46cmで、直立している。

床 はほぼ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。床面上の広い範囲から焼土が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで120cm、燃焼部幅48cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第13~18層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き



第155图 第2910号住居跡・出土遺物実測図

50cm、幅42cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

覆土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	11 濃い赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	12 濃い赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
3 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	14 濃い青褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 濃い赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	15 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量(4より明)	16 オリーブ褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	17 明赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
8 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土粒子微量	18 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
9 黒褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量		
10 黒褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量		

ピット 深さ22cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。周囲に幅20～35cm、高さ3cmの高まりを確認できた。

覆土 12層に分層できる。大半の層にロームブロック・焼土を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	10 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	11 極暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量

焼土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	5 明赤褐色	焼土ブロック多量(粘性弱)
2 暗褐色	炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量
3 明赤褐色	焼土ブロック多量	7 褐色	ロームブロック・炭化物少量
4 濃い赤褐色	焼土ブロック中量	8 暗褐色	炭化物少量

遺物出土状況 土師器片485点(坏70, 高台付坏1, 蓋1, 甕368, 瓶45), 須恵器片9点(坏8, 甕1)のほか、混入した土師器片11点(増4, 高坏7)が出土している。これらは北東部を中心に床面から覆土上層にかけて出土している。377は斜位の状態で北西コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見 広範囲に焼土が確認されていることから、焼失住居と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。

第2910号住居跡出土遺物観察表(第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
377	須恵器	坏	(112)	29	34	長石・石英・雲母	灰青	普通	体内内・外面ロクロナデ	底部回転ヘラ掘り	覆土下層	3%

第2913号住居跡(第156図)

位置 調査区中央部のF12g4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

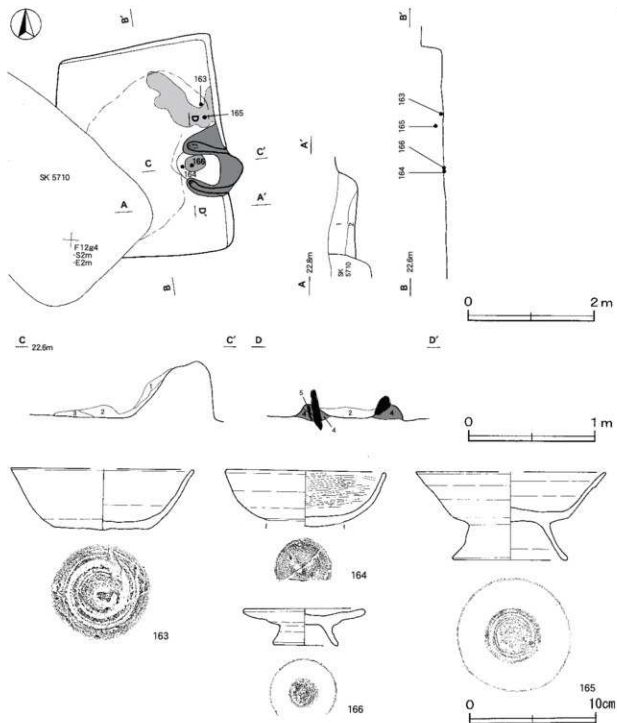
重複関係 第2902・2920号住居跡を掘り込み、西壁付近を第5710号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南壁・西壁が削平されている。長軸3.42m、短軸2.58mの長方形で、主軸方向はN-87°-Eである。

壁高は42cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。竈周辺の床面から焼土が確認された。

竈 東壁中央部やや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで113cm、燃烧部幅46cmである。袖部は甍の破片を補強材とし、地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。第4・5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き37cm、幅65cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。



第156図 第2913号住居跡・出土遺物実測図

甕土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗 褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 暗 赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | | |

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・焼土を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 極暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片471点（坏109、碗11、高台付碗6、皿1、高台付皿1、甕312、瓶31）のほか、混入した縄文土器片2点（深鉢）、土師器片5点（高坏）、須恵器片11点（坏4、壺2、甕5）が出土している。これらは竈周辺を中心に床面から覆土中層にかけて出土している。163は正位の状態、165は斜位の状態で竈左側、164・166は逆位の状態で竈火床面から焚口部にかけてそれぞれ出土している。

所見 覆土に焼土が含まれ、床面から焼土が確認されていることから焼失住居である。時期は、重複関係と出土土器から10世紀末葉に比定できる。

第2913号住居跡出土遺物観察表（第156図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
163	土師器	坏	145	49	74	長石・苦母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	床面	50%
164	土師器	高台付碗	124	(44)	-	長石・苦母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部内面書き 高台剥離	焚口部	50%
165	土師器	高台付碗	(150)	70	90	長石・苦母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	60%
166	土師器	高台付皿	94	30	50	長石・石灰・苦母	橙	普通	ロクロナデ	火床部	100%

第2920号住居跡（第157図）

位置 調査区西部のF12F3区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2902・2929・2943号住居跡を掘り込み、南東コーナー部を第2913号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-104°-Eである。壁高は15~28cmで、直立している。

床 若干起伏があり、竈前面から西壁にかけて踏み固められている。

竈 東壁中央部やや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで84cm、燃焼部幅39cmである。袖部は地山の上に砂質粘土混じりのロームを積み上げて構築されている。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き46cm、幅63cm掘り込んで構築されている。火床部はほぼ床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

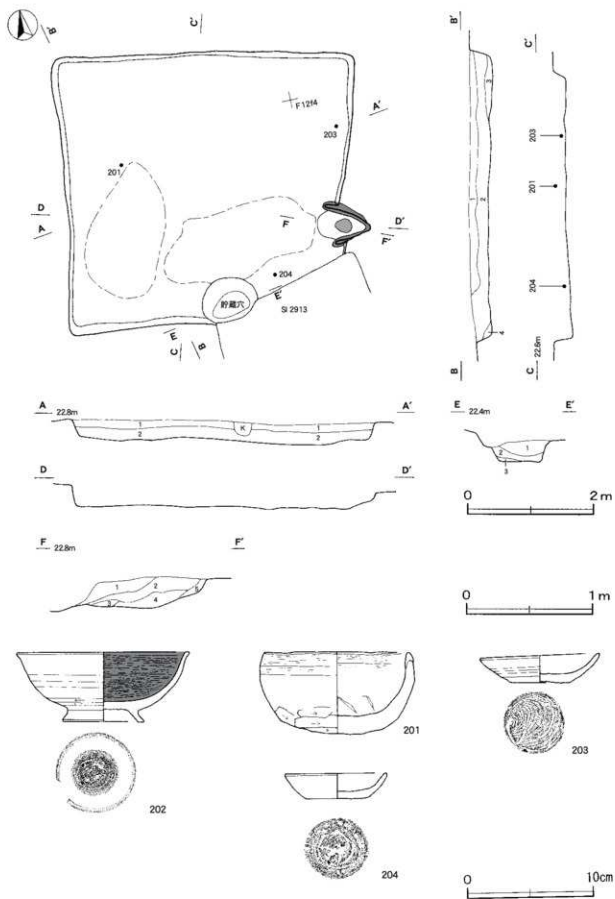
甕土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 4 にぶい褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量（1より明） | 5 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

貯蔵穴 南壁中央部付近に付設されている。長径90cm、短径70cmの楕円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|------|-----------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |



第157图 第2920号住居跡·出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、赤色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片439点（坏90、高台付坏6、小皿2、甕340、瓶1）、鉄製品1点（釘）のほか、流れ込んだ縄文土器片7点（深鉢）、土師器片13点（器台1、高坏11、甕1）、須恵器片5点（坏2、高坏1、甕2）が出土している。遺物は東側を中心として床面から覆土上層にかけて出土している。201は逆位の状態でも西壁寄り中央部付近の覆土中層、203は東壁際の覆土下層、204は貯蔵穴付近の床面からそれぞれ正位の状態でも出土している。

所見 時期は、重複関係を出土土器から10世紀後葉に比定できる。

第2920号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
201	土師器	椀	115	65	—	長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ後、下縁へうがり、内面へうがり後、ナデ	覆土中	80% PL40
202	土師器	高台付椀	135	56	64	長石・石英	橙	普通	口クロナデ 体部下縁回転へうがり 内面磨き	覆土中層	100% PL40
203	土師器	小皿	93	24	48	長石・石英	橙	普通	口クロナデ 底部回転未切り	覆土下層	100% PL40
204	土師器	小皿	80	21	50	長石・石英	橙	普通	口クロナデ 底部回転へうがり	床面	100% PL40

第2923号住居跡（第158図）

位置 調査区西部のF11j4区、標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2939号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東コーナー部に掘乱を受けている。長軸3.60m、短軸3.07mの長方形で、主軸方向はN-80°-Eである。壁高は16~37cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、中央部付近が踏み固められている。西壁から南壁にかけて壁溝が巡っている。

竈 東壁の南東コーナー部寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで73cm、燃焼部幅40cmである。袖部は地山の上に砂質粘土混じりのロームを積み上げて構築されている。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き43cm、幅79cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量（1より明） | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1・P2は深さ34cm・54cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は深さ26cmで、南壁の中央部付近に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P4・P5は深さ52cm・55cmで補助柱穴と考えられる。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

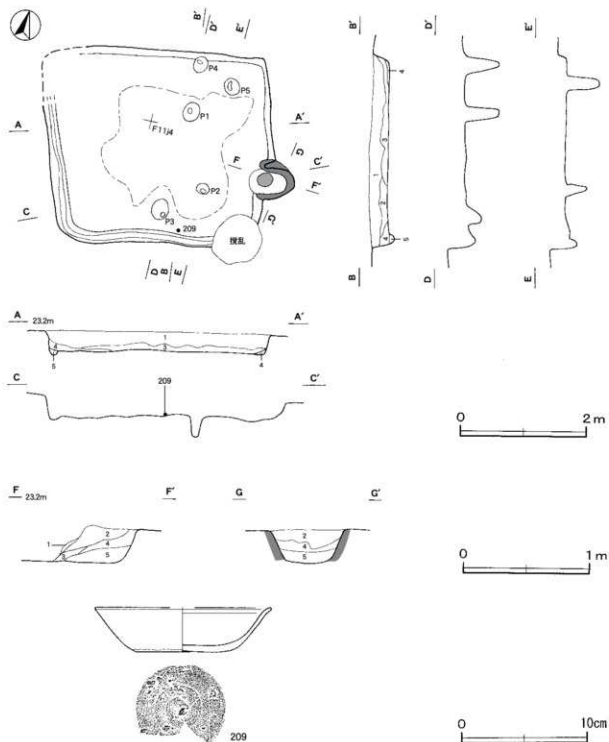
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片597点（坏104、高台付椀8、甕440、瓶45）、須恵器片25点（坏7、蓋2、甕16）が出土している。これらは西側を中心として床面から覆土中層にかけて出土している。209は正位の状態でも南壁際の中

中央付近の床面から出土している。

所見 時期は重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第158図 第2923号住居跡・出土遺物実測図

第2923号住居跡出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
209	土師器	坏	140	36	70	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面クロナデ 底部斜軸ヘナ切り	床面	42%

第2933号住居跡 (第159・160図)

位置 調査区西部のF116区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2934・2942号住居跡を掘り込み、西壁寄りの中央部付近を第5740号土坑、南西コーナー部付近を第5741号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸3.05mの方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁高は20~22cmで、外傾して立ち上がっている。

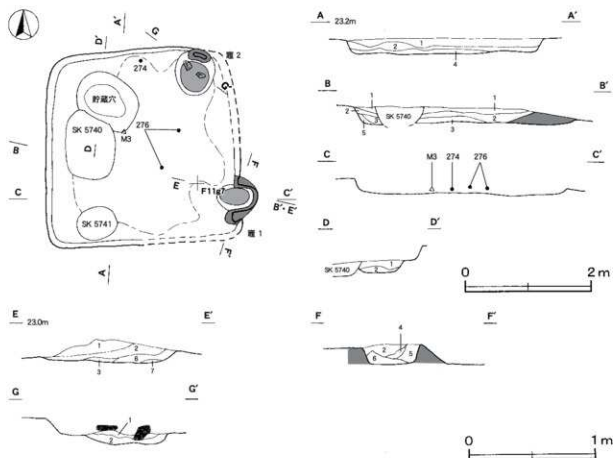
床 ほぼ平坦で、中央部付近が踏み固められている。

竈 2か所。竈1は南東コーナー部付近に付設されている。焚口部から煙道部まで66cm、燃烧部幅40cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き23cm、幅68cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

竈2は北東コーナー部付近に付設されている。焚口部から煙道部まで74cm、燃烧部幅22cmと推定できる。袖部は失われ、補強材として使用された石材だけが確認された。火床部は床面を13cm掘り込んでロームを充填して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火を受けて赤変している。第1・2層は掘方への埋土である。竈2の遺存状態が悪いことから、竈1が新しい竈と考えられる。

竈1土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1 にふい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 5 灰 褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| 2 にふい黄褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 | 6 にふい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量 | 7 赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 4 にふい黄褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | |



第159図 第2933号住居跡実測図

覆2土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量 2 褐 色 焼土ブロック少量

貯蔵穴 北西コーナー部付近に付設されている。長径102cm、短径77cmの楕円形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 2 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

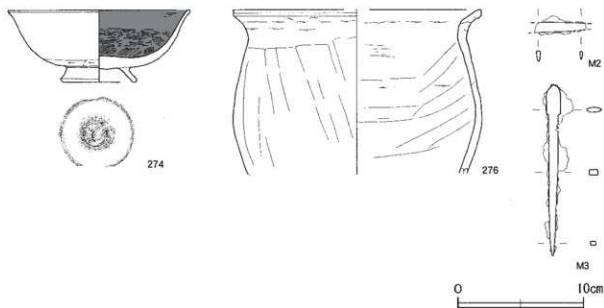
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量 4 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 5 褐 色 ロームブロック中量、赤色粒子微量
3 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片330点（坏72、高台付碗6、蓋1、甕251）、鉄製品2点（刀子・鎌）のほか、混入した縄文土器片2点（深鉢）、土師器片13点（埴1、高坏12）、須恵器片49点（坏24、高台付坏2、蓋7、甕16）が出土している。これらは散在した状態で床面から覆土上層にかけて出土している。274は斜位の状態で北壁際の床面から出土し、276は竈前面の覆土下層から出土した破片が接合したものである。M2は覆土中、M3は中央付近の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀末葉に比定できる。



第160図 第2933号住居跡出土遺物実測図

第2933号住居跡出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									口縁部・体部外面ロクロナア 削り 体部内面磨き	体部外面下縁回転ヘラ		
274	土師器	高台付碗	144	57	59	長石・石英・ 黒石・赤土	にじみ橙	普通			床面	90% PL40
276	土師器	甕	[19.4]	[13.1]	-	長石・石英・ 黒石・赤土	橙	普通	口縁部内・外面横ナア 体部内・外面ヘラナア		覆土下層	3%

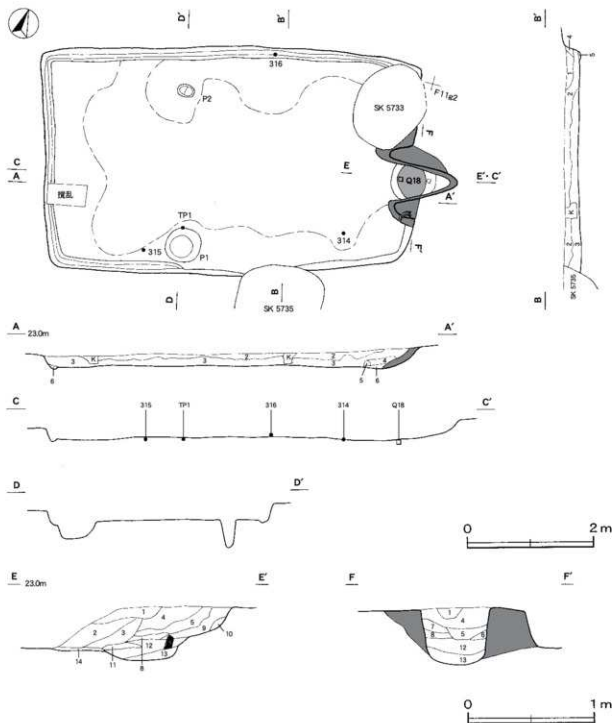
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	刀子	(41)	08	04	(30)	鉄	刃部・基部先端欠	覆土中	
M3	鎌	136	1.2	0.5	(166)	鉄	柄身形 両丸造 基部間の形状は不明	覆土下層	

第2938号住居跡（第161・162図）

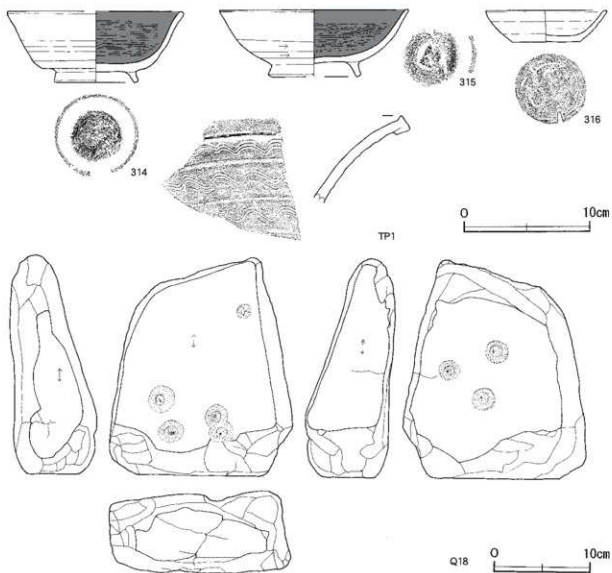
位置 調査区中央部のF11g1区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2937・2944号住居跡を掘り込み、北コーナー部付近を第5733号土坑、南東壁の中央部付近を第5735号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.84m、短軸3.56mの長方形で、主軸方向はN-77°-Eである。壁高は18~33cmで、直立している。



第161図 第2938号住居跡実測図



第162図 第2938号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、竈前面から南西壁にかけて踏み固められている。壁溝が北コーナー部から南コーナー部付近にかけて巡っている。

竈 北東壁中央部やや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅50cmである。袖部は土師器甕を補強材とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き59cm、幅71cm掘り込んで構築されている。火床部は地山を10cmほど掘り込んで構築され、煙道部寄りに石製支脚を設置している。火床面は火を受けて赤変している。第5・7層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|----------|------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 8 赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 9 に近い褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量 | 11 に近い褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 5 に近い黄色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 12 灰赤色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子多量 |
| 6 に近い赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 13 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 7 に近い黄色 | 砂質粘土粒子多量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ30cm・45cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4	褐 色	ロームブロック中量
2	暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量
3	褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐 色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片603点（坏109、高台付椀19、皿1、甕335、瓶139）、石器1点（砥石）、鉄滓1点のほか、混入した縄文土器片27点（深鉢）、土師器片9点（高坏）、須恵器片30点（坏4、高台付坏1、甕25）、磁器片2点（鉢）が出土している。これらは竈前面を中心として床面から覆土下層にかけて出土している。314は逆位の状態で見られる床面から、315は正位の状態で見られるP1付近の壁際の床面から、316は同じく正位の状態で見られる北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。Q18は竈火床部から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉に比定できる。

第2938号住居跡出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
314	土師器	高台付椀	139	56	65	長石・石英・赤母	にぶい黄褐色	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面磨き	床面	60%
315	土師器	高台付椀	149	53	67	長石・石英・赤母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面ロクロナデ 体部下端回転へう磨り 体部内面磨き	床面	60%
316	土師器	皿	95	25	54	長石・石英	浅黄褐色	普通	内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	90% PL40
TP1	須恵器	甕	-	(69)	-	長石・赤母	黄灰	普通	5本1単位の様式状文	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	砥石	228	192	87	3060	雲母片岩	両み8か所 砥面3面 凹石を転用	竈火床部	PL45

第2941号住居跡（第163図）

位置 調査区西部のF11d1区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2940号住居跡を掘り込んでいる。

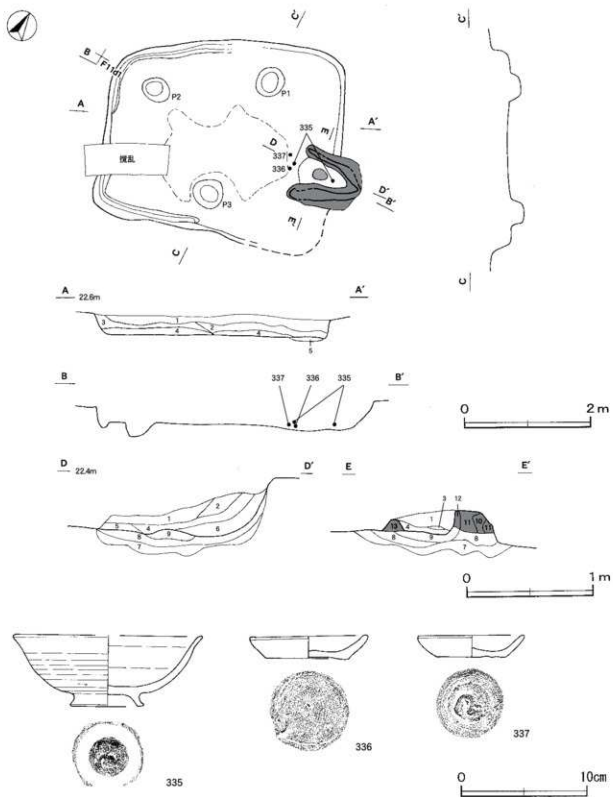
規模と形状 長軸3.72m、短軸3.04mの長方形で、主軸方向はN-72°-Eである。壁高は14~28cmで、直立している。

床 若干起伏があり、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が北壁から南壁中央部付近にかけて巡っている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで105cm、燃焼部幅28cmである。袖部は地山を20cmほど掘り込み、砂質粘土混じりのロームを充填した上にローム混じりの砂質粘土を積み上げて構築されている。第10~13層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き59cm、幅84cm掘り込んで構築されている。火床部は地山を20cmほど掘り込み、砂質粘土混じりのロームを充填して構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、火を受けて赤変している。第1~4層は天井部の崩落土、第7~9層は掘方への埋土である。

土層解説

1	灰ネリブ色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量	7	褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量	8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3	灰ネリブ色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
4	灰ネリブ色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	10	褐 色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	11	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6	黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	12	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量
			13	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量



第163図 第2941号住居跡・出土遺物実測図

ピット 3か所。P1・P2は深さ22cm・23cmで、位置と規模から支柱穴である。P3は深さ22cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | | |

遺物出土状況 土師器片243点（坏65、高台付碗5、皿8、甕165）、鉄滓1点のほか、混入した縄文土器片4点（深鉢）、土師器片1点（高坏）、須恵器片7点（坏1、瓶1、甕5）が出土している。これらは竈前面の床面から覆土中層にかけて出土している。335は逆位の状態で竈火床部、336は正位の状態、337は逆位の状態でそれぞれ竈前面の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀後葉に比定できる。

第2941号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
335	土師器	高台付碗	(146)	5.7	5.5	石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部内・外面クロクナデ 体部下縁回転ヘラ削り 高台部・底部ナデ	竈火床部	40%
336	土師器	小皿	9.0	1.9	6.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部内・外面クロクナデ 底部回転糸切り	床面	100% PL40
337	土師器	小皿	8.3	1.8	5.4	石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部内・外面クロクナデ 底部回転ヘラ削り	床面	95% PL40

第2945号住居跡（第164・165図）

位置 調査区西部のF11h5区、標高23mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.38m、短軸5.25mの方形で、主軸方向はN-74°-Eである。壁高は4~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干起伏があり、やや軟弱である。

竈 東壁に付設されている。煙道部が遺存している。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き41cm、幅81cm掘り込んで構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・砂質粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | | 微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

ピット 4か所。P1~P4は深さ27~78cmで、規模と位置から主柱穴である。

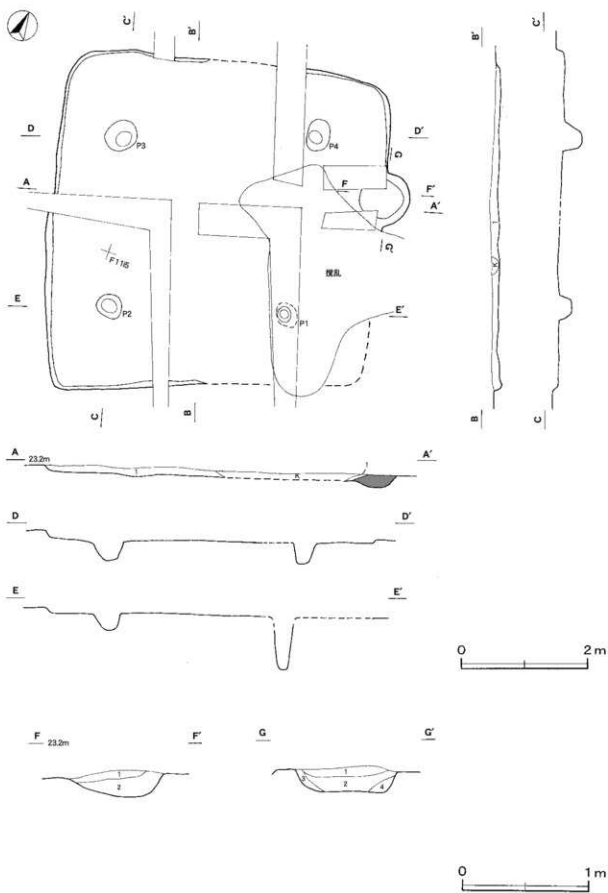
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片82点（坏13、碗1、甕61、瓶7）、須恵器片5点（瓶1、甕4）のほか、混入した縄文土器片7点（深鉢）、土師器片6点（埴4、高坏2）、磁器片2点（碗）が出土している。349は北東部の覆土中、350は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から平安時代に比定できる。



第164图 第2945号住居跡実測図



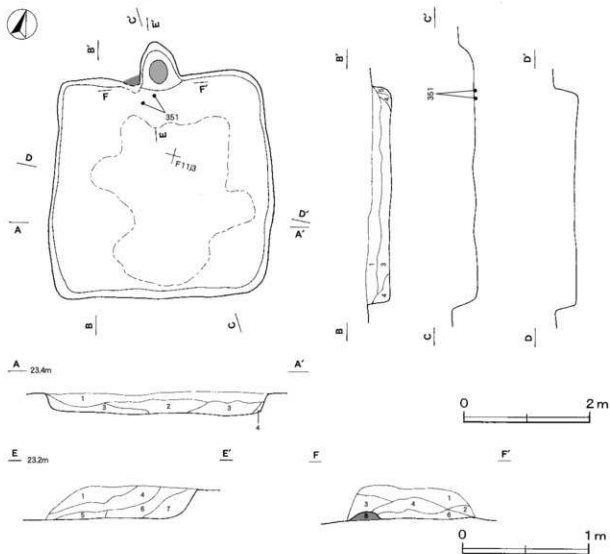
第165図 第2945号住居跡出土遺物実測図

第2945号住居跡出土遺物観察表 (第165図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
349	土師器	坏	[159]	(26)	-	長石・石英・ 褐色粒子	橙	普通	内・外面ロクロナデ	覆土中	25%
350	土師器	坏	[158]	(50)	-	長石・石英・ 赤色粒子	に高い黄橙	普通	内・外面ロクロナデ	壺内	20%

第2946号住居跡 (第166・167図)

位置 調査区西部のF11j2区、標高23mの台地平坦部に位置している。



第166図 第2946号住居跡実測図

重複関係 第2939号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.58m、短軸3.55mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は30~40cmで、直立または外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、竈前面から南壁にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで79cm、燃焼部幅57cmである。袖部は左袖部が遺存し、地山の上に粘土を積み上げて構築されている。第8層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き70cm、幅95cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、煙道部寄りに支脚を設置している。火床面は火を受けて赤変している。第4層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 におい褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗灰黄色 粘土ブロック中量 |

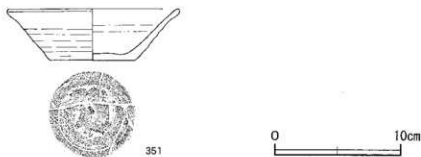
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片119点(坏12、壺2、甕105)、須恵器片33点(坏7、蓋2、甕24)、土製品1点(支脚)が出土している。351は破片の状態で竈前面の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土した土器から9世紀中葉に比定できる。



第167図 第2946号住居跡出土遺物実測図

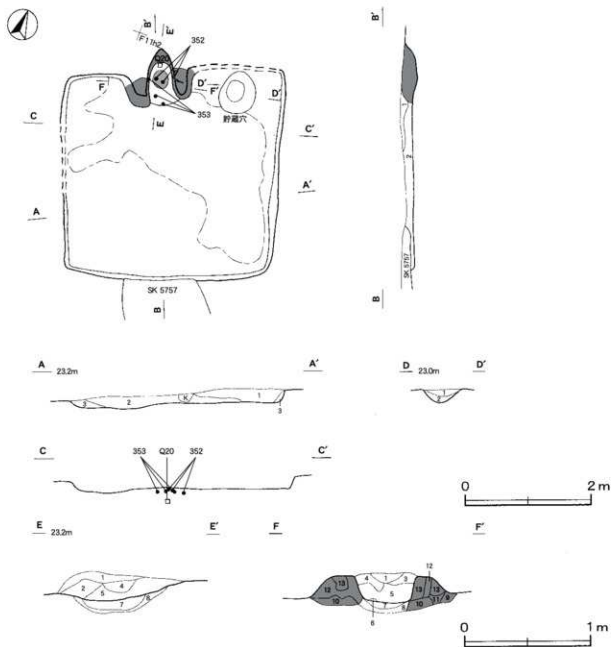
第2946号住居跡出土遺物観察表(第167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
351	須恵器	坏	134	41	67	長石・石英・緑泥	灰黄褐色	普通	体部下端割転へら削り 底部割転へら切り後、ナデ	床面	90%

第2947号住居跡 (第168・169図)

位置 調査区西部のF11h2区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南壁中央部付近を第5757号土坑に掘り込まれている。

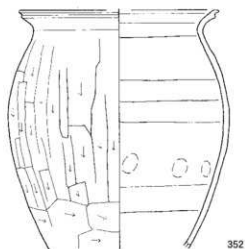


第168図 第2947号住居跡実測図

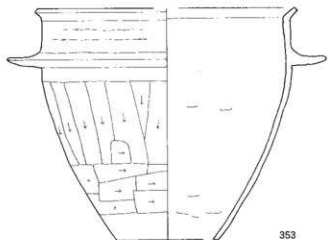
規模と形状 長軸3.52m、短軸3.24mの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は5~21cmで、直立している。

床 若干起伏があり、竈前面から南東コーナー部付近にかけて踏み固められている。

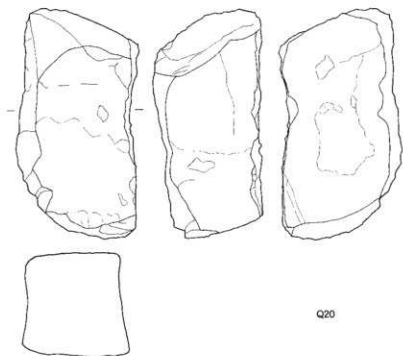
竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで94cm、燃焼部幅41cmである。袖部は地山を7~12cm掘り込み、ローム混じりの砂質粘土を積み上げ、右袖部は甕の体部片を補強材として構築されている。第9~13層は袖部の構築土である。煙道部は壁外へ逆U字状に奥行き40cm、幅37cm掘り込んで構築されている。火床部は20cm掘り込み、焼土混じりのロームを充填して構築され、煙道部寄りに支脚を設置している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火を受けて赤変している。第3層は天井部の崩落土、第7・8層は掘方への埋土である。



352



353



Q20



第169図 第2947号住居跡出土遺物実測図

甕土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 にいり赤褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 7 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| | 11 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| | 12 にいり赤褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | 13 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |

貯蔵穴 甕右側に付設されている。長径67cm、短径55cmの楕円形で、深さは16cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 褐色 ロームブロック多量 | 2 褐色 ロームブロック中量 |
|----------------|----------------|

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子 3 褐色 ロームブロック中量
 少量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子
 少量

遺物出土状況 土師器片176点（坏19、高台付碗1、甕153、羽釜1、瓶2）、石製品1点（支脚）のほか、混入した縄文土器片9点（深鉢）、土師器片2点（高坏）、須恵器片12点（坏2、甕10）が出土している。352・353は竈の火床面付近から破片の状態です。Q20は支脚で、上半部は火を受けて赤変している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉に比定できる。

第2947号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
352	土師器	甕	[204]	[25.0]	-	長石・石英・炭屑	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 一部凹部埋止 体部外面へう割り 内面ナテ	竈火床面	40%
353	土師器	羽釜	[27.1]	24.2	10.5	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナテ 体部外面へう割り 内面ナテ	竈火床面	80%

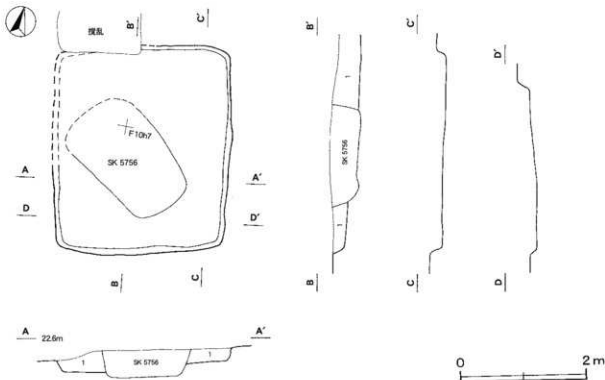
番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q20	支脚	[18.0]	[9.9]	[8.7]	[2388]	花崗岩	焼熟痕有り		竈火床面	PL45

第2949号住居跡（第170図）

位置 調査区西部のF10h7区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第5770号土坑を掘り込み、中央部を第5756号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.24m、短軸2.75mの長方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は15~18cmで、外傾し



第170図 第2949号住居跡実測図

て立ち上がっている。

床 若干起伏があり、あまり踏み固められていない。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 層 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片108点（坏43、高台付碗1、高坏2、甕49、瓶13）、須恵器片10点（坏2、甕8）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）、古銭1点（寛永通寶）が出土している。遺物は細片が多く図化できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器片の様相から平安時代と考えられる。

表4 平安時代整穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	床面積 (㎡)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期
									柱穴	出入口	ピット	看火穴			
2865	F12c6	N-17°-W	[方形]	6.78×3.45	43.7	4	平坦	-	2	-	-	-	覆2	人為土師器片、須恵器片	平安時代
2866	F12d5	N-90°-E	方形	3.35×3.27	11.0	25-30	平坦	全周	-	-	-	-	覆1	人為土師器片、須恵器片	平安時代
2901	F13a7	N-10°-E	長方形	2.87×2.68	7.7	37-46	平坦	全周	-	1	-	-	覆1	自然土師器片、須恵器片	10世紀前半
2920	F11a0	N-9°-E	方形	4.1×4.00	17.6	37-46	平坦	-	-	1	-	-	覆1	人為土師器片、須恵器片	9世紀後半
2923	F12e1	N-87°-E	[長方形]	3.62×2.58	9.88	42	平坦	-	-	-	-	-	覆1	人為土師器片	10世紀末葉
2929	F12b3	N-104°-E	方形	4.80×4.40	21.1	15-28	平坦	-	-	-	-	1	覆1	自然土師器片、鉄製品	10世紀後半
2923	F11j4	N-80°-E	長方形	3.60×3.07	11.1	16-37	平坦	-	2	1	2	-	覆1	自然土師器片、須恵器片	9世紀後半
2923	F11f6	N-87°-E	方形	3.10×3.05	8.8	20-25	平坦	-	-	-	-	-	覆2	人為土師器片、鉄製品	10世紀末葉
2928	F11-77	N-77°-E	長方形	5.84×3.56	20.8	18-33	平坦	一部	2	-	-	-	覆1	人為土師器片、須恵器片、石部、鉄滓	10世紀末葉
2941	F11d1	N-72°-E	長方形	3.72×3.04	11.3	14-28	平坦	一部	2	1	-	-	覆1	人為土師器片、鉄滓	10世紀後半
2945	F11b5	N-74°-E	方形	5.38×5.25	28.2	4-10	凹凸	-	4	-	-	-	覆1	人為土師器片、須恵器片	平安時代
2946	F11j2	N-20°-W	方形	3.58×3.55	11.7	30-40	平坦	-	-	-	-	-	覆1	人為土師器片、須恵器片、土製品	9世紀中葉
2947	F11b2	N-22°-W	方形	3.52×3.24	11.4	5-21	平坦	-	-	-	-	1	覆1	人為土師器片、石製品	10世紀前半
2949	F10b7	N-9°-W	長方形	3.24×2.75	49.7	15-18	平坦	-	-	-	-	-	覆1	人為土師器片、須恵器片	平安時代

(2) 土坑

第5706号土坑（第171図）

位置 調査区東部のF14c4区、標高19mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2878号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.98m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-14°-Wである。深さは38cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

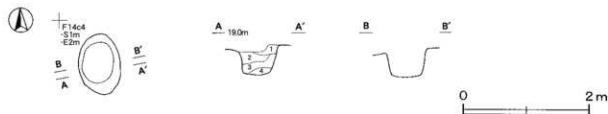
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 層 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 3 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
 2 層 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片9点（坏3、碗2、甕4）が出土している。遺物は細片のため図化できない。

所見 時期は、重複関係から平安時代と推測できる。



第171図 第5706号土坑実測図

第5710号土坑 (第172図)

位置 調査区中央部のF12g3区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2902・2913号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.86m、短軸2.40mの長方形で、長軸方向はN-50°-Wである。深さは65cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

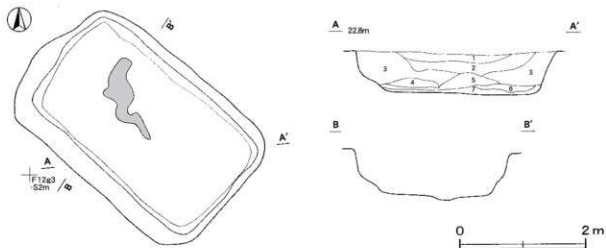
覆土 7層に分層できる。ロームブロックまたは炭化粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒色 炭化粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 明褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片35点(坏17、碗1、甕16、瓶1)が出土している。遺物は細片のため図化できない。坏の底部片に回転ヘラ切りの痕跡が認められる。

所見 時期は、出土土器片の特徴から平安時代と考えられる。



第172図 第5710号土坑実測図

第5719号土坑 (第173図)

位置 調査区中央部のF12f6区、標高21mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.11m、短径0.94mの楕円形で、主軸方向はN-17°-Eである。深さは49cm、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

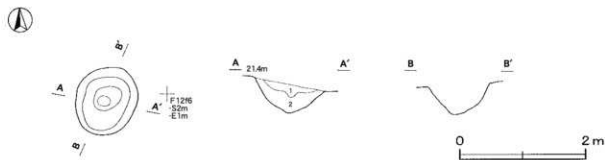
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3), 須恵器片2点(甕)が出土している。遺物は細片のため図化できない。

所見 時期は、土器片の様相から平安時代と推測できる。



第173図 第5719号土坑実測図

第5733号土坑 (第174図)

位置 調査区中央部のF11g1区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2937・2938・2944号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.40m, 短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eである。深さは50cm, 底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

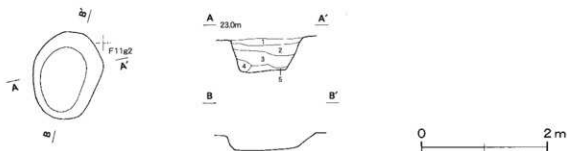
覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 4 暗褐色 焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点(坏2, 皿1, 甕2)が出土している。遺物は細片のため図化できない。皿の底部片には回転糸切りが認められる。

所見 時期は、重複関係や出土土器片の特徴から平安時代と考えられる。



第174図 第5733号土坑実測図

第5740号土坑（第175図）

位置 調査区西部のF116区、標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2933号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.14m、短径0.81mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは25cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

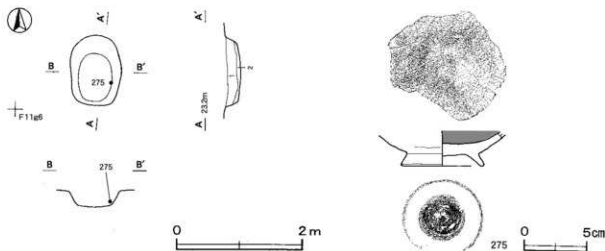
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 2 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片8点（坏2、甕5、瓶1）のほか、混入した須恵器片2点（坏、甕）が出土している。275は覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀後葉に比定できる。



第175図 第5740号土坑・出土遺物実測図

第5740号土坑出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
275	土師器	高台付坏	-	(28)	65	長石・石英・鉄屑	にぶい黄緑	普通	体部外面・高台部ロクロナデ	体部内面磨き	ヘラ記号	覆土下層 50%

第5766号土坑（第176図）

位置 調査区中央部のF1265区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2895号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.01m、短径0.91mの円形で、主軸方向はN-0°である。深さは56cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

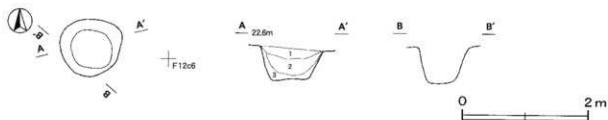
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片28点(坏5、高台付坏1、高坏1、甕21)が出土している。遺物は細片のため図化できない。坏の底部片に回転ヘラ切りが認められる。

所見 時期は、重複関係や出土土器片の特徴から平安時代と考えられる。



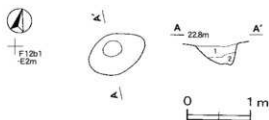
第176図 第5766号土坑実測図

第5769号土坑 (第177図)

位置 調査区中央部のF12b1区、標高22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.96m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-66°-Eである。深さは28cm、底面は起伏があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



土層解説

- 1層 褐色 ロームブロック少量
- 2層 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片18点(坏2、甕11、瓶5)、須恵器片3点(坏2、甕1)が出土している。遺物は細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器片の様相から平安時代と推測できる。

第177図 第5769号土坑実測図

表5 平安時代土坑一覧表

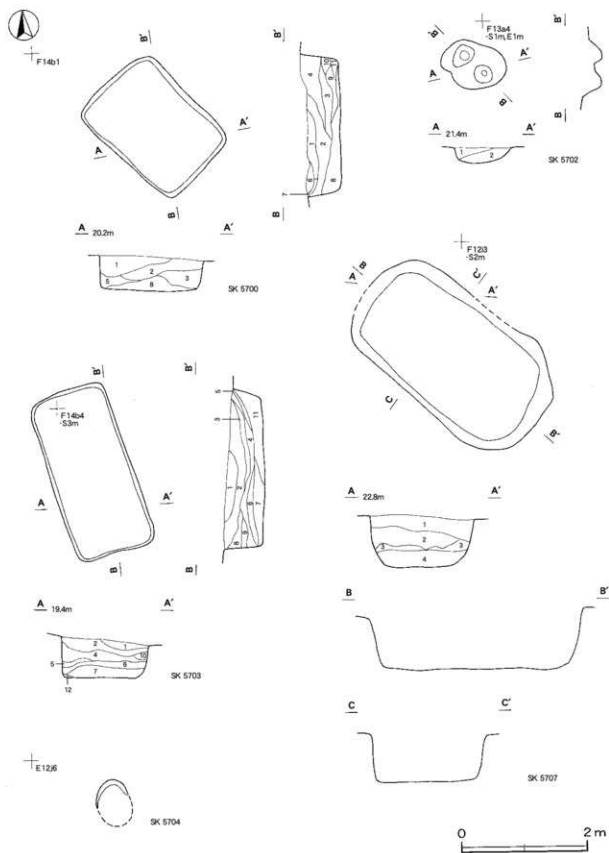
番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)					
S706	F14c4	楕円形	N-14°-W	0.96 × 0.66	38	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2878→本
S710	F12a3	長方形	N-50°-W	3.86 × 2.40	65	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2902・2913→本
S719	E129c	楕円形	N-17°-E	1.11 × 0.94	49	概斜	凹状	人為	土師器、須恵器	
S733	F11a1	楕円形	N-17°-E	1.40 × 1.06	30	概斜	平坦	人為	土師器片	SI2907・2938・2944→本
S740	F11b5	楕円形	N-0°	1.14 × 0.81	25	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2933→本
S766	F12b5	円形	N-0°	1.01 × 0.91	36	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2866→本
S769	F12b1	楕円形	N-66°-E	0.96 × 0.70	38	外傾	凹凸	人為	土師器片、須恵器片	

4 その他の遺構と遺物

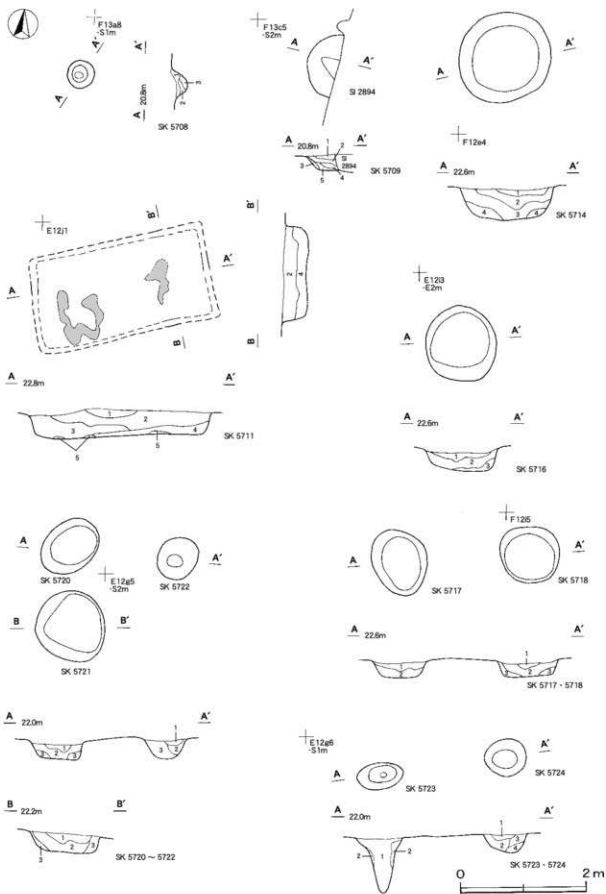
今回の調査で、時期や性格が明確でない土坑50基、ピット群4か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑 (第178~183図)

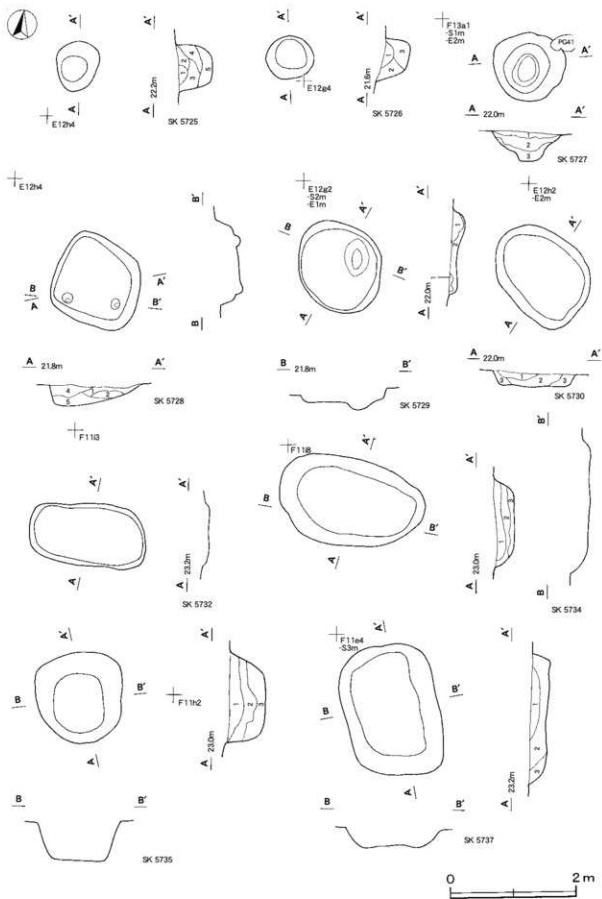
時期及び性格が明確でない土坑については、実測図と土層解説を掲載するにとどめる。



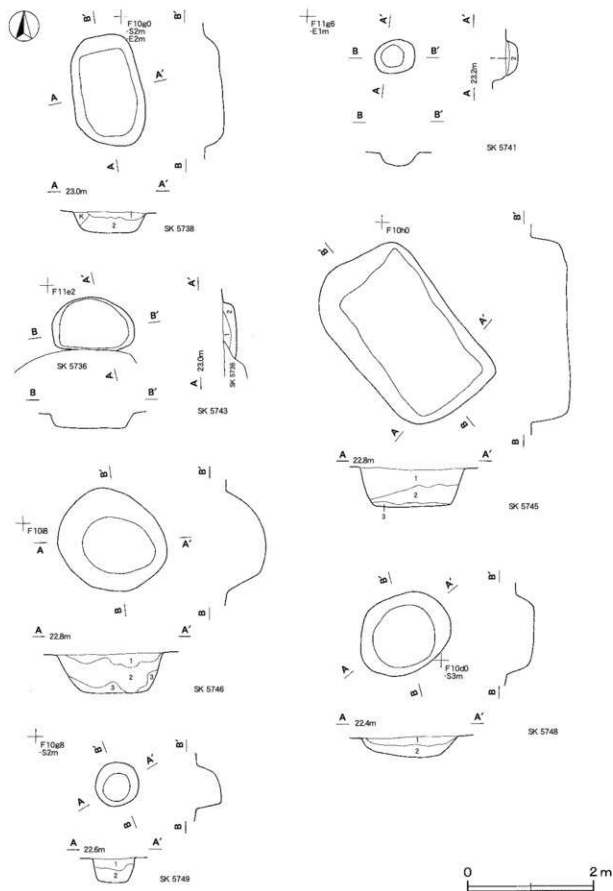
第178図 その他の土坑実測図(1)



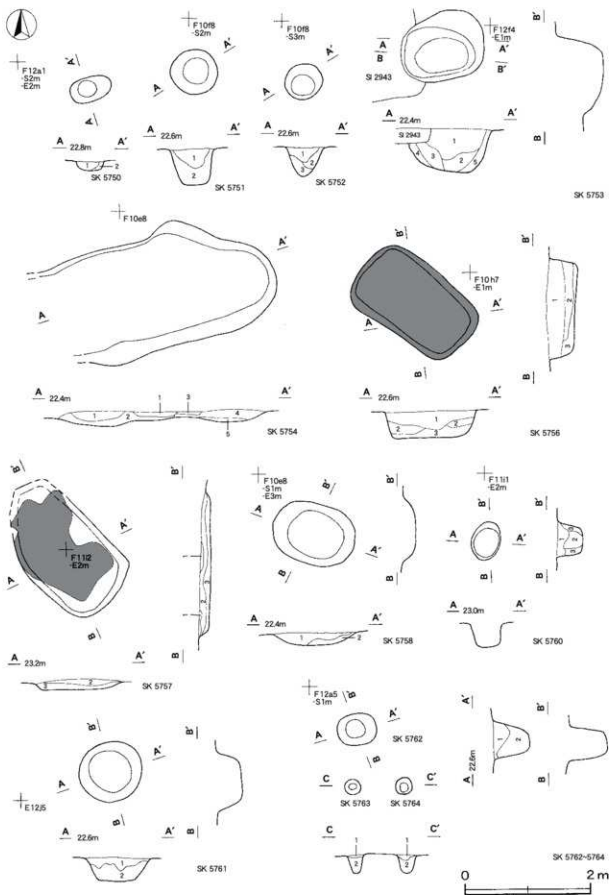
第179図 その他の土坑実測図(2)



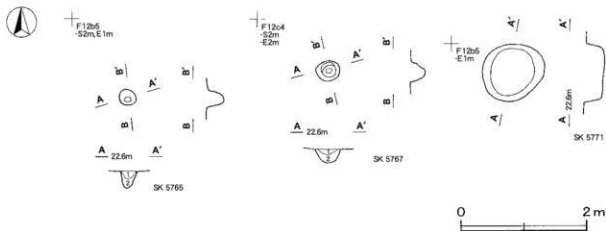
第180図 その他の土坑実測図(3)



第181図 その他の土坑実測図(4)



第182図 その他の土坑実測図(5)



第183図 その他の土坑実測図(6)

第 5700 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物少量
- 2 褐色 炭化物多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物、ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化物中量
- 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 10 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 11 黒褐色 炭化物多量

第 5702 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第 5703 号土坑土層解説

- 1 濃い黄褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化物、ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 7 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 9 黒褐色 粘土ブロック・炭化物、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 10 黒褐色 炭化粒子多量
- 11 暗褐色 粘土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量

第 5707 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物多量

第 5708 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第 5709 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第 5711 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

第 5714 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量(2より暗)
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 5716 ~ 5718 号土坑土層解説 (共通)

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第 5720 ~ 5722 号土坑土層解説 (共通)

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第 5723・5724 号土坑土層解説 (共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第 5725 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第 5726 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 5727 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第 5728 ~ 5730 号土坑土層解説 (共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第 5734 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 5735 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量

第 5737 号土坑土層解説

- 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 5738 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ロームブロック中量

第 5741 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 褐色 ローム粒子中量

第 5743 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第 5745 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 黒褐色 炭化物中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

第 5746 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ロームブロック少量

第 5748 号土坑土層解説

- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量

第 5749 号土坑土層解説

- 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量

第 5750 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第 5751 号土坑土層解説

- 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 5752 号土坑土層解説

- 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量

第 5753 号土坑土層解説

- 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック中量

第 5754 号土坑土層解説

- 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量
- 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 暗赤褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 5756 号土坑土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 極暗褐色 炭化物中量

第 5757 号土坑土層解説

- 褐色 炭化物少量
- 褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

第 5758 号土坑土層解説

- にじみ赤褐色 焼土ブロック・炭化物多量
- にじみ赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量

第 5760 号土坑土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量

第 5761 号土坑土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量

第 5762 ~ 5765、5767 号土坑土層解説 (共通)

- 暗褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ロームブロック少量

表 6 時期不明土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)	短径(軸)					
5700	F14b1	長方形	N-42°-E	2.02 × 1.50	32	直立	平坦	人為	土師器片	SI2885→本
5702	F13a1	楕円形	N-60°-W	1.08 × 0.72	28	縦斜	凹凸	人為	土師器片	SI2883→本
5703	F14b1	長方形	N-17°-W	2.72 × 1.30	48~62	直立	平坦	人為		SI2878→本
5704	E126	[楕円形]	N-21°-W	(0.74) × (0.53)	-	-	-	-	土師器片	SI2880
5707	F1222	長方形	N-48°-W	3.45 × 2.00	72~98	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SI2911→本
5708	F13a7	円形	N-0°	0.45 × 0.43	30	縦斜	皿状	人為		SI2901→本
5709	F13a5	[円形]	N-0°	1.01 × (0.47)	40	縦斜	皿状	人為		本→SI2884
5711	E1211	[長方形]	N-75°-E	(2.85) × (1.53)	40	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2915→本
5714	F12d1	円形	N-0°	1.55 × 1.46	52	縦斜	平坦	人為	土師器片	
5716	E1233	円形	N-0°	1.23 × 1.15	35	外傾	平坦	人為		
5717	E12d1	楕円形	N-17°-W	1.08 × 0.86	33	縦斜	平坦	人為		
5718	E1235	円形	N-0°	0.98 × 0.92	30	外傾	平坦	人為		
5720	E12g1	楕円形	N-54°-E	1.00 × 0.77	30	外傾	平坦	人為		
5721	E12g1	円形	N-0°	1.14 × 1.08	32	外傾	平坦	人為		
5722	E12g5	楕円形	N-30°-E	0.72 × 0.62	32	縦斜	皿状	人為		
5723	E12g5	楕円形	N-84°-E	0.76 × 0.42	106	外傾	皿状	人為		
5724	E12g5	円形	N-81°-W	0.66 × 0.62	30	外傾	皿状	人為		
5725	E12g1	楕円形	N-22°-E	0.82 × 0.70	58	外傾	皿状	人為	土師器片	

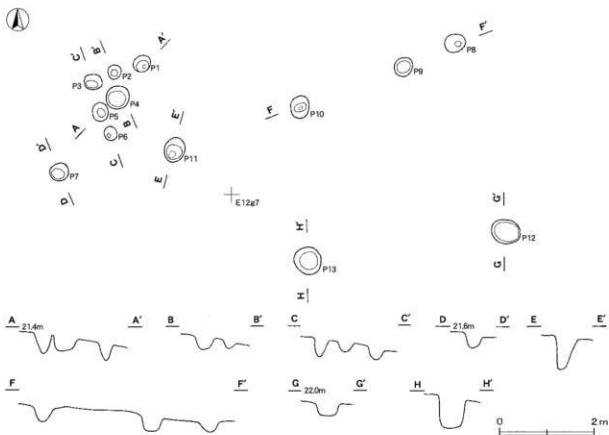
番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m)		傾面	底面	覆土	出土遺物	備考 新計測係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	高さ(m)					
5726	E12f3	円形	N-0°	0.76 × 0.70	44	外傾	平坦	人為		
5727	F13a1	円形	N-0°	1.14 × 1.10	46	緩斜	皿状	人為	土師器片	
5728	E12a3	方形	N-19°-W	1.67 × 1.50	32~38	外傾	平坦	人為	土師器片	
5729	E12g2	楕円形	N-39°-W	1.55 × 1.32	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
5730	E12b2	楕円形	N-46°-W	1.74 × 1.28	22	緩斜	平坦	人為		
5732	F11f3	楕円形	N-68°-W	1.86 × 1.00	8	緩斜	平坦	-	土師器片	SI2500→本
5734	F11f8	楕円形	N-72°-W	2.31 × 1.29	28	緩斜	平坦	-		SI2504→本
5735	F11g1	円形	N-6°-W	1.50 × 1.46	60	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SI2508→本
5737	F11f4	楕丸長方形	N-11°-W	2.10 × 1.50	28	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5738	F10g3	長方形	N-9°-W	1.80 × 1.12	30	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5741	F11g5	楕円形	N-73°-E	0.65 × 0.51	20	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI2503
5743	F11e2	楕円形	N-85°-W	1.32 × 0.84	24	外傾	平坦	自然		本→SI2536
5745	F10b6	長方形	N-32°-W	2.90 × 1.76	62	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
5746	F10b8	楕円形	N-50°-W	1.74 × 1.52	62	緩斜	皿状	人為	土師器片、須恵器片	
5748	F10b9	楕円形	N-56°-E	1.55 × 1.25	35	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5749	F10b8	円形	N-0°	0.69 × 0.66	42	外傾	平坦	人為		
5750	F12a1	楕円形	N-78°-E	0.66 × 0.40	13	外傾	平坦	人為	土師器片	
5751	F10b8	円形	N-0°	0.76 × 0.72	55	外傾	平坦	自然	土師器片	
5752	F10b8	楕円形	N-39°-E	0.62 × 0.56	46	緩斜	平坦	人為		
5753	F12b5	楕円形	N-65°-E	(1.40) × 1.10	70	外傾	平坦	人為		本→SI2943
5754	F10a8	楕円形	N-79°-E	(3.47) × 1.95	25	緩斜	凹凸	人為		
5756	F10b7	長方形	N-49°-W	2.02 × 1.20	15	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SK370・SI2949→本
5757	F11f2	楕円形	N-38°-W	2.32 × 1.33	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI2947→本
5758	F10a8	楕円形	N-63°-W	1.35 × 0.97	17	緩斜	平坦	人為		
5760	F11f1	楕円形	N-20°-E	0.62 × 0.44	40	直立	平坦	人為		
5761	E12f5	円形	N-0°	1.03 × 0.96	40	外傾	平坦	自然		
5762	F12a5	楕円形	N-78°-E	0.63 × 0.51	60	直立	平坦	人為	土師器片	
5763	F12a5	円形	N-0°	0.25 × 0.25	32	直立	平坦	人為		
5764	F12a5	円形	N-0°	0.27 × 0.27	30	外傾	皿状	人為		
5765	F12b5	円形	N-0°	0.27 × 0.25	26	外傾	皿状	人為		
5767	F12c4	円形	N-76°-E	0.37 × 0.31	25	緩斜	皿状	人為		
5771	F12b5	楕円形	N-44°-E	1.02 × 0.86	32	直立	平坦	-	土師器片	

(2) ピット群

今回の調査で4か所のピット群が、台地の緩斜面部から縁辺部にかけて確認した。いずれも建物跡などを想定することができない。以下、実測図と一覧表で掲載する。

第40号ピット群(第184図)

調査区中央部のE12f6～E12f8・E12g7・E12g8区から13か所のピットを検出した。標高21mの台地緩斜面部に位置している。平面形は長径30～65cm、短径28～56cmの円形または楕円形で、深さは18～70cmである。P7・P10・P11・P13から土師器片11点(坏1・甕10)が出土しているが、いずれも細片であり、時期は不明である。



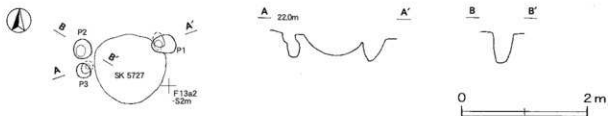
第184図 第40号ピット群実測図

第40号ピット群計測表

ピット 番号	形状	直径(cm)		ピット 番号	形状	直径(cm)	
		長径×短径	深さ			長径×短径	深さ
1	円形	37×34	36	8	楕円形	46×38	25
2	楕円形	32×26	18	9	楕円形	44×38	32
3	楕円形	36×32	22	10	楕円形	48×38	43
4	円形	50×50	29	11	楕円形	52×43	68
5	楕円形	40×34	41	12	楕円形	62×47	24
6	円形	30×29	43	13	楕円形	65×56	70
7	楕円形	40×36	26				

第41号ピット群 (第185図)

調査区東部のF13a1・F13a2区から3か所のピットを検出した。標高21mの台地縁辺部に位置している。平面形は長径24～38cm、短径22～28cmの円形または楕円形で、深さは13～48cmである。P1は第5727号土坑と重複しているが、両者の関係は不明である。



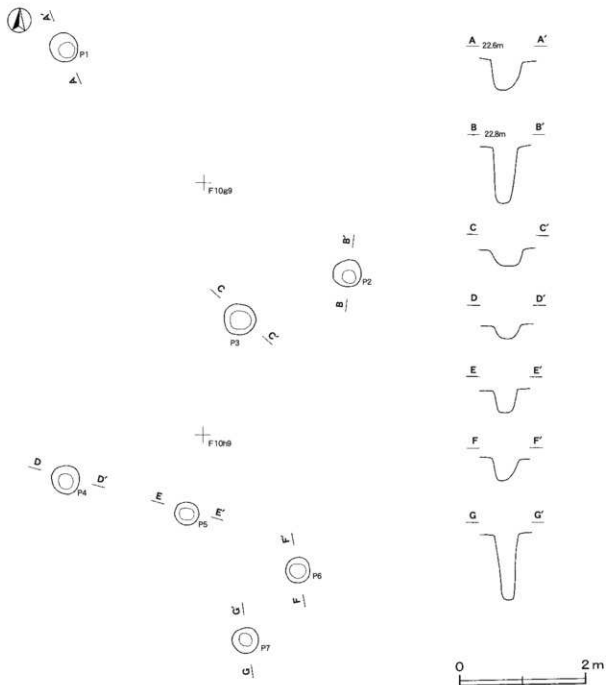
第185図 第41号ピット群実測図

第41号ビット群計測表

ビット 番号	形状	規模 (cm)		ビット 番号	形状	規模 (cm)	
		長径×短径	深さ			長径×短径	深さ
1	楕円形	38×36	13	3	円形	34×22	14
2	楕円形	32×28	48				

第42号ビット群 (第186図)

調査区西部のF10h8・F10h8・F10h9区から7か所のビットを検出した。標高22mの台地縁辺部に位置している。平面形は長径37～52cm、短径37～50cmの円形で、深さは28～106cmである。



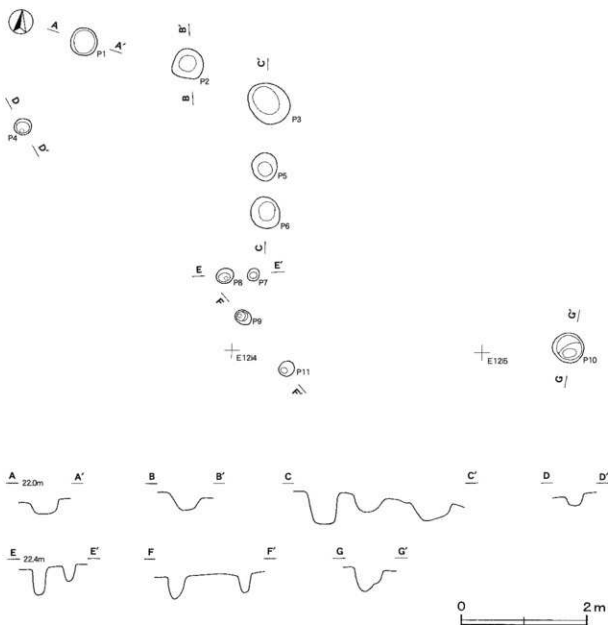
第186図 第42号ビット群実測図

第42号ピット群計測表

ピット番号	形状	規模(cm)		ピット番号	形状	規模(cm)	
		長径×短径	深さ			長径×短径	深さ
1	円形	48×44	48	5	円形	37×37	48
2	円形	46×42	89	6	円形	40×36	35
3	円形	52×50	28	7	円形	41×41	106
4	円形	45×44	39				

第43号ピット群 (第187図)

調査区西部のE12g3・E12h3・E12i3・E12h4・E12i4・E12i5区から11か所のピットを検出した。標高22mの台地縁辺部に位置している。平面形は長径20～73cm、短径18～59cmの円形または楕円形で、深さは16～48cmである。



第187図 第43号ピット群実測図

第43号ビット群計測表

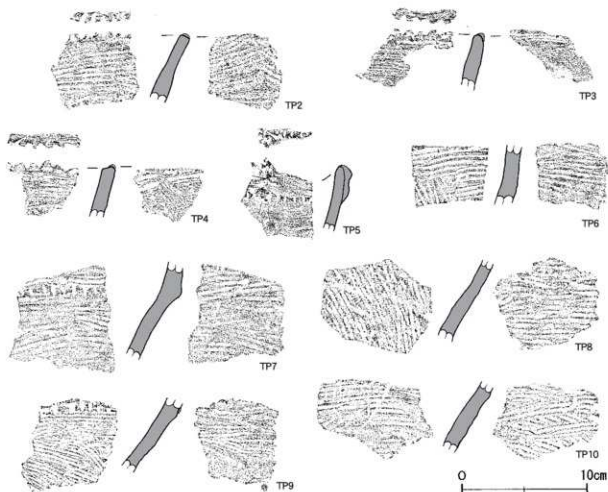
ビット番号	形状	規模 (cm)			ビット番号	形状	規模 (cm)		
		長径×短径	長さ	深さ			長径×短径	長さ	深さ
1	円形	46×42	17	7	楕円形	25×22	45		
2	円形	48×47	24	8	楕円形	30×18	27		
3	楕円形	73×59	28	9	楕円形	36×23	36		
4	円形	27×26	16	10	円形	49×46	35		
5	楕円形	45×39	22	11	楕円形	25×22	33		
6	楕円形	50×44	48						

表7 ビット群一覧表

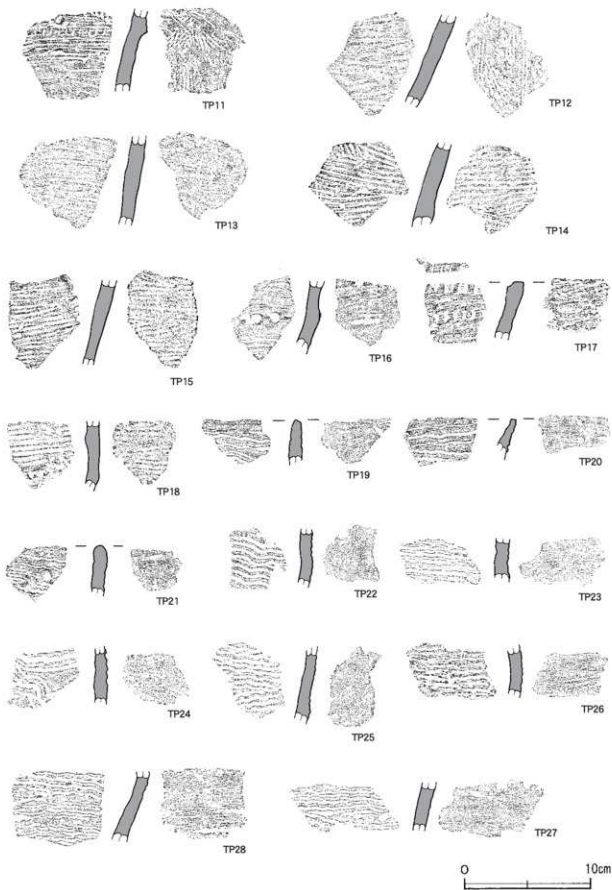
番号	位置	数	平面形	規模 (cm)			出土遺物	備考
				長径	短径	深さ		
40	E126~E126g	13	円形・楕円形	30~65	28~56	18~70	土師器片	
41	F13a1・F13a2	3	円形・楕円形	24~38	22~28	13~48		
42	F108~F108g	7	円形	37~52	37~50	28~106		
43	E124g~E125	11	円形・楕円形	20~73	18~59	16~48		

(3) 遺構外出土遺物 (第188~195図)

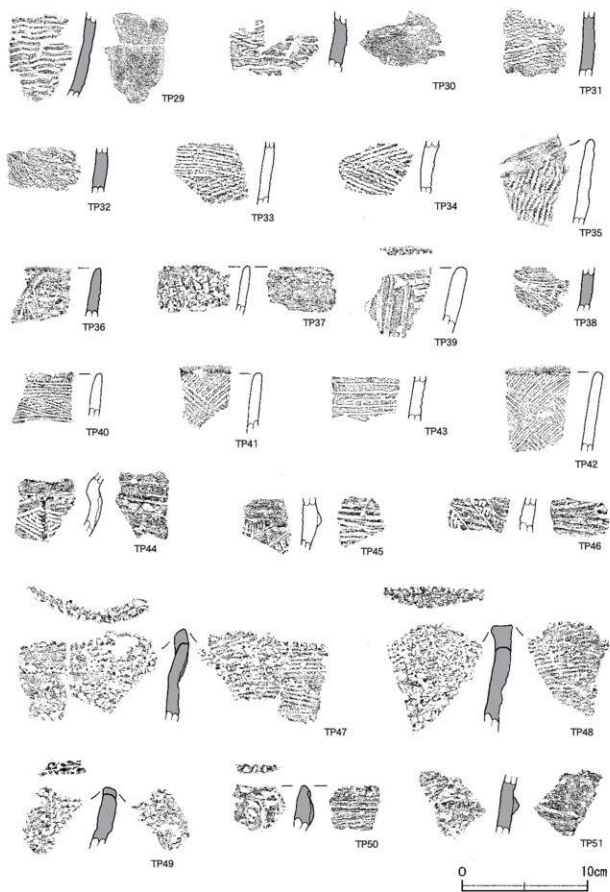
遺構に伴わない遺物のうち、特徴的な物を実測図と遺物観察表で記述する。



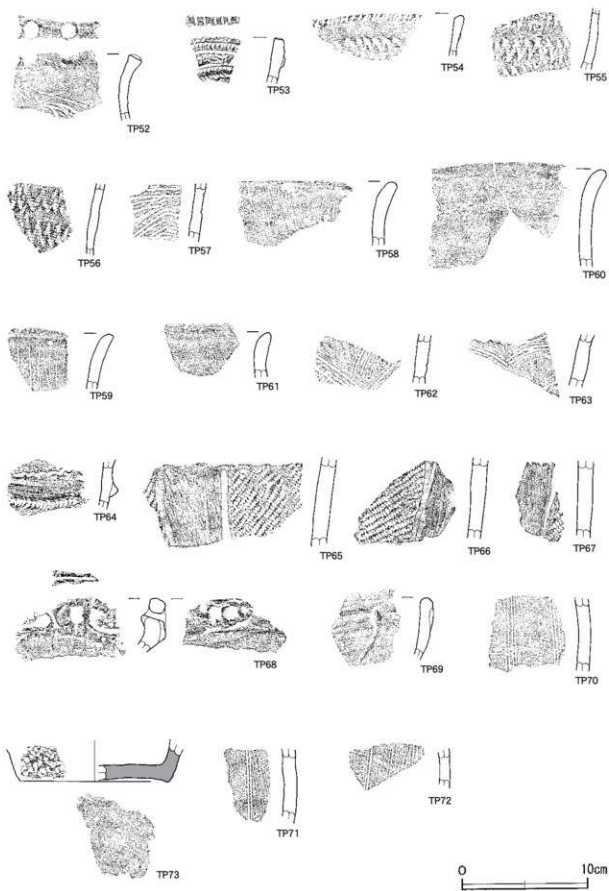
第188図 遺構外出土遺物実測図(1)



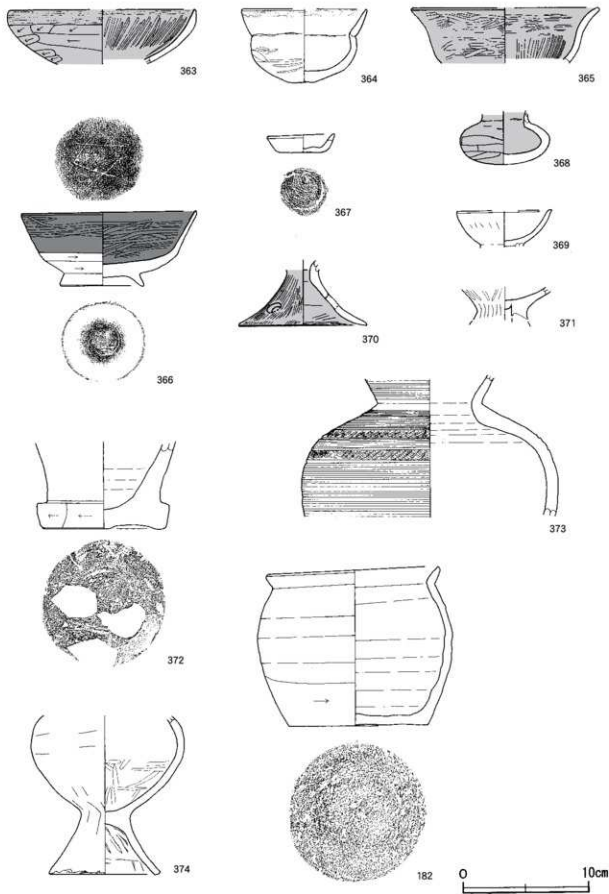
第189图 道槽外出土文物实测图(2)



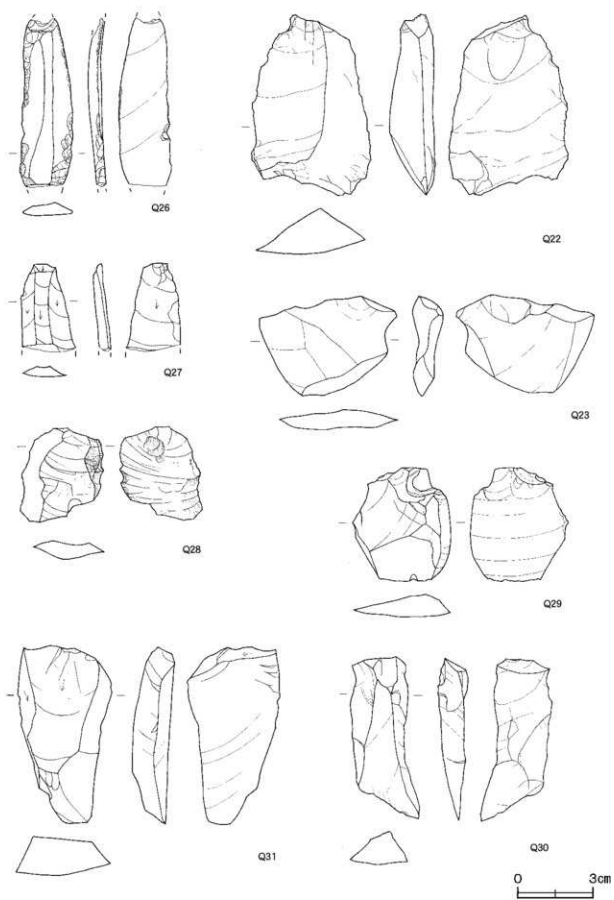
第190图 遺構外出土遺物実測図(3)



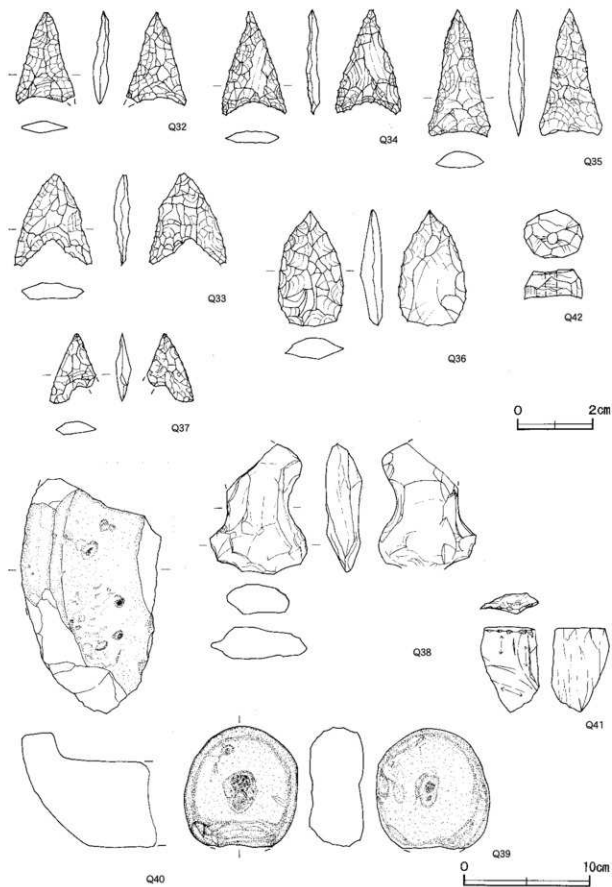
第191图 遺構外出土遺物実測図(4)



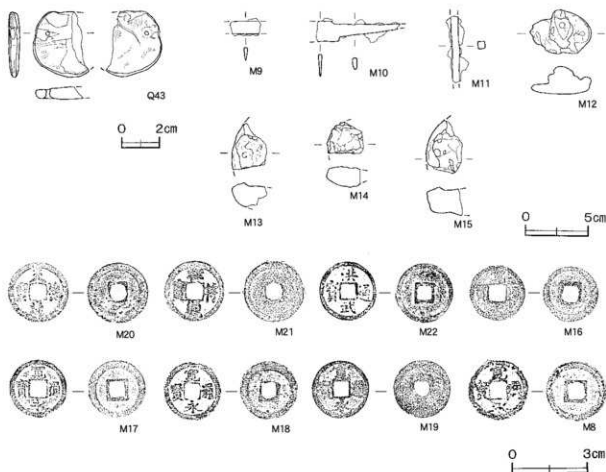
第192图 遗物出土物实测图(5)



第193图 道槽外出土遺物実測図(6)



第194图 道槽外出土文物实测图(7)



第195図 遺構外出土遺物実測図(8)

遺構外出土遺物観察表(第188~195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・繊維	にぶい橙	普通	口唇部外面キザミ目 体部内・外面染灰文	S12028 覆土中	早期 PL42
TP3	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・繊維	にぶい靑	普通	口唇部外面棒状工具による押圧 体部内・外面染灰文	S12027 覆土中	早期 PL42
TP4	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	石英・繊維	にぶい靑	普通	口唇部外面棒状工具による押圧 体部内・外面染灰文	表採	早期 PL42
TP5	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・ 繊維	黄靑	普通	口唇部・体部外面キザミ目 波状口縁	S12041 覆土中	早期 PL42
TP6	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・ 繊維	黄靑	普通	体部内・外面染灰文	S12032 覆土中	早期
TP7	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい靑	普通	体部外面横位のキザミ目 体部内・外面染灰文	表採	早期 PL42
TP8	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・繊維	靑	普通	体部内・外面染灰文	S12028 覆土中	早期
TP9	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・繊維	にぶい靑	普通	体部外面横位のキザミ目 体部内・外面染灰文	S12030 覆土中	早期
TP10	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・雲母・ 繊維	橙	普通	体部内・外面染灰文	S12028 覆土中	早期
TP11	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・雲母・ 繊維	にぶい橙	普通	体部外面に横位のキザミ目 体部内・外面染灰文	S12881 覆土中	早期
TP12	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・雲母・ 繊維	にぶい橙	普通	体部内・外面染灰文	表採	早期
TP13	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・繊維	黄靑	普通	体部内・外面染灰文	S12028 覆土中	早期
TP14	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・繊維	にぶい靑	普通	体部内・外面染灰文	表採	早期
TP15	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい靑	普通	体部内・外面染灰文	S12030 覆土中	早期
TP16	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・繊維	にぶい黄橙	普通	体部内・外面染灰文 外面横位の押圧	表採	早期
TP17	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・繊維	明黄靑	普通	口唇部キザミ目 体部外面染灰文施文後、半截竹管による刺突 内面染灰文 波状口縁カ	S12018 覆土中	早期 PL42
TP18	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・繊維	橙	普通	体部外面染灰文施文後、半截竹管に刺突 横位のキザミ目	S12016 覆土中	早期
TP19	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・繊維	明黄靑	普通	体部外面棒状工具による波状の平行浅彫	S12014 覆土中	前期 PL41

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	-	(30)	-	長石・雲母・ 繊維	明褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12914 甕土中	前期 PL41
TP21	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・繊維	明黄褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12911 甕土中	前期 PL41
TP22	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・繊維	にぶい褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12907 甕土中	前期
TP23	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・繊維	明赤褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12857 甕土中	前期
TP24	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・繊維	にぶい黄褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12927 甕土中	前期
TP25	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	白色粒子・繊維	明褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12902 甕土中	前期
TP26	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	石英・繊維	にぶい赤褐色	普通	体部外面棒状工具による沈線	S12927 甕土中	前期
TP27	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	白色粒子・繊維	明褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	表録	前期
TP28	縄文土器	深鉢	-	(55)	-	白色粒子・繊維	明褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12927 甕土中	前期 PL42
TP29	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	白色粒子・繊維	にぶい褐色	普通	体部外面棒状工具による波状の平行沈線	S12918 甕土中	前期
TP30	縄文土器	深鉢	-	(49)	-	長石・繊維	橙	普通	体部外面棒状工具による沈線	S12906 甕土中	前期
TP31	縄文土器	深鉢	-	(50)	-	長石・繊維	にぶい褐色	普通	付加染一種による羽状文	S12921 甕土中	前期
TP32	縄文土器	深鉢	-	(36)	-	白色粒子・繊維	明赤褐色	普通	無染赤文	S12945 甕土中	早期
TP33	縄文土器	深鉢	-	(50)	-	長石・繊維	明褐色	普通	無染縄文による羽状文	S12934 甕土中	前期
TP34	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・繊維	明褐色	普通	無染縄文による羽状文	表録	前期
TP35	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	白色粒子	にぶい橙	普通	R1の単筋縄文を縦位に施文 波状口縁	表録	前期
TP36	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	白色粒子・繊維	明褐色	普通	原体不明	S12914 甕土中	早期
TP37	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石	明褐色	普通	R1の単筋縄文	S12918 甕土中	前期
TP38	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・繊維	にぶい褐色	普通	無染赤文	S12914 甕土中	早期
TP39	縄文土器	深鉢	-	(53)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部キザミ目 棒状工具による縦位の沈線を施文後、横位の沈線	S12926 甕土中	前期*
TP40	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	半載竹管による平行沈線	S12881 甕土中	前期 PL41
TP41	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	棒状工具による斜位の沈線	S12900 甕土中	早期 PL41
TP42	縄文土器	深鉢	-	(64)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	棒状工具による斜位の沈線	S12902 甕土中	早期 PL41
TP43	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	棒状工具による平行沈線を施文後、半載竹管による羽状文	S12926 甕土中	前期 PL41
TP44	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	菱形の区画文* 短沈線で充満 刺突文	表録	早期
TP45	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	比類区画に刺突文を充満	S12915 甕土中	早期
TP46	縄文土器	深鉢	-	(27)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	比類区画に刺突文を充満	S12900 甕土中	早期
TP47	縄文土器	深鉢	-	(72)	-	長石・繊維	にぶい褐色	普通	口唇部キザミ目 口縁部突起 体部外面竹管による刺突文 内面垂珠文	表録	前期 PL42
TP48	縄文土器	深鉢	-	(86)	-	長石・繊維	にぶい褐色	普通	口縁部突起 体部外面竹管による刺突文 内面垂珠文	S12906 甕土中	前期 PL42
TP49	縄文土器	深鉢	-	(50)	-	長石・繊維	にぶい褐色	普通	口縁部突起 体部外面竹管による刺突文 内面垂珠文	表録	前期
TP50	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	石英・繊維	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目 外面刺突文 粘土紐を添付し、棒状工具による押印 内面垂珠文	S12904 甕土中	前期
TP51	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	白色粒子・繊維	にぶい褐色	普通	外面刺突文 粘土紐を添付	S12906 甕土中	前期
TP52	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部棒状工具による押印 流状貝殻文	S12915 甕土中	前期 PL41
TP53	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目 半載竹管による彫形文 流状口縁	S12928 甕土中	前期 PL42
TP54	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目 波状貝殻文	S12927 甕土中	前期 PL41
TP55	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	石英	にぶい橙	普通	流状貝殻文	S12927 甕土中	前期
TP56	縄文土器	深鉢	-	(55)	-	白色粒子	にぶい橙	普通	波状貝殻文	S12928 甕土中	前期
TP57	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	半載竹管による平行沈線	S12906 甕土中	前期
TP58	縄文土器	深鉢	-	(53)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	へら状工具による沈線	S12900 甕土中	前期 PL41
TP59	縄文土器	深鉢	-	(44)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	へら状工具による沈線	表録	前期
TP60	縄文土器	深鉢	-	(77)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	へら状工具による沈線	S12900 甕土中	前期 PL41
TP61	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	へら状工具による沈線	S12900 甕土中	前期 PL42
TP62	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	半載竹管による平行沈線	S12985 甕土中	前期
TP63	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	半載竹管による平行沈線	S12985 甕土中	前期
TP64	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・雲母	赤褐色	普通	縁帯の周縁に彫形文・流状文を施文	SK5701 甕土中	中期
TP65	縄文土器	深鉢	-	(70)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	比類による懸垂文 R1の単筋縄文を縦位に施文	S12911 甕土中	中期 PL41
TP66	縄文土器	深鉢	-	(63)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	比類による懸垂文 R1の単筋縄文を縦位に施文	S12911 甕土中	中期

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
T167	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	沈澱による懸垂文 R Lの単筋縄文を縦位に施文	S12913 甕上中	中期
T168	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	沈澱を伴う隆帯	S12911 甕上中	中期 PL.42
T169	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部から隆帯を垂下	S12828 甕上中	中期
T170	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	半截竹管による平行沈澱	S12948 甕上中	後期
T171	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	半截竹管による平行沈澱	S12948 甕上中	後期
T172	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	半截竹管による平行沈澱	S12948 甕上中	後期
T173	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	(11.8)	長石・白色矽子・ 礫石	にぶい黄褐色	普通	R Lの単筋縄文を縦位に施文	表採	前期
363	土師器	坏	(14.6)	(4.3)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	F 12a3	30%
364	土師器	椀	(30.0)	5.8	1.5	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、一部磨き 内面ナデ 底部ナデ	F 11a6	60%
365	土師器	椀	(14.8)	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面磨き	F 12a-2	13%
366	土師器	高台付 深鉢	13.8	5.9	6.5	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面磨き、下縁部回転ヘ ラ削り 内面磨き 高台部・底部ナデ	F 11a6	95% PL.40
367	土師器	小皿	5.3	1.6	3.6	雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面 体部ナデ 底部回転糸切り	F 1222	100% PL.40
368	土師器	埴	-	(4.3)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラナデ 内面ナデ	表採	80%
369	土師器	器台	(7.5)	(2.9)	-	長石・雲母	浅黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラナデ 内面ナデ	F 1232	45%
370	土師器	器台	-	(5.2)	(9.9)	長石・石英	橙	普通	脚部外面磨き 内面ナデ 三方内透かし	F 1108	40%
371	土師器	器台	-	(3.6)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	内・外面ナデ	F 1203	30%
372	須恵器	器台	-	(6.9)	9.8	長石・石英・ 雲母	灰	普通	体部内・外面口ロナデ 体部下縁手持ちヘラ削り	表採	40%
373	須恵器	壺	-	(11.3)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部外面ナデ、2段の刺突 内面口ロナデ	表採	20%
374	土師器	台付壺	-	(12.6)	8.6	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部・脚部外面ナデ 体部内面ナデ 一部磨き 脚部 内面ヘラ削り	F 1203	55%
382	土師器	壺	13.4	12.7	11.0	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面口ロナデ 底 部ナデ	F 11a6	90%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	割片	7.1	4.8	1.8	21.7	埴質頁岩	縦長割片	S12570 甕上中	PL.44
Q23	割片	4.0	5.5	1.3	30.6	安山岩	縦長割片	S12570 甕上中	PL.44
Q26	割片	(6.7)	2.1	0.7	(9.3)	埴質頁岩	先端部欠損	S12915 甕上中	PL.44
Q27	割片	3.5	2.2	0.6	3.1	埴質頁岩	縦長割片	S12879 甕上中	PL.44
Q28	割片	3.7	3.3	0.7	6.3	黒曜石	縦長割片	S12899 甕上中	PL.44
Q29	割片	4.5	3.9	0.9	15.2	埴質頁岩	縦長割片	表採	
Q30	割片	6.4	2.9	1.3	15.5	埴質頁岩	縦長割片	S12888 甕上中	PL.44
Q31	割片	7.1	3.7	1.7	46.9	埴質頁岩	縦長割片	S12904 甕上中	PL.44
Q32	皿	2.5	(1.5)	0.4	(0.9)	チャート	割れ・抉り有り	S12880 甕上中	PL.45
Q33	皿	2.5	2.1	0.5	13.5	チャート	抉り有り	表採	PL.45
Q34	皿	2.8	1.7	0.3	(0.9)	チャート	抉り有り	S12879 甕上中	PL.45
Q35	皿	3.4	1.7	0.4	1.6	チャート	割れ・抉り有り	S12917 甕上中	PL.45
Q36	皿	3.1	1.8	0.6	2.8	チャート	平削	S12800 甕上中	PL.45
Q37	皿	1.8	(1.2)	0.4	(0.5)	チャート	抉り有り 一部欠	S12905 甕上中	
Q38	打製石片	(10.2)	7.8	3.0	(20.0)	ホルンフェルス	分銅形 一部欠	S12800 甕上中	PL.44
Q39	門石	(9.6)	9.1	4.3	(66.0)	安山岩	門み4か所	S12911 甕上中	PL.45
Q40	石臼	(18.7)	(11.1)	9.2	(99.0)	凝灰岩	下白	表採	
Q41	砥石	(6.7)	(4.6)	(1.7)	(50.2)	粘板岩	砥面2面	表採	

番号	器種	径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	白瓦	1.60	0.80	0.30	2.66	滑石	側面に残る 未製品	F 12a2	PL.46
Q43	有孔円板	(2.90)	0.60	0.18	(9.50)	滑石	双孔円板	表採	PL.46

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M9	刀子	(25)	10	0.2	(1.24)	鉄	刃部・茎部先端欠		
M10	刀子	(86)	1.7	0.4	(6.95)	鉄	両側 刃部欠	F11b2	
M11	釘	(55)	0.5	0.6	(8.50)	鉄	断面四角形		表採
M12	鉄滓	35	49	2.2	97.1	-	桶状		表採
M13	鉄滓	(37)	(27)	1.9	(13.0)	-	桶状		表採
M14	鉄滓	(29)	(25)	1.7	(27.6)	-	桶状		表採
M15	鉄滓	(42)	(28)	2.2	(34.0)	-	桶状		表採

番号	銭 名	径	孔径	厚さ	重量	初周年	特 徴	出土位置	備 考
M8	寛永通寶	2.45	0.65	0.15	0.98	1636年	銭名不明瞭 背無文	S1299 甕土中	PL46
M16	寛永通寶	2.25	0.63	0.12	2.60	1636年	銭名不明瞭 背無文		表彩 PL46
M17	寛永通寶	2.31	0.63	0.10	2.00	1636年	背無文		表彩 PL46
M18	寛永通寶	2.25	0.63	0.11	2.25	1636年	背無文		表彩 PL46
M19	寛永通寶	2.31	0.60	0.12	2.64	1636年	銭名不明瞭 背無文		表彩 PL46
M20	天〇通寶	2.45	0.72	0.15	3.18	-	天禧〇 背無文	S12504 甕土中	PL46
M21	祥符通寶	2.43	0.63	0.14	3.26	1008年	大字	S12504 甕土中	PL46
M22	洪武通寶	2.35	0.60	0.18	2.96	1368年	正字 背無文	S12504 甕土中	PL46

第4節 ま と め

1 はじめに

鳥名熊の山遺跡は、平成7年度から調査が行われ、これまでに『茨城県教育財団文化財調査報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322集の12集が刊行されている。今回報告分までの総面積は207.463㎡で、堅穴住居跡2302軒、掘立柱建物跡357棟をはじめ、堀跡・溝跡234条、道路跡21条、水田跡2か所、井戸跡134基などが確認されている。遺跡は、古墳時代から平安時代の集落跡が中心であり、律令期の「河内郡嶋名郷」との関連も既に指摘されているところである¹⁾。中世以降も堀・溝による区画や嘉城などが確認され、第280集²⁾・第322集³⁾において景観の復元が試みられている。

ここでは、平成18年度の調査成果について概観するとともに、古墳時代を中心に集落の動向について触れることにする。時期区分については、既存の調査成果との整合性を保つために、第190集⁴⁾で提示された年代観に準拠し、住居の規模についても第291集⁵⁾に基づいて記述する。

2 今年度(11区)の概要

当遺跡は、東谷田川中流の右岸台地上に立地している。当遺跡が位置している台地は、これより上流では平坦な台地面が広がっているが、当遺跡付近を境に下流では樹枝状の谷津が発達している。

第196図は当遺跡の地形を示したものである。当遺跡では、北と南にそれぞれ東谷田川から深い谷が入り込んでおり、ここでは北側の谷を谷A、南側の谷を谷Dと呼ぶことにする⁶⁾。集落の主要部は、この二つの谷によって区画された標高18～23mの半島状の台地に位置している。その内部には、埋没した二つの谷があり(谷B、谷C)、さらに枝分かれした支谷によって複雑な地形を呈している。

当遺跡の住居跡および掘立柱建物跡は、このような地形によっていくつかの群に分かれている。「鳥名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」⁷⁾および第291集ではこれを住居群としているが、ここでは地形を重視して単に地区と呼ぶことにする。

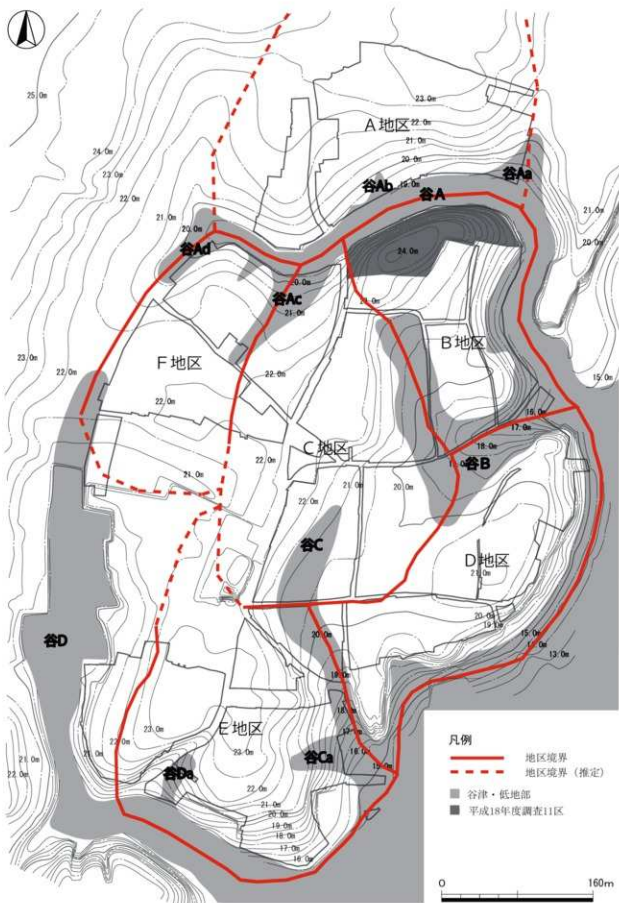
今回報告する11区は、遺跡の中でも北部に位置している。11区が立地する台地は、東と北は東谷田川から延びる谷Aとその支谷に、南から西にかけては谷Bによってそれぞれ対岸の台地と隔てられている。

(1) 縄文時代

この時代の遺構は確認されていないものの、住居の覆土や表土から縄文土器片が出土している。これらの中には、条痕文による調整が施され、胎土に繊維が含まれているもの(第188・189図TP2～TP16)、体部外面に棒状工具による波状の平行沈線が施されているもの(第189図TP19～TP30)、波状の貝殻文が施されているもの(第191図TP52～TP56)など、早期後半から前期に比定できる土器片が出土しており、この頃から11区周辺で人々が活動していた痕跡が見られる。その後は遺物の量は少ないものの、中期以降も阿玉台式期(第191図TP64)、加曾利E式期(第191図TP65～TP67)に比定できる土器片が出土していることから、細々とはあるが生活を行っていた形跡を認めることができる。

(2) 古墳時代

11区はB地区に位置しており、堅穴住居跡62軒、土坑9基が確認され、今回報告分では、規模の大きな集落が形成された時代である。



第196図 鳥名熊の山遺跡地形・地区設定図

1期（4世紀）（第199図）

13軒の住居跡が該当し、当遺跡で本格的に集落が営まれ始めた時期である。当期の住居は、東谷田川と谷Aに面した台地に集中して構築されている。初めに東側の緩斜面部と台地上にそれぞれ2軒の堅穴住居が作られ、その後は広い範囲にわたって住居が構築されている。

このうち、11区西部の第2908・2939号住居跡は調査区内の高所に近接して構築され、4か所と2か所と複数の炉を有するという共通した特徴を持っている。第2908号住居跡は貯蔵穴とその周辺から、第2939号住居跡は床面から覆土中にかけてミニチュア土器を始めとする小形土器がそれぞれ出土している。これらの小形の土器は、屋内での祭祀儀礼に関わっていた土器と考えられており⁸⁾、この2軒の住居は他の住居と比較して祭祀的な性格が強いと言える。また第2939号住居跡は、その床面があまり踏み固められていないことから、短期間で廃絶したかあるいは居住以外の目的が示唆される。

当期の後半には住居数が減少する傾向が認められ、集落としては衰退している。2期に見られる停滞的な状況がこの期の後半からうかがえる。

遺跡全体でみると、1期の住居はA・B・D・Fの各地区で確認されており、東谷田川沿いから谷A沿いにかけての台地上に構築され、中でもB・D地区に集中している。当時の生産基盤として、谷Aを利用した谷津田や東谷田川沿いの耕地が重要であったことがうかがえる。当時は台地下の湧水を利用した稲作が生業の中心であったと考えられ、複雑に谷津が入り組んだ当遺跡は、稲作に適した地理的な条件を備えていたと考えられる。

2期（5世紀）（第199図）

第2886・2924号住居跡の2軒が該当する。1期の後半で見られた集落の縮小傾向が著しく、当期の前業には住居の構築が中断しており、中業と後業にそれぞれ1軒が構築されるにとどまる。前期に集落の形成が始まっているが、その基盤は安定したものではなかったようである。

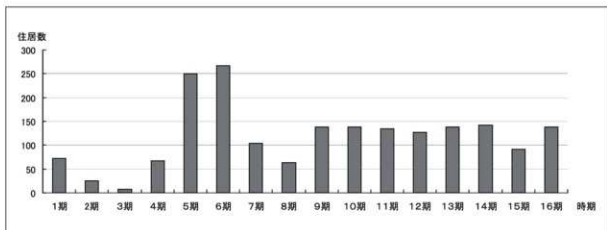
当期はA・B・D・F地区で引き続き住居が構築され、南部のE地区でも構築が開始されているが、集落全体の住居数は減少している（第197図・表8）。集落の停滞したあり方は11区を含むB地区だけではなく、全体に見られる状況である。

当時は近隣の島名前野東遺跡⁹⁾・鳥名ツバタ遺跡¹⁰⁾などで集落が展開しており、規模も本遺跡より大きい。鳥名ツバタ遺跡は51軒の住居跡からなり、石製模造品を多く出土しており、また下河原崎谷中台遺跡¹⁰⁾は24軒の住居跡からなり、土坑から琴柱形石製品が出土している。集落の規模から、鳥名ツバタ遺跡が拠点的な集落であった可能性がある。

3期（6世紀前業）（第199図）

3軒の住居跡が該当する。当期は2期と同様に住居は少なく、また構築された場所も限定的なものである。今回の調査区域では、谷Aに面する緩斜面部に2軒、台地縁辺部に1軒の住居が構築されている。このうち、台地縁辺部に位置している第2898号住居跡は一辺約8mほどの規模で、他の住居の2～3倍の面積がある超大形住居である。

当期のB地区は合計6軒の住居が確認され、これらは比較的近接した位置に構築されている。第2898号住居跡は他の5軒の住居を見下ろす位置に構築されていることから、1軒の超大形住居に5軒の中小の住居が付随している状況が看取される。当期以降、超大形住居が構築されるが、第2898号住居跡は土師器のほかには白玉が1点出土しているに過ぎず、遺物の点で他の住居との差異はそれほど顕著なものではない。



第197図 鳥名熊の山遺跡 時期別住居数の推移

4期（6世紀中葉）（第199図）

14軒の住居跡が該当する。このほか年代は不確定であるものの、第2971号住居跡もこの時期に構築された可能性がある。住居数は増加して構築される住居が数軒にとどまった2期・3期の状況を脱し、集落は拡大する傾向に転じている。当期の集落は、これまでの集落が台地の縁辺部から緩斜面部にかけて住居が構築されていたのに対し、台地上の平坦部に居住空間が広がっている傾向が認められる。

当期はまた、第2918・2931号住居跡と3期の第2898号住居跡を超える規模の住居が出現し（表8）、これに第2971号住居跡を含めると3軒の超大形住居が構築されている。これら3軒の超大形住居は、調査区中央部付近の比較的近接した位置に構築されており、それより小形の住居は主として東側に構築されている。

超大形住居のうち、第2918号住居跡からは土師器のほか土製勾玉と小玉が出土している。土製の勾玉は南東コーナー部付近の床面から出土した。当期では第2888号住居跡からも土製の勾玉が出土しているが、それと比較すると作りは粗雑であり、石製模造品の勾玉を模倣したような形状である。第2918号住居跡は覆土の堆積状況を見ると埋め戻されていることから、住居を廃絶する際に遺棄されたものである。

また、第2931号住居跡には竈と炉が併設されており、竈の火床面と炉の炉床面を比較すると、竈の火床面のほうが硬化しており火熱を受けた頻度は高い。そのため、炉は暖をとるなど副次的な目的で設置されたと考えられる。

本遺跡全体を見ると他の住居地区でも住居は増加し、また居住空間も広がりを見せている。これまでの東谷田川沿いや谷A沿いに加えて、A地区の台地上や台地の内部に位置するC・F地区でも住居が構築されている。

5期（6世紀後葉）（第200図）

12軒の住居跡が該当する。11区では前期の集落規模をほぼ維持しており、谷A沿いの縁辺部から緩斜面部に住居が構築され、その多くは前期の住居との重複を避けて構築される傾向が見られる。前期に2ないし3軒見られた超大形住居は、B地区全体で南部を中心として8軒構築されているが、北部では第2930号住居跡の1軒である。

第2930号住居跡の面積は141.4㎡で、B地区だけではなく当遺跡でも最大の規模である。南東部に先行する超大形住居である第2971号住居跡（66.6㎡）を掘り込んでおり、それぞれの住居の南東コーナー部はほぼ重なっている。第2930号住居跡からはミニチュア土器のほか、管玉・白玉や土玉などが出土している。これら

表8 島名熊の山道跡 超大形竪穴住居跡 地区・時期別軒数一覧表

	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	合計
A地区		2	5	2					9
B地区	1	3	8	4					16
C地区		2	5	5					12
D地区		1	2	2	1				6
E地区				1	1		1	1	4
F地区		1							1
合計	1	9	20	14	2	0	1	1	48

の遺物は埋め戻された覆土の中から出土しており、廃絶するに当たって何らかの祭祀行為が行われていた形跡をうかがうことができる。また、東西の壁下の床面は若干高くなっており、中央部に向かってそれぞれ3条の溝が掘り込まれている。溝の断面はU字状であることから、内部に丸太材を設置してその上に床を張っていたものと考えられる¹¹⁾。

このほか、第2922号住居跡からは砥石（第90図Q10）が出土している。Q10には砥面が2面認められるほか、側面に4～5条の筋状の擦痕が確認され、筋砥石として使用された痕跡がある。今回の11区では白玉がいくつか出土しているが、この中に切断面の研磨が不十分なものが見られる（第107図Q12～Q14）。当遺跡の玉類の分析を行った清水哲氏によると、これまで当遺跡では工房跡や未製品が確認されていないことから、出土した玉類は集落の外部からもたらされたとする見解を示しているが¹²⁾、集落の内部またはその周辺で製作が行われた可能性も考慮すべきであろう。

当期にはすべての地区で住居が増加し、特にE地区においてその伸びが著しい。本遺跡は構築された住居の軒数からみて、この期に拠点的な集落としての地位を確立したと言える。C地区では2棟の掘立柱建物が建てられ、重複していることから短期間のうちに建て替えが行われたと想定されている¹³⁾。この2棟は総柱式であり、生産物を収納した建物ととらえることができる。またD地区に2基の古墳が築かれているが、これらは7世紀前葉、すなわち6期に周溝の埋没が始まっているとの指摘があり¹⁴⁾、遅くとも当期には古墳が築かれたと考えられる。このことは、集落内でも古墳を築くことができる階層が現れていることを示しており、隣接している面野井古墳群や、島名関ノ古墳群を築いた人々も本遺跡の住民であった可能性が高い。

住居の規模は、中形住居が半数近くを占める一方で、先に触れた第2930号住居跡のような超大形住居は増加し、前期では8軒であったものがB地区だけで9軒、遺跡全体では21軒を数えることができる。超大形住居の数は、当期がピークとなる。11区を含むB地区に超大形住居の半数近くが集中しており（表8）、当期のB地区は集落内でも有力な集団であったと見られる。

6期（7世紀前葉）（第200図）

9軒の住居跡が該当する。台地のやや内側に超大形住居である第2934号住居跡が位置し、その他の住居はほぼ前期の住居を継承するかのよう谷Aに沿った台地の縁辺部に構築されている。11区だけに着目すると、4期以降住居数は減少傾向にある。超大形住居の軒数は5期と同じく1軒であるが、第2934号住居跡の床面積は65.3㎡と大幅に縮小している。B地区を見渡しても超大形住居は4軒に減り、面積も突出したものは見られなくなる。

遺物の面では、第2934号住居跡から須恵器の甕が3点出土している。集落内に須恵器が流通したことを示し

ているが、普遍的ではない。また白玉・紡錘車などの石製品が第2897・2899・2906・2940号住居跡から出土している。紡錘車は平滑に研磨されているが、白玉は前期のものと同じく切断面の研磨が行われていないか、もしくは簡略化されている。

当期はグラフに示したように、集落の規模が頂点に達し、これ以後減少に転じている。B地区でも11区を含む北部は南部に比べて住居数が減少している。これまでの谷A沿いの台地が居住空間から徐々に外れ、地区の中心が南部に移っている。その上、地区全体でも4期から続いた規模を維持できなくなっている。本遺跡全体で見ても内陸に位置するC地区、南部に位置するE地区の規模が相対的に大きくなっており、集落内の構造に変化が起きている。

7期（7世紀中葉）（第200図）

3軒の住居跡が該当する。前期と比較して住居数は大幅に減少している。当期の住居は、3軒とも前期に空地となった台地の平坦部に構築されている。第2902号住居跡からは床面から土製勾玉が出土しており、6世紀代の祭祀行為が継続して行われていたことがうかがえる。5期まで構築されていた超大形住居は確認できず、B地区では前期最後に構築されなくなっている。住居の分布は、B地区の南部でもまばらなものとなっている。

超大形住居はD・E地区に各々1軒確認されているだけであり、その後はE地区で9期・10期にそれぞれ1軒ずつ構築されているだけである。当期以降、超大形住居はほとんど構築されなくなる。また、集落全体でも住居の構築は低調なものとなっている。

8期（7世紀後葉）（第200図）

台地の平坦部に第2948号住居跡が構築されているだけである。前期に引き続いて集落は停滞的な状況にあり、B地区内でも構築された堅穴住居は5軒にとどまる。第2948号住居跡は東壁に竈が構築され、それまでの北壁を中心とした竈の構築位置から変化が見られる。当期を境として、11区では堅穴住居は11期まで構築されていない。

他の地区の動向をみると、F地区では堅穴住居の構築が中断している。C地区では住居の数は半減しているものの、3棟の掘立柱建物が構築されている。E地区は当期において最も多くの住居が構築され、前期に続いて3棟の掘立柱建物が出現している。当期にはC地区・E地区の他の地区に対する優位性が認められる。

周辺の遺跡では、鳥名前野東遺跡、鳥名境松遺跡、鳥名ツバタ遺跡などで集落の形成を終えている。これ以降、本遺跡周辺で継続して集落が形成されるのは鳥名八幡前遺跡だけである。

(3) 奈良時代

堅穴住居跡1軒、溝跡1条が確認されている。今年度の調査区域では、9期に住居の構築が中断しており、生活の痕跡を見つけることが難しい時代である。古墳時代に見られたB地区の優位性は失われており、谷Aに面した台地の緑辺部で住居は構築されていない。沖積地の開発が進み、生産拠点としての谷Aの地位が低下したためと考えられる。

9期（第201図）では谷B側を中心とした南部に17軒の住居が構築され、B地区として住居数は回復の兆しを見せている。掘立柱建物はE地区に10棟が集中する一方で、A地区の南斜面部やD地区の南部にも掘立柱建物が建てられている。

表9 鳥名熊の山遺跡 竪穴住居跡 地区・時期別軒数一覧表

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期
A地区	5	6	0	10	54	50	9	7	12	19	28	30	22	16	4	1
B地区	44	6	6	24	58	52	12	4	17	27	19	11	18	17	16	21
C地区	0	0	0	22	61	71	36	17	39	35	32	28	22	32	13	41
D地区	20	7	1	4	19	28	14	13	35	27	31	28	36	40	36	44
E地区	0	5	0	3	40	52	27	22	28	25	19	25	28	35	20	32
F地区	3	1	0	5	18	14	7	0	7	5	6	5	12	3	3	0
計	72	25	7	68	250	267	105	63	138	138	135	127	138	143	92	139

10期（8世紀中葉）（第201図）

今年度の調査区域内に住居跡は確認されていない。当期には、B地区の北部と南部を区切るように第35号溝跡が構築されている。B地区の住居は、前期から南部を中心に分布しているが、第35号溝跡が構築されるとその北側に住居はほとんど見られなくなり、集落は溝の南側に展開している。また、谷Bの谷頭に第29号掘立柱建物（側柱建物）と第30号掘立柱建物（総柱建物）と2棟の掘立柱建物が構築されている。

当期ではF地区を除いて掘立柱建物が建てられている。特にC地区では谷Cの谷頭に10棟の掘立柱建物が集中しているほか、その南西にも谷C沿いに5棟確認され、2か所の掘立柱建物が存在している。9期に10棟が確認されたE地区では、やや分散しながらも同じ軒数の掘立柱建物が構築されている。

11期（8世紀後葉）（第201図）

9・10期に11期では住居が構築されず、当期に入り1軒だけ構築されている。第2925号住居跡は台地の平坦面に位置しており、B地区の居住空間は前期に構築された第35号溝跡の南側に限定されていることから、当時の集落の状況からみるとやや特異な立地である。この後、再び住居の構築は中断している。

その他のB地区の住居は基本的に谷B沿いに営まれ、前期と同じくその谷頭に2棟の掘立柱建物（側柱1・総柱1）が構築されている。棟数と構成が前期と同じであることから、前期の掘立柱建物の機能を引き継いだものであろう。

(4) 平安時代

竪穴住居跡14軒、土坑7基が確認されている。今年度の調査区域では、12期にいったん住居の構築が中断している。その後、住居の構築は再開されているが、その数は少数にとどまっている。

12期（第201図）では11区を含むB地区の北部に住居は構築されていない。居住空間を区画する役割を持っている第35号溝跡が、この時期もその役割を果たしていたと考えられる。B地区南部の状況は、谷Bの谷頭に2棟の掘立柱建物が構築される状況に変化はないが、住居は谷B寄りから谷A側に移動する傾向が見られる。

その他の地区では、C地区において10期以降引き続き中央部と南西部に2群の掘立柱建物が構築される一方、E地区では徐々に分散していく状況を示している。また、A地区では掘立柱建物はこれまで谷Aに面した斜面部に構築されていたが、台地上にも広がって棟数でも最大となる。

13期（9世紀中葉）（第202図）

1軒の住居跡が該当する。第2946号住居跡は前期に空閑地となっていた北部に単独で構築されている。B地区では他に17軒の住居が構築され、それらは谷Bの谷頭付近から東側の谷Aに面する斜面部にかけて東西方向に分布しており、基本的には第35号溝跡が機能していたと考えられる。掘立柱建物は、1棟に減少している。

その他A地区では谷Cの奥に構築されていた掘立柱建物群が消滅し、南西部の一群がやや分散してE地区の掘立柱建物と一体化したような状況を見ている。

14期（9世紀後葉）（第202図）

2軒の住居跡が該当する。当期は軒数が少なく、B地区の中でも主要な居住空間としては意識されていない。第2923号住居跡は前期の第2946号住居跡に接して構築され、同居居を建て替えたものと見ることが出来る。当期以降、少数ではあるが第35号溝の北側に竪穴住居が構築されるようになることから、第35号溝跡が持っていた居住空間を区画する機能が徐々に失われてきたことが読み取れる。当期にB地区全体では17軒の住居と2棟の掘立柱建物が構築されており、前期の規模を維持している。

全般的にD地区南部、C地区の谷C周辺、E地区などに当期の住居は分布しており、本跡の南部が主たる居住空間となっている（表9）。

15期（10世紀前半）（第202図）

3軒の住居跡が該当する。規模としては小さいものの、B地区北部での居住が継続的に行われている。全体的に、集落の中心は南部にあることに変わりはない。第2938・2947号住居跡は前期の第2923号住居跡と近接しているため、どちらかが前期の住居を継承していると考えられる。

当期の掘立柱建物は、ごく限られた場所に構築されている。B地区では掘立柱建物が建てられず、それまで集中して構築されていたC地区でも消滅している。わずかにD地区の台地縁辺部に4棟が構築されているにすぎない。またF地区は、この期をもって住居の構築が行われなくなる。

16期（10世紀後半）（第202図）

4軒の住居跡が該当する。4軒とも東壁に竈を設置していることで共通している。この時期、当遺跡全体で見ると竪穴住居は東谷田川沿いの台地に移動し、掘立柱建物はさらに限定された地区に構築されている。B地区の北部では、14期以降継続的に住居が構築され、若干ではあるが徐々に数も増加している。

B地区全体では17期まで竪穴住居の構築が確認されているが、今回調査した11区はこの期をもって竪穴住居の構築が終了している。B地区の北部は、奈良時代以降集落の周縁的な状況に置かれ、主要な居住空間とはならなかった地域である。

3 むすびにかえて

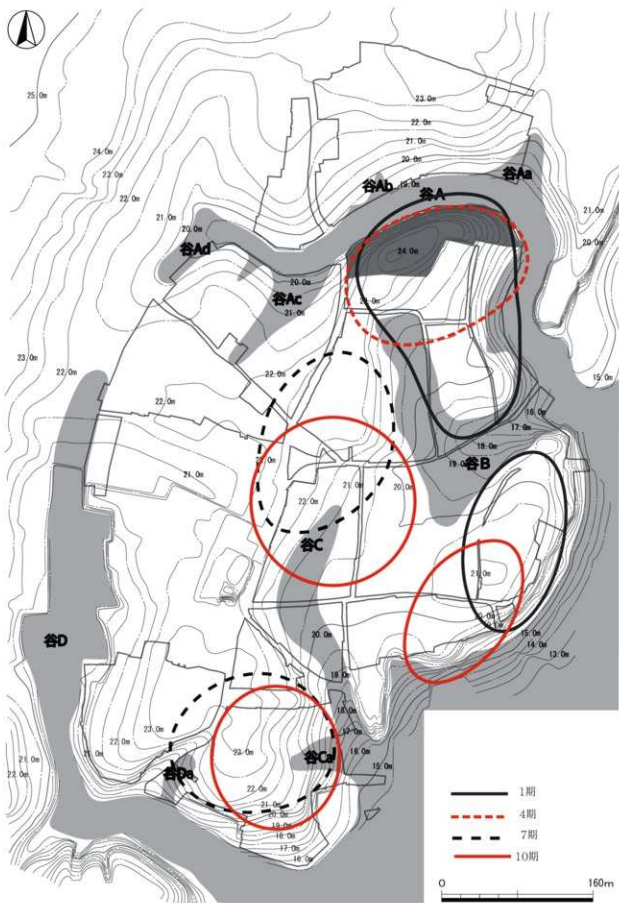
本遺跡は律令時代の河内郡嶋名郷に属しており、その中心的な集落と認識されている。今回11区の調査では主要な遺構は古墳時代のものであり、本遺跡は古墳時代においても大規模な集落を形成していたことが明らかになった。

古墳時代の4世紀（1期）から集落が形成され、5世紀（2期）から6世紀前葉（3期）にかけては停滞した状況が見られるが、6世紀中葉（4期）以降は継続的に集落が展開している。7世紀前葉（6期）まで集落の中心は北部にあり、A地区・B地区は有力な居住域となっている。7世紀前葉（6期）以降は中部のC地区と南部のE地区と二つの地区に住居が集中し、集落内での勢力関係に変化が見られる。

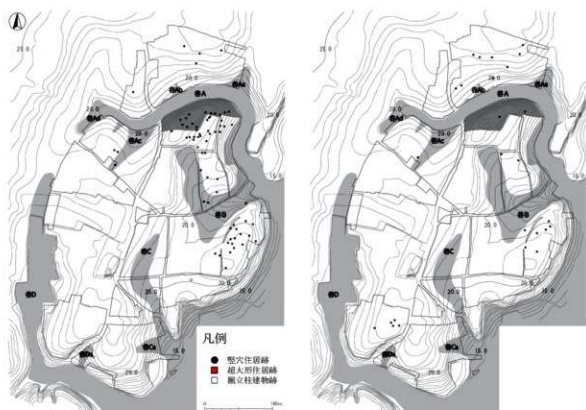
奈良時代に入ると、C地区・E地区に住居や掘立柱建物が数多く建てられ、集落の中心的な機能は北部からC地区やE地区に移っていく。この時代B地区は集落の周縁部としての性格を強めており、今回報告する11区を含むB地区の北部域はその傾向が濃厚に認められる。人々の生活が再び営まれるようになってもそれは細々としたものであり、居住空間として意識されることは少なかったと言える（第198図）。

註

- 1) 矢ノ倉正男・小林孝・川上直登「熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」〔茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告〕第166集 2007年3月
- 2) 酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」〔茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告〕第280集 2007年3月
- 3) 早川麗司「鳥名熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」〔茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告〕第322集 2009年3月
- 4) 稲田義弘「熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」〔茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告〕第190集 2002年3月
- 5) 齋藤真弥・酒井裕一・渡邊浩実・松本直人・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ」〔茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告〕第291集 2008年3月
- 6) 〔茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告〕第291集の第6節において、当道跡周辺の地形について概観している。その際、谷の名称についても記述されているが、今回は主要な谷についてはアルファベットの大きくて示し、そこから派生する支谷についてはさらにアルファベットの小文字を付した。
- 7) 清水哲「鳥名熊の山道跡の集落研究のための前提作業」〔年報26 平成18年度〕財団法人茨城県教育財団 2007年3月
- 8) 駒澤悦郎「茨城県における弥生時代後期から古墳時代後期の小形壺の系譜（2）」〔埋蔵文化財部年報〕26 財団法人茨城県教育財団 2006年11月
- 9) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「鳥名前野東道跡 鳥名境松道跡 谷田部津道跡 鳥名・福田坪一体型土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第191集 2002年3月
- 10) a 皆川 修「鳥名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第203集 2003年3月
 b 高野裕隆「上河原崎谷中台道跡 鳥名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第282集 2007年3月
- 11) 宮本長二郎「ベッド状遺構と屋内施設」〔季刊考古学〕第32号 1990年8月
- 12) 清水哲「鳥名熊の山道跡の玉類について」〔埋蔵文化財部年報〕28 財団法人茨城県教育財団 2009年7月
- 13) 藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直登・稲田義弘「熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第174集 2001年3月

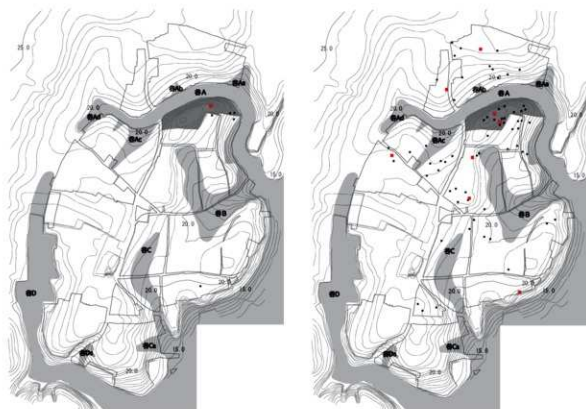


第198図 鳥名熊の山道跡集落変遷図



1期：4世紀

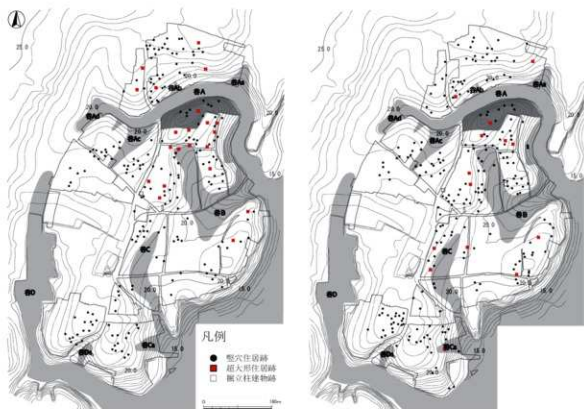
2期：5世紀



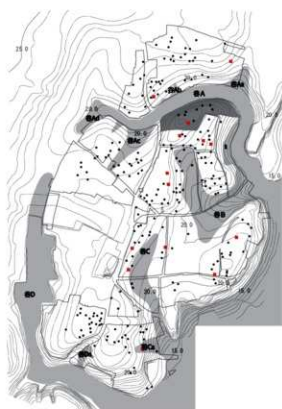
3期：6世紀前半

4期：6世紀中葉

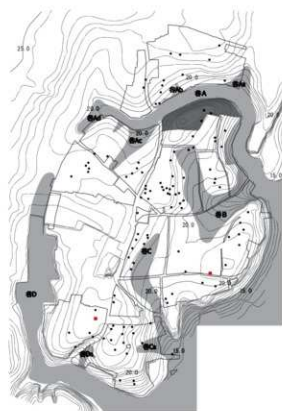
第199図 高名熊の山遺跡時期別遺構分布図 1期～4期



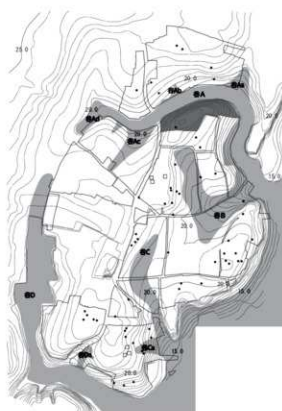
5期：6世紀後半



6期：7世紀前半



7期：7世紀中葉



8期：7世紀後半

第200図 鳥名熊の山遺跡時期別遺構分布図 5期～8期



9期：8世紀前葉



10期：8世紀中葉

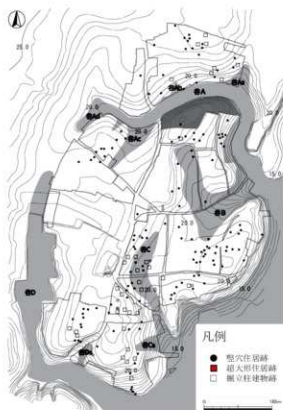


11期：8世紀後葉



12期：9世紀前葉

第201図 高名熊の山遺跡時期別遺構分布図 9期～12期



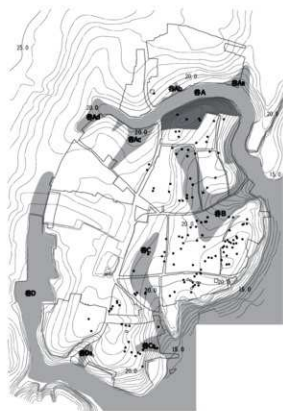
13期：9世紀中葉



14期：9世紀後半



15期：10世紀前半



16期：10世紀後半

第202図 高名熊の山遺跡時期別遺構分布図 13期～16期

写 真 图 版



調査11区全景



第2876号住居跡
完掘状況



第2877号住居跡
完掘状況



第2877号住居跡
遺物出土状況

PL2



第2878号住居跡
完掘状況



第2879号住居跡
完掘状況



第2879号住居跡
遺物出土状況

第2880号住居跡
遺物出土状況



第2880号住居跡
遺物出土状況



第2881号住居跡
完掘状況



PL4



第2882号住居跡
完掘状況



第2883号住居跡
完掘状況



第2884号住居跡
完掘状況



第2885号住居跡
完掘状況



第2886号住居跡
完掘状況



第2887号住居跡
遺物出土状況

PL6



第2888号住居跡
完掘状況



第2889号住居跡
完掘状況



第2889号住居跡
遺物出土状況

第2891号住居跡
完掘状況



第2892号住居跡
完掘状況



第2892号住居跡
遺物出土状況



PL8



第2894号住居跡
遺物出土状況



第2894号住居跡
遺物出土状況



第2897号住居跡
完掘状況

第2898号住居跡
遺物出土状況



第2899号住居跡
完掘状況



第2899号住居跡
遺物出土状況





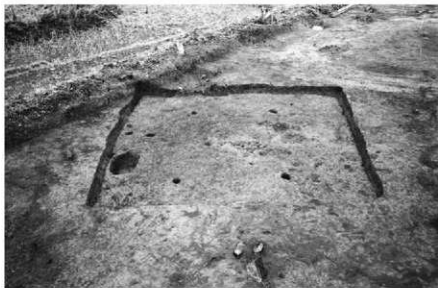
第2903号住居跡
完掘状況



第2905号住居跡
遺物出土状況



第2906号住居跡
完掘状況



第2908号住居跡
完掘状況



第2908号住居跡
遺物出土状況



第2909号住居跡
完掘状況

PL12



第2911号住居跡
完掘状況



第2911号住居跡
遺物出土状況



第2912号住居跡
完掘状況

第2914号住居跡
完掘状況



第2915号住居跡
完掘状況



第2915号住居跡
遺物出土状況



PL14



第2916号住居跡
完掘状況



第2917号住居跡
遺物出土状況



第2918号住居跡
完掘状況

第2918号住居跡
遺物出土状況



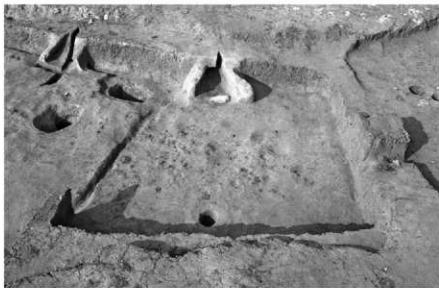
第2919号住居跡
完掘状況



第2921号住居跡
完掘状況



PL16



第2922号住居跡
完掘状況



第2924号住居跡
遺物出土状況



第2926号住居跡
完掘状況



第2926号住居跡
遺物出土状況



第2927号住居跡
遺物出土状況



第2927号住居跡
甕遺物出土状況

PL18



第2928号住居跡
完掘状況



第2929号住居跡
完掘状況



第2929号住居跡
遺物出土状況



第2930号住居跡
完掘状況



第2930・2971号住居跡
完掘状況



第2930号住居跡
遺物出土状況

PL20



第2932号住居跡
遺物出土状況



第2934号住居跡
完掘状況



第2934号住居跡
遺物出土状況



第2935号住居跡
完掘状況



第2937・2944号住居跡
完掘状況



第2937号住居跡
遺物出土状況

PL22



第2939号住居跡
完掘状況



第2943号住居跡
完掘状況



第2943号住居跡
遺物出土状況

第2948・2950号住居跡
完掘状況



第2972号住居跡
完掘状況



第2972号住居跡
遺物出土状況



PL24



第2896号住居跡
完掘状況



第2901号住居跡
完掘状況

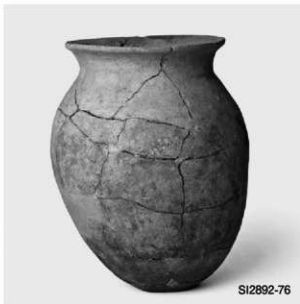


第2910号住居跡
焼土確認状況











SI2898-106



SI2908-126



SI2908-127



SI2906-121



SI2907-124



SI2907-123



SI2908-130



SI2898-110













第2927~2930号住居跡出土土器









SI2940-332



SI2940-330



SI2943-339



SI2943-338



SI2972-357



SI2972-358



SI2937-308



SI2939-328



SI2939-323



SI2972-360





遺構外
TP19



遺構外
TP20



遺構外
TP21



遺構外
TP43



遺構外
TP40



遺構外
TP41



遺構外
TP42



遺構外
TP58



遺構外
TP54



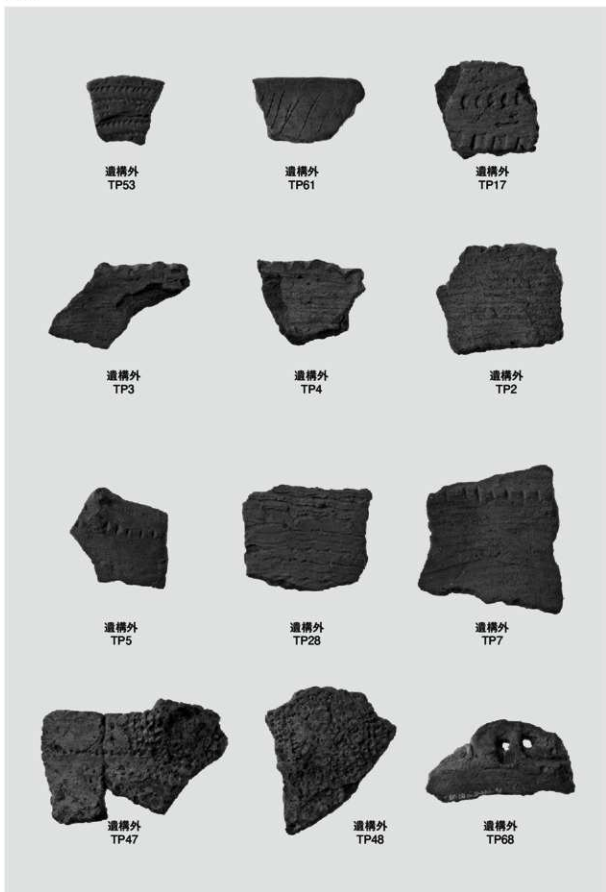
遺構外
TP52



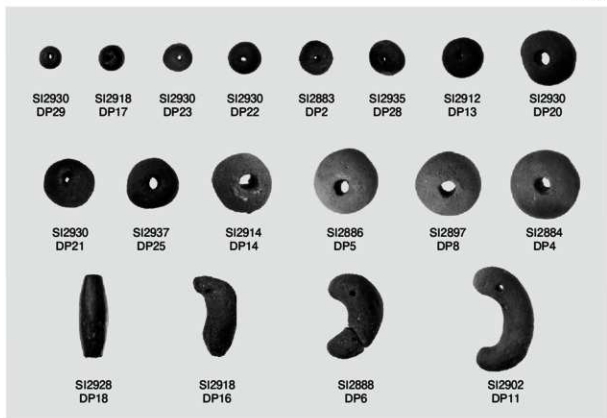
遺構外
TP65



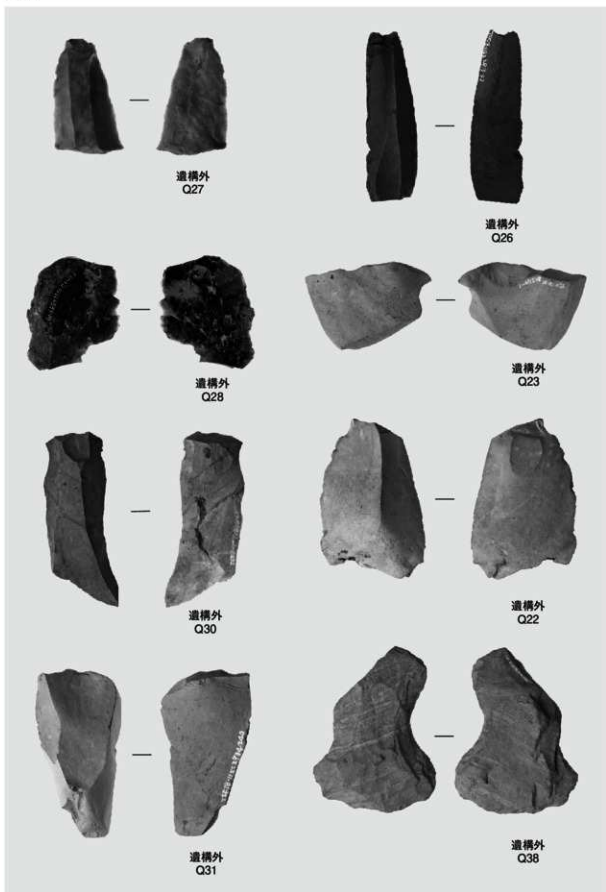
遺構外
TP60



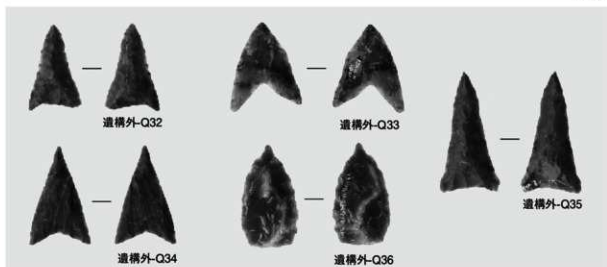
遺構外出土土器



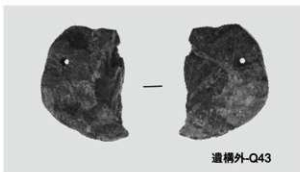
出土土製品 (勾玉, 管玉, 小玉, 土玉, 球状土鐘, 支脚, 紡鐘車, 不明土製品)



出土石器（削器，剥片，打製石斧）



出土石器（鐵，凹石，砥石），出土石製品（支脚）



出土石製品（管玉，白玉，紡錘車，有孔円板），出土鉄製品（刀，鉄滓），古銭

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	鳥名熊の山道跡							
副書名	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	ⅩⅡ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第328集							
著者名	小澤重雄							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-225-6587							
発行日	2010(平成22)年3月24日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
鳥名熊の山道跡	茨城県つくば市 大字鳥名1458番地 の1ほか	08220 1 214	36度 3分 50秒 (36度 4分 2秒)	140度 3分 34秒 138度 43分 32秒	18 7 24 m	20060403 7 20070131	7.929 m ²	鳥名・福田坪 一体型特定土 地区画内整理 事業に伴う事 前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
鳥名熊の山道跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡 土坑	62軒 9基	土師器(坏・碗・埴・器台・高坏・壺・甕・瓶)、須恵器(坏・高坏・甗・平瓶・甕)、土製品(勾玉・管玉・土玉・紡錘車・支脚) 石製品(管玉・丸玉・白玉)	6世紀後葉の第2930号住居跡は、一辺12mの大形住居で、7か所の支柱穴が確認された。当遺跡最大規模の住居である。		
			奈良	竪穴住居跡 溝跡	1軒 1条			
		平安	竪穴住居跡 土坑	14軒 7基	土師器(坏・高台付坏・甕・瓶・高台付坏・盤・鉢・甕・小形短頸壺)、灰釉陶器(碗・長頸瓶)、石器・石製品(砥石・支脚)、金属製品(刀子・鏃)			
		その他	時期不明	土坑 ピット群	50基 4か所			
	要約	当遺跡は、古墳時代から連綿と集落が営まれてる古代河内郡嶋名郷の中心集落である。今回の調査では、古墳時代前期と後期にかけての住居跡が多く確認された。また奈良時代の溝が確認され、これまでの調査と合わせて集落を囲む溝の様相が明らかとなった。						

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows XP Professional Version2002.ServicePack3
	編集	Adobe Indesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN 9000 ED
使用Font		リュウミン Pro- L, A-OTF 太ゴB101 Pro
写真	線数	モノクロ 175 線以上 カラー 210 線以上
印刷		印刷所へは、各編集ソフトに保存して入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第328集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区面整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成22（2010）年 3月19日 印刷
平成22（2010）年 3月24日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org/>

印刷 山三印刷株式会社

〒311-4153 水戸市河和田町4433の33
TEL. 029-252-8481

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第328集

島名熊の山遺跡11区遺構全体図

